

講 義 要 綱

2019年度



自動車工学科
モータースポーツ
エンジニアリング学科
専攻科 一級自動車整備専攻
車体整備専攻

中日本自動車短期大学

目 次

①	自動車工学科・モータースポーツエンジニアリング学科 共通科目 講義要綱	1～102
②	自動車工学科講義要綱	103～108
③	モータースポーツエンジニアリング学科講義要綱	109～145
④	修学について (自動車工学科・モータースポーツエンジニアリング学科)	146～162
⑤	専攻科 一級自動車整備専攻 講義要綱	163～204
⑥	専攻科 車体整備専攻 講義要綱	205～231
⑦	修学について (専攻科)	232～248

授業科目を受講し、その試験を受けることを「履修」といいます。その年度に履修する科目は春（4月）・秋（9月）に登録します。履修し、試験に合格した科目に限り単位が認められます。

この冊子は、授業科目の内容について記載されています。①～④は自動車工学科・モータースポーツエンジニアリング学科、⑤～⑦は専攻科での内容です。履修の手助けや専攻科進学への参考に活用できます。

目 次

自動車工学科・モータースポーツエンジニアリング学科 共通科目

日本語表現法（日本人）	1
日本語表現法（留学生）	3
数学	5
物理学	7
化学	9
経済学	11
英語	13
英語会話	15
中国語	17
健康とスポーツ	19
自動車工学日本語Ⅰ	21
自動車工学日本語Ⅱ	23
日本の自動車事情	25
自動車アフターサービス産業概説	27
キャリアデザインⅠ	29
キャリアデザインⅡ	31
ビジネスマナー演習(日本人)	33
ビジネスマナー演習(留学生)	35
情報処理演習	37
インターンシップ	39
海外研修Ⅰ	39
海外研修Ⅱ	39
自動車の力学Ⅰ	40
自動車の力学Ⅱ	42
自動車材料学	44
機械要素・図面	46
機構学	48
材料力学	50
流体力学	52

線形代数学	54
自動車原動機 I	56
自動車原動機 II	58
自動車原動機 III	60
自動車原動機 IV	62
自動車構造 I	64
自動車構造 II	66
自動車構造 III	68
自動車構造 IV	70
自動車電気装置 I	72
自動車電気装置 II	74
自動車電気装置 III	76
自動車法規	78
自動車整備実習 I	80
自動車整備実習 II	82
自動車整備実習 III	84
自動車整備実習 IV	86
自動車工学演習	88
自動車先進技術概論	90
自動車の環境と安全性能	92
自動車保険論	94
カーデザイン I	96
カーデザイン II	98
カスタマイズ I	100
カスタマイズ II	102
エネルギーシステム研究(エコノパワー)	102
フェラーリ実習	102
特別講義	102

自動車工学科

CAD入門	103
二輪自動車整備実習	105
スポーツカート演習	107

モータースポーツエンジニアリング学科

CAD演習	109
自動車電子実験	111
モータースポーツ概論	113
モータースポーツ演習Ⅰ	115
モータースポーツ演習Ⅱ	117
モータースポーツ演習Ⅲ	119
モータースポーツ演習Ⅳ	121
人間工学	123
エンジン・チューニング	125
自動車電子制御工学	126
自動車新素材	128
二輪自動車工学	130
二輪自動車整備実習Ⅰ	132
二輪自動車整備実習Ⅱ	134
ボデーリペア技術	136
ボデーリペア実習	138
卒業研究	140
モータースポーツインターンシップ	142

教育担当科目と実務経験	143
教育課程	144

1

自動車工学科

モータースポーツエンジニアリング学科

共通科目

講義要綱

科 目 名	日本語表現法（日本人） Japanese Communication	A	単 位 数
		必修	2
担 当 教 員	高木香与子	開 設 期	
		1 年 春	
<p>【 科 目 の 概 要 】</p> <p>社会で必須となる言葉生活の基本である日本語を、読む（読解）・書く（文章作成）・聞く・話すを、社会生活で運用できるように基礎を理解し、使用面に重点を置いて演習する。わかりやすい日本語の、基礎的な文の組み立て方を確認する。また、敬語を使用できるよう基本を復習する。合わせて、パブリックスピーキングに必要な項目も学習する。仕事で技術的説明をわかりやすくするための実用的日本語の方法を学び演習します。</p> <p>【 授 業 計 画 】</p> <p>① 授業概要説明。 パブリックスピーキング基本概念説明 基本の態度（服装・姿勢・表情）を学び練習する</p> <p>② 日本語の話し言葉の基本。発声と発音、スピードについて学ぶ</p> <p>③ 日本語の話し言葉の基本。発声と発音、スピードについて演習</p> <p>④ コミュニケーション 褒めることを通しての言葉の言い換えを考える</p> <p>⑤ コミュニケーション 褒めることを通しての言葉の言い換え演習</p> <p>⑥ 敬語の基本と演習</p> <p>⑦ ビジネス敬語（接客用語）の特性と演習</p> <p>⑧ 日本語の問題を考える。さ入れ、れ入れ言葉など</p> <p>⑨ 文章作成① 話してわかりやすい文章の基本①</p> <p>⑩ 文章作成② 話してわかりやすい文章の基本②</p> <p>⑪ 文章作成③ 説明文を作る</p> <p>⑫ 文章作成④ 説明文を作る</p> <p>⑬ 文章作成⑤ 自己PR文のための自己分析</p> <p>⑭ 文章作成⑥ 自己PR文のポイント理解と作成</p> <p>⑮ まとめと確認テスト</p> <p>⑯ 自己PR コンテスト</p>			

【予習と復習】

予習は特に必要ありません。その代わりに講義で得た知識と体験を復習することが必要です。また、文章作成を授業時間内に完成できなかった場合は復習として次回までに完成してこること復習は90分以上を目安とし、取り組んでください。

【課題】

課題は毎回のノートテータキングと定着のための復習です。授業終了時に運用できるように、日ごろの日本語を意識しながら学生生活を送ることが課題です。

【学習到達目標】

1. 人前で話すための基本態度を理解し実践できる。
2. 書き言葉と話し言葉の違いを理解する。
3. プラス表現とマイナス表現の使い分け方法がわかる。
4. 具体的に表現する方法を理解する
5. 敬語の基礎を理解し、基本的な使い方を身につける。
6. わかりやすい説明の方法を理解する。

【成績評価の方法】

成績は、80%以上出席した者を対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

・能動的受講態度（20%） ・ノート提出と内容（40%） ・テスト（40%）

【教科書】

適宜プリント配布

【参考書・参考文献】

- ・「日本語表現法」 佐藤誠 北樹出版
- ・「日本語表現法」 沖森卓也 半沢幹一 三省堂
- ・「大学生のための日本語表現トレーニング」 橋本修 安部朋世 福嶋健伸
- ・「敬語マスター」 蒲谷宏 大修館書店
- ・「敬語だけじゃない敬語表現」 蒲谷宏 大修館書店

【履修上の注意】

毎回ノートを取り提出する。

私語など著しく他者の授業妨害をする学生には退出してもらう

確認テストと自己PRコンテストの両方でテスト結果となる。

【質問への対応方法】

随時可能

E-mail

オフィスアワー（__曜日 __時 ~ __時）

その他（毎週提出するノートの質問欄に記入すること。翌週返却時に回答を記入します）

【履修者数調整方法】

【関連授業】

科 目 名	日本語表現法（留学生） Japanese Communication	A・M	単 位 数
		必 修	2
担 当 教 員	古川 竜治 本田 有子	開 設 期	
		1 年 春	

【 科 目 の 概 要 】

外国人留学生のみなさんにとって日本語は、日本で学んだり、働いたりする際に使用する非常に重要な道具（ツール・Tool）です。この授業では“自己PR文”を書くことを通じて、自分の履歴をどのように他者に表現（アピール）をしたら魅力的な人間として認められるのか、これまでの自分を振り返りながら、“日本語で自分自身を表現する”力を高める訓練をします。そして最後の授業では、日本人学生も含めた1年生全員の前で自己PRしてもらおう機会も設けています。

また、この授業では、日本語を学ぶ大切さを理解してもらうためにも、1年生で始まる就職活動やその後日本で就職をして、会社や組織で上司や同僚または後輩の日本人とよい人間関係を作るために必要な基礎知識も勉強し、日本の会社組織の中でどのように行動することが求められているのかなど異文化理解、社会言語学的な観点から日本語を学びます。このような理解は、みなさんが日本で望んでいる、「自動車の技術を学び、経験を積んで素晴らしい自動車エンジニアとしてのキャリアを積んでいく」ために実はとても大切なことです。

【 授 業 計 画 】

- ① 日本語でコミュニケーションしよう
なぜ日本語を学び続けなければならないのだろう
- ② 自己紹介を書いてみよう
まずは自分の力で自己紹介を書いてみる
- ③ 企業が欲しい人材を考えてみよう（グループワーク）
企業はどんな若者を欲しいと思っているのだろうか
- ④ 「キャリア」って何だろう？
自分のキャリアについて理解する
- ⑤ 自己PRで何を書くの？①
自分のこれまでの歴史（履歴）を思い出してみる
- ⑥ 自己PRで何を書くの？②
将来の自分を想像してみる
- ⑦ 自己PRで何を書くの？③
現在の自分がやっていることを再認識する
- ⑧ 就職の面接試験で聞かれる質問（グループワーク）
面接試験の質問とあなたの story とつきあわせてみる
- ⑨ 自己PRの組み立て方を考えてみよう（グループワーク）
どのような書き方をしたら相手に効果的に伝わるのか
- ⑩ 自己PRを書いてみよう
これまでの学習をもとに自己PRを書いてみる
- ⑪ 自己PRをチェックしてみよう（グループワーク）
書いた自己PRを友達どうして評価しあう
- ⑫ 自己PRを完成させよう
前回の学習をもとにさらに書き直して完成させる
- ⑬ 自己PRの話し方に気をつけよう
姿勢や視線など効果的に伝えるための技法を学ぶ
- ⑭ 自己PRの発表練習をしよう（グループワーク）
これまでの学習をもとに、グループで最終練習
- ⑮ 自己PRを発表しよう
クラスの前で自己PRを発表し評価をする。またクラス代表を選出する。

科目名	数学 Mathematics	A・M	単位数
		選択	2
担当教員	及川 浩和	開設期	
		1年	

【科目の概要】

今日の先進文化圏の日常生活は、本質的に科学技術に依存している。それを背後から支えているのが数学である。数学は文化生活の基礎をなすものである。例えば、都市生活の基盤である電気、ガス、水道や、鉄道、自動車、航空機などの交通機関、さらには電話、テレビ、人工衛星、コンピューターといった通信機器は、いずれも数学を用いずに設計・製作することはできない。

数学は、代数学、幾何学、解析学に大別されるが、本講では、解析学の基礎である「微分」までを扱い、理論的な思考力の涵養を図ります。

【授業計画】

- ①複素数と2次方程式
複素数、2次方程式
- ②因数定理と高次方程式
整式の除法、因数定理、高次方程式
- ③分数式
分数式の計算、分数式の分解
- ④三角関数（1）
一般角と弧度法、三角関数、三角関数の基本性質Ⅰ
- ⑤三角関数（2）
三角関数の基本性質Ⅱ、三角関数のグラフ
- ⑥三角関数（3）
加法定理、倍角の公式
- ⑦指数関数
累乗と指数法則、累乗根と指数法則、指数関数
- ⑧対数関数
対数とその性質、対数関数
- ⑨微分係数と導関数（1）
極限值、微分係数、導関数
- ⑩微分係数と導関数（2）
微分法の公式
- ⑪整式・有理式の導関数
積の微分法、商の微分法
- ⑫導関数の応用（1）
接線の方程式、関数の増加・減少
- ⑬導関数の応用（2）
関数の極大・極小、最大・最小
- ⑭数式の計算演習
- ⑮三角関数・導関数の計算演習
- ⑯定期試験

【予習と復習】

予習：授業計画を見て、事前に教科書の解説を読み、学習内容を把握・理解しておくこと。

復習：授業中に出題された課題に取り組むこと。

所要時間：各 90 分以上

【課題】

問題集の問題を解き、提出期限までに提出すること。

【学習到達目標】

1. 数式の計算ができる。
2. 三角関数の計算ができる。
3. 平均変化率や微分係数、導関数などの概念が説明できる。
4. 整式の微分ができる。
5. 増減表を用い関数をグラフ化できる。

【成績評価の方法】

成績は、80%以上出席した者を対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の内容にて評価します。

定期試験（50%）、問題集（25%）、ノート（学習の要点・課題 25%）

【教科書】

数学の基礎（数学基礎教育研究会編、学術図書出版 ISBN 978-4-87361-282-9）

【参考書・参考文献】

【履修上の注意】

- ・B5のノートを用意すること（ルーズリーフ不可）。
- ・毎時間、学習の要点をノートに書き、与えられた課題を解いて提出すること。
- ・学習内容を確認するため、ノートの提出を求めます。
- ・提出期限までにノートと問題集を提出すること。

【質問への対応方法】

オフィスアワー：210 研究室（アポイントメントを取ってから訪問して下さい）

E-mail（oikawa@nakanihon.ac.jp）

【履修者数調整方法】

履修者数が多い場合は、抽選により調整します。

【関連授業】

線形代数学、物理学、自動車の力学

科目名	物理学 Introduction to Physics	A・M	単位数
		選択	2
担当教員	加藤 泰世	開設期	
		2年	

【科目の概要】

物理学は自然科学の中でもっとも基礎的な学問のひとつであり、物理学の成果や手法は、広い範囲の関連分野に応用されています。したがって、理工系の専門分野を学ぶためには物理学の基礎や考え方を十分に理解しておく必要があります。

物理学は幅広い内容を含みますが、ここでは熱力学と熱量計算それに運動の法則などの応用として自動車運動学に関する内容も取り上げることとします。また、自動車運動学で取り上げる車体の振動に関する基礎事項についても学習します。計算問題の演習も行いますが、解析ソフトによる基礎事項の演習も交えて学習します。

【授業計画】

- ①熱量 1
比熱、熱量、温度に関する基礎事項
- ②熱量 2
熱量に関する基本的な計算
- ③熱量 3
比熱が異なる物質での熱伝導
- ④仕事・エネルギーと熱量 1
熱の仕事当量、仕事量と熱量の換算
- ⑤仕事・エネルギーと熱量 2
電熱線による水温の上昇、他
- ⑥理想気体の法則 1
ボイル・シャルルの法則
- ⑦理想気体の法則 2
定圧比熱、定積比熱、分子量、モル数
- ⑧理想気体の法則 3
気体の状態方程式、気体定数
- ⑨理想気体の法則 4
理想気体の状態変化、サイクル
- ⑩理想気体の法則 5
混合気体、ドルトンの分圧の法則
- ⑪試験
①から⑩までの内容を出題範囲とします
- ⑫速度・加速度 1
等加速度運動での瞬間の速度
- ⑬速度・加速度 2
時間と変位の関係が正弦関数、指数関数で表される場合の速度・加速度
- ⑭振動解析 1
有限要素法による振動応答解析
- ⑮振動解析 2
固有振動数と臨界減衰係数、その他ばねとダンパーに関する基礎事項

【予習】

授業時に次回内容を示すので、次回授業までに理解するように努力して、わからない箇所については疑問点をはっきりさせておくこと。所要時間は 90 分程度とします。

【復習】

授業の終わりに演習問題を行うので、十分に理解できている者は次回までに問題の内容を再度確認しておくこと。また、理解度が充分でない者は、必ず次回までに授業終了時の問題が解けるように内容をしっかり理解しておくこと。所要時間は90分以上を目処とします。

【学習到達目標】

1. 比熱を用いた熱量の計算ができる
2. 仕事量と熱量の変換ができる。
3. ボイル・シャルルの法則が理解でき、これらの法則に基づく計算ができる。
4. 気体の状態方程式を用いた計算ができる。
5. 時間と変位の関係より瞬間の速度・加速度を導く手法が理解できる。

【成績評価の方法】

成績は、80%以上出席した者を対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

- ・講義内での試験 (80%)
(ただし、不合格者は再試験を行い、合格点に達しない場合は得点として加点されません。)
 - ・提出物1 解析ソフトによる結果 (10%)
 - ・提出物2 数式の導出、計算問題 (10%)
- ※定期試験は実施しない予定です。

【教科書】

プリント配布の予定

【参考書・参考文献】

自動車の力学に関する計算問題の解き方(自動車の力学I・IIで使用したテキスト)
基礎物理学 原 康夫 学術図書出版社
はじめての自動車運動学 竹原 伸 森北出版

【履修上の注意】

計算問題のみでなく、解析ソフトによる数値解析も行います。難しく思う内容も出てくるかもしれませんが、自分の間違えたところ、理解できていないところをよく考える事が大切です。よく理解できていない人には大切な部分に内容を絞って解説しますので頑張ってほしいと思います。

【質問への対応方法】

- 随時可能 オフィスアワー (____曜日 ____時 ~ ____時)
 E-mail (katoh@nakanihon.ac.jp) その他 (_____)

【履修者数調整方法】

【関連授業】

自動車の力学I・II、自動車原動機III・IV

科 目 名	化学 Chemistry	A・M 選 択	単 位 数
			2
担 当 教 員	藤 田 英 樹	開 設 期	
		2 年	

【 科 目 の 概 要 】

初めに元素・分子・化学結合・物質のなりたちなど高等学校で学んだ基礎化学を復習します。これらは身の回りにおける化学物質や材料の理解を深める上で参考になります。そのあと、燃料の燃焼（有機化学）・プラスチック、ゴム（高分子化学）・自動車用バッテリー（電気化学）について学習します。これらはあまり高等学校では学習しなかった内容ですが、自動車には関連の深い内容です。この講義では、化学の知識や化学的な観点に重点を置いて学習することで、理解の幅を広げ、応用力が身につけられるようにすることが目的となります。

【 授 業 計 画 】

- ① 物質の構成：元素・原子・分子・イオン
- ② 元素と周期表、化学結合、物質のなりたち
- ③ 物質量の表し方、燃焼反応における化学計算
- ④ 燃焼と大気汚染物質
- ⑤ 炭素の化合物（有機化合物）と炭素鎖
- ⑥ 炭化水素の分類
- ⑦ 炭化水素の分子式・示性式・構造式
- ⑧ 炭化水素と石油製品
- ⑨ 有機化合物と官能基
- ⑩ 高分子化合物：プラスチック、ゴム
- ⑪ 各種汎用プラスチック
- ⑫ 自動車とプラスチック、ゴム
- ⑬ 化学電池の原理、鉛蓄電池の原理、構造
- ⑭ 自動車用バッテリーの充放電特性
- ⑮ 身の回りの化学（環境化学）、まとめ

【 予 習 】

授業後半に次回内容についても必ずふれるので、次回の授業までに関連語句を文献などであらかじめ調べておいてください。所要時間は90分以上とします。

【 復 習 】

授業で行った内容の理解を深めるために、配布されたプリントと授業内で実施された演習問題の復習を行ってください。所要時間は90分以上とします。

【 課 題 】

レポートは3回の提出を義務付けます。指定された期日に提出し、履修者間でレポートを読み合いそれに関するディスカッションを行います。（受講者数に応じて実施）また、予習で提示した関連語句については、板書での発表の機会を与えますので事前準備をしてください。

【学習到達目標】

1. 物質のなりたちについて概要を説明できるようになる。
2. 化学反応における反応物と生成物の量的関係を計算できるようになる。
3. 自動車に使用されるプラスチックとゴムの種類、その特性を説明できるようになる。
4. 自動車用バッテリーについて原理、構造、特徴を説明できるようになる。

【成績評価の方法】

成績評価は、80%以上出席した履修者を対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

授業中の演習、ディスカッション（10%）レポート課題提出（30%）と確認試験（60%）によって行います。

【教科書】

講義用資料を使用する。授業時に配布する。

【参考書・参考文献】

化学入門 下井守・村田滋著 東京化学同人
楽しくわかる化学 斎藤勝裕著 東京化学同人
プラスチック材料入門 旧橋章著 日刊工業新聞社
高分子化学入門 蒲池幹治著 株式会社エヌ・ティー・エス
プラスチック 佐藤功著 ナツメ社
電池 基礎のきそ 清水洋隆著 日刊工業新聞社
電池がわかる 電気化学入門 渡辺正ほか著 オーム社
トコトンやさしい化学の本 井沢省吾著 日刊工業新聞社
トコトンやさしい自動車の化学の本 井沢省吾著 日刊工業新聞社

【履修上の注意】

受講者によってどれくらい化学を学習してきたかが異なるため、ある受講者にとっては易しいと感じることが、別の受講者にとっては難しいと感じることもあります。自動車用バッテリー、プラスチックとゴムは、初めて学習する内容になると思います。分からないときは積極的に質問してください。授業では、理解度を確認する意味で、演習問題を出題します。演習問題が問題なく解ければ理解も深まります。

【質問への対応方法】

オフィスアワー：12:30～13:20 16:30～17:20 場所：5R23 準備室
E-mail (fujita@nakanihon.ac.jp)

【履修者数調整方法】

しません

【関連授業】

自動車電気装置 自動車材料学

科目名	経済学 Economics	A・M 選択	単位数 2
担当教員	吉川 薛	開設期 A2年、M3年	
<p>【科目の概要】</p> <p>経済学はわずかの知識しかなくても非常に役立つ学問であることを知ってほしい。この二十年世の中の経済問題に対する関心は高まる一方で、テレビや新聞にごく自然な形で経済用語が飛び交う時代になったのです。こういう時代の中でより自分らしく生きることは、周りが知ることです。どうやって知ることができるかということ、やはり原理原則が必要だと思う。そこが経済学の基礎考えを持ったほうがよりいい選択できると考えている。本講義は経済学の基本的な考え、入門レベルの経済学知識、マクロ経済学における金融政策・財政政策の分析を中心に展開していく。</p> <p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 経済学の概要 ② 経済学の考え方 ③ マクロ経済の基礎：国民所得の測定 ④ マクロ経済学の展開 ⑤ マクロ経済における貨幣 ⑥ 銀行及び金融システム① ⑦ 銀行及び金融システム② ⑧ 有効需要と乗数のメカニズム ⑨ 乗数メカニズムの事例 ⑩ マクロ経済における総需要と総供給 ⑪ 財政・金融政策のメカニズム：IS-LM分析①総需要—総供給 ⑫ 財政・金融政策のメカニズム：IS-LM分析②総需要—総供給 ⑬ 財政・金融政策のメカニズム：IS-LM分析③総需要—総供給 ⑭ 財政・金融政策のメカニズム：IS-LM分析④総需要—総供給 ⑮ まとめ 			

【予習と復習】

予習は配布するプリントをよく読んで自分なりに理解してください。また、授業終了後には復習として授業内容をまとめ、あらためてその内容理解に努めてください。予習・復習時間は90分以上を目安とし、取り組んでください。

【学習到達目標】

1. 新聞記事に乗せた基本的な経済用語：GDP、GNPの区別、経済成長率、消費者物価指数、為替レート、為替市場の定義を理解することができる。
2. 簡単な貨幣の流れ、金融システムの仕組みを理解することができる。
3. マクロ経済における総需要と総供給という定義を理解することができる。
4. マクロ経済におけるIS-LMの概念を理解することができる。
5. 金融・財政政策の仕組みを理解することができる。
6. 金融・財政政策の仕組みを分析することができる。

【成績評価の方法】

成績は、80%以上出席した者を対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

- ・毎回のレジメに記入したものを回収して評価する（100%）

【教科書】

独自のプリント配布

【参考書・参考文献】

マンキュー入門経済学
入門 経済学 伊藤元重

【履修上の注意】

定期テストはないですが、授業中のレジメを重視する。

【質問への対応方法】

- 随時可能 オフィスアワー（ ）
- E-mail (setsu@nakanihon.ac.jp) その他（授業実施日）

【履修者数調整方法】

【関連授業】

科目名	英語 English	A 選択	M 必修	単位数 2
担当教員	鈴木 敦巳	開設期 1年		
<p>【科目の概要】 英語の基本的表現（単語、熟語、構文、慣用句）などの発音、意味、使い方を文章の中で教える。英文の音読、筆写を通じて暗誦させ使えるように指導する。</p> <p>【授業計画】</p> <p>① 主語と（述語）動詞の概念</p> <p>② 主語の決定の仕方</p> <p>③ 主語に対する（述語）動詞の決め方</p> <p>④ 品詞について</p> <p>⑤ 5文型について</p> <p>⑥ 日本語に引きずられないように英文の意味を考える</p> <p>⑦ ”</p> <p>⑧ ”</p> <p>⑨ 時制について</p> <p>⑩ 時制について誤りやすい表現について</p> <p>⑪ 助動詞について</p> <p>⑫ ”</p> <p>⑬ 不定詞について</p> <p>⑭ 動名詞と分詞について</p> <p>⑮ 分詞構文について</p> <p>【予習と復習】 予習とは、事前情報の入手です。復習とは、授業で行った事の確認です。予習と復習を各 90 分以上目安とし、取り組んでください。</p>				

【学習到達目標】

1. 基本的な英文を読んで意味が正しく理解できる。
2. 基本的な英文を正しい発音とイントネーションで音読できる。
3. 基本的な英文を正しい発音とイントネーションで暗誦でき、書くこともできる。

【成績評価の方法】

成績は、80%以上出席した者を対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

15回の授業の中で、英文の暗誦、(10%)。課題として英文の筆写をさせ提出させる(20%)。授業中の受講態度(10%) 定期試験の成績(60%)。

【教科書】

教科書は使用せず、「プリント」を使用する。

【参考書・参考文献】

教員の説明よりさらに詳しく知りたい学生には、その都度、著書を紹介する。

【履修上の注意】

筆記用具、ノートを持参してくるのは、当然のこととし、英和辞典を必ず持参すること。

【質問への対応方法】

- オフィスアワー (出講日 13:30 ~ 14:50 非常勤講師室)
 E-mail ()

【履修者数調整方法】

【関連授業】

科目名	英語会話 English Conversation	A	M	単位数
		選択	必修	2
担当教員	蜂須賀 三稀	開設期		
		A2年、M3年		

【 科目の概要 】

国際公用語は英語である。英語での基本的な挨拶、自己紹介などの表現をマスターすれば、英語を母国語としない世界各国の人々とも知り合いになれ、コミュニケーションが取れる。また自動車用語にも多くの英語が含まれる。

そこで本講では短期留学や海外研修でも役立つような基本的な挨拶表現をはじめ、ディーラー/整備士の立場から自動車に関する英語でのコミュニケーションを学ぶ。CD教材を使ってリスニング演習も行う。

また授業への導入としてイギリスで監修された車に関する英語ビデオ (TopGear) を利用し、スーパーカーや名車の特徴を鑑賞する。

外国人とコミュニケーションをとるためには積極的に自分で発声する、表現してみることが重要であるため、積極的な授業参加を求める。

表現を覚え、聴き、発声することにより表現方法を習得していく。

自動車に関する英語に触れることで、今まで英語が嫌いであった皆さんにも英語に慣れ親しんでもらう。

【 授業計画 】

- ① 授業の進め方紹介、紹介挨拶の仕方、各自英語での自己紹介
- ② 車ビデオ1/ 顧客のニーズに合った車の選び方/進め方
- ③ 車ビデオ2/ ディーラーでの会話/リスニングを通じて車購入時の装備・性能を英語で学ぶ
- ④ 車ビデオ3/ ディーラーでの会話/リスニングを通じて車購入時の装備・性能を英語で学ぶ
- ⑤ 車ビデオ4/ 車外装、パーツの名前 (英/米の比較を含む)
- ⑥ 車ビデオ5/ タイヤの交換
- ⑦ 車ビデオ6/ 生産者VS部品供給側間のクレーム対応 (会話/メール)
- ⑧ 車ビデオ7/ 車内装、パーツの名前 (英/米の比較を含む)
- ⑨ 車ビデオ8/ エンジンの仕組みと種類
- ⑩ 車ビデオ9/ 性能 1
- ⑪ 車ビデオ10/ 性能 2
- ⑫ 車ビデオ11/ 車の素材と特徴 1
- ⑬ 車ビデオ12/ 車の素材と特徴 (インディーカー) 2
- ⑭ 車ビデオ13/ 復習と質問

⑮ 復習 試験前のまとめ

⑯ 試験

【予習と復習】

当該授業終了後に次回授業予定を案内するので、知らない単語を調べ、利用教材に目を通しておく事。また授業後は学んだ表現の確認をし、声を出して覚える。その所要時間の目安は各90分とする。

【学習到達目標】

1. 英語で挨拶をして自己紹介ができる。
2. 各位に合った車のタイプを選別することができる。
3. ディーラーで車を購入する際の会話を聞き、車の装備、エンジンの大きさなど性能の説明を理解できる。
4. 外装、内装の英語名がわかる。
5. 英語表現によるタイヤ交換の仕方を理解できる。
6. 部品クレーム対応の一例を知ることができた。
7. エンジンの仕組みと種類を英語でも理解できる。
8. 英語表記での車の性能やスペックを理解できる。
9. インディーカーの素材やその特徴が記載された英文を理解できる。

【成績評価の方法】

成績は80%以上出席したものを対象とし、試験の評価・授業参加度を総合して判断します。
筆記試験 80%、授業参加度（発言、発声、傾聴、呼応等） 20%

【教科書】

プリント利用

【参考書・参考文献】

English for the Automobile Industry
Technical English I (Longman)

【履修上の注意】

教室内での携帯電話利用を慎むこと。非常勤講師のため質問に関しては授業時間中、授業前後の休み時間または昼休みなど（非常勤講師室）で疑問点は解決してください。

プリントを配布するので必ずその教材を毎回持参すること。

（持参しない場合は減点の対象とする）

【質問への対応方法】

- 随時可能 オフィスアワー（ ___時 ~ ___時）
 E-mail (hutch@jinno.ac.jp) その他（ _____ ）

【履修者数調整方法】

【関連授業】

科目名	中国語 Chinese	A・M 選択	単位数 2
担当教員	吉川 薛	開設期 1年	
<p>【科目の概要】</p> <p>中国語は、隣国のとても身近な言葉であるとともに、全世界の実に1／5以上の人々が使っている言語です。その中国は最近経済成長が目覚しく、近年の新車販売台数は年間なんと1800万台以上！ここ何年か自動車販売台数世界トップとなっています（ちなみに日本は500万台弱）。自動車業界にとどまらず、これからの世界経済を引っ張っていくであろう中国、そこで話されている中国語は、今最も将来性のある言語です。そんな中国語が話せたら、将来就職に有利かも？</p> <p>さて、中国語は漢字を使う言葉なので、日本人にはとっつきやすい外国語です。ただし、同じ漢字や熟語でも中国語と日本語ではまったく違う意味になることもしばしばです。中国語で「汽車」って何？「愛人」って誰？「トイレットペーパー」「ベンツ」を中国語に訳すと・・・？</p> <p>この授業は、中国語学習を通じて言葉の楽しさを感じてもらおうと同時に、現代中国社会の様子を紹介しながら、お隣の中国という国に興味をもってもらおう授業です。</p> <p>【授業計画】</p> <p>1. [イントロダクション] 「中国」ってどんな国？ 中国語が話されている中国という国はどんな国なのか、中国の基礎知識を紹介するプリントを使い、クイズ形式で進めながら簡単に紹介して、これから学ぶ中国語に興味を持ってもらいます。 また、最初に自分の名前の中国語表記（漢字）や読み方を覚えてもらいます。</p> <p>2. 「中国語」ってどんな言葉？① 中国語の発音〔ピンイン・声調〕 ※発音の決まりを簡単に紹介します。</p> <p>3. 4 「中国語」ってどんな言葉？② 中国語の発音〔ピンイン・声調〕 ※発音の決まりを簡単に紹介します。以後毎時間新しい発音を覚えます。</p> <p>【会話1】「はじめまして。私は古川といます。— <u>你好!我姓古川。</u>」（自己紹介）</p> <p>5. 6 【会話2】「私は日本人です。— <u>我是日本人。</u>」 ★発音練習</p> <p>7. 8 【会話3】「これは何ですか？— <u>这是什么?</u>」（“何”の使い方） ★発音練習</p> <p>9. 10 【会話4】「スーパーはどこですか？— <u>超市在哪儿?</u>」（場所を聞く） ★発音練習</p> <p>11. 12 【会話5】「今何時ですか？— <u>现在几点?</u>」（時間を聞く） ★発音練習</p> <p>13. 14 【会話6】「ひとついくらですか？— <u>多少钱一个?</u>」（値段を聞く） ★発音練習</p> <p>15. 総復習 これまでやった内容を総復習します。</p>			

【予習と復習】

予習は事前に指示した教科書の該当部分をよく読んで、自分なりに理解するようにしましょう。また、授業終了後には復習としてノートの記述をまとめ、あらためてその内容理解に努めてください。発音練習を心がけましょう。予習・復習時間は、90分以上を目安とし取り組んでください。

【学習到達目標】

1. 中国語の発音記号（ピンイン）と声調が理解でき、正確に発音できる。
2. 中国に旅行に行ったときに使える簡単な表現がいくつか言える。
3. 現代中国に関する基礎的な知識を理解することができる。
4. 映像を通して現代中国に対して興味を持ち、また理解を深めることができる。

【成績評価の方法】

定期試験および授業活動の積極性、毎回の発音復習テストも加味し総合的に評価します。

【教科書】

「ゼロからカンタン 中国語」旺文社

【参考書・参考文献】

適宜紹介します

【履修上の注意】

中国語は、おそらくみなさんがゼロからのスタートでしょうから当然わからないことだらけでしょう。でも“楽しむ”気持ちで気軽に話してみてください。たと言いか間違えてもまったく平気です。語学が上手になる人は、“よく間違える人”です。

また毎回授業のはじめには、前回学んだことを簡単に復習しながら進めていきます。

【質問への対応方法】

- 随時可能 オフィスアワー（__曜日 __時 ~ __時）
 E-mail（setsu@nakanihon.ac.jp） その他（ ）

【履修者数調整方法】

母語が中国語の学生は受講できません。

【関連授業】

科目名	健康とスポーツ Health and Sports	A・M 必修	単位数 1
	担当教員 小川 久	開設期 1年	

【 科目の概要 】

健康は、他から画一的に与えられるものではなく、各人が日々の暮らしの中から年齢や体力、生活様式に応じ、自分に最も適したものを獲得し守っていくべきものとなったと言ってよい。そのためには、医学をはじめ、体育学、保健学、生理学、栄養学、心理学、社会学など、健康に関する科学の統合化（知識・智慧）とそれに基づく積極的な実践が必要とされる。

本科目では、健康管理能力の向上と体力増進を目指し、体育実技を中心として実践する。そのことにより、厳しいエンジニアの現場で対応できる「心」を養い、「体」をつくり、「チームワーク」の重要性について学習します。

【 授業計画 】

① バレーボール学習の概説・基本技術Ⅰ

初心者、中級者レベルに焦点をおいた基本技術の習得をテーマとし、多くの友達づくりをしながら、誰とでもゲームを楽しめることを目標にして学習する。

オーバーハンドパス、アンダーハンドパス、ウォームアップ・クーリングダウン

② 基本技術Ⅱ

サーブ、アタック、ボール慣れ、バレーボールのマナー・ルール・エチケット・安全性について

③ 応用技術

サーブカットから三段攻撃へのつなぎ方、トス技術（ネット際から、二段トス）の習得

④ 試合Ⅰ

6チームにおけるリーグ戦

試合運営（コート2面）、審判・線審、得点、ボールキーパー

⑤ 試合Ⅱ

6チームにおけるリーグ戦

試合運営（コート2面）、審判・線審、得点、ボールキーパー

⑥ バドミントン学習の概説・基本技術Ⅰ

バドミントンは大変スピーディなスポーツであり、その上シャトルコックの独特な軌跡がゲームを面白く、奥深いものとしている。本授業ではバドミントンの楽しさを体得することも目標として学習する。

ラケットの握り方、シャトル慣れ、ウォームアップ・クーリングダウン

⑦ 基本技術Ⅱ

サーブ、ハイクリアー、ドライブ、バドミントンのマナー・ルール・エチケット・安全性について

⑧ 応用技術

ヘアピン、スマッシュ、ドロップなどの基本技術を用いて前後左右への打ち分け、ラリーができる

⑨ 試合Ⅰ

ダブルスにおけるリーグ戦

狙った位置にサーブを打つことができ、得点の数え方、および審判ができる

⑩ 試合Ⅱ

ダブルスにおけるリーグ戦

基本技術を用いてペアごとに試合を行い、楽しみながらラリー・プレーを楽しむことができる

⑪ ソフトボール学習の概説・基本技術Ⅰ

技能的には個々には差があるため、基本技術（打・捕・投・走）を習得し、競技方法やルールを身につけ、生涯スポーツとして地域や職場イベントなどに積極的に参加することの大切さを学習させたい。

スローイング、キャッチング、ウォームアップ・クーリングダウン

⑫ 基本技術Ⅱ

バッティング、ベースランニング、フライの処理、スムーズな捕球から送球、安全性について

⑬ 応用技術

ランナーを進塁させるバッティング、ランナーを進塁させない守備、ルールの理解

⑭ 試合Ⅰ

簡易ゲームと基本技術の復習

バッターを1塁でアウトにする、走者を2塁でアウトにする、捕球と送球の正確さ追求

バウンドありのゴロを打ち走者を進塁させる、ルールを守る

⑮ 試合Ⅱ

基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって、攻防を展開することができるゲームを楽しむことができる

【 予 習 と 復 習 】

予習：準備運動をする。道具の準備をする。種目のルールを理解しておく。

復習：整理運動をする。道具の後片付けをする。ゲーム記録を整理する。

【 課 題 】

各種目についてルールと基本技術を習得すること。

【 学 習 到 達 目 標 】

1. バレーボールの基本技術を習得し、ラリーが続くゲームを作ることができる。
2. カバーリングの多いゲームから社会性、倫理性を学び、生涯スポーツとして続けられることを目標にした良好な仲間関係をつくることができる。
3. シングルの試合を中心に基本技術を習得し、ラリーが続くゲームを作ることができる。
4. 基本打法とスピードあるゲームの組立を中心に進めていき、経験差を埋める観点でペアを組み、ダブルスの試合で、お互いに協力しながら攻防を楽しむゲームをすることができる。
5. ソフトボールの基本技術を習得し、打つ（打撃）・捕る（捕球）・投げる（送球）・走る（走塁）の4つの要素を確実に身につけることができる。
6. チームとして、お互いが協力したりサポートしていく雰囲気をつくり、教え合ったり、励まし合う姿が見られるような良好な仲間関係をつくることができる。
7. 楽しさや競技スポーツとしての奥深さなどを学びながら、生涯を通して、スポーツや運動に親しむ能力を養うことができる。
8. 自己健康管理能力と体力増進を目指し、厳しいエンジニアの現場で対応できる「心」を養い、「体」をつくり、「チームワーク」の重要性を意識した取り組みをすることができる。

【 成 績 評 価 の 方 法 】

成績は、80%以上出席したものを対象とし、授業態度（30%）、運動技能（30%）、興味、関心、意欲（40%）の結果にて評価します。

【教科書・参考書】 特に購入する必要はない。授業の際に、プリントを配布する予定である。

【履修上の注意】（全種目共通）

服装はトレーニングウェアとシューズ（室内用または室外用）が必要である。遅刻は始業5分後以降とし、遅刻2回で欠席1回とする。また、見学は、疾病・けがの理由によっては認めることがある。

【質問への対応方法】

オフィスアワー：体育教員室での対応随時可能（授業実施日）

科 目 名	自動車工学日本語 I Japanese on automotive engineering I	留学生 指定(選択)	単 位 数 1
		開 設 期 1 年	
担 当 教 員	古川 竜治		
<p>【 科 目 の 概 要 】</p> <p>この科目は外国人留学生のために設けた科目です。 この授業では自動車整備の勉強に必要な日本語の総合力を身につけます。 自動車整備の教科書には、留学生別科や日本語学校での日本語の勉強ではあまり出てこなかった単語や表現がでてきます。一方で、よく出てくる決まった単語や表現も多いので、そのパターンを知れば比較的簡単に文の意味を理解することができます。 この授業では、自動車整備の基礎的なテキスト『基礎自動車工学』（日本自動車整備振興会連合会編）をもとにしたオリジナルテキストを使って、語彙習得、構文理解、読解等の練習をします。 「自動車工学日本語 I」は主にエンジン分野に関するテキストを使います。</p> <p>【 授 業 計 画 】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① はじめに 自動車の日本語 ② 自動車の構成 ③ 動力の原理（1） ④ 動力の原理（2） ⑤ 原動機（1）エンジンの概要 ⑥ 原動機（2）ガソリンエンジン本体 ⑦ 原動機（3）潤滑装置 ⑧ 復習（第1回～第7回） ⑨ 原動機（4）冷却装置 ⑩ 原動機（5）燃料装置 ⑪ 原動機（6）吸排気装置・排気ガス浄化装置 ⑫ 原動機（7）電気装置（バッテリー・始動装置） ⑬ 原動機（8）電気装置（充電装置・点火装置） ⑭ 原動機（9）ディーゼルエンジン ⑮ 復習（第9回～第14回） 			

科 目 名	自動車工学日本語Ⅱ Japanese on automotive engineering Ⅱ	留学生	単 位 数
		指定(選択)	1
担 当 教 員	清水勝昭	開 設 期	
		1年春学期・秋学期	
<p>【 科 目 の 概 要 】</p> <p>この科目は外国人留学生のために設けた科目です。</p> <p>この授業は自動車整備専門分野の勉強に必要な日本語の基礎力を身につけることを目的としています。自動車整備を始め、専門分野の教科書には、これまでの一般的な日本語の勉強ではあまり出てこなかったことばや表現がでてきますが、よく出てくる決まったことばや表現も多いので、そのパターンを知れば比較的簡単に文の意味を理解することができます。</p> <p>この授業では、『基礎自動車工学』『三級自動車シャシ』などの基礎的な教科書から抜き出した漢字のことば、カタカナのことば、よく使う文型を学び、読解力の向上を目指します。同時に、読解力を補うための自動車専門分野の入門的知識も併せて学びます。</p> <p>「自動車工学日本語Ⅱ」で学ぶのはエンジン以外（シャシ関連装置など）の分野です。</p> <p>【 授 業 計 画 】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① はじめに 自動車の日本語 ② 自動車の構成 ③ 動力伝達装置（1）【概要】 ④ 動力伝達装置（2）【クラッチ】 ⑤ 動力伝達装置（3）【トランスミッション】 ⑥ 動力伝達装置（4）【プロペラ・シャフト】 ⑦ 動力伝達装置（5）【最終減速装置】 ⑧ 動力伝達装置のまとめ ⑨ アクスル及びサスペンション ⑩ ステアリング装置 ⑪ ホイール及びタイヤ ⑫ ブレーキ装置 ⑬ フレーム及びボデー ⑭ 灯火装置 ⑮ 計器・総復習 <p>【 予 習 】</p> <p>次回の授業範囲の新しい単語の意味・読み方を確認しておいてください。特に、意味については辞書で調べたうえで、問題意識を持って授業に参加してください。</p> <p>【 復 習 】</p> <p>授業でならったことばの意味と読み方を正確に覚えてください。教科書の本文の中の大切な文を覚えてください。文型を使った文の意味が完全にわかるかどうかを確認してください。授業中に配った補充プリントをもう一度やってください。</p> <p>【 課 題 】</p> <p>復習のための小テストをします。授業の終わりに、次回の小テストの範囲・内容、何を勉強すればいいかを指示しますので、復習とともに勉強してください。</p>			

【学習到達目標】

1. 教科書に出てくる重要な漢字語90語の意味と読み方がわかる。
 2. 教科書に出てくる重要なカタカナ語70語の意味がわかる。
 3. 教科書の中の日本語の構文を理解するとともに、全体の文の意味がわかる。
- 「自動車工学日本語Ⅰ」と「自動車工学日本語Ⅱ」をあわせて漢字語140語、カタカナ語140語が目標です。

【成績評価の方法】

80%以上の出席数がある場合に評価を行います。小テスト・中間テストの点数（約10%）と、定期テストの点数（約90%）によって評価します。

【教科書】

オリジナルテキストを配布します。
また、補助教材として全員に『留学生のための基礎自動車工学』、希望者には中国語版とベトナム語版の補助教材『自動車整備用語ハンドブック』も配布します。

【参考書・参考文献】

「新版・自動車用語辞典」大須賀和美編著 精文館
「自動車整備技術・基礎自動車工学」日本自動車整備振興会連合会編

【履修上の注意】

- (1) 新しいことばは授業中に覚えるよう心がけてください。
- (2) 先生が板書を指示したら、必ず書いてください。
- (3) 辞書、辞典を教室に持ってきて、授業中に使いましょう。

【質問への対応方法】

- オフィスアワー：水曜日 11:00～17:00、木曜日 11:00～15:00、および講義空き時間
場所：203 研究室
- E-mail：shimizu-kat@nakanihon.ac.jp

【履修者数調整方法】

なし

【関連授業】

自動車工学日本語Ⅰ

科 目 名	日本の自動車事情 Automobile society in Japan	留学生 指定(選択)	単 位 数 1
		開 設 期 2年春学期	
担 当 教 員	清水勝昭		
<p>【 科 目 の 概 要 】</p> <p>この授業は外国人留学生のために開設された科目です。</p> <p>この授業は、日本の自動車産業界（特に自動車ディーラーなどのアフターサービス業界）についての全般的な知識と、現在の日本の自動車業界の問題点について学ぶことを目的としています。この授業を履修することで、就職に役に立つ知識や、よりよく働くための思考力が身に付くことが期待できます。特に、自動車業界でリーダーになりたい人、将来母国に帰って会社を作りたいと考えている人には履修をお勧めします。</p> <p>また、日本の自動車メーカーの特色、代表的な車名、最近のニュースなども紹介し、みなさんが興味を持って勉強できるように工夫します。</p> <p>この科目は次学期の「自動車アフターサービス産業概説」につながります。</p> <p>【 授 業 計 画 】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① すそ野が広い自動車産業 ② アフターサービスは新しいビジネスモデルの主演 ③ 自動車ディーラー ④ ディーラーの店舗 ⑤ 営業スタッフ ⑥ サービススタッフ ⑦ 車検 ⑧ 中間復習 ⑨ 部品供給 ⑩ ボデーリペア ⑪ 中古車 ⑫ 輸入車 ⑬ ガソリンスタンド ⑭ カー用品店 ⑮ 将来のビジネスチャンス・総復習 <p>【 予 習 】</p> <p>次回の授業で勉強する予定の教科書の部分を読んで、文章に書かれていることを理解しておいてください。わからないことばは、辞書で調べておいてください。</p> <p>【 復 習 】</p> <p>授業中にプリントに書いたことと教科書を見比べながら、内容をより深く理解してください。</p> <p>【 課 題 】</p> <p>適宜、レポート課題を出します。期日までに提出してください。</p>			

【学習到達目標】

1. 自動車業界に関する基本的なことばの意味がわかる。よく使う語については正しく読むことができる。
2. 日本の自動車アフターサービス業界にはどんな業種、どんな仕事があるのかを言ったり書いたりすることができる。
3. 日本の自動車業界、とくに自動車アフターサービス業界にどんな問題点があるのかを、簡単にいいので、言ったり書いたりすることができる。
4. 日本の自動車メーカーの名前とブランド名を言うことができ、だいたいの内容がわかる。

【成績評価の方法】

80%以上の出席数がある場合に評価を行う。授業中の各課題に対する評価（約10%）と、定期テストの点数（約90%）によって評価する。

【教科書】

授業担当者が作成したオリジナル教材を授業中に配布します。

【参考書・参考文献】

授業の中で紹介します。

【履修上の注意】

- (1) 次学期に「自動車アフターサービス産業概説」を履修する予定の人は、必ず本科目を履修しておいてください。
- (2) 授業に辞書を持参し、わからないことをその場で解決するよう努めてください。
- (3) ノート、シャープペン、赤ボールペンを常に机の上に置き、板書の習慣をつけてください。
- (4) 教室内での活発な発言を期待します。

【質問への対応方法】

オフィスアワー：水曜日 11:00～17:00、木曜日 11:00～15:00、および講義空き時間
場所：203 研究室

E-mail：shimizu-kat@nakanihon.ac.jp

【履修者数調整方法】 なし

【関連授業】

自動車アフターサービス産業概説

科 目 名	自動車アフターサービス産業概説 Car after-sales service business	留学生 指定(選択)	単 位 数
			1
担 当 教 員	清水 勝昭	開 設 期	
		2年秋学期	
<p>【科目の概要】</p> <p>これは外国人留学生を対象とした科目です。</p> <p>自動車アフターサービス業界とは修理、点検、車検、用品取り付けなど自動車を販売した後のさまざまな技術サービスを取り扱う業界で、みなさんが将来社会で活躍する可能性が高い分野です。この授業ではみなさんの卒業後の仕事の発展にも役に立つような内容も盛り込んでいます。</p> <p>この授業は、日本の自動車アフターサービス業界の概要を理解したうえで、現在の業界が抱えるさまざまな問題点を身近な問題として考える力、自らの意見を持ちそれを発信する能力を身に付けることを目標としています。</p> <p>この科目は前学期の留学生科目「日本の自動車事情」との関連が多いので、できる限り「日本の自動車事情」を履修しておいてください。</p> <p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 授業の概要と予備知識 ② アフターサービスとはなにか ③ 自動車ディーラーのアフターサービス (1) ④ 自動車ディーラーのアフターサービス (2) ⑤ ディーラー以外のアフターサービス ⑥ サービススタッフの役割 ⑦ 復習とまとめ ⑧ アフターサービス産業をとりまく状況 (1) ⑨ アフターサービス産業をとりまく状況 (2) ⑩ アフターサービス産業をとりまく状況 (3) ⑪ アフターサービスとお客様との関係 (1) ⑫ アフターサービスとお客様との関係 (2) ⑬ お客様との接点を考える (1) ⑭ お客様との接点を考える (2) ⑮ 総復習とまとめ <p>【予 習】</p> <p>次回の授業で勉強する予定の教科書の部分を読んで、文章に書かれていることを理解しておいてください。わからないことは、辞書で調べておいてください。</p> <p>【復 習】</p> <p>授業中にプリントに書いたことと教科書を見比べながら、内容をより深く理解してください。</p> <p>【課 題】</p> <p>適宜、レポート課題を出します。期日までに提出してください。</p>			

【学習到達目標】

1. 自動車アフターサービス業界の問題点について言うことができる。
2. 自動車アフターサービス業界の問題点について書くことができる。
3. 自動車アフターサービス業界の問題点に対する自分の意見を言うことができる。
4. 自動車アフターサービス業界の問題点に対する自分の意見を書くことができる。

【成績評価の方法】

80%以上の出席数がある場合に評価を行う。授業中の課題に対する評価（約30%）と、定期テストの点数（約70%）によって評価する。

【教科書】

授業担当者の作成したオリジナル教材を授業中に配布する。

【参考書・参考文献】

授業中に紹介する。

【履修上の注意】

- (1) なるべく「日本の自動車事情」を履修しておいてください。
- (2) 授業に辞書を持参し、わからないことをその場で解決するよう努めてください。
- (3) ノート、シャープペン、赤ボールペンを常に机の上に置き、板書の習慣をつけてください。
- (4) 授業の性質上、教室内での自由、活発な発言を大いに期待します。

【質問への対応方法】

- オフィスアワー：水曜日 11:00～17:00、木曜日 11:00～15:00、および講義空き時間
場所：203 研究室
- E-mail：shimizu-kat@nakanihon.ac.jp

【履修者数調整方法】

なし

【関連授業】

日本の自動車事情

科 目 名	キャリアデザイン I Career Design I	A・M	単 位 数
		必 修	1
担 当 教 員	キャリアデザイン担当教員	開 設 期	
		1 年 春	

【 科 目 の 概 要 】

建学の精神である「技術者たる前に良き人間たれ」をメインテーマに、「自己の理解」、「他者の理解」、「人間関係の理解」、「学校の理解」、「働くことの意義やスタンス」、「ビジネスマナーのスタンス」などを深く掘り下げることで、社会に出た時に求められる人間力（社会人基礎力）を自らの力で身につけていくことを目指します。講義は入学直後に実施する集中授業と毎週 1 回の通常授業で構成されます。毎回の授業ではクラス担任が中心にファシリテータ（進行役）を務めます。

【 授 業 計 画 】

【集中】 自己の探求（入学直後に集中講義で実施）

自己の理解、他者の理解、コミュニケーション、グルーピングなど、体験を通じて学ぶ

- ① ガイダンス
建学の精神、就学、就職、進学、卒業までのアウトライン、授業の受け方、5S とマナー
- ② 自分を知る
自己プロGRESSレポート(ベネッセ)
- ③ 学舎を知る
図書館、就職情報センター、専攻科、MSE 実習場、学生ホール車両展示場
- ④ 目標を立てよう
アクションプラン 春学期のチャレンジ目標を立てる
- ⑤ 仕事を知る
企業研究 業界の現状、進路の多様性を知る
- ⑥ 自分を知る
自己プロGRESSレポートの結果から今の自分を見つめてみる、フォローアップアンケート
- ⑦ 自分を知る
ライフ・ライン 今までの自分をふりかえり、これからの自分を考える
- ⑧ コミュニケーション
一方向、双方向コミュニケーション コミュニケーションの必要性を知る
- ⑨ コミュニケーション
対人コミュニケーション
- ⑩ 他人を知る
思いやり 相手の立場になって物事を考える
- ⑪ 社会人として
社会で求められる人とは？
- ⑫ 進路を考える
就職ということ、求職ガイダンス、資料請求、求職登録
- ⑬ マナーを知る
マナーコンセンサス エチケットとマナー
- ⑭ 社会人として
社会人としての常識、責任、行動を考える、ビジネスマナー、夏のセミナーガイダンス
- ⑮ 秋学期に備えて
夏季休暇中の生活、企業研究、企業訪問、情報収集、産業見学会、産業講座ガイダンス

【予習と復習】

企業研究 業界の現状に関しては、常日頃より情報収集に努め、授業前の準備をしてください。学生としての自分、社会の一員としての自分について深く掘り下げる講義を行います。考えを整理し、それを意識して行動することで、社会人としての素養を身に付けてください。

【学習到達目標】

1. 自分の良いところ、悪いところ、弱いところを素直に見つめ、評価できる。
2. 他人の良いところ、悪いところ、弱いところを公正に見られ、思いやりを持って接することができる。
3. 良い関係の友達やチームを作ることができる。
4. 将来の目標に向かって現状を正しく分析し、適切な方向性を見いだせる。
5. 就職、進学に対して正しい目的意識を持ち、日常の就学、生活活動に生かせる。
6. 社会人としてふさわしいマナーを使いこなせる。
7. 就職試験に備えて、基礎的な知識が備わっている。

【成績評価の方法】

授業ごとのふりかえりレポート、授業の取り組み姿勢、学習態度などで総合的に評価します。

*授業後に提出するレポートは出欠表の代わりとなります。提出がないと欠席扱いとなるので、注意してください。

【教科書】

テーマごとに教材を配布します。

【参考書・参考文献】

最新最強のエントリーシート（成美堂出版）

最新最強 SPI クリア問題集（成美堂出版）

SPI 2 問題集 決定版（成美堂出版）

インターネット就職関連サイト

【履修上の注意】

- ①ノート、筆記用具を必ず持参すること。（マーカーも忘れずに持ってくる）
- ②教室内での携帯電話、ゲーム機等の使用、私語、居眠り、飲食は禁止します。
※上記の指示に従わない場合は、退場（欠席扱い）とします。

【質問への対応方法】

- オフィスアワー（クラスゼミの時間を利用してください）
- E-mail（最初の講義で連絡します）

【履修者数調整方法】

なし

【関連授業】

キャリアデザインⅡ

科目名	キャリアデザインⅡ Career Design Ⅱ	A・M 必修	単位数 1
担当教員	キャリアデザイン担当教員	開設期 A1年秋、M2年秋	
<p>【科目の概要】</p> <p>夏季休暇を終えると本格的な求職活動期に入ります。自動車メーカーやカー・ディーラーなどの担当者と直接面接する「産業講座」を通して、具体的な将来ビジョンを形成していきます。また、自己をいかにアピールできるか、就業に必要な基礎知識は十分あるか、様々なテーマをこなすことにより求職への意識付けと自己のスキルアップを目指します。</p> <p>【授業計画】</p> <p>[産業講座A] 仕事を知る。 産業講座Aを通してメーカー情報を収集、研究する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 目標を立てる アクションプラン 春学期のふりかえり、秋学期のチャレンジ目標を立てる ② 就職活動の流れを知る 進路の手引を使つての説明 ③ 情報を得る NACS 就職支援サイト ④ 入社試験に備える 筆記試験に備える(模擬試験と解説)、就職過去問題サイトの紹介 ⑤ 就職ガイダンス 日本ライン会、仕事の内容について ⑥ 対応マナー 資料請求 E-mail、言葉遣いについて ⑦ 就職ガイダンス 産業講座Bの直前ガイダンスについて ⑧ [産業講座B] 仕事を知る。 産業講座Bを通してライン会企業情報を収集、研究する。 ⑨ 就職ガイダンス 産業講座Bを終えて企業情報の整理、会社訪問について ⑩ 就職活動のマナー 就職に関するビデオ ⑪ 入社試験に備える 模擬エントリーシート ⑫ 面接に備える 模擬面接 ⑬ 就職ガイダンス 提出書類、入社試験について ⑭ 模擬適性検査 模擬適性検査の実施 ⑮ 進路確認 個別面談 ⑯ ふりかえり これまでの行動分析、状況報告、今後の活動について考える(レポート、意見交換) 			

【予習と復習】

企業研究 業界の現状に関しては、常日頃より情報収集に努め、授業前の準備をしてください。講義内でも様々な情報提供をします。考えを整理して具体的な将来ビジョンを持ってください。参考書や問題集も紹介します。就職試験に向けたスキルアップをしてください。

【学習到達目標】

1. 自動車メーカー、カー・ディーラーについて基礎的な知識を持っている。
2. 具体的な進路が立てられる。
3. 社会人としてのマナー、知識が備わっている。
4. エントリーシートが書ける。
5. 面接に於いて、質問に適切に答えられ、自己の意見がはっきり言える。
6. 目標に向かって、適切な行動ができる。

【成績評価の方法】

授業ごとのふりかえりレポート、授業の取り組み姿勢、学習態度などで総合的に評価します。

*授業後に提出するレポートは出欠表の代わりとなります。提出がないと欠席扱いとなるので、注意してください。

【教科書】

テーマごとに教材を配布します。

【参考書・参考文献】

最新最強のエントリーシート（成美堂出版）

最新最強 SPI クリア問題集（成美堂出版）

SPI 2 問題集 決定版（成美堂出版）

インターネット就職関連サイト

【履修上の注意】

- ①ノート、筆記用具を必ず持参すること。（マーカーも忘れずに持ってくる）
- ②教室内での携帯電話、ゲーム機等の使用、私語、居眠り、飲食は禁止します。
※上記の指示に従わない場合は、退場（欠席扱い）とします。

【質問への対応方法】

- オフィスアワー（クラスゼミの時間を利用してください）
- E-mail（最初の講義で連絡します）

【履修者数調整方法】

なし

【関連授業】

キャリアデザイン I

科 目 名	ビジネスマナー演習（日本人） Practical Business Manner	A・M	単 位 数
		選択	1
担 当 教 員	高木香与子	開 設 期	
		1 年 秋	
<p>【 科 目 の 概 要 】</p> <p>春学期「日本語表現法」で習得した日本語を就職活動や接客など社会生活のシーンで、運用できるように実際のシーンを想定しながら知識を得て演習をする。</p> <p>就職活動や働く現場の場面を想定し、それぞれの基本の流れと目的を理解すること。そして、場面にあった文章を作成し実践できるようになるために、理論と演習を通して、自己の問題点を発見するとともに解決法を身につける。</p> <p>【 授 業 計 画 】</p> <p>① 評価説明。敬語まとめ1 基本形復習とビジネス敬語運用</p> <p>② 敬語まとめ2 接客用語運用演習</p> <p>③ 電話応対 基本の流れと文章作成</p> <p>④ 電話応対 演習</p> <p>⑤ 面接① 質問について考える Open&Close</p> <p>⑥ 面接② 質問を作る 作成・演習</p> <p>⑦ 面接③ 質問に答える 作成・演習</p> <p>⑧ 面接④ 質問に答える 作成・演習</p> <p>⑨ 働く現場で ビジネスシーンでの挨拶、接客応対、名刺交換</p> <p>⑩ 働く現場で チームコミュニケーションの大切さ（報告・連絡・相談含む情報共有）</p> <p>⑪ グループディスカッション</p> <p>⑫ 発表（プレゼンテーション）① 概要説明、テーマ設定、リサーチ</p> <p>⑬ 発表（プレゼンテーション）②構成を考え、文を作る</p> <p>⑭ 発表（プレゼンテーション）③発表とふり返り</p> <p>⑮ 総合演習 ビジネス接客 ロールプレイング</p>			

【予習と復習】

予習はテキストを一通り読んでくること。復習は、講義で得た知識を定着させるため日頃から実行を心がけることが必要です。予習は90分程度を目安とし、取り組んでください。

【課題】

課題は毎回のノートテーキングと定着のための復習です。授業終了時に運用できるように、授業中はもちろん、日ごろからマナーを意識しながら学生生活を送ることが課題です。

【学習到達目標】

1. 日本語表現法で学んだ基礎を元に、就職活動など実際のシーンで運用できるようにする
2. 質問の作成と応答を理解することができる
3. ビジネス敬語を理解する
4. 電話応対を理解する
5. 発表の方法と、体験を通してわかりやすい説明について理解する
6. ビジネスシーンでの応対を理解する
7. チームコミュニケーションを身につける

【成績評価の方法】

能動的受講態度 30% 提出物 70%

【教科書】

【参考書・参考文献】

- ・「敬語マスター」蒲谷宏 大修館書店
- ・「敬語だけじゃない敬語表現」蒲谷宏 大修館書店
- ・「ゼロから教えてビジネスマナー」松本 昌子 かんき出版

【履修上の注意】

私語など著しく他者の授業妨害をする学生には退出してもらう

【質問への対応方法】

- 随時可能 オフィスアワー (___曜日 ___時 ~ ___時)
 E-mail その他 (授業中及び授業の前後)

【履修者数調整方法】

【関連授業】

科 目 名	ビジネスマナー演習（留学生） Practical Business Manner	A・M	単 位 数
		選択	1
担当教員	古川 竜治	開 設 期	
		1 年 秋	
<p>【 科 目 の 概 要 】</p> <p>外国人である留学生のみなさんは、日本という異文化の地で“就職する”ということに大きな不安を感じていると思います。この授業は、留学生のみなさんが就職活動や日本の会社で働く際に必要な日本語力や日本人の考え方、マナーなどについて学ぶ、留学生向けの授業です。</p> <p>授業は毎回、みなさんにとって日本は“異文化”社会であるという原点に立って、日本と自国の文化や考え方などと比較して客観的に日本を理解していく内容と、日本で日本人と“よい人間関係”を築くために必要な日本語やビジネスマナーの基礎を習得する内容の 2 部構成になっています。</p> <p>【 授 業 計 画 】</p> <p>① 異文化理解は自分自身を理解すること（授業イントロダクション）</p> <p>② 文化の違いに気づく</p> <p>③ あなたの価値観</p> <p>④ スムーズな人間関係を築く（1） / 敬語（1）</p> <p>⑤ スムーズな人間関係を築く（2） / 敬語（2）</p> <p>⑥ 言葉を使わないコミュニケーション / 「就職面接試験」について（面接試験での注意）</p> <p>⑦ 電話対応・問い合わせ（1）</p> <p>⑧ 電話対応・問い合わせ（2）</p> <p>⑨ 頭で信頼？心で信頼？ / 「自動車業界」研究</p> <p>⑩ 私ってどんな人？ / 「就職面接試験」について（自己PRの書き方）</p> <p>⑪ 「ちょっと」は「ちょっと」じゃないの？ / ビジネスシーンでのあいさつ</p> <p>⑫ あなたの考え方はおかしいよ / 「チームコミュニケーション」について</p> <p>⑬ 誰が決める？ / 「情報共有」について</p> <p>⑭ Win・Win / 「接客対応」について</p> <p>⑮ 総合復習</p>			

【予習と復習】

予習としては教科書をよく読み、その内容に関する自分を自分で事前に調べる、復習としては授業で学んだ内容及び課題を必ずしてください。それぞれ 90 分以上目安とし取り組んでください。

【課題】

レポートなどを必要に応じて出すことがあります。指定された期日までに提出してください。

【学習到達目標】

1. 異文化コミュニケーションの手法を理解し、自国文化と日本文化またはその他の国の文化の違いを客観的にとらえることができる。
2. ビジネス敬語を理解し、基本的な運用ができる。
3. 就職活動における面接試験・電話応答に対応できる。
4. 社会人として情報共有・チームコミュニケーションなどについて理解・対応ができる。

【成績評価の方法】

成績は、80%以上出席したものを対象とし、平常点（授業参加度）、学習到達目標に記載されている内容を網羅した定期試験の点数で総合的に判断します。

【教科書】

オリジナルの教科書を第 1 回目の授業で配布する

【参考書・参考文献】

『仕事のビギナーズブック（自動車業界）』塚本晴樹著 日刊自動車新聞社

『異文化理解』（エリン・メイヤー著）英知出版

『異文化理解入門』（原沢伊都夫著）研究社

『コミュニケーション技法』ウイネット

【履修上の注意】

教室内では指導教員の指示に従ってください。自分で考える活動も多くあります。効率的に進めるよう心掛けてください。授業態度が悪い（授業に積極的に参加しないなど）と認められた場合は退室を命じることもあり、その場合は欠席扱いとします。

【質問への対応方法】

オフィスアワー：月曜日 13:30~17:00、火・水曜日 9:30~13:00 207 研究室

E-mail：furukawa@nakanihon.ac.jp その他（ ）

【履修者数調整方法】

なし

【関連授業】

日本語表現法

科 目 名	情報処理演習 Exercise on Information Processing	A・M 選択	単 位 数 1
	担当教員 及川 浩和	開 設 期 2 年	
<p>【 科 目 の 概 要 】</p> <p>ビジネスで一般的に使われているアプリケーションソフト（Word、Excel、PowerPoint）の使い方を習得し、実社会で活用できる能力の向上を図ります。</p> <p>【 授 業 計 画 】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 文字の入力 ② 文章の入力 ③ ページ設定・移動とコピー ④ 文書の作成 ⑤ 文字の拡大・縮小・修飾 ⑥ 表を活用した文章の作成 ⑦ 画像や図形を活用した文章の作成 ⑧ 表計算ソフトのデータ入力 ⑨ ワークシートの編集 ⑩ 関数を使った計算式 ⑪ グラフの作成 ⑫ 条件判断 ⑬ 検索関数の利用 ⑭ セルの条件付き書式 ⑮ プレゼンテーションの作成 <p>【 予 習 と 復 習 】</p> <p>予習：授業計画を見て、事前に教科書の解説を読み、学習内容を把握・理解しておくこと。 復習：授業中に出題された課題に取り組むこと。 所要時間：各 90 分以上</p> <p>【 課 題 】</p> <p>課題を作成し、提出期限までに提出すること。</p> <p>【 学 習 到 達 目 標 】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Windows の基本操作ができる。 2. Word で文章を作成できる。 3. Excel で帳票とグラフを作成できる。 4. PowerPoint でプレゼン資料を作成できる。 <p>【 成 績 評 価 の 方 法 】</p> <p>成績は、80%以上出席した者を対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の内容にて評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題（100%） <p>【教科書】</p> <p>30 時間でマスターOffice2016（実教出版）</p>			

【参考書・参考文献】

【履修上の注意】

- ・パソコンを利用するためには、ID とパスワードが必要です。
- ・提出期限までに課題を提出すること。

【質問への対応方法】

- オフィスアワー：210 研究室（アポイントメントを取ってから訪問して下さい）
- E-mail（oikawa@nakanihon.ac.jp）

【履修者数調整方法】

履修者数が多い場合は、抽選により調整します。

【関連授業】

CAD

科目名	区分	単位数	開設期
インターンシップ	選択	1	A1～2年、M1～3年（集中）
自動車販売会社を中心にインターンシップを行い、自動車整備業務の内容および業務の流れを把握する。1週間程度整備部門に配属され、整備士としての心構え、工具や設備の使用方法などの他、基本的な作業について体験する。また、車検業務の流れについても把握する。職業観を醸成するとともにプロの意識を体感することを目標とする。			
科目名	区分	単位数	開設期
海外研修Ⅰ	選択	1	A1～2年、M1～3年（春集中）
提携校であるイタリアの国立フェラーリ工業専門学校をはじめイタリア各地を訪問する。国際化社会に対応する教育の中で、日本と異なる文化、環境を見て、感じて、国際的視野を広め、自己の育成を深める。 フェラーリ博物館、ランボルギーニ博物館・工場等の自動車産業・自動車文化と、ミラノやヴェネツィアの市内観光等を行う。			
科目名	区分	単位数	開設期
海外研修Ⅱ	選択	2	A1～2年、M1～3年（秋集中）
イタリアのマラネロに短期留学し、フェラーリ本社工場や、車体専門工場ザナシー等に配属され、実習や修理・整備業務を3週間で体験する。フェラーリ車の基本技術を修得する。本社工場ではエンジンの組立を、ザナシー等では板金、塗装の業務や整備業務を体験する。業務を通じ、また、ホームステイ先でイタリアの文化を体験する。			

科 目 名	自動車の力学 I Automotive Mechanics I	A・M	単 位 数
		必 修	2
担 当 教 員	加藤 泰世 吉田 立	開 設 期	
		1 年 春	

【 科 目 の 概 要 】

本講義では、エンジニアあるいは自動車整備士に必要な基礎知識として「運動と力の関係」について学びます。二級認定科目（二級整備士養成課程の科目）であるということを念頭におき、講義や演習を交えて力学における基礎知識の正しい把握および計算力の向上を目指します。

【 授 業 計 画 】

- ① 力の合成、分解、力のつり合い その1
力の定義、単位、表示方法、および2力が与えられたときの力の合成
- ② 力の合成、分解、力のつり合い その2
3力以上の力の合成、力の分解、静力学的力のつり合い条件、および力のモーメント
- ③ 力の合成、分解、力のつり合い その3
静力学的力のつり合い条件に基づく荷重計算の問題
- ④ 力の合成、分解、力のつり合い その4
重心の位置の計算
- ⑤ 速度、加速度 その1
速度の計算、単位などの基礎事項
- ⑥ 速度、加速度 その2
加速度に関する基礎事項、および計算問題
- ⑦ 速度、加速度 その3
平均速度の定義、および等加速度運動の場合の走行距離の計算
- ⑧ 速度、加速度 その4
平均ピストンスピードの計算、および重力加速度に基づく落体の運動
- ⑨ 運動と力（ニュートンの運動の法則） その1
ニュートンの運動の法則
- ⑩ 運動と力（ニュートンの運動の法則） その2
慣性力、および運動方程式に関わる問題
- ⑪ 運動と力（ニュートンの運動の法則） その3
運動量と力積
- ⑫ 円運動
向心力と遠心力
- ⑬ 仕事、動力、エネルギー、および機械の効率
基礎事項、および計算問題
- ⑭ 摩擦
すべり摩擦、転がり摩擦
- ⑮ 圧力の問題
圧力の計算およびパスカルの原理

【 予 習 】

授業時に次回内容を示すので、次回授業までに理解するように努力して、わからない箇所については疑問点をはっきりさせておくこと。所要時間は90分程度とします。

【復習】

授業の終わりに演習問題を行うので、十分に理解できている者は次回までに問題の内容を再度確認しておくこと。また、理解度が充分でない者は、必ず次回までに授業終了時の問題が解けるように内容をしっかり理解しておくこと。所要時間は90分以上を目処とします。

【学習到達目標】

1. 力、圧力、力のモーメントに関する計算問題を正しい単位を用いて解くことができる。
2. 力のつりあい条件を用いた基本的な計算問題を解くことができる。
3. 速度、加速度の問題を正しい単位を用いて解くことができる。
4. 運動の法則および関連事項である慣性力、運動量、力積、円運動などについて理解している。
5. 動力に関する計算問題を正しい単位を用いて解くことができる。

【成績評価の方法】

80%以上の出席がなければ失格となります。成績評価は、定期試験と提出課題を合わせて50%、中間試験を含め講義中に行なう試験を50%としますが、中間試験を含め講義中に実施する試験で不合格者に開講期間中から再試験を何回か実施することもあり、その場合は対象となる試験が全て合格することを単位認定の最低要件とすることもあります。

【教科書】

自動車の力学に関する計算問題の解き方

【参考書・参考文献】

機械力学入門 堀野正俊/理工学社
基礎自動車工学 日本自動車整備振興会連合
わかりやすい機械教室 機械力学 考え方解き方 小山十郎/東京電機大学出版

【履修上の注意】

当講義に関わる内容で高等学校までの教科書で扱っている内容であっても、重要な点であれば講義内容に加えるようにしますので、入学以前に力学を履修していない者あるいは十分に理解できていなかった者はしっかり内容を把握して下さい。

また、実践問題で正解を導くには基礎学力向上は言うまでもありませんが、問題に取り組む集中力や注意力も大切ですから、日常から気を引き締めて修学に努めるよう助言します。

【質問への対応方法】

担当者によって事情が異なるので確認して下さい。

- 随時可能 オフィスアワー (____曜日 ____時 ~ ____時)
 E-mail : yosida-t@nakanihon.ac.jp (吉田)、kato@nakanihon.ac.jp (加藤)

【履修者数調整方法】

必修科目であるので1クラス単位を原則とします。ただし、再履修者が多数の場合は、再履修者のみで1クラスを編成することも検討します。

【関連授業】

自動車の力学II

科目名	自動車の力学Ⅱ Automotive Mechanics II	A・M	単位数
		必修	2
担当教員	加藤 泰世 吉田 立	開設期	
		1年秋	

【科目の概要】

本講義では、エンジニアあるいは自動車整備士に必要な基礎知識として「運動と力の関係」について学びます。二級認定科目（二級整備士養成課程の科目）であるということを念頭におき、講義や演習を交えて力学における基礎知識の正しい把握および計算力の向上を目指します。

【授業計画】

- ① 荷重の問題 その1 つり合い条件
静力学的力のつり合い条件、および力のモーメントに関する基礎事項
- ② 荷重の問題 その2 重心の位置
あるいはトラックの重心の位置の計算
- ③ 荷重の問題 その3 トラックの前軸荷重、後軸荷重
トラックの最大積載状態での前軸荷重、後軸荷重の計算
- ④ 荷重の問題 その4 レッカー車の問題
レッカー車で乗用車をつり上げる場合のワイヤーにかかる荷重、レッカー車の荷重計
- ⑤ 円運動の基礎 その1
角速度、周速度の計算
- ⑥ 円運動の基礎 その2
トルク、および回転体の動力に関する計算
- ⑦ ベルト車、摩擦車に関する基礎事項
変速比および回転数・トルクの計算
- ⑧ 歯車の問題 その1
変速比および回転数・トルクの計算
- ⑨ 歯車の問題 その2
3つの歯車、あるいは4つの歯車による組み合わせ歯車に関する問題
- ⑩ 歯車の問題 その3
プラネタリ・ギアに関する問題
- ⑪ 歯車の問題 その4
自動車の駆動力・車速の計算
- ⑫ 機械工学に関する基礎事項 その1
物体の密度・比重量、浮力および連続の法則・流量計算に関する問題
- ⑬ 工学に関する基礎事項 その2
応力・ひずみ、熱応力および物体の変形に関する問題
- ⑭ 機械工学に関する基礎事項 その3
熱量計算、ボイル・シャルルの法則
- ⑮ 総合演習問題
本講義で取り上げた各種計算問題

【予習】

授業時に次回内容を示すので、次回授業までに理解するように努力して、わからない箇所については疑問点をはっきりさせておくこと。所要時間は90分程度とします。

【復習】

授業の終わりに演習問題を行うので、十分に理解できている者は次回までに問題の内容を再度確認しておくこと。また、理解度が充分でない者は、必ず次回までに授業終了時の問題が解けるように内容をしっかり理解しておくこと。所要時間は90分以上を目処とします。

【学習到達目標】

1. 力のつりあい条件を利用して、トラック、レッカー車などの荷重問題を解くことができる。
2. 角速度、周速度、回転体の動力に関する基礎的な問題を、正しい単位を用いて解くことができる。
3. 歯車とベルト車による運動の伝達についての基礎事項を理解している。
4. 遊星歯車装置やトランスミッションなどの歯車装置について、回転数やトルクの伝達に関する問題を解くことができる。
5. 自動車の駆動力と車速の計算ができる。

【成績評価の方法】

80%以上の出席がなければ失格となります。成績評価は、定期試験と提出課題を合わせて50%、中間試験を含め講義中に行なう試験を50%としますが、中間試験を含め講義中に実施する試験で不合格者に開講期間中から再試験を何回か実施することもあり、その場合は対象となる試験が全て合格することを単位認定の最低要件とすることもあります。

【教科書】

自動車の力学に関する計算問題の解き方

【参考書・参考文献】

基礎自動車工学 日本自動車整備振興会連合
自動車整備士の数学 大須賀和美/精文館

【履修上の注意】

当講義に関わる内容で高等学校までの教科書で扱っている内容であっても、重要な点であれば講義内容に加えるようにしますので、入学以前に力学を履修していない者あるいは十分に理解できていなかった者はしっかり内容を把握して下さい。

また、実践問題で正解を導くには基礎学力向上は言うまでもありませんが、問題に取り組む集中力や注意力も大切ですから、日常から気を引き締めて修学に努めるよう助言します。

【質問への対応方法】

担当者によって事情が異なるので確認して下さい。

- 随時可能 オフィスアワー (曜日 時 ~ 時)
 E-mail (katoh@nakanihon.ac.jp) 加藤
(yosida-t@nakanihon.ac.jp) 吉田

【履修者数調整方法】

必修科目であるので1クラス単位を原則とします。ただし、再履修者が多数の場合は、再履修者のみで1クラスを編成することも検討します。

【関連授業】

自動車の力学I、機構学、流体力学、材料力学

科 目 名	自動車材料学 Materials of Automobile	A・M	単 位 数
		必 修	2
担 当 教 員	長谷川 達也	開 設 期	
		1 年	
<p>【 科 目 の 概 要 】</p> <p>自動車材料に関する内容で、自動車整備士として知っておくべき基礎的な知識を学習します。どんなに優れた材料であっても、その材料の機能・性質・加工性・経済性を考慮して適材を適所に利用しなければ、材料の価値を発揮させることはできません。</p> <p>最初に金属材料の機械的性質と試験法、金属の結晶構造などについて学習し、鉄鋼材料における鋼の種類と組織、鋼の熱処理、自動車鉄鋼材料の使用例、非鉄金属材料の種類と性質および使用例、さらに各種非金属材料の性質や使用例などを総合的に学習します。これらは、二級自動車整備士資格を取得するために必要な自動車の材料に関する知識の向上を図ります。</p> <p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 自動車材料の概説 自動車と自動車材料の概要 ② 材料の機械的性質 (1) 応力とひずみ ③ 材料の機械的性質 (2) 応力とひずみの関係、弾性係数 ④ 材料の機械的性質 (3) 許容応力、熱応力 ⑤ 金属材料 (1) 金属材料の結晶構造、弾性変形と塑性変形、加工硬化と再結晶 ⑥ 金属材料 (2) 金属材料の試験法、検査法 ⑦ 鉄鋼材料 (1) 鉄鋼材料の概要、製鉄・製鋼 ⑧ 鉄鋼材料 (2) 鉄・炭素の平衡状態図の基礎、炭素鋼の種類と用途 ⑨ 鉄鋼材料 (3) 炭素鋼の熱処理と組織、鋼の表面硬化処理 ⑩ 鉄鋼材料 (4) 特殊鋼(合金鋼)の種類と用途 ⑪ 鉄鋼材料 (5) 自動車用鋼板の種類と用途 ⑫ 鉄鋼材料 (6) 鋳鉄の種類と用途 ⑬ 非鉄金属材料 (1) アルミニウム、マグネシウム、チタンの性質と用途 ⑭ 非鉄金属材料 (2) 銅、亜鉛、すず、鉛の性質と用途 ⑮ 非金属材料 プラスチック、ゴム、ガラス、セラミックス、複合材料の性質と用途 <p>【予習と復習】</p> <p>予習とは、事前情報の入手です。復習とは、授業で行った事の確認です。予習と復習を各 90 分以上目安とし、取り組んでください。</p>			

【課題】

課題は演習・レポート等を必要に応じて出します。指定された期日までに提出してください。添削等総括は授業内で行います。

【学習到達目標】

1. 各種材料の特性を活かすために、機能・性質などをしっかり把握する重要性が理解できる。
2. 材料の機械的性質に関する基礎的な計算ができる。
3. 金属材料の基本的な性質が理解できる。
4. 鋼の熱処理・表面硬化処理について理解できる。
5. 特殊鋼、自動車用鋼板、鋳鉄に関する基礎事項が理解できる。
6. 非鉄金属に関する基礎事項が理解できる。
7. 非金属材料に関する基礎事項が理解できる。

【成績評価の方法】

成績は、80%以上出席したものを対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

- ・筆記試験による総合評価（100%）

【教科書】

自動車材料入門 高 行男 著 （東京電機大学出版）2009

【参考書・参考文献】

自動車材料 （全国自動車整備専門学校協会編）

【履修上の注意】

これまでに見たことのない専門用語の理解が必要です。その一方で、計算問題も行います。しっかり復習して下さい。また、教室内では指導教員の指示に従ってください。教室内で携帯電話を使用しないこと。教室からの無断退出は欠席扱いとします。教科書、筆記用具（電卓含む）を持ってこない者は欠席扱いとします。遅刻者はその理由を報告してから着席してください。

【質問への対応方法】

- オフィスアワー （金曜日 16：30～17：00 201 研究室）
- E-mail （hasegawa@nakanihon.ac.jp） その他 （ ）

【履修者数調整方法】

再履修者については、受講者数調整のため別クラスに変更する場合があります。

【関連授業】

材料力学、流体力学、自動車の力学Ⅱ

科目名	機械要素・図面 Technical drawing and Mechanical Element	A・M	単位数
		必修	2
担当教員	長谷川 達也	開設期	
		1年	

【科目の概要】

機械には、さまざまなものがあり、自動車もそのひとつです。これら機械は、複数の部品を組み合わせて作られています。部品同士を固定するためのネジや、回転を伝えるための歯車など、共通に使われているものも多くあります。そこでこれら共通に使われているものをまとめて、機械の要素と呼んでいます。ここでは、主として自動車に関わる機械の要素について学習します。また、機械の製作や修理をする上で、必要不可欠なものとして図面があります。ものを製作するには、製作者にその意図を十分に伝える必要があります。その手段として図面が用いられています。ここでは、立体を紙面上（平面）に表現する方法（投影法）と図面を作成するために定められているルール（規格）について学習します。これらは、二級自動車整備士資格を取得するために必要な自動車の機械要素・図面に関する知識の向上を図ります。

【授業計画】

- ① 授業の要素の概説
機械と機械要素
- ② ねじの種類と特長
基本山形、メートルねじ、並目と細目、おねじの外径とピッチ及びリード
- ③ 歯車の種類
各種歯車
- ④ 歯車の特長
歯形曲線、軸の組み合わせによる分類
- ⑤ 軸受の種類と特長
ラジアル荷重とスラスト荷重、すべり軸受ところがり軸受、転動体の種類と特長
- ⑥ その他の機械の要素1
スプリングの種類と特長、巻き掛け伝動装置の種類と特長
- ⑦ その他の機械の要素2
流体伝道装置、油圧プレス機械、自動車の油圧ブレーキ
- ⑧ 製図規格について
尺度・線の種類と用法・文字
- ⑨ 投影法の種類と特長について
正投影法、第三角法、第一角法、図面の配置
- ⑩ 断面法について
断面図とは、切断線、ハッチング、破断線
- ⑪ 図形の省略について
図形の省略とは、省略時の注意事項
- ⑫ 寸法の記入方法について
寸法とは、寸法線、寸法補助線、寸法数値、寸法補助記号、記入方法
- ⑬ 寸法の許容限界記入法について
許容限界とは、寸法許容差、許容限界寸法、最大許容寸法、最小許容寸法、記入方法
- ⑭ 面の肌の図示方法について
面の肌とは、面の指示記号、粗さの種類、記入方法
- ⑮ 幾何公差表示方式について
幾何公差とは、記号、指示線、交差記入枠、データム、記入方法

科目名	機構学 Mechanism	A・M 選択	単位数 2
担当教員	加藤 泰世	開設期 A2年、M3年	
<p>【科目の概要】</p> <p>機構学は機械を構成している機構の運動、すなわち機械の動きを研究する学問です。したがって、工学を学ぶ者、特に機械の代表といえる自動車を専攻する者は、機構学の基礎的事項を習得する必要があります。</p> <p>機構学の基礎を学び基礎素養を育成するために、回転運動の理解に講義内容の重点をおきます。また、工学的素養の育成において重要な単位の概念を学びます。講義において学んだ知識の確認のための演習も行いますが、自習用のレポートを課し、学力の向上を目指します。</p> <p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 総論 (1) 機械の定義、機械要素 ② 総論 (2) 機械の運動、等速回転運動 ③ 運動伝達の方法 ④ 摩擦車 (1) ころがり接触 ⑤ 摩擦車 (2) 変速伝動装置、トランスミッション、CVT (無段変速機) ⑥ 確認試験 ⑦ 歯車 (1) すべり接触、歯形、モジュール ⑧ 歯車 (2) 歯車伝動の基礎 ⑨ 歯車 (3) 中心固定の歯車列、MT (マニュアル・トランスミッション) ⑩ 歯車 (4) 作動歯車列、プラネタリギア、AT (オートマチック・トランスミッション) ⑪ 確認試験 ⑫ ベルト伝動 ⑬ カム装置 ⑭ リンク機構 (1) てこクランク機構、スライダクランク機構 ⑮ リンク機構 (2) ピストン速度 <p>【予習】</p> <p>授業時に次回内容を示すので、次回授業までに理解するように努力して、わからない箇所については疑問点をはっきりさせておくこと。所要時間は90分程度とします。</p>			

科 目 名	材料力学 Strength of Materials	A・M	単 位 数
		選 択	2
担 当 教 員	加藤 泰世	開 設 期	
		1 年 春	

【 科 目 の 概 要 】

材料力学は、機械や構造物に使用される材料の強さや変形に対する抵抗、部材の安定性などについて学ぶ基礎工学です。材料力学は、機械部品や構造部材の材質や形状寸法を合理的に選定するための簡便な手法を提示する学問で、その知識は設計の基礎として重要です。機械の代表ともいえる自動車は、多くの部品から構成されています。部品の破損は自動車の機能を損なうだけでなく人命にかかわることもあるので、自動車を学ぶ者は材料力学の知識を習得することが必要といえます。

本講義では、工学の素養として材料の強度と剛性の基礎を学びますが、重要な単位概念も含まれます。講義において学んだ知識の確認のための演習も行いますが、自習用レポートなども課し、学力の向上を目指します。

【 授 業 計 画 】

- ① 材料の強さと変形、応力とひずみ、垂直応力、せん断応力
- ② 材料の強さ、引張り強さ、降伏強さ、疲労強度
- ③ 材料の変形、荷重変形図、応力ひずみ図、弾性係数、ポアソン比、弾性変形、塑性変形
- ④ 自重による応力とひずみ、応力とひずみの取り扱いのまとめ
- ⑤ 組み合わせ棒の取り扱い
- ⑥ 内圧を受ける円筒、熱応力、線膨張係数、許容応力、安全率
- ⑦ 応力集中、衝撃荷重、弾性エネルギー
- ⑧ はり、自動車の軸荷重、せん断力、曲げモーメント
- ⑨ はりのせん断応力図と曲げモーメント図（その 1、集中荷重）
- ⑩ はりのせん断応力図と曲げモーメント図（その 2、等分布荷重）
- ⑪ はりのせん断応力図と曲げモーメント図（その 3、まとめ）
- ⑫ 曲げ応力、断面 2 次モーメント、断面係数
- ⑬ ねじりモーメント（トルク）、ねじり応力、極断面係数、伝動軸の取り扱い
- ⑭ はりのたわみ
- ⑮ 自動車部品の計算例

【予習】

授業時に次回内容を示すので、次回授業までに理解するように努力して、わからない箇所については疑問点をはっきりさせておくこと。所要時間は90分程度とします。

【復習】

授業の終わりに演習問題を行うので、十分に理解できている者は次回までに問題の内容を再度確認しておくこと。また、理解度が充分でない者は、必ず次回までに授業終了時の問題が解けるように内容をしっかり理解しておくこと。所要時間は90分以上を目処とします。

【学習到達目標】

1. 応力とひずみに関する基本的な計算問題を解答することができる。
2. 弾性係数、ポアソン比に関する基本的な計算問題を解答することができる。
3. 応力とひずみの計算で自重の取り扱い方、組み合わせ棒の考え方が理解できる。
4. 内圧を受ける円筒の応力、熱応力に関する基本的な計算問題を解答することができる。
5. 許容応力と安全率の考え方が理解できる。
6. はりの反力、せん断力、曲げモーメントを計算し、せん断力図、曲げモーメント図を描くことができる。
7. 曲げ応力、ねじり応力の基本的な計算問題を正しい単位を用いて解答することができる。
8. 自動車部品の設計における材料力学の活用を理解できる。

【成績評価の方法】

講義内での試験 (80%)

(ただし、不合格者は再試験を行い、合格点に達しない場合は得点として加点されません。)

提出物1 解析ソフトによる結果 (10%)

提出物2 計算問題 (10%)

定期試験は実施しない予定です。また、80%以上の出席がなければ失格となります。

【教科書】

材料力学入門、堀野正俊、理工学社

【参考書・参考文献】

材料力学、清家政一郎、共立出版、1978

アルミVS鉄ボディ、高行男、山海堂、2002、復刻版

【履修上の注意】

4年制大学への編入希望者、メーカーへの就職希望者等は受講しておくことが望ましい科目です。問題演習を行いますので、電卓を使用します。平方根の計算もあります。

理解を深めるための演習問題も行いますが、じっくり学ぶ姿勢で取り組んで下さい。

【質問への対応方法】

随時可能 オフィスアワー (___曜日 ___時 ~ ___時)

E-mail (katoh@nakanihon.ac.jp) その他 ()

【履修者数調整方法】

受講者多数の場合は、時間割調整も検討します。

【関連授業】

自動車材料学、自動車新素材

科 目 名	流体力学 Fluid Mechanics	A・M	単 位 数
		選 択	2
担 当 教 員	加藤 泰世	開 設 期	
		1 年 秋	

【 科 目 の 概 要 】

液体と気体を総称して流体といいます。流体力学は、静止または運動している流体について、力学的に研究する学問です。流体は我々の身のまわりだけでなく、工業の広い範囲にわたって深く関係しており、流体の力学は工学の重要な基礎科目の一つとなっています。

本講義では、機械工学・自動車工学の基礎としての流体力学を対象とし、流体の基本的な物性、静止している流体のつり合い、管路を流れている流体の運動、流れの中にある物体が受ける力などの内容について学習します。

【 授 業 計 画 】

- ① 流体の一般的性質 その1
流体の特徴、単位系、流体の力学における諸量
- ② 流体の一般的性質 その2
流体の密度、粘性、圧縮性他
- ③ 圧力の強さ その1
深さと圧力、圧力の単位
- ④ 圧力の強さ その2
圧力に関する計算（液柱計）
- ⑤ パスカルの原理と油圧
水圧機、油圧式ブレーキ装置
- ⑥ 浮力その1
浮力に関する基礎事項
- ⑦ 浮力その2
浮力に関する基礎的な計算問題
- ⑧ 連続の法則
流線・流管、定常流と非定常流、流量、連続の法則
- ⑨ ベルヌーイの定理
エネルギー保存の法則、ベルヌーイの定理
- ⑩ ベルヌーイの定理の応用
トリチェリーの定理、ピトー管、ベンチュリー管
- ⑪ 運動量の法則
噴流が平板に及ぼす力
- ⑫ 中間試験
①～⑪を範囲とする
- ⑬ 管内の流れ・管摩擦
レイノルズ数、層流と乱流、流体摩擦、管摩擦損失、圧力損失
- ⑭ 流量測定
ベンチュリー管・ピトー管を用いた流量計算
- ⑮ 流れの中の物体に働く力
境界層、摩擦抵抗と圧力抵抗、揚力と抗力

【 予 習 】

授業時に次回内容を示すので、次回授業までに理解するように努力して、わからない箇所については疑問点をはっきりさせておくこと。所要時間は90分程度とします。

【復習】

授業の終わりに演習問題を行うので、十分に理解できている者は次回までに問題の内容を再度確認しておくこと。また、理解度が充分でない者は、必ず次回までに授業終了時の問題が解けるように内容をしっかり理解しておくこと。所要時間は90分以上を目処とします。

【学習到達目標】

1. 深さと圧力の関係を説明できる。
2. 浮力に関する基本的な計算ができる。
3. 連続の法則、ベルヌーイの定理の流れに適用して基本的な計算ができる。
4. 管路内の流れにおよぼす粘性の影響について説明できる。

【成績評価の方法】

講義内での試験 (80%)

(ただし、不合格者は再試験を行い、合格点に達しない場合は得点として加点されません。)

提出物1 解析ソフトによる結果 (10%)

提出物2 計算問題 (10%)

定期試験は実施しない予定です。また、80%以上の出席がなければ失格となります。

【教科書】

機械計算法シリーズ 流体の力学計算法 (森田泰司著/東京電機大学出版社)

【参考書・参考文献】

流体の作用とその応用機械 (森田泰司著/東京電機大学出版社)

流体工学 (原田幸夫著/槇書店)

写真集 流れ (日本機械学会編/丸善)

【履修上の注意】

- ・4年制大学への編入希望者、メーカーへの就職希望者等は受講しておくことが望ましい科目です。
- ・問題演習を行いますので、平方根の計算ができる電卓が必要です。
解析ソフトを用いた演習も行います。
- ・難しく思う内容も出てくるかもしれませんが、自分の間違えたところ、理解できていないところをよく考える事が大切です。よく理解できていない人には大切な部分に内容を絞って解説しますので頑張ってください。

【質問への対応方法】

随時可能

オフィスアワー (___曜日 ___時 ~ ___時)

E-mail (katoh@nakanihon.ac.jp) その他 ()

【履修者数調整方法】

受講者の制限は行いません。

【関連授業】

材料力学、自動車の力学 I・II

科 目 名	線形代数学 Linear Algebra	A・M	単 位 数
		選 択	2
担 当 教 員	及 川 浩 和	開 設 期	
		A2年、M3年	
<p>【 科 目 の 概 要 】</p> <p>線形代数は1次式を扱う数学の分野です。未知変数に関する連立方程式を、変数の少ない方程式に整理するためには、ベクトルと行列の考え方が必要になります。そこで本講義では、ベクトルと行列の演算方法について学び、図形的な意味についても理解します。</p> <p>【 授 業 計 画 】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ベクトルの意味とその演算 ② ベクトルの成分 ③ ベクトルの内積 ④ 位置ベクトル ⑤ 空間座標と空間ベクトル ⑥ 空間ベクトルの成分 ⑦ 空間ベクトルの内積 ⑧ 空間ベクトルの応用 ⑨ 行列 ⑩ 行列の加法・減法・実数倍 ⑪ 行列の乗法 ⑫ 零因子・累乗 ⑬ 逆行列 ⑭ 転置行列 ⑮ 連立1次方程式と行列 ⑯ 定期試験 <p>【予習と復習】</p> <p>予習：授業計画を見て、事前に教科書の解説を読み、学習内容を把握・理解しておくこと。 復習：授業中に出題された課題に取り組むこと。 所要時間：各 90 分以上</p> <p>【 課 題 】</p> <p>教科書の問題を解き、提出期限までに提出すること。</p> <p>【 学 習 到 達 目 標 】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ベクトルの計算ができる。 2. 空間ベクトルの計算ができる。 3. 行列の加法・減法・乗法の計算ができる 4. 行列式の計算ができる 5. 逆行列を求めることができる 6. 連立1次方程式を行列で解くことができる。 <p>【 成 績 評 価 の 方 法 】</p> <p>成績は、80%以上出席した者を対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の内容にて評価します。</p> <p>・定期試験（80%） ・課題レポート（20%）</p>			

【教科書】

線形代数（実教出版 ISBN 978-4-407-32169-2 C3041）

【参考書・参考文献】

【履修上の注意】

- ・B5のノートを用意すること（ルーズリーフ不可）。
- ・提出期限までに課題レポートを提出すること。

【質問への対応方法】

オフィスアワー：210 研究室（アポイントメントを取ってから訪問して下さい）

E-mail（oikawa@nakanihon.ac.jp）

【履修者数調整方法】

履修者数が多い場合は、抽選により調整します。

【関連授業】

物理学、自動車の力学

科 目 名	自動車原動機 I Automotive Engines I	A・M	単 位 数
		必 修	2
担 当 教 員	森本 一彦 國井 伯昭	開 設 期	
		1 年	

【 科 目 の 概 要 】

自動車用ガソリン・エンジンの原理，作動，材料及び点検・整備等について講義を行います。この講義と自動車原動機Ⅲを併せてガソリン・エンジン全般を網羅する構成となっています。この講義では、エンジンの基礎、エンジン本体、冷却装置、潤滑装置及び吸排気装置等のエンジン構造に重点を置きます。また、エンジン関連の計算についても学習します。これらは、二級自動車整備士資格を取得するために必要な、エンジンに関する知識・理解・能力の向上を図ります。

【 授 業 計 画 】

- ① ガソリン・エンジン総論
内燃機関の概要及び分類，エンジンの作動（オットー・サイクル）
 - ② バルブ・タイミング 1
バルブ・タイミングとタイミング・ダイヤグラム
 - ③ バルブ・タイミング 2
バルブ・タイミングとバルブ・クリアランス
 - ④ エンジン本体 1
シリンダ・ヘッド，シリンダ・ブロック
 - ⑤ エンジン本体 2
ピストン，ピストンリング
 - ⑥ エンジン本体 3
コンロッド（水平分割&破断分割），コンロッド・ベアリング
 - ⑦ エンジン本体 4
クランクシャフト，トーショナルダンパ，フライホイール，バランス機構
 - ⑧ エンジン本体 5
バルブ，バルブ・スプリング，バルブ開閉機構
 - ⑨ エンジン本体 6
可変バルブ機構（油圧式・電動式可変タイミング、可変バルブリフト）
 - ⑩ エンジン本体 7
エンジン本体の点検、整備
 - ⑪ 冷却装置 1
ウォータ・ポンプ（機械式、電動式），ラジエータ，ラジエータ・キャップ
 - ⑫ 冷却装置 2
サーモスタット（入口制御・出口制御・ジグルバルブ），電動ファン，点検・整備
 - ⑬ 潤滑装置
オイル・ポンプ，オイル・フィルタ，圧力制御，点検・整備
 - ⑭ 吸排気装置 1
エア・クリーナ，吸排気マニホールド，マフラー
 - ⑮ 吸排気装置 2
ターボチャージャ（サージング防止），スーパーチャージャ，インタークーラ，点検・整備
- 1 6 回目に定期試験（筆記試験）を実施します。

【 予 習 】

授業終了時に次回内容を示すキーワードを担当教員より明示するので、次回授業までに教科書の当該箇所を読んで、概要を把握してください。所要時間は90分以上。

【復習】

当該授業後、次回授業までの早い時期に、ノートの記載事項と教科書の記述を比べながら、内容の理解を深めなさい。所要時間は90分以上。

【課題】

レポートは必要に応じて、都度指示します。指定された期日までに提出しなさい。提出レポートについては、総括を授業内で行います。個別対応は別途行います。(下記、質問対応参照)

【学習到達目標】

1. オットー・サイクルが説明できる。
2. タイミング・ダイアグラムを使って、エンジンのサイクル及びストロークを説明できる。
3. ストロークとピストン位置及びバルブ開閉状態の関係を説明できる。
4. ガソリン・エンジンの基本(作動原理・部品名称・構造・材質)が説明できる。
5. 潤滑装置の必要性和構造について説明できる。
6. 冷却装置の必要性和構造について説明できる。
7. 吸排気装置の必要性和構造について説明できる。

【成績評価の方法】

成績は、80%以上出席した者を対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

- ・筆記試験(80%)
- ・レポート(10%)
- ・授業への取り組み意欲(予習・復習、e-ラーニングへの取り組み状況)(10%)

【教科書】

三級自動車ガソリン・エンジン((社)日本自動車整備振興会連合会)
二級ガソリン自動車エンジン編((社)日本自動車整備振興会連合会)

【参考書・参考文献】

三級自動車ジーゼル・エンジン((社)日本自動車整備振興会連合会)
二級ジーゼル自動車エンジン編((社)日本自動車整備振興会連合会)
基礎自動車工学((社)日本自動車整備振興会連合会)

【履修上の注意】

- ・教室内では、私語・着帽・携帯電話の使用を禁止します。
- ・教室からの無断退出は欠席扱いとします。
- ・遅刻者はその理由を報告してから着席してください。

【質問への対応方法】

- オフィスアワー：基本毎日 12:30~13:20、16:30~19:00、および講義空き時間
場所：305研究室(森本)、6L5準備室(國井)
- E-mail：morimoto@nakanihon.ac.jp(森本)、kunii@nakanihon.ac.jp(國井)
- その他 ()

【履修者数調整方法】

【関連授業】

自動車原動機Ⅱ、自動車整備実習Ⅰ

科 目 名	自動車原動機Ⅱ Automotive EnginesⅡ	A・M	単 位 数
		必 修	2
担 当 教 員	森本 一彦	開 設 期	
		1 年	

【 科 目 の 概 要 】

自動車用ジーゼル・エンジンの原理、作動、材料及び点検・整備等について講義を行います。この講義と自動車原動機Ⅳを併せてジーゼル・エンジン全般を網羅する構成となっています。この講義では、エンジンの基礎、エンジン本体、冷却装置、潤滑装置及び吸排気装置等のエンジン構造に重点を置きます。また、エンジン関連の計算問題についても学習します。これらは、二級自動車整備士資格を取得するために必要な、エンジンに関する知識・理解・能力の向上を図ります。

【 授 業 計 画 】

- ① ジーゼル・エンジン総論
内燃機関の概要及び分類、エンジンの作動（サバテ・サイクル）
 - ② バルブ・タイミング 1
バルブ・タイミングとタイミング・ダイヤグラム
 - ③ バルブ・タイミング 2
バルブ・タイミングとバルブ・クリアランス
 - ④ エンジン本体 1
シリンダ・ヘッド、シリンダ・ブロック、ピストン、ピストンリング
 - ⑤ エンジン本体 2
コンロッド（水平分割&斜め分割）、コンロッド・ベアリング
 - ⑥ エンジン本体 3
クランクシャフト、トーショナルダンパ
 - ⑦ エンジン本体 4
フライホイール、バランサ機構
 - ⑧ エンジン本体 5
バルブ、バルブ・スプリング、バルブ開閉機構
 - ⑨ エンジン本体 6
エンジン本体の点検、整備
 - ⑩ 冷却装置 1
ウォーター・ポンプ、ラジエータ、ラジエータ・キャップ
 - ⑪ 冷却装置 2
サーモスタット（入口・出口制御・ジグルバルブ）、ファン・クラッチ
 - ⑫ 冷却装置 3
電動ファン、不凍液、点検・整備
 - ⑬ 潤滑装置
オイル・ポンプ、オイル・フィルタ、オイル・クーラー、圧力制御、点検・整備
 - ⑭ 吸排気装置 1
エア・クリーナ、吸排気マニホールド、マフラー
 - ⑮ 吸排気装置 2
ターボチャージャ（サージング防止）、可変容量式ターボ、インタークーラ、点検・整備
- 16回目に定期試験（筆記試験）を実施します。

【 予 習 】

授業終了時に次回内容を示すキーワードを担当教員より明示するので、次回授業までに教科書の当該箇所を読んで、概要を把握してください。所要時間は90分以上。

【復習】

授業後、次回授業までの早い時期に、ノートの記載事項と教科書の記述を比べながら、内容の理解を深めなさい。所要時間は90分以上。

【課題】

レポートは必要に応じて、都度指示します。指定された期日までに提出しなさい。提出レポートについては、総括を授業内で行います。個別対応は別途行います。(下記、質問対応参照)

【学習到達目標】

1. サバテ・サイクルが説明できる。
2. タイミング・ダイアグラムを使って、エンジンのサイクル及びストロークを説明できる。
3. ストロークとピストン位置及びバルブ開閉状態の関係を説明できる。
4. ジーゼル・エンジンの基本(作動原理・部品名称・構造・材質)が説明できる。
5. 潤滑装置の必要性和構造について説明できる。
6. 冷却装置の必要性和構造について説明できる。
7. 吸排気装置の必要性和構造について説明できる。

【成績評価の方法】

成績は、80%以上の出席した者を対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

- ・筆記試験(80%) ・レポート(10%)
- ・授業への取り組み意欲(予習・復習、e-ラーニングへの取り組み状況)(10%)

【教科書】

三級自動車ジーゼル・エンジン ((社) 日本自動車整備振興会連合会)
二級ジーゼル自動車エンジン編 ((社) 日本自動車整備振興会連合会)

【参考書・参考文献】

三級自動車ガソリン・エンジン ((社) 日本自動車整備振興会連合会)
二級ガソリン自動車エンジン編 ((社) 日本自動車整備振興会連合会)
基礎自動車工学 ((社) 日本自動車整備振興会連合会)

【履修上の注意】

- ・教室内では、私語・着帽・携帯電話の使用を禁止します。
- ・教室からの無断退出は欠席扱いとします。
- ・遅刻者はその理由を報告してから着席してください。

【質問への対応方法】

- オフィスアワー：基本毎日 12:30～13:20、16:30～19:00、および講義空き時間
場所：305研究室(森本)、5R13準備室(成瀬)
- E-mail: morimoto@nakanihon.ac.jp (森本)、naruse@nakanihon.ac.jp (成瀬)
- その他 ()

【履修者数調整方法】

【関連授業】

自動車原動機 I, 自動車整備実習 I

科 目 名	自動車原動機Ⅲ Automotive Engines Ⅲ	A・M	単 位 数
		必 修	2
担 当 教 員	森本 一彦 五十嵐 巧	開 設 期	
		2 年	

【 科 目 の 概 要 】

自動車用ガソリン・エンジンの原理，作動，材料及び点検・整備等について講義を行います。この講義と自動車原動機Ⅰを併せてガソリン・エンジン全般を網羅する構成となっています。この講義では、エンジンの燃料装置（電子制御燃料噴射装置、LPG 装置）、点火装置（イグナイタ、電子制御点火装置）及び排気ガス対策等、エンジン制御の項目（センサ、アクチュエータ、電子制御）に重点を置きます。これらは、二級自動車整備士資格を取得するために必要な、エンジンに関する知識・理解・能力の向上を図ります。

【 授 業 計 画 】

- ① 自動車原動機Ⅰ総括
オットー・サイクル、タイミング・ダイアグラム、ミラー・サイクル、エンジン性能
 - ② 燃料装置 1
電子制御燃料噴射概論
 - ③ 燃料装置 2
バキューム・センサ、エア・フロー・メータ
 - ④ 燃料装置 3
スロットル・ポジション・センサ、アクセル・ポジション・センサ
 - ⑤ 燃料装置 4
インジェクタ、プレッシャ・レギュレータ、O₂センサ、A/Fセンサ
 - ⑥ 燃料装置 5
クランク角センサ、カム角センサ、車速センサ、温度センサ、ノック・センサ
 - ⑦ 燃料装置 6
スタータ信号、ニュートラル信号、ブレーキ信号等、フューエル・カット制御
 - ⑧ 燃料装置 7
電圧制御インジェクタ、空燃比フィードバック制御、学習制御
 - ⑨ 点火制御 1
イグナイタ、イグニッション・コイル、ダイレクト・イグニッション
 - ⑩ 点火装置 2
一次電流、二次電流、通電時間制御、点火時期制御、ノック制御、MBT
 - ⑪ 燃料・潤滑油
ガソリン、オクタン価、燃料添加剤、LNG・CNG、エンジンオイル、オイル添加剤
 - ⑫ LPG・CNG 燃料装置
LPG・ボンベ、パルセーション・ダンパ、プレッシャ・レギュレータ、インジェクタ
 - ⑬ エンジンの点検
スキャンツール、ダイアグノーシスコード、OBD 規制（J-OBDⅡ）
 - ⑭ 排ガス対策 1
排ガス発生過程、理論空燃比、三元触媒
 - ⑮ 排ガス対策 2
排ガス浄化理論、排ガス浄化制御、排ガス浄化デバイス
- 16 回目に定期試験（筆記試験）を実施します。

【 予 習 】

授業終了時に次回内容を示すキーワードを担当教員より明示するので、次回授業までに教科書の当該箇所を読んで、概要を把握してください。所要時間は90分以上。

【復習】

授業後、次回授業までの早い時期に、ノートの記載事項と教科書の記述を比べながら、内容の理解を深めなさい。所要時間は90分以上。

【課題】

レポートは必要に応じて、都度指示します。指定された期日までに提出しなさい。提出レポートについては、総括を授業内で行います。個別対応は別途行います。(下記、質問対応参照)

【学習到達目標】

1. オットー・サイクル, ミラー・サイクル及び熱効率等について説明できる。
2. 各種センサについて, 個々の名称, 構造及びその作動を説明できる。
3. 各種アクチュエータについて, 個々の名称, 構造及びその作動を説明できる。
4. 電子制御燃料噴射装置の制御内容について説明できる。
5. 電子制御点火装置の制御内容について説明できる。
6. 燃料・潤滑油について性質・性能を説明できる。
7. 点検整備に関し, スキャンツールやOBDについて説明できる。
8. 排気ガスの生成及び浄化理論について説明できる。
9. 排ガス浄化デバイスについて, 構成部品の名称, 構造及びその作動を説明できる。

【成績評価の方法】

成績は, 80%以上の出席した者を対象とし, 学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

- ・筆記試験 (80%)
- ・レポート (10%)
- ・授業への取り組み意欲 (予習・復習, e-ラーニングへの取り組み状況) (10%)

【教科書】

三級自動車ガソリン・エンジン ((社) 日本自動車整備振興会連合会)
二級ガソリン自動車エンジン編 ((社) 日本自動車整備振興会連合会)

【参考書・参考文献】

三級自動車ジーゼル・エンジン ((社) 日本自動車整備振興会連合会)
二級ジーゼル自動車エンジン編 ((社) 日本自動車整備振興会連合会)
基礎自動車工学 ((社) 日本自動車整備振興会連合会)

【履修上の注意】

- ・教室内では, 私語・着帽・携帯電話の使用を禁止します。
- ・教室からの無断退出は欠席扱いとします。
- ・遅刻者はその理由を報告してから着席してください。

【質問への対応方法】

- オフィスアワー: 基本毎日 12:30~13:20、16:30~19:00、および講義空き時間
場所: 305研究室 (森本)、6L5準備室 (五十嵐)
- E-mail: morimoto@nakanihon.ac.jp (森本)、igarashi@nakanihon.ac.jp (五十嵐)
- その他 ()

【関連授業】

自動車原動機 I・II、自動車整備実習

科 目 名	自動車原動機Ⅳ Automotive EnginesⅣ	A・M	単 位 数
		選 択	2
担 当 教 員	脇 俊 隆 後藤寛宜	開 設 期	
		2 年	

【 科 目 の 概 要 】

自動車原動機Ⅰ・Ⅱで学んだ原動機の基礎の上に、自動車の基本理念である安全・低公害・省エネルギーを考慮に入れ、環境に適合した自動車用ディーゼル・エンジンの燃料装置系について講義、演習を行う。これにより二級整備士試験の燃料装置に関する原理・作動・構造・材料及び点検・整備について理解を深める。自動車原動機Ⅳと自動車原動機Ⅱでディーゼル・エンジン全般を網羅する構成となっているので、この講義ではエンジンの燃料装置（燃料装置、コモンレール、排気ガス対策）に重点を置き学習する。

【 授 業 計 画 】

- ① ディーゼル・エンジン総論 1
ディーゼル・エンジンの燃焼方式及びバルブ・タイミング、性能
- ② ディーゼル・エンジン総論 2
燃焼過程、ディーゼル・ノック、排出ガス
- ③ クリーン・ディーゼル概要
NOx・PM 法とディーゼル車規制条例
- ④ エンジン本体 1
燃焼室、シリンダ、ピストン、ピストン・リング
- ⑤ エンジン本体 2
クランク・シャフト、バルブ機構
- ⑥ 潤滑装置
オイルの循環、オイル・クーラ
- ⑦ 冷却装置
ファン・クラッチ、電動ファン
- ⑧ 燃料装置 1
コモンレール式高圧燃料噴射装置
- ⑨ 燃料装置 2
センサ系、噴射量制御
- ⑩ 燃料装置 3
ユニット・インジェクタ式高圧燃料噴射装置
- ⑪ 吸排気装置
ターボ・チャージャ、排気ガス後処理装置
- ⑫ 予熱装置
インテーク・エア・ヒータ、グロー・プラグ
- ⑬ 燃料及び潤滑剤
燃料、潤滑剤
- ⑭ エンジンの点検・整備
基本点検、排気の状態、自己診断機能
- ⑮ 故障原因探求
故障診断の手順

【 予 習 と 復 習 】

予習とは、次回授業に向けての準備です。復習とは、授業で行った内容の確認です。予習、復習、各 90 分を目安に取り組んで下さい。

【課題】

課題は必要に応じてレポートを出します。指定された期日までに提出して下さい。

【学習到達目標】

1. 燃料装置の基本構成（コモンレール）について説明できるようになる。
2. ジーゼル・エンジンについて説明できるようになる。
3. 二級ジーゼル整備士問題（エンジン）の解答ができるようになる。
4. 環境・安全に関する最新動向が説明できるようになる。

【成績評価の方法】

定期成績は 80%以上出席、試験(70%)、中間試験(20%)、演習問題・レポート(10%)で評価します。なお最終評価は学習状況、取り組み状況を総合的に判断して行う。

【教科書】

三級自動車ジーゼル・エンジン ((社)日本自動車整備振興会連合会)
二級ジーゼル自動車エンジン編 ((社)日本自動車整備振興会連合会)

【参考書・参考文献】

ジーゼル・エンジンの構造 (全国自動車整備専門学校協会／山海堂)

【履修上の注意】

教室内では指導教員の指示に従ってください。教室内で携帯電話を使用しないこと。教室からの無断退出は欠席扱いとします。教科書、筆記用具（定規含む）を持ってこない者は欠席扱いとします。遅刻者は、その理由を報告してから着席してください。

【質問への対応方法】

- 随時可能 オフィスアワー (講義日 12:30 ~ 13:20)
 E-mail (goto-h@nakanihon.ac.jp)
 その他 ()

【関連講義】

自動車原動機Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ, 自動車整備実習Ⅲ

科 目 名	自動車構造 I Automotive Structure I	A・M 必 修	単 位 数
			2
担 当 教 員	林 文 明 相 庭 誠 夫 久 世 康 司 成 瀬 俊 哉	開 設 期	
		1 年	
<p>【 科 目 の 概 要 】</p> <p>自動車構造 I では、「三級自動車シャシ編」第 1 章：総論から第 5 章：ホイール及びタイヤについて基本的な内容を学習します。</p> <p>動力伝達装置は、エンジンの動力を駆動輪に伝えるもので、クラッチ、トランスミッション、ジョイント、ファイナル・ギヤ、ディファレンシャルについて、アクスル及びサスペンションは、ホイールを正しい位置に保持し、荷重や路面からの衝撃を支えるもので、車軸懸架式と独立懸架式の違いやそれに用いられているシャシ・スプリング、ショックアブソーバについて、ステアリング装置は、自動車の進行方向を変えるもので、ハンドルからの操作機構の構造作動について、ホイール及びタイヤは、ホイールの種類、タイヤの構造を学習します。</p> <p>【 授 業 計 画 】</p> <p>① 総論 自動車の原理と性能，自動車の構成，自動車の安全性</p> <p>② 動力伝達装置 1 概要，クラッチ</p> <p>③ 動力伝達装置 2 概要，マニュアル・トランスミッション 1</p> <p>④ 動力伝達装置 3 マニュアル・トランスミッション 2</p> <p>⑤ 動力伝達装置 4 マニュアル・トランスミッション 3</p> <p>⑥ 動力伝達装置 5 オートマチック・トランスミッション</p> <p>⑦ 動力伝達装置 6 トランスファ，プロペラ・シャフト，ドライブ・シャフト</p> <p>⑧ 動力伝達装置 7 ファイナル・ギヤ及びディファレンシャル</p> <p>⑨ 動力伝達装置 8 整備，故障探求</p> <p>⑩ アクスル及びサスペンション 1 概要，車軸懸架式，独立懸架式</p> <p>⑪ アクスル及びサスペンション 2 シャシ・スプリング，ショック・アブソーバ</p> <p>⑫ アクスル及びサスペンション 3 整備</p> <p>⑬ ステアリング 1 概要，ステアリング操作機構，ステアリング・ギヤ機構，ステアリング・リンク機構</p> <p>⑭ ステアリング 2 パワー・ステアリング，整備</p> <p>⑮ ホイール及びタイヤ 概要，ホイール，タイヤ，タイヤに起こる異常現象，ホイールバランス，整備</p> <p>⑯ 定期試験 筆記試験</p>			

【予習】

次回授業内容に従い，教科書の当該箇所を読んで構造，作動を確認しておく。所要時間は90分以上を目処とします。

【復習】

当該授業後，次回授業までに教科書及びノートの記述で授業内容の理解を深める。所要時間は90分以上を目処とします。

【課題】

演習・レポート等を必要に応じて出します。指定された期日までに提出してください。添削等総括は授業内で行います。

【学習到達目標】

1. 動力伝達装置（クラッチ，トランスミッション，ディファレンシャルなど）について説明できる。
2. アクスル，サスペンション装置について説明できるようになる。
3. ステアリング装置について説明できるようになる。
4. タイヤ，ホイールについて説明できるようになる。

【成績評価の方法】

成績は、80%以上出席したものを対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

筆記試験（80%），授業に対する取り組み（20%）による総合評価

【教科書】

三級自動車シャシ編（日本自動車整備振興会連合会）

【参考書・参考文献】

二級ガソリン自動車・ジーゼル自動車シャシ編（日本自動車整備振興会連合会）

基礎自動車工学（日本自動車整備振興会連合会）

【履修上の注意】

教室内では指導教員の指示に従ってください。教室内で携帯電話を使用しないこと。教室からの無断退出は欠席扱いとします。教科書、筆記用具（定規含む）を持ってこない者は欠席扱いとします。遅刻者は、その理由を報告してから着席してください。

【質問への対応方法】

随時可能 5R23 準備室（林）303 研究室（相庭）自動車検査準備室（久世）

E-mail 林 (hayashi-f@nakanihon.ac.jp) 相庭 (aiba-s@nakanihon.ac.jp)
久世 (kuze@nakanihon.ac.jp)

【履修者数調整方法】

再履修者については、受講者数調整のため別クラスに変更する場合があります。

【関連授業】

自動車構造Ⅱ，自動車構造Ⅲ，自動車構造Ⅳ，自動車整備実習Ⅱ

科 目 名	自動車構造Ⅱ Automotive Structure Ⅱ	A・M	単 位 数
		必 修	2
担 当 教 員	横井隆治 相庭誠夫 久世康司 成瀬俊哉 高橋正則	開 設 期	
		A1年, M2年	
<p>【科目の概要】</p> <p>自動車構造Ⅱでは、「三級自動車構造シャシ編」第6章：ホール・アライメント，第7章：ブレーキ装置，第8章：フレーム及びボデー，第9章：電気装置，第10章：潤滑及び潤滑装置，第11章：シャシの点検・整備について基本的な内容を学習します。</p> <p>講義内容は、「三級自動車整備士」教育として，自動車を学ぶ者にとって初歩的な基礎知識です。後に「二級整備士」教育を学ぶ上で重要となるので，授業ごとのテーマとその日のポイントを正確に捉えた講義をします。</p> <p>【授業計画】</p> <p>① ホール・アライメント 概要，キャンバ，キャスタ，キングピン傾角，トーイン，ターニング・ラジラス，整備</p> <p>② ブレーキ装置1 概要，油圧ブレーキ1</p> <p>③ ブレーキ装置2 油圧ブレーキ2</p> <p>④ ブレーキ装置3 エア・油圧式ブレーキ，エアブレーキ</p> <p>⑤ ブレーキ装置4 安全装置，制動倍力装置</p> <p>⑥ ブレーキ装置5 パーキング・ブレーキ，整備</p> <p>⑦ フレーム及びボデー1 概要，フレーム，ボデー</p> <p>⑧ フレーム及びボデー2，中間試験 ボデーの塗装，整備</p> <p>⑨ 電気装置1 灯火装置</p> <p>⑩ 電気装置2 計器</p> <p>⑪ 電気装置3 ホーン，ウインドシールド・ワイパー及びウインドシールド・ウォッシャ</p> <p>⑫ 電気装置4 冷暖房装置</p> <p>⑬ 電気装置5 配線</p> <p>⑭ 潤滑及び潤滑剤 潤滑の目的，ギヤ・オイル，グリース</p> <p>⑮ シャシの点検・整備 概要，各装置の点検，整備</p> <p>⑯ 定期試験</p>			

【予習】

講義終了時に次回の講義範囲を示すので、教科書を読んで質問事項を整理してください。90分以上を目処とします。

【復習】

ノートの記述事項と教科書の記載を比べながら内容の理解を深めてください。所要時間は90分以上を目処とします。必要に応じて、復習用の演習問題を配布します。

【学習到達目標】

1. ホイール・アライメントについて説明できる。
2. ブレーキ装置（ドラム式，ディスク式，倍力装置など）について説明できる。
3. ボデーの基本構造について説明できる。
4. シャシ電装品の基本構造について説明できる。
5. 潤滑及び潤滑剤の用途や性質について説明できる。
6. シャシの点検・整備方法について説明できる。

【成績評価の方法】

定期試験（70%），中間試験（20%），授業への取組姿勢（10%）

【教科書】

三級自動車シャシ編（日本自動車整備振興会連合会）

【参考書・参考文献】

二級ガソリン自動車・ジーゼル自動車シャシ編（日本自動車整備振興会連合会）
基礎自動車工学（日本自動車整備振興会連合会）

【履修上の注意】

指定された座席へ着席する事。
授業中に携帯電話を使用しないこと。

【質問への対応方法】

- オフィスアワー（水・金曜日 16時30分～17時00分）
- E-mail yokoi@nakanihon.ac.jp, kuze@nakanihon.ac.jp, takahashi-m@nakanihon.ac.jp

【履修者数調整方法】

再履修者については、受講者数調整のため別クラスに変更する場合がある。

【関連授業】

自動車構造Ⅰ，自動車構造Ⅲ，自動車構造Ⅳ，自動車整備実習Ⅱ

科 目 名	自動車構造Ⅲ Automotive Structure Ⅲ	A・M	単 位 数
		選 択	2
担 当 教 員	栗木 江一 高橋 正則 森 光弘	開 設 期	
		2 年	
<p>【 科 目 の 概 要 】</p> <p>自動車構造Ⅲでは、「二級自動車シャシ編」第1章：総論、第2章：動力伝達装置、第3章：アクスル及びサスペンション、第4章：ステアリング装置について学習します。</p> <p>第1章では、自動車の原理・性能について、第2章では、主にオートマティック・トランスミッションについて、第3章では、エア・サスペンション、電子制御式サスペンションについて、第4章では、パワー・ステアリングについて学習します。</p> <p>自動車構造Ⅲは、「二級自動車整備士」教育のより高度な知識の習得が目標です。必要に応じて参考資料の配布やレポート課題を出題し、演習を交えた講義をします。</p> <p>【 授 業 計 画 】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 第1章 総論 1 自動車の発達、自動車の性能 (1) ② 第1章 総論 2 自動車の性能 (2) ③ 第2章 動力伝達装置 1 概要、クラッチ、オートマティック・トランスミッション(1) ④ 第2章 動力伝達装置 2 オートマティック・トランスミッション(2) ⑤ 第2章 動力伝達装置 3 オートマティック・トランスミッション(3) ⑥ 第2章 動力伝達装置 4 オートマティック・トランスミッション(4)、電子制御式オートマティック・トランスミッション ⑦ 第2章 動力伝達装置 5 ユニバーサル・ジョイント、自動差動制限型ディファレンシャル、インタ・アクスル・ディファレンシャル、整備 ⑧ これまでのまとめ 第1章及び第2章のまとめ、中間試験 ⑨ 第3章 アクスル及びサスペンション 1 概要、サスペンションの性能 ⑩ 第3章 アクスル及びサスペンション 2 エア・スプリング型サスペンション ⑪ 第3章 アクスル及びサスペンション 3 電子制御式エア・サスペンション、整備 ⑫ 第4章 ステアリング装置 1 概要、旋回性能、パワー・ステアリング(1) ⑬ 第4章 ステアリング装置 2 パワー・ステアリング(2) ⑭ 第4章 ステアリング装置 3 パワー・ステアリング(3) ⑮ これまでのまとめ 第3章及び第4章のまとめ 			

【予習】

次回授業までに教科書の予想される範囲を読み、自分なりに理解すること。
所要時間：90分以上を目処とする。

【復習】

次回授業までに当該授業について、ノートの記述や教科書の確認、eラーニングシステムにて理解を深めておくこと。所要時間：90分以上を目処とする。

【課題】

下記のeラーニングシステムにアクセスし自学自習を行うこと。

URL：<https://nac.elmstarz.com/eLM/user/index.cfm>



【学習到達目標】

1. 自動車の性能（動力性能、運動性能）に関する計算問題を解くことができる。
2. オートマチック・トランスミッション（電子制御式含む）について説明できる。
3. 自動差動制限型ディファレンシャル、インタ・アクスル・ディファレンシャルなどについて説明できる。
4. エア・スプリング型サスペンション（電子制御式含む）について説明できる。
5. 旋回性能、パワー・ステアリング（電子制御式含む）について説明ができる。

【成績評価の方法】

試験(80%)、授業態度(10%)、e-ラーニングへの取り組み状況（10%）による総合評価

【教科書】

二級自動車シャシ編（日本自動車整備振興会連合会）

【参考書・参考文献】

三級自動車シャシ編（日本自動車整備振興会連合会）

自動車用語辞典（精文館）

【履修上の注意】

「三級自動車シャシ編」の内容を十分理解した上で受講する。ノート及び筆記道具を忘れない。
座席指定有り。遅刻、途中退出は総合評価の授業態度に含める。

【質問への対応方法】

オフィスアワー基本毎日 12:30～13:20、16:30～17:00、および講義空き時間

場所：栗木（5号館技術研修課）、高橋（4号館準備室）、森（8号館事務室）

E-mail 栗木(kuriki@nakanihon.ac.jp)、高橋(takahashi-m@nakanihon.ac.jp)
森(mori@nakanihon.ac.jp)

【履修者数調整方法】

再履修者については、受講者数調整のため別クラスに変更する場合がある。

【関連授業】

自動車構造Ⅰ 自動車構造Ⅱ 自動車構造Ⅳ 自動車整備実習Ⅱ 自動車整備実習Ⅳ

科 目 名	自動車構造IV Automotive Structure IV	A・M	単 位 数
		選 択	2
担 当 教 員	西側 通雄	開 設 期	
		A2年、M3年	
<p>【 科 目 の 概 要 】</p> <p>自動車構造IVでは、「二級自動車シャシ編」第5章：ホイール及びタイヤ、第6章：ホイール・アライメント、第7章：ブレーキ装置、第8章：フレーム及びボデー、第10章：潤滑及び潤滑剤、第12章：故障原因探究について学習します。</p> <p>第5章では、タイヤの発熱、振動、摩耗などタイヤの特性について、第6章では、キャンバ、キャスト、キング・ピン傾角など前輪の整列について、第7章では、主にエア・ブレーキ、アンチロック・ブレーキ・システムについて学習します。第8章では、フレーム及びボデーの構造を学び、荷重計算ができるよう主に演習問題を取り入れた学習をします。第10章では、シャシに使用されるオイルやグリスの特性について、第12章では、故障の原因を理論的に分析します。</p> <p>自動車構造IVは、「二級自動車整備士」教育のより高度な知識の習得が目標です。必要に応じて参考資料の配布やレポート課題を出題し、演習を交えた講義をします。</p> <p>【 授 業 計 画 】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 第5章 ホイール及びタイヤ1 概要、タイヤの特性(1) ② 第5章 ホイール及びタイヤ2 タイヤの特性(2)、整備 ③ 第6章 ホイール・アライメント1 概要、キャンバ、キング・ピン傾角 ④ 第6章 ホイール・アライメント2 キャストの役目、整備 ⑤ 第7章 ブレーキ装置1 概要、アンチロック・ブレーキ・システム ⑥ 第7章 ブレーキ装置2 エア・油圧式ブレーキ ⑦ 第7章 ブレーキ装置3 フル・エア式ブレーキ ⑧ これまでのまとめ 第5章から第7章ブレーキ フル・エア式ブレーキまでのまとめ、中間試験 ⑨ 第7章 ブレーキ装置4 エキゾースト・ブレーキ、エディ・カーレント・リターダ ⑩ 第8章 フレーム及びボデー1 概要、フレームの機能、ボデーの機能 ⑪ 第8章 フレーム及びボデー2 ボデーの安全構造、整備 ⑫ 第10章 潤滑及び潤滑剤 摩擦力と潤滑、潤滑状態、潤滑油 ⑬ 第12章 故障原因探究1 概要、効率的な診断 ⑭ 第12章 故障原因探究2 診断の基本、故障診断の進め方、故障診断の点検方法 ⑮ これまでのまとめ 第7章、第8章及び第12章のまとめ 			

【予習・復習】

受講にあたり次の授業項目については90分以上の予習を行うこと。
予習で理解できなかった事項をまとめ、授業で確認すること。
また、授業で配布された課題を復習として解き理解を深めること。

【課題】

授業に関連した課題を授業ごとに課す。

【学習到達目標】

1. ホイール、タイヤ及びホイール・アライメントについて説明できるようになる。
2. アンチロック・ブレーキ・システムについて説明できるようになる。
3. エア・油圧式ブレーキ及びフル・エア式ブレーキについて説明できるようになる。
4. 補助ブレーキについて説明できるようになる。
5. フレームの機能、ボデーの機能、ボデーの安全構造について説明できるようになる。
6. 荷重計算が解けるようになる。
7. オイルとグリスの特性、用途及び潤滑の種類が説明できるようになる。
8. 故障探求を効率よく説明できるようになる。

【成績評価の方法】

成績は、80%以上出席した者を対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

- ・定期試験(50%)
- ・中間試験(40%)
- ・レポート(10%)

【教科書】

二級自動車シャシ編（日本自動車整備振興会連合会）

【参考書・参考文献】

三級自動車シャシ編（日本自動車整備振興会連合会）
自動車用語辞典（精文館）

【履修上の注意】

自動車構造IV履修するにあたり、「三級自動車シャシ編」を十分理解しておく。「二級自動車シャシ編」の授業関連項目は十分予習を行い次の授業に備えること。また、復習において授業の内容をまとめ、理解できなかった事項は次回授業で質問すること。

【質問への対応方法】

- 随時可能 教務に出向き指示を受けてください。
- オフィスアワー 毎週木曜日、10:00から17:00 3号館1F
- E-mail
- その他

【履修者数調整方法】

50名（認定科目）

【関連授業】

自動車構造II

科 目 名	自動車電気装置 I	全学科 必修	単 位 数
	Automotive Electrical Systems I		2
担 当 教 員	自動車電気装置教育チーム	開 設 期	
		1 年 春	
<p>【 科 目 の 概 要 】</p> <p>自動車の電気装置を理解するために必要な電気，電子の基礎を学習します。 最初に電圧，電流，抵抗，電力などの基礎概念を学びます。次に自動車電気装置の部品に用いられる抵抗，コンデンサ，ダイオード，トランジスタなどの各種デバイスについて，その原理と使用方法を理解します。続いて電気の磁気作用，半導体，論理回路，配線，多重通信など，自動車電気装置Ⅱおよび自動車電気装置Ⅲへ発展するための基本事項を学習します。これらは，二級自動車整備士資格を取得するために必要な自動車の電気装置に関する知識の向上を図ります。</p> <p>【 授 業 計 画 】</p> <p>① 電気基礎 1 静電気，電流，電圧，電気抵抗，電流の熱作用</p> <p>②③ 電気基礎 2 電気回路，オームの法則</p> <p>④⑤ 電気基礎 3 キルヒホッフの法則，回路計算，合成抵抗，電圧降下</p> <p>⑥ 電気基礎 4 電力，電力量，コンデンサ，ヒューズ</p> <p>⑦⑧ 電磁気の基礎 1 磁力線，電流の磁気作用，自己誘導作用，相互誘導作用</p> <p>⑨ 電磁気の基礎 2 フレミングの法則</p> <p>⑩ 半導体 1 P型半導体，N型半導体，ダイオード</p> <p>⑪ 半導体 2 トランジスタの原理と種類</p> <p>⑫ 半導体 3 トランジスタのスイッチング作用，増幅作用</p> <p>⑬ 論理回路 論理回路と論理記号，真理値表</p> <p>⑭ 配線，多重通信 自動車用配線，CAN の基礎</p> <p>⑮ 自動車電気装置 I のまとめ 自動車電気装置 I の総まとめ及び質疑応答</p> <p>⑯ 定期試験</p> <p>【 学 習 目 標 】</p> <p>①②③④⑤ 電気の基礎を理解する。</p> <p>⑥⑦⑧⑨ 電磁気の基礎を理解する。</p> <p>⑩⑪⑫⑬ 半導体，論理回路を理解する。</p> <p>⑭ 自動車に使われる配線，通信の基礎を理解する。</p> <p>⑮ 自動車電気装置Ⅱ，Ⅲを理解できる基礎知識を身につける。</p>			

【予習と復習】

予習：次回内容を教科書の該当頁を読んで概要を把握してください。復習：ノートの記述事項と教科書および配付された資料により内容の理解を深めてください。分からないところは質問事項としてまとめてください。予習と復習を各 90 分以上目安とし、取り組んでください。

【学習到達目標】

1. 簡単な電気回路について、オームの法則を使った電流、抵抗、電圧を求める計算ができる。
2. 合成抵抗の計算ができる。
3. 簡単な電気回路について、電流の流れが説明でき、分流、分圧を求める計算ができる。
4. 簡単な回路の消費電力及び電力量を求める計算が出来る。
5. コンデンサの合成計算ができる。
6. 磁気作用、自己誘導作用、相互誘導作用、フレミングの法則などの概要が説明できる。
7. ダイオード、トランジスタ、トランジスタのスイッチング作用について説明できる。
8. 論理回路から真理値表が作成できる。

【成績評価の方法】

成績は、80%以上出席した者を対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

中間筆記試験 30%、定期筆記試験 50%、その他 20% (小テスト、レポート、授業中の学習態度等の総合) により評価します。中間筆記試験は、講義回数⑧の講義内に実施します。

【教科書】

電装品構造 (全国自動車大学校・整備専門学校協会)

【参考書・参考文献】

自動車整備技術 (整備士講習各教本, 日本自動車整備振興会)

詳解 自動車の電装システム (利根英二, 整研出版社)

自動車電装工学 (遠藤貞一, 日刊工業新聞社)

自学自習システム (<http://nes.nakanihon.ac.jp/ses/>)

【履修上の注意】

①毎回の授業に電卓、教科書、ノート、筆記用具を必ず持参すること。

②教室内での携帯電話、ゲーム機等の使用、私語、居眠り、飲食は禁止します。

※上記の指示に従わない場合は、退場 (欠席扱い) とします。

【質問への対応方法】

随時可能

E-mail (最初の講義で連絡します)

【履修者数調整方法】

この講義の単位は、自動車電気装置Ⅱ、Ⅲの受講条件とします。再履修等で受講者数が増大する場合は、5時限目開講または夏季休暇中の集中講義とすることがあります。

【関連講義】

自動車電気装置Ⅱ、自動車電気装置Ⅲ

科 目 名	自動車電気装置Ⅱ Automotive Electrical Systems Ⅱ	全学科	単 位 数
		必修	2
担 当 教 員	自動車電気装置教育チーム	開 設 期	
		1 年 秋	
<p>【 科 目 の 概 要 】</p> <p>自動車電気装置の中で、自動車の基礎知識を前提としない基本的な電気装置の学習を行う。最初に二級整備士試験の重要項目であるバッテリーについて学習する。続いてスタータ等に使用されているモータの原理や構造を理解する。さらに発電機の原理、交流の性質を学ぶ。</p> <p>次にエア・コンディショナ、計器、灯火装置、警報装置、カーナビ、エアバッグ、シート・ベルトなどのシャシ電装品について広く構造と作動を学習する。これらは、二級自動車整備士資格を取得するために必要な自動車の電気装置に関する知識の向上を図ります。</p> <p>【 授 業 計 画 】</p> <p>① バッテリ 1 自動車用のバッテリー（鉛蓄電池）の概要、構造、充電と放電の原理</p> <p>② バッテリ 2 バッテリーの特性</p> <p>③ バッテリ 3 バッテリーの取扱い、鉛蓄電池以外の自動車用バッテリー</p> <p>④⑤⑥ モータの基礎 モータの原理、モータの種類、モータのトルク、DC ブラシレス・モータ、ステップ・モータ</p> <p>⑦⑧⑨ 発電機の基礎 発電の原理、直流発電機、交流発電機、交流交流回路の性質、整流、三相交流</p> <p>⑩⑪ エア・コンディショナ 概要、暖房、冷房、冷凍サイクル、構成部品、メンテナンス</p> <p>⑫ 計器</p> <p>⑬ 灯火装置</p> <p>⑭ 警報装置、ナビゲーション・システム</p> <p>⑮ 安全装置 エアバッグ、シート・ベルト</p> <p>⑯ 定期試験</p> <p>【学習目標】</p> <p>①②③ 自動車用バッテリーの基礎を理解する。</p> <p>④⑤⑥ モータの基礎を理解する。</p> <p>⑦⑧⑨ 発電機の基礎を理解する。</p> <p>⑩⑪ エア・コンディショナの概要を理解する。</p> <p>⑫⑬⑭⑮ シャシ電装品の概要を理解する。</p> <p>【予習と復習】</p> <p>予習：次回内容を教科書の該当頁を読んで概要を把握してください。復習：ノートの記述事項と教科書および配付された資料により内容の理解を深めてください。分からないところは質問事項としてまとめてください。予習と復習を各 90 分以上目安とし、取り組んでください。</p>			

【学習到達目標】

1. バッテリーの原理，特性，取扱いが説明できる。
2. モータの作動原理，各種モータの仕組みについて説明できる。
3. 発電機の作動原理について説明できる。
4. 交流の特性，整流，三相後流について説明できる。
5. 冷房の原理，冷凍サイクルが説明できる。
6. エアコン冷媒のガスチャージ手順が説明できる。
7. 主な自動車用計器の構造，機能，作動が説明できる。
8. 主な灯火装置の種類，構造，作動が説明できる。
9. 警報装置，安全装置の概要と作動が説明できる。

【成績評価の方法】

成績は，80%以上出席した者を対象とし，学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

中間筆記試験 30%，定期筆記試験 50%，その他 20%（小テスト，レポート，授業中の学習態度等の総合）により評価します。中間筆記試験は，講義回数⑦～⑧の講義内に実施します。

【教科書】

電装品構造（全国自動車大学校・整備専門学校協会）

【参考書・参考文献】

自動車整備技術（整備士講習各教本，日本自動車整備振興会）

詳解 自動車の電装システム（利根英二，整研出版社）

自動車電装工学（遠藤貞一，日刊工業新聞社）

【履修上の注意】

①毎回の授業に電卓，教科書，ノート，筆記用具を必ず持参すること。

②教室内での携帯電話，ゲーム機等の使用，私語，居眠り，飲食は禁止します。

※上記の指示に従わない場合は，退場（欠席扱い）とします。

【質問への対応方法】

随時可能

E-mail（最初の講義で連絡します）

【履修者数調整方法】

この講義は，自動車電気装置Ⅰの単位を取得済みであることを前提条件とします。自動車電気装置Ⅰの単位が未取得の場合は，5時限目または夏季休暇中に開講される講義を受講してください。

【関連講義】

自動車電気装置Ⅰ，自動車電気装置Ⅲ

科 目 名	自動車電気装置Ⅲ Automotive Electrical Systems Ⅲ	全学科	単 位 数
		必修	2
担 当 教 員	自動車電気装置教育チーム	開 設 期	
		2年	
<p>【 科 目 の 概 要 】</p> <p>自動車電気装置Ⅱで学習した基本的な電気装置に続き、より具体的な自動車電装品としての始動装置、点火装置、充電装置をテーマとして学習する。</p> <p>最初にエンジン始動に必須の始動装置について、スタータの構造と作動を詳しく説明する。</p> <p>次にガソリン・エンジンに欠かせない点火装置の概要を説明した後、高電圧の発生するメカニズム、点火装置の構成、点火時期の制御等の方法を学ぶ。更に現在主流となっているトランジスタ式点火装置およびマイコン式点火装置の作動を学ぶ。</p> <p>最後に自動車の電気の源となるオルタネータ（交流発電機）の構造および電圧の制御方法について詳しく学習する。これらは、二級自動車整備士資格を取得するために必要な自動車の電気装置に関する知識の向上を図ります。</p> <p>【 授 業 計 画 】</p> <p>①② 始動装置 1 電磁気の復習、始動装置の概要、出力特性</p> <p>③④ 始動装置 2 スタータ各部の構造・機能・作動</p> <p>⑤ 始動装置 3 始動回路、作動</p> <p>⑥⑦ 点火装置 1 点火装置の概要、点火回路、イグニッション・コイル、時定数</p> <p>⑧⑨ 点火装置 2 トランジスタ点火装置、マイコン式点火装置、独立点火装置</p> <p>⑩ 点火装置 3 ハイテンション・コード、スパーク・プラグ</p> <p>⑪⑫ 充電装置 1 概要、三相全波整流、オルタネータの構造、オルタネータの構成部品</p> <p>⑬⑭ 充電装置 2 中性点ダイオード付オルタネータ、電流の抑制、電圧の抑制</p> <p>⑮ 充電装置 4 IC式レギュレータ</p> <p>⑯ 定期試験</p> <p>【学習目標】</p> <p>①②③④⑤ 自動車の始動装置を理解する。 ⑥⑦⑧⑨⑩ 自動車の点火装置を理解する。 ⑪⑫⑬⑭⑮ 自動車の充電装置を理解する。</p> <p>【予習と復習】</p> <p>予習：次回内容を教科書の該当頁を読んで概要を把握してください。</p> <p>復習：ノートの記述事項と教科書および配付された資料により内容の理解を深めてください。分からない所は質問事項としてまとめてください。</p> <p>予習と復習を各 90 分以上目安とし、取り組んでください。</p>			

【学習到達目標】

1. スタータ・モータの出力特性図が読め、指定電流時の出力と効率が計算できる。
2. リダクション式モータの構造、各部品の機能、作動が説明でき、減速比の計算ができる。
3. 始動装置の電気回路が描け、作動が説明できる。
4. 高電圧発生の原理が説明できる。
5. 閉角度制御、定電流制御の概要、回路の作動が説明できる。
6. フルトランジスタ点火装置、マイコン式点火装置の作動概要が説明できる。
7. 自動車用オルタネータの整流回路が描け、作動原理が説明できる。
8. 中性点ダイオードの働き、発生電圧および発生電流の抑制について説明できる。
9. 主な IC 式レギュレータの回路が読み解け、作動が説明できる。

【成績評価の方法】

中間筆記試験 30%、定期筆記試験 50%、その他 20% (小テスト、レポート、授業中の学習態度等の総合) により評価します。中間筆記試験は、講義回数⑦～⑧の講義内に実施します。

【教科書】

電装品構造 (全国自動車大学校・整備専門学校協会)

【参考書・参考文献】

自動車整備技術 (整備士講習各教本, 日本自動車整備振興会)

詳解 自動車の電装システム (利根英二, 整研出版社)

自動車電装工学 (遠藤貞一, 日刊工業新聞社)

【履修上の注意】

- ①毎回の授業に電卓、教科書、ノート、筆記用具を必ず持参すること。
- ②教室内での携帯電話、ゲーム機等の使用、私語、居眠り、飲食は禁止します。
※上記の指示に従わない場合は、退場 (欠席扱い) とします。

【質問への対応方法】

- 随時可能
- E-mail (最初の講義で連絡します)

【履修者数調整方法】

この講義は、自動車電気装置Ⅰの単位を取得済みであることを前提条件とします。自動車電気装置Ⅰの単位が未取得の場合は、5 時限目または夏季休暇中に開講される講義を受講してください。

【関連講義】

自動車電気装置Ⅰ, 自動車電気装置Ⅱ

科 目 名	自動車法規 Vehicle Laws and Regulations	A・M 必修	単 位 数 2
	担 当 教 員	中川 実	開 設 期 A2年、M3年

【 科 目 の 概 要 】

自動車法規では、「道路運送車両法」全条例をすべて学ぶには限界があります。講義では自動車整備士に必要な条文を抜粋した法令教材を使用し、二級過去登録試験問題に出題された条文を理解するように努め、必要に応じて参考資料の配布やレポート課題を出題します。「道路運送車両法」では、自動車整備士技能検定制度のあらまし、自動車に対する法規制の概要を理解した上で第1条（この法律の目的）から第99条の2（不正改造等の禁止）までを、「道路運送車両法の保安基準」では、道路運送車両の構造、装置等について保安上、公害防止上又は環境保全上の具体的な技術基準の定めから保安基準第2条（長さ、幅及び高さ）から第53条（乗車定員及び最大積載量）までを、「使用過程にある自動車保安基準の細目を定める告示」では、製作年月日により近年改正があった又は追加された条文を第162条（長さ、幅及び高さ）から第237条（乗車定員及び最大積載量）までの関連法規について学習します。検査用機器の取扱では、自動車整備士が日常業務を遂行していく上で必要な条文の解釈と適用について学ぶ。法規を遵守することの重要性について理解し、「二級自動車整備士」取得に必要な知識の向上が目標です。

【 授 業 計 画 】

- ① I 自動車整備士技能検定制度のあらまし
 - II 自動車に対する法規制の概要
- ② III 道路運送車両法（抜粋）
 - 第1章 総 則 第1条（この法律の目的）～第3条（自動車の種別）
- ③ 第2章 登 録 第4条（登録の一般的効力）～第34条（臨時運行の許可）
- ④ 第3章 保安基準 第40条（自動車の構造）～第42条（乗車定員又は最大積載量）
 - 第4章 点検及び整備 第47条（使用者の点検及び整備の義務）～第55条（自動車整備士の技能検定）
- ⑤ 第5章 検 査 第58条（自動車の検査及び自動車検査証）～第71条の2（限定自動車検査証等）
- ⑥ 第6章 整備事業 第77条（自動車分解整備事業の種類）～第95条（自動車整備振興会）
 - 第7章 雑 則 第97条の2～第99条の2（不正改造等の禁止），練習問題（1～14）
- ⑦ IV 道路運送車両法施行規則の別表第1（自動車の種別）～第2（検査の実施）
- ⑧ 別表第4（屋内作業場及び車両置き場の規模）～別表第5（作業機器等），中間確認試験
- ⑨ V 点検基準 第1条（日常点検基準）～第4条（点検整備記録簿の記載事項等）
 - 別表第1（事業用、自家用貨物の定期点検基準）～別表第7（二輪自動車の定期点検基準）
- ⑩ VI 保安基準と細目を定める告示（抜粋）
 - ⑪ 第1条（用語の定義）～第6条（最小回転半径）
 - ⑫ 第8条（原動機及び動力伝達装置）～第17条の2（電気装置）サイドスリップ・テスト，ブレーキ・テスト，速度計試験機の取り扱いと関連法規。
 - ⑬ 第18条（車枠及び車体）～第29条（窓ガラス）
 - 第30条（騒音防止装置）～第31条（ばい煙，悪臭のあるガス等），音量計（騒音計），一酸化炭素測定器及び炭化水素測定器，黒煙測定器，オパシメータの取り扱いと関連法規。
 - ⑭ 第32条（前照灯等）～第37条（尾灯），前照灯試験機の取り扱いと関連法規。
 - ⑮ 第38条（後部反射器）～第53条（乗車定員及び最大積載量），練習問題（15～26）
- VII 自動車 NOX・PM 法
- VIII 保安基準の主要基準数値の一覧表

【予習】

次回講義内容のポイントを示します。その内容について各自で教科書（参考書）から整理し、関連条例文にアンダーラインを引くことで理解しながら覚えること。所要時間：90分以上

【復習】

次回授業までに、教科書のアンダーライン条例と2級の過去問題（練習問題）関連条例を比べながらまとめる。所要時間：90分以上

【課題】

学習時の課題は、関連条例を音読、記述しながら覚える。記述内容等をレポートで提出する。

【学習到達目標】

1. 自動車整備士技能検定制度を理解し、検定試験と登録試験の違いが説明できる。
2. 道路運送車両法の条文に関する文章を読み書きできる。
3. 車両の種別、登録、点検、整備、検査及び整備事業の条文に関する規則を読み書きできる。
4. 車両の原動機、構造及び各装置など走行に関する道路運送車両の保安基準が説明できる。
5. 車両の騒音、排ガスなどの公害防止に関する道路運送車両法の保安基準が説明できる。
6. 車両の前照灯、車幅灯、他灯火類に関する道路運送車両法の保安基準が説明できる。
7. 車両の警音器、非常信号用具などの安全管理に関する保安基準が説明できる。
8. 車両の整備や点検から検査用機器を取り扱って検査し、保安基準から判定説明できる。

【成績評価の方法】

成績は、80%以上出席した者を対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅し、下記の結果にて評価します。

・筆記試験（80%）・レポート課題（10%）・e-ラーニングへの取り組み状況（10%）総合評価。

【教科書】

法令教材 最新年度版（（社）日本自動車整備振興会連合会）

【参考書・参考文献】

自動車整備士法令のまとめ（大須賀和美編著／精文館）

自動車検査用機械器具の構造と取扱（（社）日本自動車機械工具協会）

【履修上の注意】

教室内では担当教員の指示に従ってください。講義中は携帯電話を使用しないこと。教科書、参考書、ノート及び筆記用具(蛍光ペン)を持ってこない者は欠席扱いとします。遅刻者は、その理由を報告してから着席してください。教室からの無断遅刻、途中退出は欠席扱いとします。

【質問への対応方法】

オフィスアワー（金曜日：16：30～17：00 1号館 206 研究室）

E-mail（nakagawa@nakanihon.ac.jp） その他（図書館）

【履修者数調整方法】

再履修者については、受講者数調整のため別クラスに変更する場合があります。

【関連授業】

自動車整備実習Ⅳ

科 目 名	自動車整備実習 I Workshop Practice in Automobile I	A・M	単 位 数
		必 修	4
担 当 教 員	國井伯昭 清水啓司 長谷貴道 神野恭平	開 設 期	
		1 年	
<p>【 科 目 の 概 要 】</p> <p>原動機（ガソリン・エンジン，ディーゼル・エンジン，ロータリ・エンジン）の分解，点検，測定，組付け及び調整を行い，構造・機能の確認を行うと共に，整備機器・測定具の正しい取り扱い方法を学びます。これらは，二級自動車整備士資格を取得するために必要な，エンジンに関する知識・理解・能力の向上を図ります。</p> <p>【 授 業 計 画 】</p> <p>1－14. ガソリン・エンジンA</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習授業内容の説明，安全実習の指導と注意 ・一般工具の取り扱い ・ガソリン・エンジン（F8）の始動時基本点検 ・ガソリン・エンジン（F8）の分解及び構造・名称と機能の確認 ・ピストン・リング・リプレーサ，トルク・レンチ，ピストン・リング・コンプレッサ等，特殊工具の取り扱い ・シクネス・ゲージ，プラスチック・ゲージ，ダイヤル・ゲージ等，測定機器の取り扱い ・分解部品の点検・洗浄と測定 ・ガソリン・エンジン（F8）の組み付け及び作動確認 <p>15－28. ガソリン・エンジンB</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動車略語の解説 ・シリンダ・ヘッドの分解 ・マイクロ・メータ，ストレート・エッジ，バッテリー・クーラント・テスト等，測定機器の取り扱い ・シリンダ・ヘッドの点検と測定及び組み付け ・バルブ・クリアランスの測定及び調整 ・ドエルタコ・テスト，タイミングライト，アドバンス・アングルテスト，オンボード・ダイアグノーシス等，計測機器の取り扱い ・ガソリンエンジン（4E）の点火時期及び回転速度の点検及び調整 ・フル・トランジスタ式点火装置の構造・機能確認及び点検，測定 ・進角装置の構造及び測定 ・電子制御装置の構造・機能確認及び点検 ・冷却装置の構造・機能及び点検 ・タイミング・ベルトの機能と構造の確認及び分解と組み付け ・ロータリ・エンジンの分解・測定・構造確認・組付け <p>29－42. ディーゼル・エンジン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エンジン分解時の諸注意 ・ディーゼル・エンジンの分解及び構造と機能 ・シリンダ・ゲージ，マイクロ・メータ等，測定機器の取り扱い ・ディーゼル・エンジンの測定・組付け ・バルブ・クリアランスの点検・測定・調整 ・ディーゼル・エンジンの作動 ・燃料装置の構造及び機能の確認 ・燃料装置のエアー抜きの実施 ・噴射時期の点検・測定・調整（分配型、列型） ・インジェクション・ノズルの点検・調整 ・コンプレッションの測定 ・潤滑装置の構造及び機能 ・予熱装置の構造及び機能の確認 			

【予習と復習】

予習：教科書及び参考書・参考文献に目を通し、関連する事柄を雑誌及びインターネットで情報を入手しておく。

復習：授業で行った事について参考書・参考文献で確認する。

所要時間は90分以上を目安とし、取り組んでください。

【学習到達目標】

1. 原動機の分解，組付けが出来るようになる。
2. 原動機の点検，調整が出来るようになる。
3. 原動機の測定が出来るようになる。
4. 原動機の構造・機能が理解出来るようになる。
5. 原動機の整備機器・測定具・計測機器の正しい取り扱い方法が出来るようになる。

【成績評価の方法】

成績は、80%以上出席したものを対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

「実技試験」「レポート」「授業中の学習態度」による総合評価。

【教科書】

自動車整備実習Ⅰ（中日本自動車短期大学編）

【参考書・参考文献】

二級自動車ガソリン・エンジン（(社)日本自動車整備振興会連合会）

三級自動車ガソリン・エンジン（(社)日本自動車整備振興会連合会）

二級自動車ジーゼル・エンジン（(社)日本自動車整備振興会連合会）

三級自動車ジーゼル・エンジン（(社)日本自動車整備振興会連合会）

基礎自動車工学（(社)日本自動車整備振興会連合会）

自動車用語辞典（精文館書店）

【履修上の注意】

授業時間内にて別紙配布

【質問への対応方法】

オフィスアワー：月，火，木曜日 12:30～13:20、16:30～17:00、および講義空き時間
場所：実習教員室（清水），6L5 準備室（國井，神野），7R4 準備室（長谷）

E-mail：shimizu-kei@nakanihon.ac.jp（清水），kunii@nakanihon.ac.jp（國井）
nagatani@nakanihon.ac.jp（長谷），kamino@nakanihon.ac.jp（神野）

【履修者数調整方法】

【関連授業】

自動車原動機Ⅰ・Ⅱ

科 目 名	自動車整備実習Ⅱ Workshop Practice in Automobile Ⅱ	A・M 必修	単 位 数 4
		開 設 期 1年	
担 当 教 員	後藤寛宜, 成瀬俊哉, 横井隆治		
<p>【 科 目 の 概 要 】 動力伝達装置, ブレーキ装置及びステアリング装置の分解, 点検, 測定, 組付け及び調整を行い, 構造・機能の確認を行うと共に, 整備機器・測定具の正しい取扱い方法を学ぶ。 また, 手仕上げ作業, 溶接作業の方法を学ぶ。</p> <p>【 授 業 計 画 】 1-14. シャシA (動力伝達装置) 実車 (前輪駆動車) からのトランス・アクスル及びクラッチの脱着 クラッチの分解, 測定, 組付け及び構造・機能確認 トランスミッション (T40型) の分解, 測定, 組付け及び構造機能確認 ディファレンシャルの分解, 構造・機能確認, 組付け, 調整 ドライブ・シャフトの分解・構造確認・組付け</p> <p>15-28. シャシB (走行装置) ヤスリ, 弓鋸, ボール盤, タップ, ダイス等を使用した金属加工 アクスル及びサスペンションの構造, 作動の確認 ストラット式サスペンションの脱着 ステアリング装置各種の分解, 構造, 作動の確認 ホイール・アライメントの点検</p> <p>29-42. シャシC (ブレーキ装置) ディスク・ブレーキ, ドラム・ブレーキ, 圧縮空気式ブレーキ装置の分解, 組付け及び構造・作動確認 一体型, 分離型の制動倍力装置の分解, 構造作動確認, 組付け, 故障探求 アンチロック装置 (PV, LSPV) の構造, 作動確認 ガス溶接, アーク溶接機を使用した溶接, 切断作業</p> <p>【 予 習 】 次回実習予定内容に従い, 教科書を読んで構造・作動を考える。又, 作業手順を確認しておく。 所要時間は60分以上を目処とします。</p> <p>【 複 習 】 当該授業後, 実習内容を教科書及びノートの記述で再確認し理解を深める。所要時間は60分以上を目処とします。</p> <p>【 課 題 】 レポートを必要に応じて指示します。指定された期日までに提出してください。</p>			

【学習到達目標】

1. 前輪駆動車からトランス・アクスルの脱着ができる。
2. クラッチの構造・作動及び点検方法が理解できる。
3. マニュアル・トランスミッションを分解・点検・組み付けを行い構造・作動が理解できる。
4. ノギス・マイクロメータ・ダイヤルゲージ・シックネス・ゲージの取り扱いができる。
5. ディファレンシャル装置について分解・組み付けを行い構造・作動・調整方法が理解できる。
6. 各種ステアリング装置の分解・組み付けを行い構造・作動が理解できる。
7. サスペンションの脱着ができる。
8. 気泡式キャンバ・キャスト・キングピン・ゲージの点検方法が理解できる。
9. 各種ブレーキ装置を分解・組み付けを行い構造・作動が理解できる。
10. ヤスリ・弓のこ・ボール盤・タップ・ダイスを使った手仕上げ作業ができる。
11. ガス溶接・アーク溶接の機器の取扱いを理解し溶接及び溶断ができる。

【成績評価の方法】

成績は、80%以上出席した者を対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

シヤシA・B・Cにより配分は違うが、実技試験、レポート、作品点、授業への取り組み姿勢を総合的に評価する。各項目、授業最初に説明します。

【教科書】

自動車整備実習Ⅱ（中日本自動車短期大学実習室編）

【参考書・参考文献】

二級自動車シヤシ（（社）日本自動車整備振興会連合会）

三級自動車シヤシ（（社）日本自動車整備振興会連合会）

基礎自動車工学（（社）日本自動車整備振興会連合会）

自動車用語辞典（精文館書店）

【履修上の注意】

授業開始時に別紙配布

【質問への対応方法】

オフィスアワー（毎授業後30分程度）

E-mail 後藤 goto-h@nakanihon.ac.jp, 成瀬 naruse@nakanihon.ac.jp

横井 yokoi@nakanihon.ac.jp その他（ ）

【履修者数調整方法】

再履修者については、受講者数調整のため別クラスに変更する場合があります。

【関連授業】

自動車構造Ⅰ，自動車構造Ⅱ

科目名	自動車整備実習Ⅲ Workshop Practice in Automobile Ⅲ	A	M	単位数
		選択	必修	4
担当教員	林 文明 藤田 英樹 五十嵐 巧	開設期		
2年				
<p>【科目の概要】 ガソリン・エンジン，ジゼル・エンジン，LPG・エンジンの燃料供給装置とその点火，着火装置の分解・点検・組立を通じ構造・機能を学びます。 各種エンジンの吸気系統の装置（可変吸気・過給機）の構造・機能を学びます。</p> <p>【授業計画】 1～14回目 電気装置A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習授業内容の説明，安全実習の指導と注意 ・普通点火及びトランジスタ点火方式の作動・部品の役割，電流経路と点火コイルの作動確認 ・オシロスコープの使用法，点火コイルの速度特性・発生電圧の波形観測 ・点火プラグの構造確認，トランジスタ点火方式の作動点検と故障探求，自動進角装置の作動確認，電子回路部品の確認・点検 ・故障診断装置の使用法，各種測定及び故障探求 ・可変バルブ・可変吸気機構の確認 ・電子回路実験装置での電気・電子回路の確認及び論理回路の確認， ・電子進角装置の作動確認点検，項目確認試験（1） <p>15～28回目 電気装置B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子制御式燃料噴射装置の概要及び構造・機能の確認（ガソリンエンジン） ・電子制御式燃料噴射装置の概要及び構造・機能の確認（ジゼルエンジン） ・オシロスコープによる波形観測及び故障探求 ・電子制御LPG燃料装置の概要及び構造・機能の確認，各部品の点検 ・キャブレータの概要及び構造・機能の確認 ・実車による故障探求，項目確認試験（2） <p>29～42回目 燃料装置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・列型（P型）インジェクション・ポンプの分解・組立，構造・機能の確認 ・タイマの分解・組立，構造・機能の確認 ・メカニカル・ガバナの分解・組立，構造・機能の確認 ・インジェクション・ポンプ・テストによる列型インジェクション・ポンプの燃料噴射時期，噴射量，ガバナの調整方法の確認 ・分配型インジェクション・ポンプの分解・組立，構造・機能の確認及び付属装置の構造・機能の確認 ・コモンレール式高圧燃料噴射装置の構造・機能の確認 ・インジェクタの構造・機能の確認 ・サプライポンプの分解・組立，構造・機能の確認 ・予熱装置の構造・機能の確認 ・過給機装置の構造・機能の確認 ・項目確認試験（3） <p>【予習】 次回授業内容に従い，教科書の当該箇所を読んで構造，機能，作動を確認しておく。 所要時間は90分以上を目処とします。</p>				

【復習】

当該授業後、次回授業までに教科書及びノートの記述で授業内容の理解を深める。
所要時間は90分以上を目処とします。

【学習到達目標】

1. 点火装置の構造・作動について、現物で説明できる。
2. オシロスコープの取り扱い、測定、読み取りができる。
3. サーキットテスタを使用して、点火装置の基本的な故障探求ができる。
4. 可変バルブ・可変吸気機構について、現物で説明できる。
5. 電子制御式燃料噴射装置の構造・作動が現物で説明できる。
6. 電子制御式燃料噴射装置の基本的な故障探求ができる。
7. 実車で、基本的な燃料装置に関わる故障探求ができる。
8. 列型（P型）インジェクション・ポンプの分解・組立、ポンプ内部の作動説明ができる。
9. インジェクション・ポンプ・テスタを使用し、噴射時期、噴射量及びガバナの調整ができる。
10. 分配型インジェクション・ポンプの分解・組立、構造・機能を現物で説明できる。
11. コモンレール式高圧燃料噴射装置の構造・機能を現物で説明できる。

【成績評価の方法】

成績は80%以上出席したものを対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

項目確認試験(50%)、レポート(30%)、平常点（提出物等、授業に対する取り組み）(20%)による総合評価。

【教科書】

自動車整備実習Ⅲ（中日本自動車短期大学編）

【参考書】

三級自動車ジーゼル・エンジン （(社) 日本自動車整備振興会連合会）
三級自動車ガソリン・エンジン （(社) 日本自動車整備振興会連合会）
二級ガソリン自動車エンジン編 （(社) 日本自動車整備振興会連合会）
二級ジーゼル自動車エンジン編 （(社) 日本自動車整備振興会連合会）
新版 自動車用語辞典 （精文館）

【履修上の注意】

授業開始時に別紙配布

【質問への対応方法】

- 随時可能 5R23 準備室（林、藤田）5L23 準備室（五十嵐）
- E-mail 林 (hayashi-f@nakanihon.ac.jp) 藤田 (fujita@nakanihon.ac.jp)
五十嵐 (igarashi@nakanihon.ac.jp)

【履修者数調整方法】

再履修者については、受講者数調整のため別クラスに変更する場合があります。

【関連授業】

自動車原動機Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ
自動車電気装置Ⅰ，Ⅱ，

科目名	自動車整備実習Ⅳ Workshop Practice in Automobile Ⅳ	A 選択	M 必修	単位数 4
担当教員	久世康司 高橋正則 栗木江一	開設期 2年		
<p>【科目の概要】</p> <p>自動車に対する法規制の概要を理解した上で自動車整備士に必要な道路運送車両法及び保安基準を修得し、自動車の点検基準により義務づけられている点検、整備、調整及び自動車整備検査用機械の構造と取り扱いを体得する。</p> <p>自動車電装を中心とした電気の基礎、回路の概要、電気の実験、現車を用いて電装品の故障探求等を行う。</p> <p>電子制御式AT並びにCVTの分解・組付・構造作動確認し理解する。また、ABSの構造、作動を確認し理解する。</p> <p>【授業計画】</p> <p>1～14 自動車検査</p> <p>自動車の点検基準、記録簿の記入方法を理解した上で自動車の分解整備、及び定期点検作業を実施する。また、道路運送車両法の保安基準を理解した上で自動車検査機器を用いて各種点検、調整方法を学ぶ。使用検査機器は、CO/HCメータ、オパシ・メータ、ブレーキ・テスタ、ヘッドライト・テスタ、サイド・スリップ・テスタ、気泡式ゲージ(ホイールアライメント)、音量計、スピードメータテスタ。</p> <p>15～28 自動車電装</p> <p>電気の基礎知識及びテスタによる点検方法を理解する。スタータ、オルタネータの構造作動及び分解・組付作業を行い、各種点検方法を学ぶ。電装系の配線を理解して、故障診断を行う。</p> <p>29～42 シャンD</p> <p>トルク・コンバータの構造・作動を学ぶ。電子制御式AT並びにCVTの分解、組付を行うと共に、構造作動を理解する。ABSの構造・作動を学ぶ。また、故障探求、点検方法についても学ぶ。</p> <p>【学習到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自動車の点検作業を行い、点検整備記録簿を作成することができる。 2. 検査機器の正しい取り扱いができる。 3. 自動車の検査作業を行い、保安基準に照らし適合・不適合の判断ができる。 4. 点検用テスタの取り扱いができる。 5. 電装系の故障診断ができる。 6. スタータ、オルタネータの構造・作動を理解し、分解・組立及び点検ができる。 7. AT並びにCVTの分解・組付作業を行い、構造・作動の理解ができる。 8. ABSの構造・作動の理解ができる。 <p>【成績評価の方法】</p> <p>成績は、80%以上の出席した者を対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実技試験(50%) ・レポート課題(30%) ・授業中の学習態度(20%) <p>【教科書】</p> <p>自動車整備実習Ⅳ(中日本自動車短期大学編)</p> <p>自動車検査用機械器具の構造取り扱い(社団法人 日本自動車機械工具協会)</p> <p>法令教材(社団法人 日本自動車整備振興会連合会)</p> <p>二級シャン編(社団法人 日本自動車整備振興会連合会)</p>				

【参考書・参考文献】

二級自動車シャシ(社団法人 日本自動車整備振興会連合会)
二級自動車ガソリン(社団法人 日本自動車整備振興会連合会)

【履修上の注意】

安全に実習を行うため, 実習帽子, 実習服, 安全靴の着用を義務付ける。身なりの整っていない者は, 受講を認めない。

【質問への対応方法】

オフィスアワー

4号館準備室(高橋, 栗木, 久世)

放課後の空き時間(16時30分から 17 時位まで)

E-mail

kuze@nakanihon.ac.jp

kuriki@nakanihon.ac.jp

takahashi-m@nakanihon.ac.jp

その他 ()

【受講者数調整方法】

【関連講義】

科 目 名	自動車工学演習 Automobile Mechanics Seminar	A・M	単 位 数
		選 択	2
担 当 教 員	自動車工学演習担当教員	開 設 期	
		A2年通年・M3年通年	
<p>【科目の概要】 二級自動車整備士資格を取得するために必要な、総合的な講義演習を行う。</p> <p><春学期> 二級自動車整備士程度の一般工学、ジーゼル・エンジン分野を中心に講義演習を行う。</p> <p><秋学期> 二級自動車整備士程度のシャシ、法令、ガソリン・エンジン分野を中心に講義演習を行う。</p> <p>【授業計画】</p> <p><春学期></p> <p>①～⑦ 一般工学分野、計算問題、バルブタイミング等の問題演習と解説 ⑧ 中間試験の実施 ⑨～⑮ ジーゼル・エンジン分野の問題演習と解説 ⑯ 定期試験の実施</p> <p><秋学期></p> <p>①～⑦ シャシ分野の問題演習と解説 ⑧ 中間試験の実施 ⑨～⑫ シャシ分野、法令の問題演習と解説 ⑬～⑮ ガソリン・エンジン、法令分野の問題演習と解説 ⑯ 定期試験の実施</p> <p>【予習】 各回テーマ範囲の教科書を熟読すること。所要時間は90分を目処とします。</p> <p>【復習】 各回、復習用課題の演習に取組み、教科書の熟読をすること。所要時間は90分を目処とします。</p> <p>【学習到達目標】 二級自動車整備士学科登録試験問題が理解でき、確実な解答が得られる。</p> <p>【成績評価の方法】 定期筆記試験結果により評価。</p> <p>【教科書】 基礎自動車工学 二級・三級自動車ガソリン・エンジン 二級・三級自動車ジーゼル・エンジン 二級・三級シャシ 法令教材</p>			

【参考書・参考文献】

自動車整備士最新試験問題解説二級ガソリン自動車（精文館）

自動車整備士最新試験問題解説二級ジーゼル自動車（精文館）

【履修上の注意】

二級自動車整備士資格の取得を希望する者は必ず履修すること。

【質問への対応方法】

オフィスアワー（クラスゼミの時間を利用してください）

E-mail（最初の講義で連絡します）

【履修者数調整方法】

なし

【関連講義】

自動車原動機Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 自動車構造Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 自動車電気装置Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ

自動車法規

科目名	自動車先進技術概論 Vehicle Advanced Technology Overview	A・M 必修	単位数 2
担当教員	栗木江一 他	開設期 A2年、M3年	
<p>【科目の概要】</p> <p>自動車は産業革命以降、この100年余りで目覚ましい発展を遂げてきた。それは、化石燃料を消費し、環境を破壊してきた歴史でもある。しかしながら、近年、再生可能エネルギーとしての電力に活路を見出し、かつAI化技術の研究開発が進められている。その一部は、HV、PHV、EV、ASVとして、すでに実現している。</p> <p>本科目では、それらのキーテクノロジーを総合的に学び、実際に見て・触って・動かしてもらいながら過去から現在、そして未来へ向けた教養・経験・想像力を養ってもらいます。</p> <p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① クルマの発展の歴史 <ul style="list-style-type: none"> ・自動車技術の進歩：最初の車は電気自動車だった！（T型フォードからMiraiまで） ・環境技術の進歩：化石燃料から電力へ／排ガス規制と燃費競争時代 ② ハイブリッド自動車・電気自動車1 <ul style="list-style-type: none"> ・ハイブリッド・システム ③ ハイブリッド自動車・電気自動車2 <ul style="list-style-type: none"> ・プリウス&その他のHV ④ ハイブリッド自動車・電気自動車3 <ul style="list-style-type: none"> ・電気自動車・・・モータの種類と構造・用途 ⑤ モータ制御1 <ul style="list-style-type: none"> ・インバータ／PWM制御実習（キット製作、信号確認、動作確認） ⑥ モータ制御2 <ul style="list-style-type: none"> ・同上 ⑦ バッテリ <ul style="list-style-type: none"> ・バッテリーの変遷（リチウム、次世代電池） ・燃料電池自動車（FCV）：燃料電池の仕組み ⑧ スキャンツール1 <ul style="list-style-type: none"> ・スキャンツールの必要性、使い方 ⑨ スキャンツール2 <ul style="list-style-type: none"> ・スキャンツールを使う ⑩ スキャンツール3 <ul style="list-style-type: none"> ・同上 ⑪ ASV1 <ul style="list-style-type: none"> ・GPS（自動運転のキーテクノロジー） ⑫ ASV2 <ul style="list-style-type: none"> ・GPS装置を使う ⑬ ASV3 <ul style="list-style-type: none"> ・ASV・・・各種センサ（制御に欠かせないセンサ情報）、センサ実習 ⑭ ASV4 <ul style="list-style-type: none"> ・センサ実習 ⑮ 総括 <p>【予習】</p> <p>授業終了時に次回内容を示すキーワードを担当教員より明示するので、次回授業までに資料を読んで、概要を理解しなさい。所要時間は90分以上。</p>			

【復習】

当該授業後、次回授業までの早い時期に、ノートの記載事項と資料の記述を比べながら、内容の理解を深めなさい。所要時間は90分以上。

【学習到達目標】

1. 自動車開発・周辺技術開発の歴史を説明できる。
2. ハイブリッド・システムの説明ができる。(パラレル、シリーズ)
3. モータ制御について説明できる。(インバータ、PWM制御)
4. バッテリ(電源)について説明できる。
5. スキャンツールについて説明でき、使えるようになる。
6. GPSについて説明できる。
7. センサについて説明できる。

【成績評価の方法】

成績は、80%以上出席した者を対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

- ・テーマ別レポート(80%)
- ・キット実習への取組(20%)

【教科書】

関係資料を適宜配布します。

【参考書・参考文献】

適宜紹介します。図書館等を利用してください。

【履修上の注意】

- ・教室内では、私語・着帽・携帯電話の使用を禁止します。
- ・教室からの無断退出は欠席扱いとします。
- ・遅刻者はその理由を報告してから着席してください。

【質問への対応方法】

- オフィスアワー：基本毎日12:30~13:20、16:30~19:00、および講義空き時間
場所：研修課(栗木)他
- E-mail：kuriki@nakanihon.ac.jp(栗木)他
- その他 ()

【履修者数調整方法】

【関連授業】

自動車電気装置、自動車整備実習

科 目 名	自動車の環境と安全性能 Automotive Environment and Safe Performance	A・M	単 位 数
		選 択	2
担 当 教 員	藤田 英樹	開 設 期	
		A2 年秋、M3 年秋	

【 科 目 の 概 要 】

今日、自動車の普及は一家に 2 台以上という時代に近づいています。それに伴い社会において様々な問題が発生しています。それは製造段階での資源・エネルギー問題・利用段階での排気ガス問題・廃棄段階でのリサイクル問題があります。これらの問題を解決するためには、技術的対策、行政及び法律で行うことが一般的であります。それぞれの事例を紹介し、「自動車と環境」の関係を学習します。

また、後半では自動車の安全システムについても取り上げ、自動車・環境・安全が今後どのように進んで行くのかを展望します。

【 授 業 計 画 】

- ① 自動車の歴史と環境変化
- ② 地球上の資源・エネルギーとその消費
- ③ 自動車用エネルギーの変化
- ④ 自動車排気ガスの種類と課題
- ⑤ 排出ガスによる影響
- ⑥ 自動車排気ガス規制と京都議定書
- ⑦ 自動車に求められる基本性能
- ⑧ 自動車を取り巻くエネルギー環境
- ⑨ 自動車社会の構造
- ⑩ 日本の公害
- ⑪ 自動車の安全システム I
- ⑫ 自動車の安全システム II
- ⑬ 3R (Reduce Reuse Recycle) + 1R の解説
- ⑭ 有限資源の活用
- ⑮ 自動車の環境と安全の将来、まとめ

【 予 習 】

授業後半に次回内容についても必ずふれるので、次回の授業までに関連語句を文献などであらかじめ調べておいてください。所要時間は 90 分以上とします。

【 復 習 】

授業で行った内容の理解を深めるために、配布されたプリントと授業内で実施されたディスカッション中に気になった事柄について文献で調べてください。所要時間は 90 分以上とします。

【 課 題 】

レポートは 3 回の提出を義務付けます。指定された期日に提出し、履修者間でレポートを読み合いそれに関するディスカッションを行います。また、予習で提示した関連語句については、板書や発表の機会を与えますので事前準備をしてください。

【学習到達目標】

1. 自動車社会における環境問題を説明ができるようになる。
2. 自動車用エンジンの新機構を説明できるようになる。
3. 資源・リサイクルについて実際例を用いて説明できるようになる。
4. 自動車の安全システムについて概略が説明できるようになる。

【成績評価の方法】

成績評価は、80%以上出席した履修者を対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

授業中の演習、ディスカッション（10%）レポート課題提出（30%）と確認試験（60%）によって行います。

【教科書】

講義用資料を使用する。授業時に配布します。

【参考書・参考文献】

自動車技術 自動車技術会発行
エネルギー・資源 エネルギー・資源学会発行
eco 検定公式テキスト 東京商工会議所編著

【履修上の注意】

履修者によって関連科目の理解度は当然異なります。講義に必要な資料は配付しますが、履修者自身で環境問題・自動車の安全性能に関する様々な文献を探してください。時間があれば一冊で良いので読みとおしてください。

授業中に履修者相互でディスカッションの機会を設定しますので、既存の知識と想像力を十分に働かせて多くのアイデアを発掘してください。

特に留学生の履修者とのコミュニケーションを深める良い機会となるよう工夫しますので、積極的に臨んでください。

【質問への対応方法】

オフィスアワー：12:30～13:20 16:30～17:20 場所：5R23 準備室
E-mail (fujita@nakanihon.ac.jp)

【履修者数調整方法】

しません

【関連講義】

自動車原動機 化学

科 目 名	自動車保険論 Automobile Insurance	A・M	単 位 数
		選 択	2
担 当 教 員	葛 巻 香	開 設 期	
		A2年、M3年	
<p>【 科 目 の 概 要 】</p> <p>自動車保険、自賠責保険とそれに関連する損害賠償の仕組み等についての知識を修得します。</p> <p>自賠責保険は強制保険として付保が義務付けられており、また自動車保険は一般に広く普及していることもあって、その存在は誰もが知るものであるにもかかわらず、その内容がどのくらい把握されているか非常に心もとないものがあります。</p> <p>近年、消費者のさまざまな声に対応して保険会社は、自動車保険の仕組みの簡素化や用語の改定などを行ってきていますが、一方で保険機能としてあらゆる自動車事故を想定し、また自動車を保有するどのような形態にも対応しようとするためには、それに応じた仕組みが必要であり、どうしても一般には分かりにくくなってしまいう面があることも事実です。また、自動車保険に関連する損害賠償については自動車事故にとどまらずさまざまな局面に必要な知識でもあります。これらを具体的事例や判例等を織り交ぜながら、分かりやすく解説して行きます。</p> <p>【 授 業 計 画 】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 損害保険のあらまし ② 自動車保険のあらまし ③ 損賠賠償の基礎知識 ④ 自動車損害賠償責任保険（自賠責保険） ⑤ 賠償に関する補償 ①対人賠償保険 ⑥ 賠償に関する補償 ②対物賠償保険 ⑦ 自分自身の補償 傷害保険 ⑧ 自動車の補償 車両保険 ⑨ その他の補償 各種特約 ⑩ 自動車保険契約に関わる諸規定・留意点 ⑪ 自動車保険契約内容変更に関わる諸規定・留意点 ⑫ 事故の手続 過失割合 ⑬ 判例に見る自動車保険 ⑭ 自動車保険の周辺知識 ⑮ 自動車保険約款の構成 ⑯ 定期試験 			

【予習と復習】

予習は配布するプリントをよく読んで自分なりに理解してください。また、授業終了後には復習として授業内容をまとめ、あらためてその内容理解に努めてください。予習・復習時間は90分以上を目安とし、取り組んでください。

【学習到達目標】

1. 自賠責保険・自動車保険の基本的内容を説明できる。
2. 損害賠償の法的背景と仕組みを説明できる。
3. 自動車保険契約に関する主たる諸規定や留意点を説明できる。
4. 自動車事故における、自賠責保険・自動車保険の機能を説明できる。

【成績評価の方法】

成績は、80%以上出席した者を対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

- ・定期試験（100%）

【教科書】

講義前に資料を配布するので、事前購入すべき教科書はありません。

【参考書・参考文献】

【履修上の注意】

自動車保険の具体的内容については損害保険会社毎に商品が異なっているため、講義を進めるにあたっては、自動車保険料率算定会の標準約款や特定の保険会社の代表的商品を例に説明を行います。したがって詳細な部分は各損害保険会社により対応が異なりますので注意して下さい。

「建学の精神」に則り、自覚的に行動すること。

【履修数調整方法】

【関連授業】

【質問への対応方法】

随時可能

E-mail

オフィスアワー（__曜日 __時 ~ __時）

その他（授業実施日）

科 目 名	カーデザイン I Car Design I	A・M	単 位 数
		選択	1
担 当 教 員	清水 裕二	開 設 期	
		1年（秋集中）	

【 科 目 の 概 要 】

自動車メーカーではどのように車をデザインしているのか、デザインとはなにか、デザインに必要な技能とは、について講義し、学生の自動車に関する知識と関心をさらに高めることを目標とする。そのため授業では、デザインの定義と意義、自動車とデザインの関わり、自動車のデザインプロセス、デザインの技法について解説し、実際に「スケッチ」と「図画」の演習をしてもらう。

演習課題のテーマは「学生のためのスリーホイラー」

【 授 業 計 画 】

- ①授業ガイダンスと「デザイン」の定義と意義。
- ②自動車の歴史とデザインの関わり。
- ③自動車のデザインプロセス（内外の自動車メーカー）。
- ④スタイリング（造形）に必要なスケッチ技法 ①等角投影図法
- ⑤スタイリング（造形）に必要なスケッチ技法 ②透視図法
- ⑥図面作成のために、三角法の復習。
- ⑦パッケージ図（車両全体計画図）の作成
- ⑧外観三角図の作成

【 予 習 と 復 習 】

予習は特に必要ありません。その代わりに講義で得た知識と体験を復習することが必要です。また、復習として、予定通り完成できなかった場合、また思ったようにできなかった場合など、その原因を考え、やり方など工夫する習慣をつけましょう。予習・復習は90分以上を目安とし、取り組んでください。

【学習到達目標】

1. デザインの定義と意義を理解している。
2. 自動車のデザインプロセスの概要を理解している。
3. 簡単なスケッチが立体的に描ける。
4. 簡単なパッケージ図（車両全体計画図）が作成できる。
5. 簡単な外観三角図が作成できる。

【成績評価の方法】

成績は、80%以上出席した者を対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて総合的に評価します。

- ・課題作品の評価（80%）
- ・その他演習課題の評価（20%）

【教科書】

講師作成の資料による。

【参考書・参考文献】

なし

【履修上の注意】

専門用語や微妙なニュアンスを伝える場合もあるので、留学生の場合、日本語をよくマスターしているか、未熟であってもそれを補う熱意が必要。

3日間を通して成果をあげる授業なので、3日間休まず遅れず出席すること。

【履修者数調整方法】

スケッチや作図の演習は手とり足とりの授業なので、上限は15～20名としたい。

【質問への対応方法】

随時可能

E-mail

オフィスアワー（__曜日 __時 ～ __時）

その他（集中講義日に対応）

【関連授業】

カーデザインⅡ、機械要素・図面

科 目 名	カーデザインⅡ Car Design II	A・M	単 位 数
		選択	1
担 当 教 員	清水 裕二	開 設 期	
		2年（春集中）	

【 科 目 の 概 要 】

内容はほぼ「カーデザインⅠ」と同じだが、異なるのは、演習の「スケッチ」と「図面」に、「モデル製作」が加わり、それが主体となること。

演習課題のテーマは「マイレッジマラソン出場車両」

【 授 業 計 画 】

- ①授業ガイダンスと「デザイン」の定義と意義。
- ②自動車の歴史とデザインの関わり。
- ③自動車のデザインプロセス（内外の自動車メーカー）。
- ④スタイリング（造形）に必要なスケッチ技法 ①等角投影図法
- ⑤スタイリング（造形）に必要なスケッチ技法 ②透視図法
- ⑥図面作成のために、三角法の復習。
- ⑦パッケージ図（車両全体計画図）の作成
- ⑧外観三角図の作成
- ⑨1/10 スケールモデルの製作。

【 予 習 と 復 習 】

予習は特に必要ありません。その代わりに講義で得た知識と体験を復習することが必要です。また、復習として、予定通り完成できなかった場合、また思ったようにできなかった場合など、その原因を考え、やり方など工夫する習慣をつけましょう。予習・復習は90分以上を目安とし、取り組んでください。

【学習到達目標】

1. デザインの定義と意義を理解している。
2. 自動車のデザインプロセスの概要を理解している。
3. 簡単なスケッチが立体的に描ける。
4. 簡単なパッケージ図（車両全体計画図）が作成できる。
5. 簡単な外観三角図が作成できる。
6. 簡単な材料（発泡スチロール等）でモデル製作ができる。

【成績評価の方法】

課題作品の評価（80%）とその他演習課題の評価（20%）による総合評価。

【教科書】

講師作成の資料による。

【参考書・参考文献】

なし

【履修上の注意】

専門用語や微妙なニュアンスを伝える場合もあるので、留学生の場合、日本語をよくマスターしているか、未熟であってもそれを補う熱意が必要。

3日間を通して成果をあげる授業なので、3日間休まず遅れず出席すること。

【履修者数調整方法】

スケッチや作図の演習は手とり足とりの授業なので、上限は15～20名としたい。

【質問への対応方法】

随時可能

E-mail

オフィスアワー（__曜日 __時 ～ __時）

その他（集中講義日に対応）

【関連授業】

カーデザイン I、機械要素・図面

科 目 名	カスタマイズ I Car Customization I (Work of painting by air brush)	A・M	単 位 数
		選 択	1
担 当 教 員	伊藤崇人 森 光弘	開 設 期	
		A1年、M2年(集中)	

【 科 目 の 概 要 】

講義と実習をまじえボディカラーの基礎知識と自動車材料の種類や特性等を学び技術の習得をします。エア・ブラシを使って絵を描くなどの塗装体験学習で独自の作品を作り、自動車・ヘルメット・オートバイ等に応用することにより付加価値を高める。

【 授 業 計 画 】

- ① カスタムペイントの材料と道具
- ② ハンドピースの使い方
- ③ 材料の製作
- ④ //
- ⑤ ファイヤーパタンの作成
- ⑥ //
- ⑦ //
- ⑧ ソウルペイントの作成
- ⑨ //
- ⑩ ラップ調ペイントの作成
- ⑪ ウッド調ペイントの作成
- ⑫ //
- ⑬ ほうきを使ったテクニック
- ⑭ テンプレートを使ったテクニック
- ⑮ まとめ
 - ・作品の提出とレポートによる試験

【予習と復習】

予習は教科書を見て自分が実際にやる時どうするか、イメージを作っておいてください。そして講義で得た知識と体験を復習することが必要です。また、復習として体験した事、教えてもらった技、数々のノウハウを自分なりにまとめておきましょう。予習・復習は90分以上を目安とし、取り組んでください。

【 学 習 到 達 目 標 】

1. 塗装機器が使用できるようになる。
2. ピースガンの使用法・清掃ができる。
3. カスタムペイントの基礎ができる。

【成績評価の方法】

作品(70%) レポート(20%) 授業態度及び出欠席による評価(10%)

【教科書】

カスタムペイント(リペアテック)

【参考書・参考文献】

【履修上の注意】

- ・実習服、実習帽、安全靴を必ず着用すること。
- ・塗料、有機溶剤等を使用するので保護具を必ず着用すること。

【履修者の遵守事項】

- ① 許可なく私物を持ち込まない。
- ② 授業中居眠り、飲食は禁止します。

※上記の指示に従わない場合は、退場(欠席扱い)とします。

【受講者数調整方法】

定員10名

【学習上の助言】

- ・いろんな塗装について興味をもち時間の許す限り、頑張れる者を募集します。

【受講者数調整方法】

【関連講義】

【質問への対応方法】

- 随時可能 オフィスアワー (___曜日 ___時 ~ ___時)
 E-mail (mori@nakanihon.ac.jp) その他 (授業開催日)

科目名	区分	単位数	開設期
カスタマイズⅡ	選択	1	A2年、M3年夏期集中
<p>自動車の基礎知識（構造・法規）を理解した上で合法的なカスタマイズを実践的に実施する。サスペンション交換、車体補強材製作及び取り付け、LEDドレスアップ等の実習を行う。 *定員20名</p>			
科目名	区分	単位数	開設期
エネルギーシステム 研究（エコノパワー）	選択	1単位	A2年、M2年集中
<p>「エコノパワー」とは、省エネカーや電気自動車、ソーラーカー、ハイブリッドカーなどの低公害・低燃費の車を総称している。この授業では、上記のいずれかについて、設計から製作、最終的には、競技会に参加することを目標とする。製作・競技会への参加を通じ、ものづくりの考え方の基本を学び、ものづくりの喜びや競技への参加の喜びを体感する。</p>			
科目名	区分	単位数	開設期
フェラーリ実習	選択	1単位	A2年、M2年夏期集中
<p>世界中のスポーツカーの頂点に位置する特別な存在であるフェラーリを教材車とし実習を展開する。国産車との構造的な比較をし、生産国の違いによる設計思想の違い等を検証すると共に授業を通し整備技術の新たな発見や将来に役立つ基礎を身に付けることを目標とする。フェラーリの基礎的な整備技術を修得するため、車両からエンジン、ギヤボックスを取り外す基礎作業を行い、それらの装置の分解、構造機能の確認を行う。組み付け後は、エンジン始動・及び各部の点検、調整、故障探究、試運転までを行う。</p>			
科目名	区分	単位数	開設期
特別講義	選択	1単位	A1年、M1年集中
<p>電動RCカーを使用して、サスペンションの仕組みを学習します。模型とはいえ、その構造は実物と同じで、分解・組立により、構造を容易に理解できます。 また、操縦することでセッティングの違いによる走行挙動の違いなども学習でき、より良いセッティングを見つけるスキルが身につきます。 また、ここで車の挙動を覚えラジドリ（RCカーによるドリフト）を楽しみましょう。 本講義は、本学の<u>室内常設コース</u>にて3日間行います。組立・操縦・セッティングという内容で構成されています。</p>			

2

自動車工学科
講義要綱

科目名	CAD入門 Introduction of Computer Aided Design	A 選択	単位数
			2
担当教員	三嶋 愛奈	開設期	
		2年春	

【科目の概要】

CAD 入門では 3 次元 CAD ソフト CATIA V5-6R2016 を使用し、3 次元モデルの基本的なモデリング手法について概要を学習する。

CAD、すなわちコンピュータ支援による設計製図は、自動車産業のみならず全てのものづくり分野において極めて重要な手法となっている。また CAD は CAM、すなわちコンピュータ支援による製造とリンクして、設計から製造への一連の流れを効率化し、開発期間の短縮や製品のコストダウンに寄与している。

【授業計画】

- ① オリエンテーションと「CATIA 概要」・「基本操作」
CAD についての説明、授業の進め方と成績評価について、CATIA の起動とファイル操作、表示画面、基本操作、ワークベンチの説明等
- ② 『スケッチ』<1>「スケッチ概要、形状の作成」
スケッチの流れ、配置スケッチ、作図ツール（プロファイル、円、直線等）を使用した形状の作成
- ③ 『スケッチ』<2>「形状の編集・修正、拘束」
作成した形状の編集（トリム、分割等）と修正（ドラッグ操作、削除等）と幾何拘束・寸法拘束の付加
- ④ 『スケッチ練習』
スケッチの練習問題を実施
- ⑤ 『ソリッドモデリング』<1>「ソリッドモデリング概要、スケッチベースフィーチャーツール」
ソリッドモデリングの流れ、スケッチベースフィーチャーツール（パッド、ポケット、シャフト等）を使用したソリッド形状の作成
- ⑥ 『ソリッドモデリング』<2>「ドレスアップフィーチャーツール」
ドレスアップフィーチャーツール（エッジフィレット、面取り、シェル等）を使用したソリッド形状の加工
- ⑦ 『ソリッドモデリング練習』
ソリッドモデリングの練習問題を実施
- ⑧ 『アセンブリ』<1>「アセンブリ概要、パーツの追加、移動、拘束」
アセンブリの流れ、仕様ツリーの説明、パーツ（構成要素）の追加、移動、拘束の方法
- ⑨ 『アセンブリモデル作成』（サーフェス）
サーフェスを使用したモデル作成とパーツ 3 点のアセンブリ
- ⑩ 『ドラフティング』<1>「ドラフティング概要、投影図等の追加、寸法等」
2 次元図面化するための投影図、断面図等の追加、寸法（長さ、角度、面取り等）の入れ方
- ⑪～⑮ 【総合課題】『アセンブリ練習』
三面図からのソリッドモデルの作成と組図を元にしたアセンブリ

【予習・復習】

本科目においては、予習・復習を自宅で行うことは難しいので、授業中に取ったメモ等（特に操作方法）を読み返し、次の授業に向けた準備をしてください。

【学習到達目標】

1. 3次元 CAD を使用した簡単な3次元モデルの作成ができる。(入門レベル)
→スケッチの作成からフィーチャ(パッド、ポケット、穴、面取り等)を使用したモデル作成ができる。
2. パーツとパーツを組み合わせる簡単なアセンブリができる。(入門レベル)

【成績評価の方法】

成績は、80%以上出席したものを対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて総合評価します。

- ・総合課題の完成度 (70%)
- ・授業毎のスキル向上具合および取り組み姿勢 (30%)

【教科書】

- ・「CATIA V5 基本操作 編」 / 株式会社ロジックソリューションズ
- ・「CATIA V5 モデリング 編」 / 株式会社ロジックソリューションズ

【参考書・参考文献】

【履修上の注意】

- ・3次元 CAD の基本操作ではあるが、欠席すると後れをとり、挽回するのが大変になるため、特に授業を欠席しないようにしてもらいたい。
- ・教室内では、私語・着帽・携帯電話の使用を禁止します。
- ・教室からの無断退出は欠席扱いとします。
- ・遅刻者はその理由を報告してから着席してください。

【質問への対応方法】

- 随時可能
- オフィスアワー (月～金曜日 : 9時～17時)
- E-mail ()
- その他 (授業時)

【履修者数調整方法】

【関連授業】

機械要素・図面

科 目 名	二輪自動車整備実習 Workshop Practice in Motorcycle	A	単 位 数
		選択	2
担 当 教 員	五十嵐 巧	開 設 期	
		2 年 春	
<p>【 科 目 の 概 要 】</p> <p>二輪車自動車の基礎的な整備技術を習得します。教材車に（ホンダ CD50S）を使用し、全て分解を行い、構造・機能の確認をし、点検・組み付け後にエンジン始動・試運転までを行います。又、2サイクル・エンジン、ベルト式無段変速機についても分解・構造・機能の確認、組み付けを行います。履修後には、一人で二輪車の分解・組み付けができるように取り組んでください。又、実社会に出ても対応できる即戦力を身につけて下さい。</p> <p>【 授 業 計 画 】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 実習授業内容の説明，安全実習について ② 分解前の点検，エンジンの取り外し ③ エンジン&ミッションの分解 ④ エンジン&ミッション各部の点検及び測定 ⑤ 〃 ⑥ エンジン&ミッションの組み付け ⑦ 〃 ⑧ 〃 ⑨ エンジン始動及びエンジン調整 ⑩ サスペンションの分解，構造機能の確認 ⑪ サスペンションの組み付け ⑫ 各種点検・調整，走行テスト ⑬ ベルト式無段変速機の分解，構造・機能の確認，組み付け ⑭ 2サイクル・エンジンの分解・組み付け ⑮ 全体のまとめ ⑯ 定期 			

【学習到達目標】

1. 正しい工具の使い方，安全実習ができる。
2. エンジン，ミッションの分解・組み付け，構造・作動について説明できる。
3. サスペンションの分解・組み付け，構造・作動について説明できる。
4. 各種点検・調整，走行テストができる。
5. ベルト式無段変速機の分解・組み付け，構造・機能について説明できる。
6. 2サイクル・エンジンの分解・組み付け，構造・作動について説明できる。

【成績評価の方法】

成績は，80%以上出席した者を対象とし，学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

- ・実技試験（50%）
- ・授業中の取り組み（30%）
- ・レポート（20%）

【教科書】

必要に応じて資料配布

【参考書・参考文献】

サービスマニュアル CD50S（本田技研工業）
三級二輪自動車（（社）日本自動車整備振興会連合会）
二級二輪自動車（（社）日本自動車整備振興会連合会）

【履修上の注意】

必ず決められた服装で受講して下さい。
筆記用具も持参して下さい。
実習作業中は，実社会を想定し取り組んで下さい。

【質問への対応方法】

- 随時可能
- オフィスアワー 5L23 準備室（月～木曜日 16:30～17:00）
- E-mail（igarashi@nakanihon.ac.jp）
- その他（ ）

【履修者数調整方法】

履修者数は25名です。調整方法は既得単位及び個人面談の上決定します。

【関連授業】

科 目 名	スポーツカート演習 Sports Kart	A 選択	単 位 数
			1
担 当 教 員	MSE担当教員	開 設 期	
		1年夏期集中	
<p>【 科 目 の 概 要 】</p> <p>レーシングカーの基本形であるカートを使用しカートに関する基礎を学びます。その中で、走行性能特性及びセッティングの基礎を学びます。</p> <p>近隣のサーキットにてカートライセンスを取得し実走行を行い、車両の挙動特性を体験します。走行後には、車両各部の点検を行い修復必要箇所については復元作業も実施します。カート走行に関する一連の流れを実体験することにより、カートのメンテナンス作業の基礎及びカート走行に関する規則の習得もできます。また、サーキット走行時には、チームを作り役割分担によるチーム運営を行う事も授業内容に含みます。</p> <p>【 授 業 計 画 】</p> <p>第一日目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各部の原理、構造作動の確認 ・各部の分解、点検、組み立て ・走行に備えての点検及び試走 ・サーキット走行の準備 ・必要機材及びカート積み込み <p>第二日目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライセンス講習受講(学科、規則、安全) ・ライセンス講習実技(コース走行) ・フリー走行(タイム計測、タイヤ空気圧目標設定) ・走行後車両点検 ・カート積み込み ・カート格納 ・走行データ整理(不具合箇所の抽出、タイム計測の整理) <p>第三日目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・走行後車両点検 ・不良部品の抽出 ・走行後メンテナンス ・エンジン取り外し ・ホイール、タイヤ、チェーン、ブレーキ取り外し ・分解部品の点検、洗浄、修正 <p>第四日目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各部品の組み付け ・完全組み付け ・組み付け後の調整(チェーンライン、エンジン位置、トーイン、ホイール・ベアリングのプレロード、スロットル・ワイヤ、ブレーキ、タイヤ空気圧) ・各部の締め付点検 ・整備後確認走行 <p>【 予 習 】</p> <p>受講日までに、レーシングカートについての基本構造及び各部の構造機能について調べ初回日にレポートとして提出すること。</p>			

【復習】

その日に実施した内容を時系列に纏め、自分の考えを纏める。

【課題】

レポートを指示します。指定された期日までに提出してください。
個別対応は別途行います。(下記、質問対応参照)

【学習到達目標】

1. 事前課題の各部の構造機能が現車で確認理解が出来説明できる。
 - ・カート走行に必要な準備が出来る。
2. ライセンス講習の内容を理解し安全な走行が出来る。
 - ・コミュニケーションを取りチーム運営が出来る。
3. 走行後の車両を点検し、不具合箇所の抽出及び整備手順が説明出来る。
4. 車両を走行前の状態に完全に復元できる。

【成績評価の方法】

成績は、80%以上出席した者を対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

- ・レポート
- ・チーム運営状態を審査する。

【教科書】

プリント有

【参考書・参考文献】

なし

【履修上の注意】

指導教員の指示に従うこと。授業中携帯電話を使用しないこと。授業場所から無断退出は欠席扱いとする。授業中は本学指定の実習服、安全靴、帽子、名札を着用すること。

【質問への対応方法】

- オフィスアワー：基本毎日 12:30～13:20、16:30～17:00、および講義空き時間
場所：研究室
- E-mail：担当者

【履修者数調整方法】

履修者数については、講義の性質上最大 20 名とします。履修申告日までに、履修希望意思をレポートとして提出しその内容を見て受講者を決定します。

講義の中でカートライセンス取得するためカートライセンス講習受講費用が必要です。

- ・ライセンス受講費用 約 13000 円、 ライセンス用顔写真 2 枚
- ・走行時にグローブ、ヘルメット(フルフェイス、シールド付)が必要です。(サーキットにレンタルヘルメット有)

【関連授業】

なし

3 モーター・スポーツエンジニアリング学科
講義要綱

科目名	CAD 演習 Computer Aided Design	M 必修	単位数
			2
担当教員	狭石 恵美	開設期	
		2年春	

【科目の概要】

CAD 演習では3次元CADソフト CATIA V5-6R2016 を使用し、3次元モデルの基本的なモデリング手法について学習する。

CAD、すなわちコンピュータ支援による設計製図は、自動車産業のみならず全てのものづくり分野において極めて重要な手法となっている。また CAD は CAM、すなわちコンピュータ支援による製造とリンクして、設計から製造への一連の流れを効率化し、開発期間の短縮や製品のコストダウンに寄与している。

【授業計画】

- ① オリエンテーションと「CATIA 概要」・「基本操作」
CAD についての説明、授業の進め方と成績評価について、CATIA の起動とファイル操作、表示画面、基本操作、ワークベンチの説明等
- ② 『スケッチ』<1> 「スケッチ概要、形状の作成」
スケッチの流れ、配置スケッチ、作図ツール（プロファイル、円、直線等）を使用した形状の作成
- ③ 『スケッチ』<2> 「形状の編集・修正、拘束」
作成した形状の編集（トリム、分割等）と修正（ドラッグ操作、削除等）と幾何拘束・寸法拘束の付加
- ④ 『スケッチ練習』
スケッチの練習問題を実施
- ⑤ 『ソリッドモデリング』<1> 「ソリッドモデリング概要、スケッチベースフィーチャーツール」
ソリッドモデリングの流れ、スケッチベースフィーチャーツール（パッド、ポケット、シャフト等）を使用したソリッド形状の作成
- ⑥ 『ソリッドモデリング』<2> 「ドレスアップフィーチャーツール」
ドレスアップフィーチャーツール（エッジフィレット、面取り、シェル等）を使用したソリッド形状の加工
- ⑦ 『ソリッドモデリング練習』
ソリッドモデリングの練習問題を実施
- ⑧ 『アセンブリ』<1> 「アセンブリ概要、パーツの追加、移動、拘束」
アセンブリの流れ、仕様ツリーの説明、パーツ（構成要素）の追加、移動、拘束の方法
- ⑨ 『モデル作成』
素材モデルと形状モデルの作成
- ⑩ 『アセンブリモデル作成』（ソリッド）
⑨で作成した素材モデルと形状モデルのアセンブリ
- ⑪ 『アセンブリモデル作成』（サーフェス）
サーフェスを使用したモデル作成とパーツ3点のアセンブリ
- ⑫ 『ドラフティング』<1> 「ドラフティング概要、投影図等の追加、寸法等」
2次元図面化するための投影図、断面図等の追加、寸法（長さ、角度、面取り等）の入れ方
- ⑬～⑮ 【総合課題】『アセンブリ練習』
三面図からのソリッドモデルの作成と組図を元にしたアセンブリ

【予習・復習】

本科目においては、予習・復習を自宅で行うことは難しいので、授業中に取ったメモ等（特に操作方法）を読み返し、次の授業に向けた準備をしてください。

【学習到達目標】

1. 3次元CADを使用した3次元モデルの作成ができる。(基礎レベル)
→ スケッチの作成からフィーチャー（パッド、ポケット、穴、面取り等）を使用したモデル作成ができる
2. パーツとパーツを組み合わせるアセンブリができる。(基礎レベル)

【成績評価の方法】

成績は、80%以上出席したものを対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて総合評価します。

- ・総合課題の完成度（80%）
- ・授業毎のスキル向上具合および取り組み姿勢（20%）

【教科書】

- ・「CATIA V5 基本操作 編」/株式会社ロジックソリューションズ
- ・「CATIA V5 モデリング 編」/株式会社ロジックソリューションズ

【参考書・参考文献】

【履修上の注意】

- 3次元CADの基本操作ではあるが、欠席すると後れをとり、挽回するのが大変になるため、特に授業を欠席しないようにしてもらいたい。
- ・教室内では、私語・着帽・携帯電話の使用を禁止します。
- ・教室からの無断退出は欠席扱いとします。
- ・遅刻者はその理由を報告してから着席してください。

【質問への対応方法】

- 随時可能
- オフィスアワー（月～金曜日：9時～17時）
- E-mail（ ）
- その他（授業時）

【履修者数調整方法】

【関連授業】

機械要素・図面

科目名	自動車電子実験 Experiments on Car-Electronics	M	単位数
		選択	2
担当教員	吉田 立	開設期	
		3年春	

【科目の概要】

“自動車の電動化・エレクトロニクス化”が進んでいる。例えば、ガソリン乗用車では、1970年アメリカの「マスキー法」（排気ガス中の一酸化炭素、炭化水素、窒素酸化物の排出を当時の10分の1に削減する）がトリガになった。規制をクリアするため、燃料噴射量・点火時期・アイドル回転速度などの電子制御技術が生まれ、そこではエンジンの状態をつかむためのセンサ sensor、電磁弁・インジェクタといったアクチュエータ actuator、全体を制御するコントロール・ユニット ECU が導入された。電動化は、スタータ・モータが始めて、パワーウィンドウや上述のアクチュエータはすべて電気で駆動されている。電気自動車はもちろんである。

車載用エレクトロニクスを理解し修理していくことのできる整備士を目指して、電気・電子に関するセンスをマスターしてもらうのを目的に本実験は設置された。電気が不得手だというのを、少しでも解消したい。

【授業計画】

- ① はじめに
実験の説明、臨む態度、レポートの書き方
- ② 基本となる測定器 ①テスタ
アナログ・タイプとデジタル・タイプの特徴と使い分け
- ③ 基本となる測定器 ②オシロスコープ
アナログ・タイプによる測定、時間軸の取り方、ファンクション・ジェネレータ
- ④ 基本となる測定器 ③デジタル・オシロスコープ
サンプリングによるエイリアスの発生、プリ・トリガ
- ⑤ ダイオード、LED の静特性と応用
電圧－電流特性の測定
- ⑥ トランジスタの特性
電圧－電流特性（静特性）の測定
- ⑦ トランジスタの応用（動特性）
増幅回路、スイッチング回路の作動
- ⑧ 電源回路
3端子レギュレータ、スイッチング・コンバータ
- ⑨ ホール IC
ホール効果、磁気抵抗(MR)効果、
- ⑩ 論理回路
AND, OR, NOT 回路、MIL 記号、TTL と C-MOS
- ⑪ 発振回路
CR タイミング型、CR 発振型
- ⑫ 順序回路（フリップ・フロップ）
2分周回路、カウンタ回路、ステッピングモータ駆動
- ⑬ パラレル I/O インターフェース
パソコンとインタフェースボード、TTL 出力、LED の点滅、ステッピングモータ駆動
- ⑭ A/D コンバータ（その1）
エアフローセンサとの接続
- ⑮ A/D コンバータ（その2）
温度センサ、サーミスタのリニアライズ



【予習】

授業終了時に次回内容を明示しますので、次回授業までに教科書の当該箇所を読んで、概要を把握して実験手順などイメージしてください。所要時間は90分以上。

【復習】

当該授業後、次回授業までの早い時期に、ノートの記載事項と教科書の記述を比べながら、内容の理解を深めなさい。所要時間は90分以上。

【学習到達目標】

1. 電気・電子に関する基礎的な法則がモノになった。(使える・説明できる)
2. 素子の動作の仕組みの概略が分かる。素子の機能が分かる。
3. 基本的な測定器(テスタ、オシロスコープなど)が使える。
4. 論理回路が分かる。
5. パソコンと繋いだ測定が利用できる。
6. ハンダ付け、配線作業ができる。

【成績評価の方法】

毎回ごとの実験内容について、そのテーマに沿って測定・製作実験を行ってもらう。結果や考察について、次回までにレポートとしてまとめ、提出してもらおう。

レポートの内容によって、成績を判断する。

【教科書】

「実験指針」を用意している。

【参考書・参考文献】

【履修上の注意】

実験指針は当日までによく読んで来ること。

【質問への対応方法】

- | | |
|---|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 随時可能 | <input checked="" type="checkbox"/> オフィスアワー (毎曜日 16時～18時) |
| <input checked="" type="checkbox"/> E-mail (yosida-t@nakanihon.ac.jp) | <input type="checkbox"/> その他 () |

【履修者数調整方法】

春学期のみ開講で、再履修はない。少人数を想定している。

【関連授業】

自動車電気装置Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、自動車電子制御工学

科目名	モータースポーツ概論 Motor Sports Outline (Introduction)	M 必修	単位数
			2
担当教員	MSE 担当教員	開設期	
		1年春	
<p>【科目の概要】 車の「走る」「曲がる」「止まる」の基本動作を、モータースポーツを通して学習します。『最も速く』『最も安全に』を实践できる知識、技術および考え方を習得します。 モータースポーツの面白さ・厳しさに触れ、モチベーションを高くするとともに、車両メンテナンスに関わる基礎知識、基礎技術および工作技術を習得します。この概論はモータースポーツ全体の安全面も含めた導入教育の位置付けになります。また、工業高校とそれ以外の高校との工業・技術系レベルの差を埋めます。モータースポーツに関わる技術、規則を理解できるようになる。</p> <p>【授業計画】 ① オリエンテーション モータースポーツ競技の種類、競技車種紹介 ② 国際自動車連盟と組織、日本のモータースポーツの歴史 ③ レースに関わる職業、モータースポーツ用語 ④ S-GT 車両、S-FJ 車両、レースの概要、車両規則、レース車両の用語 ⑤ 工業材料 ⑥ ボルト、ナットの種類 ⑦ ねじの締付け ⑧ ボルトの破断体験 ⑨ サーキット等に関する用語、サーキット内での安全意識 ⑩ 機械加工の種類と工作機械 ⑪ 測定器具の種類、アライメント測定器具 ⑫ タイヤの種類、取扱い方法 ⑬ エアロダイナミクスと空力パーツの紹介 ⑭ レーステクノロジー ⑮ 概論まとめ、確認テスト ※ 人数により、グループごと授業計画を前後に移動する場合があります。</p> <p>【学習目標】 ① MSE 授業全体像の把握、モータースポーツの組織理解 ② JAF 内部の組織理解、日本のレース界・サーキットの歩み ③ モータースポーツに関わる人々を知る ④ 車両作成でのルール、規則書の読み方を学ぶ ⑤⑥⑦⑧⑩⑪ 普通高校と工業高校との差を縮める ⑦ ねじの種類によるトルクの違いを理解する ⑧ 破断の原理と体感 ⑨ 車両・サーキットでの専門用語の理解、サーキットの危険性 ⑩ 測定機器の使い方理解 ⑫ タイヤについて理解を深める ⑬ エアロダイナミクスの理解 ⑭ レースの現状、付随する研究・開発 ⑮ モータースポーツ概論について、補習</p>			

【学習到達目標】

1. 自動車社会の成り立ち，レースの位置づけ等の概要が説明できる。
2. サーキットのルール（旗の色，振り方，各種エリア・ゾーン等）について説明できる。
3. 車両規定（S-FJ），車両構造について概ね説明できる。
4. ④「トルク」の意味を理解し説明できる。
5. ネジの種類（サイズ・強度・用途）を理解し，適切な締め付けトルクで組み付けられる。
6. ノギス，マイクロメータ，シリンダゲージ等の測定機器が扱える。
7. 安全な車両，安全な行動を理解できる。
8. 鈴鹿サーキットのコーナー名が言える。
9. 一般社会との接し方を理解できる。

【成績評価の方法】

成績は，80%以上出席した者を対象とし，学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

・学期末確認テスト（60%） ・逐次レポート（20%） ・研修参加状況・取り組み姿勢（20%）

【教科書】

授業に沿った参考資料を逐次配布します。ファイルに綴じ，整理・管理を行ってください。学生サーバにモータースポーツ関連の資料・教材を格納します。自由に利用してください。

【参考書・参考文献】

- ① Engineer to Win (Smith Carroll, Motorbooks Workshop)
- ② Tune to Win (Smith Carroll, Motorbooks Workshop)
- ③ 車両運動性能とシャシーメカニズム (宇野高明 著, グランプリ出版)
- ④ レーシングエンジンの徹底研究 (林 正義 著, グランプリ出版) その他多数。

※ 図書館にも多くの専門書が揃っています。大いに活用し知識を深めてください。

【履修上の注意】

指導教員の指示に従い，安全第一で行動してください。

『ノート』は常に携帯し，指示されたこと，気付いたこと，思ったことを逐次書き留めるようにしてください。

【履修者の遵守事項】

常に安全を心掛けてください。実習作業を伴う時は，指定された実習服を着用します。学外で活動する場合は，常に中日本自動車短期大学 MSE 学科の学生であることを自覚し，大学生らしい常識と規律のある行動をしましょう。

【質問への対応方法】

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 随時可能 | <input type="checkbox"/> オフィスアワー（放課後、担当教員） |
| <input type="checkbox"/> E-mail（mse@nakanihon.ac.jp） | <input type="checkbox"/> その他（ ） |

【受講者数調整方法】

ありません。

【関連講義】

モータースポーツ演習 I・II・III・IV，卒業研究

科目名	モータースポーツ演習 I Motor Sports I	M 必修	単位数
			2
担当教員	MSE 担当教員	開設期	
		1年秋	
<p>【科目の概要】 モータースポーツ演習 I では、車両整備に必要な基礎的な技術を習得します。まずは、整備に必要な工具の種類や使い方について学びます。またレーシングカーの基本形であるカートを題材に、カートに関する基礎を学びます。その中で、走行性能特性およびセッティングの基礎を学習します。また、車両メンテナンスに関わる基礎的な整備・工作技術を学びます。カートの実走行も体験し、車両の挙動特性を修得し、メカニックとしてメンテナンス作業の基礎を習得します。</p> <p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① オリエンテーション コミュニケーション, チームワーク, 概要・実習設備のなど ② 基礎作業① ハンドツールの使い方 ③ 基礎作業② ハンドツールの使い方 ④ レーシングカート① 各パーツの分解組立, 各部測定 ⑤ レーシングカート② 各パーツの分解組立, 各部測定 ⑥ ライセンス取得講習 カートライセンス取得のための講習 ⑦ レーシングカート③ 各パーツの分解組立, 各部測定, 清掃 ⑧ レーシングカート④ 各パーツの分解組立, 各部測定, ブレーキの仕組み ⑨ レーシングカート⑤ 各パーツの分解組立, 各部測定, アライメントの確認調整 ⑩ レーシングカート走行会 走行テスト ⑪ レーシングカート⑥ 各パーツの分解組立, 各部測定, 清掃, 走行タイムの確認 ⑫ レーシングカート⑦ 各パーツの分解組立, 各部測定, タイヤ交換 ⑬ レーシングカート⑧ 各パーツの分解組立, 各部測定, 最終確認 ⑭ 配線の加工について ギボシ端子の圧着, ハンダ付け作業 ⑮ モータースポーツ演習 I まとめ 確認テスト <p>※ 人数により、グループごと授業計画を前後に移動する場合があります。</p> <p>【学習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 実習場及び設備の理解, 安全作業の徹底, グループ行動 ②③ 基礎作業の各作業内容の理解, 技術の習得 ⑦カートライセンスの取得 ④⑤⑥⑧⑨⑩レーシングカートの基礎的整備の理解 ⑪車両の挙動変化の理解, 車両を使つての挙動変化の体感 ⑫⑬レーシングカートの整備内容の理解 ⑭配線の加工についての理解 ⑮モータースポーツ演習 I で行った内容のまとめ <p>【予習と復習】 授業で学んだこと、行ったことを指定のレポート用紙にまとめファイルに綴ってください。</p> <p>【課題】 課題はレポートの提出。</p>			

【学習到達目標】

1. ハンドツールについて工具の説明ができる。
2. 工具を正しく使用することができる。
3. ボルト、ナットの締め付けトルクを理解することができる。
4. カートの構造を説明できる。
5. カートを操縦できる。
6. カートを整備できる。

【成績評価の方法】

成績は、80%以上出席した者を対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

- ・確認試験 (70%)
- ・レポート (30%)

【教科書】

授業に沿った参考資料を逐次配布します。ファイルに綴じ、整理・管理を行ってください。学生サーバにモータースポーツ関連の資料・教材を格納します。自由に利用してください。

【参考書・参考文献】

各項目で配布された資料、各項目での専門書など。

※ 図書館にも多くの専門書が揃っています。大いに活用し知識を深めてください。

【履修上の注意】

指導教員の指示に従い、安全第一で行動してください。

『ファイル』は常に携帯し、指示されたこと、気付いたこと、思ったことを逐次書き留めるようにしてください。

【履修者の遵守事項】

常に安全を心掛けてください。実習作業を伴う時は、指定された実習服、帽子、安全靴を着用します。

学外で活動する場合は、常に中日本自動車短期大学 MSE 学科の学生であることを自覚し、大学生らしい常識と規律のある行動をしましょう。

【質問への対応方法】

- 随時可能
- オフィスアワー (月曜～金曜 12:30～13:20)
- E-mail (mse@nakanihon.ac.jp)
- その他 ()

【受講者数調整方法】

【関連講義】

モータースポーツ概論, モータースポーツ演習Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ, 卒業研究

科 目 名	モータースポーツ演習Ⅱ Motor Sports II	M 必修	単 位 数
			4
担 当 教 員	MSE 担当教員	開 設 期	
		2年 春	

【科目の概要】

MSE学科ではF Jなどのフォーミュラカーを通して学習していく機会が多いですが、まずその前に基本となる一般の乗用車の構造と知識を養うことを目的とし、FR車、FF車の実車を使いエンジン脱着、足回り脱着を体験し、それぞれの違いや整備ポイントなどの知識を習得します。また、車体整備に必要な基礎的な技術も習得します。溶接、旋盤、タップ、塗装といった『ものを作る』『ものを直す』に必要な知識を学びます。

特にこの演習では、エンジン脱着などの重整備や溶接、旋盤等の作業もしますので、教員から指示をまもり作業を確実かつ安全第一に実践してもらいます。

そしてカートを使用し、学生たちで整備からサーキット走行会運営までを行います。

【授業計画】

- ① オリエンテーション コミュニケーション、チームワーク、実習設備説明、概要説明など
- ② 基礎作業①溶接、FRP、塗装、ネジたて等の基礎作業
- ③ 基礎作業②溶接、FRP、塗装、ネジたて等の基礎作業
- ④ 基礎作業③溶接、FRP、塗装、ネジたて等の基礎作業
- ⑤ 基礎作業④溶接、FRP、塗装、ネジたて等の基礎作業
- ⑥ 実車を使っての実習準備 実車を使用しての実習
- ⑦ エンジン脱着① 実車を使用しての実習
- ⑧ エンジン脱着② 実車を使用しての実習
- ⑨ エンジン脱着③ 実車を使用しての実習
- ⑩ サスペンションの脱着 実車を使用しての実習
- ⑪ ブレーキの整備 実車を使用しての実習
- ⑫ カート整備、耐久レースの準備
- ⑬ 耐久レース
- ⑭ カートメンテナンス
- ⑮ モータースポーツ演習Ⅱまとめ、確認テスト

※ 人数により、グループごと授業計画を前後に移動する場合があります。

【学習目標】

- ②③④⑤基礎作業の各作業内容の理解、技術の習得
- ⑥⑦⑧⑨⑩⑪ 一般的車両の基本構造の理解、安全作業の徹底、
- ⑦⑧⑨ レシプロエンジンの基本構造の理解
- ⑩⑪ サスペンション、ブレーキの基本構造の理解
- ⑫⑬⑭サーキット走行会に向けてのチームワーク作りと走行会運営作業に各自協力が出来ること

【予習と復習】

授業で学んだこと、行ったことを指定のレポート用紙にまとめファイルに綴ってください。

【課題】

課題はレポートの提出。

【学習到達目標】

1. 基礎作業においてそれぞれの作業ができる。
2. 基礎作業においてそれぞれの作業の良否が判断できる。
3. レシプロエンジンの基本構造が説明できる。
4. サスペンションの基本構造が説明できる。
5. 走行会運営に協力できる。

【成績評価の方法】

成績は、80%以上出席した者を対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

- ・確認試験（70%） ・レポート（30%）

【教科書】

授業に沿った参考資料を逐次配布します。ファイルに綴じ、整理・管理を行ってください。学生サーバにモータースポーツ関連の資料・教材を格納します。自由に利用してください。

【参考書・参考文献】

各項目で配布された資料、各項目での専門書など。

※ 図書館にも多くの専門書が揃っています。大いに活用し知識を深めてください。

【履修上の注意】

指導教員の指示に従い、安全第一で行動してください。

『ファイル』は常に携帯し、指示されたこと、気付いたこと、思ったことを逐次書き留めるようにしてください。

【履修者の遵守事項】

常に安全を心掛けてください。実習作業を伴う時は、指定された実習服を着用します。

学外で活動する場合は、常に中日本自動車短期大学 MSE 学科の学生であることを自覚し、大学生らしい常識と規律のある行動をしましょう。

【質問への対応方法】

- | | |
|---|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 随時可能 | <input checked="" type="checkbox"/> オフィスアワー（月曜～金曜 12：30～13：20） |
| <input checked="" type="checkbox"/> E-mail（mse@nakanihon.ac.jp） | <input type="checkbox"/> その他（ ） |

【受講者数調整方法】**【関連講義】**

モータースポーツ概論、モータースポーツ演習Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ、卒業研究

科目名	モータースポーツ演習Ⅲ Motor Sports III	M 必修	単位数 4
		開設期 2年秋	
担当教員	MSE 担当教員		

【科目の概要】

車の「走る」「曲がる」「止まる」の基本動作を、モータースポーツを通して学習します。『最も速く』『最も安全に』を實踐できる知識、技術および考え方を習得します。

スーパーFJやカートのレース・テストを通して知識・技術の理解・習得を更に深めるとともに、応用力・発想力・決断力など実戦（社会）に必要な資質やコミュニケーション能力を養い、経験を積み重ねてもらいます。この演習では、作業を安全かつ確実に実践できると共に、自らやるべきことを考え提案できるようになる。

【授業計画】

- ① オリエンテーション
- ② サスペンション応用① サスペンションの種類サスペンション・ジオメトリー
- ③ サスペンション応用② タイヤ、スプリングレート、ホイールレート、摩耗円、測定・調整
- ④ サスペンション応用③ ばね特性、固有振動数、減衰力、サスペンションの分解・組付・調整
- ⑤ サスペンション応用④ スプリング固有振動数、レース報告会
- ⑥ サスペンション応用⑤ サスペンションに及ぶ減衰力の関係、セッティング方向性
- ⑦ エコノパワー
- ⑧ サスペンション応用⑥ ロール剛性の測定、フォーミュラーカーフレーム特性
- ⑨ サスペンション応用⑦ ロール剛性の測定、サスペンションの運動まとめ
- ⑩ サスペンション応用⑧ レーシングカーのアフターメンテナンスと管理
- ⑪ サスペンション応用⑨ ポストリグ事前授業、概要説明、準備
- ⑫ サスペンション応用⑩ ポストリグ試験、ばね特製と固有振動数と減衰力概要
- ⑬ サスペンション応用⑪ ポストリグ検証、レース報告会
- ⑭ データーロガー基礎① S-FJ 車両でのロガー取り付け、点検、専用ソフトウェアデータ入力
- ⑮ データーロガー基礎② ベースデータの作成、ECU、GCU 概要、CAN 通信
- ⑯ まとめ 個人データのまとめ、確認テスト

※ 人数により、グループごと授業計画を前後に移動する場合があります。

【学習目標】

- ① アライメントとジオメトリーの違いの把握
- ② スプリングレート、ホイールレート、調整法の理解
- ③ ばね特性およびダンパー減衰の調整、働きの理解
- ④ サスペンションに及ぶ固有振動数との関係、レースの取り組み方
- ⑤ スプリングとダンパーの関係、減衰力を理解する
- ⑦ 車両におけるロール方向の力について理解する
- ⑧ 車両運動性能を理解できる ロールセンタと重心の関係性の理解重心の測定方法を知る
- ⑨ ポストリグ試験の解析目的を理解する
- ⑩ 整備、調整の実践
- ⑪ ポストリグ試験の解析目的を理解する
- ⑫ ポストリグ試験結果について理解を深める
- ⑬ ロガー分析、データによる車両変化予測、各センサの役目・作動
- ⑭ ロガー分析、センサの調整・リセット、センサの種類
- ⑮ プレゼンテーション
- ⑯ チームで協力しあい S-FJ の整備、走行

【学習到達目標】

1. 車両セッティングについて、意見を提案できる。
2. ログインデータ処理ができる。
3. セッティングの論理的裏付け計算ができる。
4. 下級生への指示・指導ができる。
5. 車両の構造を理解し、整備が出来る

【成績評価の方法】

成績は、80%以上出席した者を対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

・学期末確認テスト(60%)　・逐次レポート(20%)　・研修参加状況・取り組み姿勢(20%)

【教科書】

授業に沿った参考資料を逐次配布します。ファイルに綴じ、整理・管理を行ってください。学生サーバにモータースポーツ関連の資料・教材を格納します。自由に利用してください。

【参考書・参考文献】

Engineer to Win (Smith Carroll, Motorbooks Workshop)

Tune to Win (Smith Carroll, Motorbooks Workshop)

車両運動性能とシャシーメカニズム (宇野高明 著, グランプリ出版)

レーシングエンジンの徹底研究 (林 正義 著, グランプリ出版)　その他多数。

※ 図書館にも多くの専門書が揃っています。大いに活用し知識を深めてください。

【履修上の注意】

指導教員の指示に従い、安全第一で行動してください。

『ノート』は常に携帯し、指示されたこと、気付いたこと、思ったことを逐次書き留めるようにしてください。

【履修者の遵守事項】

常に安全を心掛けてください。実習作業を伴う時は、指定された実習服を着用します。

学外で活動する場合は、常に中日本自動車短期大学 MSE 学科の学生であることを自覚し、大学生らしい常識と規律のある行動をしましょう。

【質問への対応方法】

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 随時可能 | <input type="checkbox"/> オフィスアワー (放課後 担当教員) |
| <input type="checkbox"/> E-mail (mse@nakanihon.ac.jp) | <input type="checkbox"/> その他 () |

【受講者数調整方法】

サーキットでのピット研修は人数に制限があり、受講状況や過去の参加状況を考慮し、定員を超える場合は抽選で決定します。

【関連講義】

モータースポーツ概論, モータースポーツ演習 I・II・IV, 卒業研究

科目名	モータースポーツ演習Ⅳ Motor Sports IV	M 必修	単位数
			4
担当教員	MSE 担当教員	開設期	
		3年春	
<p>【科目の概要】 車の「走る」「曲がる」「止まる」の基本動作をモータースポーツを通して学習します。『最も速く』『最も安全に』を实践できる知識、技術および考え方を習得します。 スーパーFJやカートのレース・テストを通して知識・技術の理解・習得を更に深めるとともに、応用力・発想力・決断力など実戦（社会）に必要な資質やコミュニケーション能力を身に着けます。また、経験値を積み重ね、更にスキルアップを図ります。 加えて、組織力向上のために、これまでの経験を生かしてリーダーシップを発揮できるようにします。この演習では、セッティングの方向性を決め、後輩への指導・指示を行うと共に、担当作業の完成度・安全面に全責任を負えるようになってもらいます。</p> <p>【授業計画】 ① オリエンテーション ② ② ③ ④ ⑤ S-FJ エンジン実習・S-FJ エンジン作成・概要説明・準備 S-FJ エンジン分解・計測・S-FJ エンジン組み立て・調整 S-FJ エンジン測定・テスト・動力実験 データ作成 S-FJ レーシングカー走行前準備 主要部品の脱着・分解・調整 電装系の確認 ロガーの動作確認 エンジン始動 トラブルシューティング スパナチェック 記録・管理の付け方 ③ ⑥ S-FJ 実走 鈴鹿サーキット ④ ⑦ 走行性能基礎① 各測定データの分析 走行性能基礎② 測定・走行データを基にグラフ作成 ⑤ ⑧ S-FJ 走行後 アフターメンテナンス、管理 ⑥ ⑨ S-FJ 実走 鈴鹿サーキット ⑦ ⑩ S-FJ 実装後 アフターメンテナンス、管理 ⑧ ⑪ S-FJ 実走 鈴鹿サーキット（鈴鹿クラブマン参戦） ⑨ ⑫ ⑬ S-FJ 実装後 アフターメンテナンス、管理 ⑩ ⑭ S-FJ 走行まとめ 各種データを使用したプレゼンテーション ⑪ ⑮ まとめ モータースポーツ演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳのまとめ ※ 人数により、グループごと授業計画を前後に移動する場合があります。</p> <p>【学習目標】 ① ②③④⑤ S-FJ エンジンの作成工程の理解 動力実験の理解と取得データの分析ができる ⑥サーキットでの実体験 ⑦データを基にして、車両の走行状態・パワートレインのバランス等の重要性を理解する ⑧レーシングカーの管理 メンテナンス セッティング ⑨サーキットでの実体験 ⑩レーシングカーの管理 メンテナンス セッティング ⑪レースを通じてサーキットでの実体験 ⑫⑬レーシングカーの管理 メンテナンス セッティング ⑭データに基づいた、プレゼンを実地する ⑮モータースポーツ演習のまとめ</p>			

【予習と復習】

予習：次回内容を担当教員より明示するので、次回授業までに参考書・参考文献に目を通し、自分なりに理解するようにしなさい。

復習：授業で行った事について参考書・参考文献で確認する。

【課題】

演習・レポート等を必要に応じて出します。指定された期日までに提出してください。

【学習到達目標】

1. レースマネジメント（天候等を考慮した戦略）を立案できる。
2. 車両セッティングの方向性を決めることができる。
3. ロギングデータの解析ができる。
4. セッティングの論理的裏付け計算を元に、仕様変更ができる。
5. 下級生への指示・指導および安全面への配慮ができる。

【成績評価の方法】

成績は、80%以上出席したものを対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

「学期末確認テスト」「逐次レポート」「研修参加状況」「取り組み姿勢」による総合的評価。

【教科書】

授業に沿った参考資料を逐次配布します。ファイルに綴じ、整理・管理を行ってください。学生サーバにモータースポーツ関連の資料・教材を格納します。自由に利用してください。

【参考書・参考文献】

車両運動性能とシャシーメカニズム（宇野高明 著，グランプリ出版）

レーシングエンジンの徹底研究（林 正義 著，グランプリ出版） その他多数。

※ 図書館にも多くの専門書が揃っています。大いに活用し知識を深めてください。

【履修上の注意】

指導教員の指示に従い、安全第一で行動してください。

『ノート』は常に携帯し、指示されたこと、気付いたこと、思ったことを逐次書き留めるようにしてください。

【履修者の遵守事項】

常に安全を心掛けてください。実習作業を伴う時は、指定された実習服を着用します。

学外で活動する場合は、常に中日本自動車短期大学 MSE 学科の学生であることを自覚し、大学生らしい常識と規律のある行動をしましょう。

【質問への対応方法】

オフィスアワー（講義空き時間）

E-mail (mse@nakanihon.ac.jp)

【受講者数調整方法】

サーキットでのピット研修は人数に制限があり、受講状況や過去の参加状況を考慮し、定員を超える場合は抽選で決定します。

【関連講義】

モータースポーツ概論，モータースポーツ演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ，卒業研究

科目名	人間工学 Human Technology	M 必修	単位数 2
担当教員	森本 一彦	開設期 2年	
<p>【科目の概要】 本授業では、主に事故におけるヒューマンエラーについて学習します。 人間は必ずミスを犯します。では、何故人間はミスを犯すか、どうしたらミスを減らせるか、そしてミスを犯した場合はどのように対処するかについて学習します。それにより、普段の社会生活において無意識のうちにリスク回避ができるよう、人間力を向上させます。</p> <p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 事故とヒューマンエラー 1 ② 事故とヒューマンエラー 2 ③ 事故とヒューマンエラー 3 ④ ヒューマンエラーの種類 1 ⑤ ヒューマンエラーの種類 2 ⑥ ヒューマンエラーの種類 3 ⑦ ヒューマンエラーの発生 1 ⑧ ヒューマンエラーの発生 2 ⑨ ヒューマンエラーの発生 3 ⑩ ヒューマンエラーの発生 4 ⑪ ヒューマンエラーの発生 5 ⑫ ヒューマンエラーの発生 6 ⑬ ヒューマンエラーの抑制対策 1 ⑭ ヒューマンエラーの抑制対策 2 ⑮ ヒューマンエラーの抑制対策 3 <p>上記内容について、事例検証を交えた授業を実施します。</p> <p>【予習・復習】 講義内容の性質上、普段の生活の中で常に危機意識を持ってリスク回避できるように気を付けましょう。従って、特段の指示はしませんが、授業内容をよく理解し、安全な生活を送ってください。また、万一の時は、適切に行動してください。</p> <p>【学習到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事故とヒューマンエラーの関係を理解している。 2. ヒューマンエラーの種類を理解している。 3. ヒューマンエラーの発生メカニズムを理解している。 4. ヒューマンエラーの抑制対策を理解している。 5. ミスを犯さない生活を過ごせる。 6. ミスを犯した場合は、適切な行動がとれる。 <p>【成績評価の方法】 成績は、80%以上出席した者を対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験（50%）、 ・小論文（50%） 			

【参考書・参考文献】

「ヒューマンエラー」 小松原 明哲 著 (丸善株式会社)

【履修上の注意】

【質問への対応方法】

オフィスアワー：基本毎日 12:30～13:20、16:30～19:00、および講義空き時間
場所：305研究室（森本）

E-mail：morimoto@nakanihon.ac.jp

その他 ()

【関連授業】

キャリア・デザイン

科 目 名	エンジン・チューニング Engine Tuning	M	単 位 数
		必 修	1
担 当 教 員	森本 一彦	開 設 期	
		2年 (集中講義)	
<p>【 科 目 の 概 要 】</p> <p>本授業では、自然吸気 (NA) のガソリン・エンジンを中心に出力向上のためのチューニング理論を解説します。加えて、過給エンジン (ターボチャージャ) のチューニングにおける勘所も併せて講義します。(集中講義：2日間)</p> <p>【 授 業 計 画 】</p> <p>① エンジン出力の計算方法・測定方法</p> <p>② エンジン出力向上理論 吸排気抵抗、脈動効果、慣性過給・慣性排気、高回転化、修正係数</p> <p>③ 過給理論 (ターボチャージャの選び方、使い方)</p> <p>④ トラブル・シューティング</p> <p>【 予 習 ・ 復 習 】</p> <p>本講義は、集中講義として実施しますので、特に予習は必要ありませんが、それまでの受講科目 (参照：下記関連科目) の内容を理解していなければなりません。また、受講レポート作成に当たっては、本授業内容をどこまで理解したかを問いますので、レポートは復習のつもりで作成してください。</p> <p>【 学 習 到 達 目 標 】</p> <p>1. エンジンの出力測定の方法について説明できる。</p> <p>2. エンジンの出力向上の方法全般について説明できる。</p> <p>3. 慣性効果について説明できる。</p> <p>4. 脈動効果について説明できる。</p> <p>5. 修正係数について説明できる。</p> <p>6. 過給 (ターボ) の特性 (圧力比、A/R) について説明できる。</p> <p>【 成 績 評 価 の 方 法 】</p> <p>成績は、80%以上出席した者を対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。</p> <p>・受講レポート (100%)</p> <p>【 教 科 書 】</p> <p>配布資料「How to Get more Power」で解説します。</p> <p>【 参 考 書 ・ 参 考 文 献 】</p> <p>レーシングエンジンの徹底研究 林 義正 著 グランプリ出版</p> <p>【 質 問 へ の 対 応 方 法 】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> オフィスアワー：基本毎日 12:30~13:20、16:30~19:00、および講義空き時間 場所：305研究室 (森本)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> E-mail：morimoto@nakanihon.ac.jp</p> <p>【 関 連 授 業 】</p> <p>自動車原動機 I~IV、モータースポーツ概論、モータースポーツ演習 I~III</p>			

科 目 名	自動車電子制御工学 Automotive Electronic-control	M	単 位 数
		選択	2
担 当 教 員	大脇 澄男	開 設 期	
		2 年	
<p>【 科 目 の 概 要 】</p> <p>現在の自動車は走るエレクトロニクスと言われるほどエレクトロニクス技術が応用されている。自動車の走る、曲がる、止まる、の基本性能には勿論のこと、安全性や快適性さらには大気汚染や地球温暖化に対する技術にもエレクトロニクスが応用されている。従って、現在の自動車の理解にはエレクトロニクスの知識が欠かせない。本講座では、はじめてエレクトロニクスを学習する人を対象に、カーエレクトロニクスについて分かりやすく解説する。</p> <p>【 授 業 計 画 】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 半導体と I C の発明 ② エレクトロニクスの自動車への応用 ③ システムの分析：システムのモデル化 ④ 半導体素子 ⑤ トランジスタ増幅回路：デジタル回路 ⑥ μ コンピュータの基礎：計測・制御システムにおける μ コンピュータ ⑦ センサーと制御用アクチュエータ ⑧ エンジンの電子制御システムの概念と制御方式 ⑨ 総合的エンジン制御システム ⑩ タイヤスリップ制御：ブレーキスキッド制御 ⑪ ヨーコントロール ⑫ 入出力信号処理・サンプリング ⑬ 自己診断 ⑭ 多重伝送：車内 L A N ⑮ I T S ワールド <p>【学習到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 集積回路について理解する 2. システムについて理解する 3. μ コンピュータの概要について理解する。 4. μ コンピュータを使った制御の方法について理解する 5. 車内 L A N について説明できる 6. I T S について説明できる <p>【予習・復習】</p> <p>予習とは事前情報の入手、復習とは授業で行った事の確認です。予習と復習を各 90 分以上目安とし、取り組んでください。特に復習に重点をおき、講義後のノートの記述事項を見直すなど、内容の理解を深めること。</p> <p>【履修上の注意・学習上の助言】</p> <p>質問する等、積極的に講義に参加すること。講義ノートを取り、レポート課題に取り組めるよう、その日のうちに講義の要点を整理しておく。</p>			

【成績評価の方法】

成績は、80%以上出席した者を対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

レポート（50点）、中間試験（20点）、定期試験（30点）。

*レポートは必ず提出すること

【教科書】

教科書は使用しない。適宜、プリント等の講義資料を配付する

【質問への対応方法】

オフィスアワー：月曜日 11:30～13:20 1号館3階312 工学教育研究室

その他（ ）

科目名	自動車新素材 New Materials for Automobile	M 選択	単位数 2
担当教員	高行男	開設期 2年	
<p>【科目の概要】</p> <p>自動車の製造はもとより自動車技術の革新に材料の果たす役割は重要です。材料があり、それを加工して初めて部品となりますので、材料とその加工はもの造りの基礎とも言えます。部品の機能向上や自動車に対する時代の要求により、素材・材料は新たに開発されます。そこで、新素材の基礎知識の習得とともに受講者が好きな材料や好きな部品、さらには好きな車に対し使用材料や材料の代替に関する調査報告書を課題とし、自動車において材料の果たす役割の重要性を認識できるようにします。</p> <p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 自動車を構成する材料と新素材 ② 金属材料・鉄鋼 ③ 鉄鋼材料の高強度化 ④ 鉄鋼材料の高機能化 ⑤ 非鉄金属材料 ⑥ 非鉄金属材料・軽金属 ⑦ 焼結金属 ⑧ 非金属材料 ⑨ 非金属材料・プラスチック ⑩ 非金属材料・ガラス ⑪ 非金属材料・セラミックス ⑫ 複合材料・繊維強化プラスチック ⑬ 複合材料・繊維強化金属 ⑭ 量産車VSレース車 ⑮ 材料特性を表す単位 			

【学習到達目標】

- 1.自動車を構成する材料を理解できる。
- 2.自動車を構成する材料の変遷を理解できる。
- 3.鉄とアルミの特性の違いを理解できる。
- 4.鉄とアルミの進化を理解できる。
- 5.樹脂ウインドウとガラスの違いを理解できる。
- 6.自動車におけるセラミックスの重要性を理解できる。
- 7.複合材料の特性を理解できる。

【予習・復習】

事前に教科書の該当箇所を一読しておくこと。講義後、ノートの記述事項や教科書を再度確認し、内容の理解を深めること。疑問がある場合には、講義前に報告してください。

【成績評価の方法】

成績は、80%以上出席した者を対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

- ・定期試験（60%）
- ・学習態度（20%）
- ・レポート（20%）

【教科書】

自動車材料入門、高行男 著（東京電機大学出版局）2009

【参考書・参考文献】

アルミVS鉄ボディ、高行男 著、山海堂
自動車素材の変遷、高行男、自動車工業会、Vol.40(2006)
自動車と材料の変遷、高行男、アルミニウム協会、Vol.13(2006)
自動車の衝突安全と材料、高行男、工業材料、Vol.55(2007)

【履修上の注意】

材料の基礎知識の習得が基本です。理解不足の点は内容・説明を補足して講義を進めますので、疑問があれば講義の前に提出してください。

【質問への対応方法】

- オフィスアワー：毎週水曜日 12:00～13:20 工学第1準備室（3号館1階）
- E-mail（ko@nakanihon.ac.jp）

【履修者数調整方法】

【関連授業】

自動車材料学，材料力学

科 目 名	二輪自動車工学 Motorcycle Engineering	M	単 位 数
		選択	2
担 当 教 員	五十嵐 巧	開 設 期	
		2 年	
<p>【 科 目 の 概 要 】</p> <p>我が国が、世界一の二輪車生産国になって 50 年以上たちます。 その二輪車の歴史に触れ、専門的な知識を学び、より二輪車を好きになってもらいたいと思います。二輪車の構造は、四輪車に共通する部分が数多くあります。 本講義では、1 年次に履修した自動車原動機 I・II、自動車構造 I・II を基に、二輪車固有のものを中心に学習します。又、現在四輪自動車では使われなくなった、キャブレータや 2 サイクル・エンジンについても学習します。 授業においては、画像等を使用し構造・作動が理解しやすい授業を行います。又、時間の許す限り学生諸君の意見を取り入れ教科書以外のもの（新・旧技術等）についても行っていきたいと思います。授業を通し二輪自動車に対する見聞を広めてもらいたいと思います。</p> <p>【 授 業 計 画 】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンスと二輪自動車の概要，歴史と発達，性能 ② エンジン本体 4 サイクル・エンジン ③ エンジン本体 2 サイクル・エンジン ④ 潤滑装置，冷却装置 ⑤ 燃料装置 キャブレータ ピストン・バルブ型 ⑥ 燃料装置 キャブレータ CV 型 他 ⑦ 吸排気装置 ⑧ 動力伝達装置 クラッチ ミッション ⑨ 動力伝達装置 自動無段変速 ⑩ アクスル及びサスペンション ⑪ ステアリング及びブレーキ装置 ⑫ 二輪自動車の運動特性 ⑬ 始動装置，充電装置，点火装置，計器 ⑭ 検査，故障原因探求 ⑮ 全体のまとめ，質疑応答 ⑯ 定期試験 			

【学習到達目標】

1. 二輪自動車の歴史・発達について説明できる。
2. 4サイクル・エンジンと2サイクル・エンジンの違いが説明できる。
3. エンジン関係の各装置（潤滑，冷却，燃料，吸排気）について説明できる。
4. 動力伝達装置（クラッチ，ミッション，自動無段変速など）について説明できる。
5. アクスル及びサスペンション，ステアリング及びブレーキ装置について説明できる。
6. 二輪車の運動特性について説明できる。
7. 電気装置（始動，充電，点火，計器）について説明できる。

【成績評価の方法】

成績は，80%以上出席した者を対象とし，学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

- ・定期試験（50%）　　・小テスト（30%）　　・レポート（20%）

【教科書】

三級二輪自動車　（(社)日本自動車整備振興会連合会）

二級二輪自動車　（(社)日本自動車整備振興会連合会）

【参考書・参考文献】

三級ガソリン・エンジン（(社)日本自動車整備振興会連合会）

二級ガソリン・エンジン（(社)日本自動車整備振興会連合会）

【履修上の注意】

毎回の授業にノートを持参すること。

欠席，遅刻，早退の無いように心がけること。

【質問への対応方法】

- 随時可能 オフィスアワー 5L23 準備室（月～木曜日 16:30～17:00）
- E-mail (igarashi@nakanihon.ac.jp) その他（ ）

【履修者数調整方法】**【関連授業】**

二輪自動車整備実習Ⅰ，二輪自動車整備実習Ⅱ

科 目 名	二輪自動車整備実習 I Workshop Practice in Motorcycle I	M	単 位 数
		選択	2
担 当 教 員	五十嵐 巧	開 設 期	
		3 年春	
<p>【 科 目 の 概 要 】</p> <p>二輪車自動車の基礎的な整備技術を習得します。教材車に（ホンダ CD50S）を使用し、全て分解を行い、構造・機能の確認をし、点検・組み付け後にエンジン始動・試運転までを行います。また、2サイクル・エンジン、ベルト式無段変速機についても分解・構造・機能の確認、組み付けを行います。履修後には、一人で二輪車の分解・組み付けができるように取り組んでください。また、実社会に出ても対応できる即戦力を身につけて下さい。</p> <p>【 授 業 計 画 】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 実習授業内容の説明，安全実習について ② 分解前の点検，エンジンの取り外し ③ エンジン&ミッションの分解 ④ エンジン&ミッション各部の点検及び測定 ⑤ 〃 ⑥ エンジン&ミッションの組み付け ⑦ 〃 ⑧ 〃 ⑨ エンジン始動及びエンジン調整 ⑩ サスペンションの分解，構造機能の確認 ⑪ サスペンションの組み付け ⑫ 各種点検・調整，走行テスト ⑬ ベルト式無段変速機の分解，構造・機能の確認，組み付け ⑭ 2サイクル・エンジンの分解・組み付け ⑮ 全体のまとめ ⑯ 定期試験 			

【学習到達目標】

1. 正しい工具の使い方，安全実習ができる。
2. エンジン，ミッションの分解・組み付け，構造・作動について説明できる。
3. サスペンションの分解・組み付け，構造・作動について説明できる。
4. 各種点検・調整，走行テストができる。
5. ベルト式無段変速機の分解・組み付け，構造・機能について説明できる。
6. 2サイクル・エンジンの分解・組み付け，構造・作動について説明できる。

【成績評価の方法】

成績は，80%以上出席した者を対象とし，学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

・実技試験 (50%) ・授業中の取り組み (30%) ・レポート (20%)

【教科書】

必要に応じて資料配布

【参考書・参考文献】

サービスマニュアル CD50S (本田技研工業)
 三級二輪自動車 ((社) 日本自動車整備振興会連合会)
 二級二輪自動車 ((社) 日本自動車整備振興会連合会)

【履修上の注意】

必ず決められた服装で受講して下さい。

筆記用具も持参して下さい。

実習作業中は，実社会を想定し取り組んで下さい。

【質問への対応方法】

随時可能 オフィスアワー 5L23 準備室 (月~木曜日 16:30~17:00)
 E-mail (igarashi@nakanihon.ac.jp) その他 ()

【履修者数調整方法】

履修者数は25名です。調整方法は既得単位及び個人面談の上決定します。

【関連授業】

二輪自動車工学，二輪自動車整備実習Ⅱ

科 目 名	二輪自動車整備実習Ⅱ Workshop Practice in MotorcycleⅡ	M 選択	単 位 数 2
		開 設 期 3 年秋	
担 当 教 員	五十嵐 巧		
<p>【 科 目 の 概 要 】</p> <p>二輪車の基礎的な整備技術は二輪自動車整備実習Ⅰで習得し、本講義では、更に進んだ内容で、400ccクラス（HONDA CB400SF）の実習車を使い以下の授業計画内容でおこないます。二輪自動車整備実習Ⅰ同様に、実社会に対応できる教育を目標とします。</p> <p>的確な故障診断が出来る様にします。又、完動品を分解して組み立てるだけでなく、不動品を修理・再生できる技術力を身に付けます。</p> <p>【 授 業 計 画 】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 実習授業内容の説明，安全実習について ② 分解前の点検，燃料装置（キャブレータ）の取り外し ③ キャブレータの分解・構造・機能の確認 ④ キャブレータの組み付け、調整 ⑤ 多気筒エンジン（シリンダ・ヘッド）の分解 ⑥ 可変バルブ機構の分解，構造・機能の確認 ⑦ シリンダーヘッドの組み付け ⑧ 多気筒エンジンのキャブレータ調整 ⑨ サスペンションの分解、構造・作動の確認 ⑩ サスペンションの構造・作動の確認及び組み付け ⑪ タイヤ交換、及びパンク修理 ⑫ 各種点検・調整，走行テスト ⑬ スポーク・ホイールの組み替え・調整 ⑭ // ⑮ 故障診断 ⑯ 定期試験 			

【学習到達目標】

1. 正しい工具の使い方, 安全実習ができる。
2. キャブレータの分解・組み付け、調整ができ構造・作動について説明できる。
3. 多気筒エンジンの分解・組み付けができ, 構造・作動について説明できる。
4. サスペンションの分解・組み付けができ, 構造・作動について説明できる。
5. タイヤ交換、及びパンク修理ができる。
6. 各種点検・調整, 走行テストができる。
7. スポーク・ホイールの組み替え・調整ができる。
8. 故障診断ができる。

【成績評価の方法】

成績は、80%以上出席した者を対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

- ・実技試験 (50%) ・授業中の取り組み (30%) ・レポート (20%)

【教科書】

必要に応じて資料配布

【参考書・参考文献】

サービスマニュアル CB400SF (本田技研工業)
三級二輪自動車 ((社) 日本自動車整備振興会連合会)
二級二輪自動車 ((社) 日本自動車整備振興会連合会)

【履修上の注意】

必ず決められた服装で受講して下さい。
筆記用具も持参して下さい。
実習作業中は、実社会を想定し取り組んで下さい。

【質問への対応方法】

- 随時可能 オフィスアワー 5L23 準備室 (月~木曜日 16:30~17:00)
 E-mail (igarashi@nakanihon.ac.jp) その他 ()

【履修者数調整方法】

履修者数は25名です。調整方法は既得単位及び個人面談の上決定します。

【関連授業】

二輪自動車工学, 二輪自動車整備実習 I

科目名	ボデーリペア技術 Technique of Body Repair	M 選択	単位数 2
担当教員	森 光弘	開設期 3年	
<p>【科目の概要】</p> <p>車体整備の基礎となる車体の構造，事故車の損傷診断，フレーム修正法，板金法，塗装法などを広く講義します。特に車体整備士に興味を持つ学生には，そのガイド的な役割となるよう，車体整備技術の基礎を平易に解説するよう配慮しています。</p> <p>また，講義全般を通して「自動車の安全性」について考察できるようにし，自動車技術者として知っておくべき衝突安全機構や人命保護のための諸装備について講義します。</p> <p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 概要 車体工学で学ぶこと，車体整備とは ② 自動車車体の材料 鉄鋼，鋼板，鋼の性質，新素材 ③ モノコック・ボデー プレス加工技術，モノコック・ボデーの構造，衝突安全ボデー ④ 自動車の安全 「クラッシュ 検証 自動車事故 安全の死角」(ビデオ) ⑤ 自動車の強度，力学 はり，反力，曲げモーメント，荷重分布 ⑥ 損傷診断 目的，衝突の形態，運動の法則，衝突速度の推定，損傷の構造的診断 ⑦ 車体の計測 計測の基準，計測法の分類，比較測定，データ測定，ホイール・アライメント ⑧ フレーム修正 油圧機器，フレーム修正機，修正の方法，パネル交換，切り継ぎ工法 ⑨ 板金 損傷の形態，粗出し，整形，旧塗膜のはく離，凹凸の見分け方，絞り ⑩ 充てん剤 パテ，硬化のしくみ，パテ付け，ハンダ盛り，防錆処理 ⑪ 溶接 ガス溶接，ガス切断，被覆アーク溶接，スポット溶接，MIG 溶接，ろう接 ⑫ 樹脂パーツ，ガラス 樹脂パーツの種類，整形法，CFRP 樹脂の応用，補修，ガラスの種類，製法，脱着 ⑬ 塗装 塗料，樹脂，顔料，溶剤，乾燥機構，新車の塗装，補修塗装，塗装欠陥 ⑭ 新車の塗装，補修塗装，塗装欠陥 ⑮ 車体工学の総括 車体工学で講義した内容のまとめ 			

【予習と復習】

予習とは、事前情報の入手です。復習とは、授業で行った事の確認です。予習と復習を各 90 分以上目安とし、取り組んでください。

【課題】

課題は演習・レポート等を必要に応じて出します。指定された期日までに提出してください。添削等総括は授業内で行います。

【学習到達目標】

1. 車両外板名称が書ける。
2. 車両に使用される樹脂パーツ名が書ける。
3. フレーム修正機の種類と特徴が書ける。
4. ガラスの種類と使用部位及び特徴が書ける。

【成績評価の方法】

成績は、80%以上出席したものを対象とし、学習到達目標に基づいて、定期試験（80%）、授業への取り組み姿勢（10%）、レポート（10%）にて評価します。

【教科書】

自動車整備技術 車体整備 日本自動車車体整備協同組合連合会

【参考書・参考文献】

THE 钣金パーフェクトマニュアル（株）プロトリオス

【履修上の注意】

教室内では指導教員の指示に従ってください。教室内で携帯電話を使用しないこと。教室からの無断退出は欠席扱いとします。教科書、筆記用具を持ってこない者は欠席扱いとします。遅刻者は、その理由を報告してから着席してください。

【質問への対応方法】

- オフィスアワー月～金曜日 16:30～17:00、および講義空き時間 8号館事務室
- E-mail (mori@nakanihon.ac.jp)

【受講者数調整方法】

基本的に受講者の調整は行いません。

【関連講義】

ボデーリペア実習

科目名	ボデーリペア実習 Workshop Practice of Body Repair	M 選 択	単 位 数
			2
担当教員	森 光弘 可知陽之郎	開 設 期	
		3 年	
<p>【 科 目 の 概 要 】 車体整備に用いる工具，機器類の基本的な取扱い，車体整備全般にわたる初歩的な車体整備技術の体験を行います。また実習のなかで課題作品、課題作業などを必要に応じて出します。指定された期日までに提出または完成させてください。</p> <p>【授業計画】</p> <p>① 計測 ボデー構成部位の確認 溶接 ガス溶接による薄板溶接の基礎</p> <p>② 計測 可搬式計測装置による車体寸法の計測 溶接 炭酸ガスシールドアーク溶接の取扱い</p> <p>③ 計測 フレーム修正機による車体損傷の計測 溶接 炭酸ガスによる薄板溶接の基礎</p> <p>④ 計測 ボデー修正機器の構造と取扱い 溶接 スポット溶接機による溶接の基礎</p> <p>⑤ 計測 車体損傷診断の基礎，修正計画 溶接 車体整備における溶接作業の基礎</p> <p>⑥ 板金 外板パネルの損傷作成と粗だし作業</p> <p>⑦ 板金 ハンマーとドリリーによる板金整形作業</p> <p>⑧ ”</p> <p>⑨ 板金 熱絞りとならし作業による板金仕上げ</p> <p>⑩ ”</p> <p>⑪ 塗装 損傷部のパテ充填による整形</p> <p>⑫ 塗装 塗装面の下地処理</p> <p>⑬ 塗装 中塗り工程</p> <p>⑭ 塗装 上塗り準備作業及び調色（ソリッド・カラー）</p> <p>⑮ 塗装 上塗り・仕上げ</p> <p>【予 習】 当該実習終了時に次回内容を示すキーワードを担当教員より明示するので、次回実習までにオフィスアワー（質問への対応）などを利用しながら、参考書・参考文献なども使用し、次回作業の作業手順をメモするなどして、備えておくこと。所要時間は60分以上を目処とします。</p> <p>【復 習】 当該実習後、作業した内容などをノートにまとめ、自分なりに理解を深めなさい。所要時間は60分以上を目処とします。</p>			

【課題】

課題としてレポートなどを必要に応じて指示します。指定された期日までに提出してください。

解説・総括は、授業内で適宜行います。

個別対応は別途行います。(下記、質問対応参照)

【学習到達目標】

1. ボデーリペアに使用する工具，機器名がわかる。
2. フレーム修正機の特徴がわかる。
3. 溶接の種類が特徴がわかる。
4. 板金の要領がわかる。
5. 塗装の要領がわかる。

【成績評価】

成績は、80%以上出席した者を対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

作品（70%） レポート（10%） 授業の取り組み姿勢，（20%）で総合的に評価します。

【教科書】

自作資料

【参考書・参考文献】

車体整備（社）日本自動車車体整備協同組合連合会）

基礎自動車工学（社）日本自動車整備振興会連合会）

基礎自動車整備作業（社）日本自動車整備振興会連合会）

【履修上の注意】

実習場内では指導教員の指示に従ってください。身なり（実習服等）をきちんと着用すること。実習場からの無断退出は欠席扱いとします。ノート，筆記用具を必ず持参すること。遅刻者は、その理由を報告してください。

【質問への対応方法】

オフィスアワー：（月～金曜日 16：30時 ～ 17：00 および講義空き時間）

場所 8号館事務室

E-mail：mori@nakanihon.ac.jp（森）、kachi@nakanihon.ac.jp（可知）

【受講者数調整方法】

基本的に受講者数の調整は行いません。

【関連講義】

ボデーリペア技術

科目名	卒業研究 Graduation work	M 必修	単位数 2
担当教員	MSE 担当教員	開設期 3年(通年)	
<p>【科目の概要】 モータースポーツエンジニアリング学科で培った「知識」「技能」「興味分野」の総括と後輩への引き継ぎとして、グループまたは個人が選んだテーマについて更に深く研究し、その成果を論文として取り纏め、研究内容を発表できるようになる。</p> <p>【授業計画】 秋学期全期間にわたり、選択テーマについて研究活動を行う。研究の内容は逐次記録し、週1回のミーティングでは、その進捗状況を学年全体にプレゼンテーションして情報交換や意見交換を実施する。2月の定期試験中、「MSE 研究発表会」として成果を報告する。 ※ 各研究には本学教員が1名以上、指導教員として割り振られる。 ※ 基礎研究として、授業開始時期以前に研究テーマを模索する。</p> <p>【学習目標】 研究や発表体験を積み重ねることにより、課題解決力、目標達成力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力などの社会性を涵養する。また、自身が得た経験や知識を集約することによる達成感を得ることを目標とする。</p> <p>【学習到達目標】 研究成果を文書として残し、PowerPoint を使ったプレゼンテーションができる。</p> <p>【成績評価の方法】 研究内容、研究成果、取り組み姿勢、参加者全員による採点結果を総合的に加味して評価します。</p> <p>【教科書】 特にありません。</p> <p>【参考書・参考文献】 特に指定しません。</p> <p>【履修上の注意】 指導教員の指示に従い、安全第一で行動してください。 『ノート』は常に携帯し、指示されたこと、気付いたこと、思ったことを逐次書き留めるようにしてください。</p> <p>【履修者の遵守事項】 常に安全を心掛けてください。実習作業を伴う時は、指定された実習服を着用します。 学外で活動する場合は、常に中日本自動車短期大学 MSE 学科の学生であることを自覚し、大学生らしい常識と規律のある行動をしましょう。</p>			

【質問への対応方法】

- 随時可能
 E-mail (mse@nakanihon.ac.jp)
- オフィスアワー (特に指定していません)
 その他 ()

【受講者数調整方法】

ありません。

【関連講義】

モータースポーツ概論, モータースポーツ演習 I・II・III・IV

科 目 名	モータースポーツインターンシップ Motor Sports Internship	M	単 位 数
		選択	1
担 当 教 員	派遣先の教育担当者（単位認定は MSE 学科長）	開 設 期	
		1年～3年 集中	
<p>【科目の概要】 レーシングチーム等のモータースポーツ関連の現場でインターンシップを行う。サーキットにおけるピット作業の補助やチーム・ファクトリーなどでの事前準備作業をチーム担当者の指導の下に実施する。チームごとのレース準備，レース展開，工具や設備の使用方法など，実践現場での作業工程を体験することにより，自身のスキルアップ，社会人としてのコミュニケーション能力の向上を目的とする。</p> <p>【授業計画】 春，夏の長期休暇中の参加，レース開催日のスポット参加などを含め，概ね 4 日以上 of インターンシップ体験により単位が授与される。この間，職業観を醸成するとともにプロの意識を体感し，大人としてのコミュニケーション能力を鍛える。チームとの相互関係が進めば，チームへの就職も視野に入れ，更に長いインターンシップを実施することも可能。</p> <p>【予 習】 インターンシップに入る前に，受け入れ先企業の業務内容，レーシングチームにおいては過去数年のレース実績をチェックする。事前に担当者との連絡手段を確保する。</p> <p>【復 習】 インターンシップ期間中，毎日の作業を日報にまとめ，その日の反省点，疑問点，明日の作業の目標を明確にする。期間終了時には，担当者からのコメントを日報に記載していただく。</p> <p>【課 題】 インターンシップ先担当者から提出される課題を真摯に受け止めて行動に移すこと。</p> <p>【学習到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. チーム・メンバーとのコミュニケーションが取れる。 2. 自分自身のスキルアップが実感できる。 3. 進路を計画するための指標を見つけることができる。 <p>【成績評価】 作業日報等のレポートの提出とインターンシップ先担当者の評価をあわせ，MSE 学科長が総合的に評価する。</p> <p>【履修上の注意】 派遣先のチームは本人の申し出によりインターンシップ受入手続きを行う。 日常の就学状況，チームの事情によっては受入が不可の場合もある。 チームにより受入条件（期間・保険・交通費など）が異なるので，個別に対応する。</p> <p>【質問への対応方法】 派遣までの手続きについては MSE 学科教員に確認する。派遣後は派遣先のインターンシップ担当者に問い合わせる。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> E-mail : fmse@nakanihon.ac.jp (MSE 学科) MSE 学科担当者 講義空き時間 準備室・研究室</p>			

2019（平成31）年度教員担当科目と実務経験

	氏名	担当科目	専攻科	留学生別科	実務経験(5年以上)
		○：1年科目 ◎：2年科目 ◇：実験・実習 ●：補習授業（カリキュム外）	*：講義・演習 ☆：実験・実習	△：講義	
専任教員	1 森本一彦	○自動車原動機Ⅰ 自動車原動機Ⅱ ◎自動車原動機Ⅲ 人間工学			自動車メーカー開発
	2 岩田有正	○自動車電気装置Ⅰ *自動車エンジン制御工学Ⅰ 先端自動車技術Ⅰ 自動車電気・電子回路 ☆自動車高度整備実習Ⅰ 自動車整備実務実習Ⅱ			自動車整備士教育
	3 寺尾裕二	◎自動車電気装置Ⅲ ☆自動車高度整備実習Ⅰ 自動車整備実務実習Ⅱ			自動車整備
	4 鈴木泰成	○キャリアデザインⅠ クラスゼミ *自動車システム故障診断法Ⅰ ☆自動車整備実務実習Ⅰ 自動車高度整備実習Ⅰ 自動車整備実務実習Ⅱ			自動車整備
	5 森光弘	◎モータースポーツ演習Ⅱ ◇ボデーリペア実習 *車体構造Ⅲ ☆ボデーリペア実習Ⅰ フェラーリ実習(集中) カスタマイズⅠ(集中)			自動車整備
	6 可知陽之郎	◎モータースポーツ演習Ⅱ ◇ボデーリペア実習 ☆ボデーリペア実習Ⅰ			自動車板金・自動車整備
	7 的野大樹	◎自動車工学演習 クラスゼミ モータースポーツ演習Ⅱ *車体修復技術 ☆ボデーリペア実習Ⅰ			自動車整備
	8 ◆相庭誠夫	○自動車構造Ⅰ 自動車構造Ⅱ			自動車整備
	9 五十嵐巧	◇自動車整備実習Ⅲ ◎二輪自動車工学 ◇二輪自動車整備実習Ⅰ クラスゼミ			自動車整備
	10 國井伯昭	◇自動車整備実習Ⅰ ○自動車原動機Ⅰ ◎自動車工学演習 クラスゼミ			
	11 長谷貴道	◇自動車整備実習Ⅰ ◎自動車工学演習 モータースポーツ演習Ⅳ クラスゼミ			自動車整備
	12 清水啓司	◇自動車整備実習Ⅰ ◎モータースポーツ演習Ⅱ カスタマイズⅡ(集中)			
	13 横井隆治	◇自動車整備実習Ⅱ ○キャリアデザインⅠ クラスゼミ			
	14 後藤寛宜	◇自動車整備実習Ⅱ ○キャリアデザインⅠ ◎自動車原動機Ⅳ クラスゼミ			自動車整備
	15 成瀬俊哉	◇自動車整備実習Ⅱ ○キャリアデザインⅠ 自動車構造Ⅰ クラスゼミ			自動車整備
	16 林文明	◇自動車整備実習Ⅲ ○キャリアデザインⅠ クラスゼミ			自動車整備
	17 藤田英樹	◇自動車整備実習Ⅲ ◎自動車工学演習 クラスゼミ			自動車整備技術指導員
	18 栗木江一	◇自動車整備実習Ⅳ ○キャリアデザインⅠ クラスゼミ ◎自動車構造Ⅲ			自動車整備
	19 高橋正則	◇自動車整備実習Ⅳ *自動車エンジン制御工学Ⅰ ○自動車構造Ⅱ			
	20 久世康司	◇自動車整備実習Ⅳ ◎自動車工学演習 クラスゼミ ○自動車構造Ⅱ			自動車整備
	21 神野恭兵	◇自動車整備実習Ⅰ ◎自動車工学演習 クラスゼミ			
	22 青木恒夫	○自動車電気装置Ⅰ モータースポーツ概論 ◎モータースポーツ演習Ⅳ			自動車整備
	23 加藤泰世	◎物理学 ○自動車の力学Ⅰ 材料力学 ○自動車の力学Ⅱ			
	24 中川実	◎自動車法規Ⅰ 自動車法規Ⅱ 自動車工学演習 クラスゼミ			自動車整備
	25 中里武彦	○モータースポーツ概論 ◎モータースポーツ演習Ⅳ			自動車整備
	26 長谷川達也	○機械要素・図面 自動車材料学			工作機械設計
	27 及川浩和	○数学 キャリアデザインⅠ ◎情報処理演習			
	28 ◆高瀬利恵子	△日本語特別演習Ⅰ 日本語総合ⅠⅡ 日本語AⅠⅡ ゼミⅠ			
	29 古川竜治	○自動車工学日本語Ⅰ 日本語表現法 △日本語総合ⅠⅡ 日本語DⅠⅡ ゼミⅠ 基礎自動車			
	30 清水勝昭	○自動車工学日本語Ⅱ ◎日本の自動車事情			
非常講師	1 高行男	*車体材料学 ◎自動車新素材			
	2 鈴木敦巳	○英語 ◎工業英語			
	3 脇俊隆	◎自動車原動機Ⅳ			
	4 大脇澄男	◎自動車性能理論 ◎自動車電子制御工学			
	5 西側通雄	◎自動車構造Ⅳ			自動車整備
	6 葛巻香	◎自動車保険論			
	7 小川久	○健康とスポーツ			
	8 清水裕二	カーデザインⅠⅡ(集中)			工業デザイン
	9 伊藤崇人	カスタマイズⅠ・カスタムペイント実習(集中)			商業デザイン
	10 高木香与子	○日本語表現法 ●自動車工学漢字マスター 日本語総合マスターⅠ ○ビジネス英会話演習 △日本語総合Ⅰ・Ⅱ 日本語AⅠ・Ⅱ 日本語特別演習Ⅲ			
	11 蜂須賀三稀	◎英語会話			
	12 吉川せつ	○中国語 ◎経済学			
	13 吉田立	○自動車の力学ⅠⅡ 自動車電気装置ⅠⅡ 自動車の力学Ⅰ 自動車電気装置 ◇自動車電子実験			
	14 狭石恵美	◎CAD演習			PC関連技術
	三鴨愛奈	◎CAD入門			PC関連技術
	15 本田有子	△日本語BⅠⅡ 日本語CⅠⅡ 日本語特別演習Ⅲ ゼミⅡ 日本語総合ⅠⅡ ●自動車工学漢字マスター 日本語総合マスターⅠ ○日本語表現法			
	16 青海佳子	△日本語総合ⅠⅡ 日本語BⅠⅡ 日本語CⅠⅡ 日本語EⅠⅡ			
	17 小室輝代	△日本語総合ⅠⅡ 日本語EⅠⅡ 日本語特別演習Ⅲ			
	18 朱薇娜	△日本語総合ⅠⅡ 日本語DⅠⅡ 日本語EⅠⅡ			
19 川畑遥	△日本語総合ⅠⅡ 日本語CⅠⅡ				

別表第1 教育課程

自動車工学科

	授業科目	単位数		卒業要件 単位数	二級 認定科目	備考	
		1年	2年				
一般教養	日本語表現法	②		7		春学期科目	
	数学	2					
	物理学		2				
	化学		2				
	経済学		2				
	英語	2					
	英語会話		2				
	中国語	2					
	健康とスポーツ	①					
	自動車工学日本語Ⅰ	1				留学生指定科目	
	自動車工学日本語Ⅱ	1				留学生指定科目	
	日本の自動車事情		1			留学生指定科目	
	自動車アフターサービス産業概況		1			留学生指定科目	
キャリア開発	キャリアデザインⅠ	①		3		春学期科目	
	キャリアデザインⅡ	①					秋学期科目
	ビジネスマナー演習	1					
	情報処理演習		1				
	インターンシップ		1				夏季、春季集中
	海外研修Ⅰ		1				集中
	海外研修Ⅱ		2				春季集中
単位数の合計	18	11	10				
		29					

モータースポーツエンジニアリング学科

	授業科目	単位数			二級 認定科目	卒業要件 単位数	備考
		1年	2年	3年			
一般教養	日本語表現法	②				12	春学期科目
	数学	2					
	物理学		2				
	化学		2				
	経済学			2			
	英語	②					
	英語会話			②			
	中国語	2					
	健康とスポーツ	①					
	自動車工学日本語Ⅰ	1					留学生指定科目
	自動車工学日本語Ⅱ	1					留学生指定科目
	日本の自動車事情		1				留学生指定科目
	自動車アフターサービス産業概況		1				留学生指定科目
キャリア開発	キャリアデザインⅠ	①			3		春学期科目
	キャリアデザインⅡ		①				秋学期科目
	ビジネスマナー演習	1					
	情報処理演習		1				
	インターンシップ		1				夏季、春季集中
	モービル・ライティング		1				集中
	海外研修Ⅰ		1				集中
海外研修Ⅱ		2			春季集中		
単位数の合計	18	8	4		15		
			30				

専門科目

	授業科目	単位数		卒業要件 単位数	二級 認定科目	備考
		1年	2年			
基礎科目	自動車の力学Ⅰ	②		52	○	
	自動車の力学Ⅱ	②			○	
	自動車材料学	②			○	
	機械要素・図面	②			○	
	機構学		2			
	材料力学	2				春学期科目
自動車工学・自動車整備	流体力学	2			秋学期科目	
	線形代数学		2			
	自動車原動機Ⅰ	②			○	
	自動車原動機Ⅱ	②			○	
	自動車原動機Ⅲ		②		○	
	自動車原動機Ⅳ		2		○	
	自動車構造Ⅰ	②			○	
	自動車構造Ⅱ	②			○	
	自動車構造Ⅲ		2		○	
	自動車構造Ⅳ		2		○	
	自動車電気装置Ⅰ	②			○	
	自動車電気装置Ⅱ	②			○	
	自動車電気装置Ⅲ	②			○	
	自動車法規	②			○	
	自動車整備実習Ⅰ	④			○	
	自動車整備実習Ⅱ	④			○	
	自動車整備実習Ⅲ		4		○	
自動車整備実習Ⅳ		4		○		
自動車工学演習		2		○	通年	
応用科目	自動車先進技術概論	②		76		
	二輪自動車整備実習	2				
	フェラーリ実習	1				集中・海外授業含む
	CAD入門	2				
	自動車の環境と安全性能	2				秋学期科目
	エネルギーシステム研究(エコノパワー)	1				集中
	カーデザインⅠ	1				集中
	カーデザインⅡ		1			集中
	カスタマイズⅠ	1				集中
	カスタマイズⅡ		1			夏季集中
	自動車保険論		2			
特別講義	1					
スポーツカート演習	1			夏季集中		
単位数の合計	36	40	52			
単位数集計	54	51	62			
		105				

* ○数字は必修科目

単位集計	開講単位		卒業要件 単位
	必修	選択	
教養科目	5	24	10
専門科目	36	40	52
合計	41	64	62

専門科目

	授業科目	単位数			卒業要件 単位数	二級 認定科目	備考
		1年	2年	3年			
基礎科目	自動車の力学Ⅰ	②			78	○	
	自動車の力学Ⅱ	②				○	
	自動車材料学	②				○	
	機械要素・図面	②				○	
	機構学			2			
	材料力学	2					春学期科目
自動車工学・自動車整備	流体力学	2				秋学期科目	
	線形代数学			2			
	自動車原動機Ⅰ	②				○	
	自動車原動機Ⅱ	②				○	
	自動車原動機Ⅲ		②			○	
	自動車原動機Ⅳ		2			○	
	自動車構造Ⅰ	②				○	
	自動車構造Ⅱ		②			○	
	自動車構造Ⅲ		2			○	
	自動車構造Ⅳ			2		○	
	自動車電気装置Ⅰ	②				○	
	自動車電気装置Ⅱ	②				○	
	自動車電気装置Ⅲ		②			○	
	自動車法規			②		○	
	自動車整備実習Ⅰ	④				○	
	自動車整備実習Ⅱ	④				○	
	自動車整備実習Ⅲ			④		○	
自動車整備実習Ⅳ			④		○		
自動車工学演習			2		○	通年	
応用科目	自動車先進技術概論			②	78		秋学期科目
	CAD演習		②				
	自動車電子実験			2			
	自動車の環境と安全性能			2			秋学期科目
	エネルギーシステム研究(エコノパワー)			1			集中・海外授業含む
	モータースポーツ概論	②					
	モータースポーツ演習Ⅰ	②					
	モータースポーツ演習Ⅱ			④			
	モータースポーツ演習Ⅲ			④			
	モータースポーツ演習Ⅳ			④			
	エンジン・チューニング		①				集中
	人間工学		②				
	自動車電子制御工学		2				
	自動車新素材		2				
二輪自動車工学		2					
二輪自動車整備実習Ⅰ			2				
二輪自動車整備実習Ⅱ			2				
フェラーリ実習		1			集中		
カーデザインⅠ	1				集中		
カーデザインⅡ		1			集中		
ボデーリペア技術			2				
ボデーリペア実習			2				
カスタマイズⅠ		1			集中		
カスタマイズⅡ			1		夏季集中		
自動車保険論			2				
卒業研究			②		秋学期科目		
特別講義	1						
単位数の合計	36	41	33		78		
			110				
単位数集計	54	49	37		93		
			140				

* ○数字は必修科目

単位集計	開講単位		卒業要件 単位
	必修	選択	
教養科目	9	21	15
専門科目	67	43	78
合計	76	64	93

1. 単位数「1年・2年・3年」の列で各々の学年に単位数が記入されている科目が、各学年の春学期又は秋学期に開講される科目です。
2. 必修科目：卒業時までには修得しなければならない科目です。1科目でも単位が修得できなければ卒業できません。
3. 選択科目：限られた科目の中で自分で選択し、履修する科目です。(各々の項目の卒業要件単位数を確認し、履修してください)
4. 春学期科目・秋学期科目：春学期のみまたは秋学期のみ開講される科目です。
5. 二級認定科目：専門科目の二級認定科目として○が記されている 21 科目 50 単位をさします。
6. 二級認定科目を卒業時までには1科目でも未修得の場合は二級自動車整備士の受験資格はありません。この場合、2年次又は3年次秋学期から開講される二級実技免除講習を受講しても無効となります。
7. 卒業要件：指定された範囲の中から、定められた単位数以上を卒業時までには修得すれば卒業となります。

4

修学について

(自動車工学科・モータースポーツエンジニアリング学科)

目 次

[1]	修学について	146
[2]	修業年限・在学年限・学年・学期	147
	1. 修業年限・在学年限	147
	2. 学年・学期	147
	3. 授業時間	147
	4. 年間行事予定	147
[3]	教育課程	148
	1. 授業科目	148
	2. 授業の方法	148
	3. 単位数	148
	4. 開講時期	149
	5. 二級認定科目	149
[4]	履修	150
	1. 授業時間割	150
	2. 履修科目の登録	150
	3. 出席調査	150
	4. 欠席・遅刻・早退	151
	5. 暴風警報発令時の授業及び試験の処置	151
	6. 履修時間の補充	152
[5]	試験	153
	1. 定期試験	153
	2. 追試験	153
	3. 再試験	153
	4. 試験受験上の注意	154
[6]	成績	155
	1. 成績評価	155
	2. 成績発表	155
	3. 再履修	155

4. GPA (グレード・ポイント・アベレージ)	156
[7] 卒業	158
1. 卒業	158
2. 卒業の制限	158
[8] 学籍	159
1. 退学	159
2. 休学	159
3. 復学	160
4. 除籍	160
春学期授業計画	161
秋学期授業計画	162

〔1〕 修学について

本学での学生生活を有意義かつ円滑に過ごせるように、オリエンテーションが行われます。

このオリエンテーションの中では、修学についても指導します。修学に必要な規則や注意事項等については、学生便覧と講義要綱に集約してありますので熟読して下さい。

大学での修学には、主体性や自主性が不可欠です。学業に対して怠惰であっても、それを直ちに指摘したり、注意する人は大学にはいません。授業科目の選択・手続・履修等に対しても主体性が必要とされ「また聞き」や「人まかせ」といった態度では途中で挫折したり卒業延期になることがあります。本学にはクラス担任制度がありますが、担任は、学生が修学上で困ったり、悩んだりしたときの相談役であり、「自らドアをノックする」姿勢が必要です。

このように大学は、主体的に活動すると大変利用しがいのあるところであり、その反面消極的になると何も与えてくれないところであると最初に述べておきます。

なお、休講・補講・教室変更等の教務的な連絡事項は、すべて掲示板で行うことになっていきますので見落としのないようにして下さい。

[2] 修業年限・在学年限・学年・学期

1. 修業年限・在学年限

修業年限とは、短期大学を卒業するために、学生が最少限度在学すべき年数をいいます。本学の修業年限は2年(3年)です。

在学年限とは、短期大学において、学生が最大限在学できる年数をいいます。本学の在学年限は4年(6年)です。

2. 学年・学期

学年・学期を次のように分けています。なお、その年度によって若干の変更があり、教育計画に明示されます。

学 期	自	至
春 学 期	4 月 1 日	9 月 30 日
秋 学 期	10 月 1 日	3 月 31 日

3. 授業時間

1日の授業時間は、1年間を通じて、次のとおりです。

時 限	時 間
1	9 : 20～10 : 50
2	11 : 00～12 : 30
3	13 : 20～14 : 50
4	15 : 00～16 : 30
5	16 : 40～17 : 20

4. 年間行事予定

詳細については、講義要綱に記載された教育計画を参照して下さい。

※1 学則第4条(修業年限及び在学年限)

※2 学則第5条(学年)

※3 学則第6条(学期)

※4 履修規程第6条(授業時間)

[3] 教育課程

1. 授業科目^{※1}

開設される授業科目は、必修科目と選択科目に分けられています。

○必修科目—本学の教育目的を達成するため、全科目を修得していなければ卒業することはできません。

○選択科目—学生が一定の範囲の中で自由に選択し、修得することのできる授業科目のことですが卒業期までには、^{※3}所定の単位数以上を修得しなければなりません。

2. 授業の方法

授業は、講義、演習、実験、実習及び実技のいずれかの方法、又はこれらの組み合わせにより行われます。

○講義—教員が教科書等を用いて学生に講述することにより学問上の知識を授けるもの。

○演習—教員が教科書等を用いて学生に説明指導すると同時に、学生も教室内において教員と共に討論や演算等をしたりするもの。

○実験、実習及び実技—学生が教員の指導のもとに、実際に作業を行い技術を磨き、知識を修得するもの。

3. 単位数

^{※4}各授業科目には、それぞれの内容によって単位数が割当てられています。

^{※5}修了は、授業科目を履修し、その試験等に合格した授業科目及び単位数の合計によって決定されます。

※1 履修規程第2条（授業科目及び単位）

※2 学則第1条（目的）

※3 学則別表第1教育課程

※4 学則第20条（単位の集計方法）

※5 履修規程第19条（卒業の制限）
履修規程第8条（成績評価及び単位の授与）
学則第27条（卒業の要件）

4. 開講時期

授業科目は、その内容及び単位数等を考慮し、2年(3年)の在学期を4期(6期)に分けて、配当されています。

科目によっては、短期間で集中的に^{※6}授業が行われる場合があります。

※6 集中講義という

5. 二級認定科目

^{※7}二級認定科目21科目50単位(講義科目16, 実習科目4, 演習科目1)を修得したものに、卒業時に^{※8}二級ガソリン自動車整備士及び二級ジーゼル自動車整備士受験資格が与えられます。

※7 教育課程表(P144)参照

※8 学則第30条(資格の取得)

二級自動車整備士資格を希望する学生は必ず修得して下さい。

1科目でも修得できない場合は、二級自動車整備士受験資格が与えられません。

[4] 履 修

1. 授業時間割

各学期の授業は、すべて「授業時間割」をもとに行われます。ただし、学期の途中で時間割の変更（授業時間・使用教室等）が行われることがあるので注意してください。

補講（平常の時間とは別に臨時に行う授業）、休講についてはその都度掲示します。

2. 履修科目の登録

授業科目の履修登録は、各学期の始まりに行われます。

履修登録時の留意点

- ①講義要綱を参照して、授業科目の内容を把握して下さい。
- ②卒業要件単位数が、各学科ごとに定められています。（教育課程表を参照）
- ③自分の将来の進路等を十分考慮し、単に卒業要件を満たすことのみを目的とした安易な単位計算はしないよう注意して下さい。
- ④登録後、学期の中途での変更は認められません。

手 続

毎学期始まり（指定期日）に手続きをします。

各々の成績はコンピュータで管理されます。履修登録をしないと成績が入りませんから必ず履修登録をして下さい。

3. 出席調査

すべての授業科目について、その授業実施時間内に出席調査を行います。調査時に無断で離席中の者は、欠席になります。

※1 学則第 27 条（卒業の要件）

^{※2}各授業科目の出席については、授業時数の 80 パーセント以上出席しなければなりません。

4. 欠席・遅刻・早退

授業を欠席（A 欠席・B 欠席による）したときは、欠席願に必要事項を記入し、学務課へ 6 日以内に届け出なければなりません。

①^{※3}欠席区分

欠席の区分は、次のとおりです。

A 欠席

- (1) 自治会活動及び就職試験、入学試験、のための欠席で事前に学務課で証明を受けたとき。
- (2) ^{※4}忌引（3 親等以内とする）
- (3) 学校保健法に定める伝染病により出席停止を命ぜられたとき。
- (4) 留学生のビザの更新及び受領のための欠席で、事前に学務課で証明を受けたとき。
- (5) 出身校における進学説明会等への参加による欠席。
- (6) モータースポーツエンジニアリング学科の学生が、レース活動において、やむを得ない事由により欠席するとき。
- (7) その他教授会において認められた事由による欠席。

B 欠席

疾病による欠席（医師の診断書がある場合等）。

C 欠席

A 欠席及び B 欠席以外の欠席。（欠席届不要）

- ②公欠・忌引願の提出方法は、次頁の通りです。
- ③遅刻・早退については、原則として 1 時間ごとの欠席となります。

5. ^{※5}暴風警報発令時の授業及び試験の処置

岐阜県または愛知県下に暴風警報が発令された場合には、授業及び試験の取扱いを次のとおりとします。

- ①午前 7 時現在発令中の場合は、午前の授業・試験を中止

※2 履修規程第 3 条（授業の出席及び欠席）

※3 履修規程第 3 条第 2 項（授業欠席の区分）

※4 父母・配偶者・子 - 7 日
祖父母・兄弟・姉妹 - 3 日
曾祖父母・叔伯父母・甥
姪 - 1 日

※5 履修規程第 4 条（暴風警報発令時の授業及び試験の処置）

する。

尚、午前7時から午前9時までに発令された場合は、午前の授業・試験を実施する。

②午前11時現在発令中の場合は、午後の授業・試験を中止する。

尚、午前11時以降発令された場合は、午後の授業・試験を実施する。

6. 履修時間の補充

実験及び実習では、欠席区分、A及びB欠席の場合に限り、願い出により、補充履修が認められることがありますので、補充履修願手続きをして下さい。なお、手続きにあたり、次の事が規定されています。

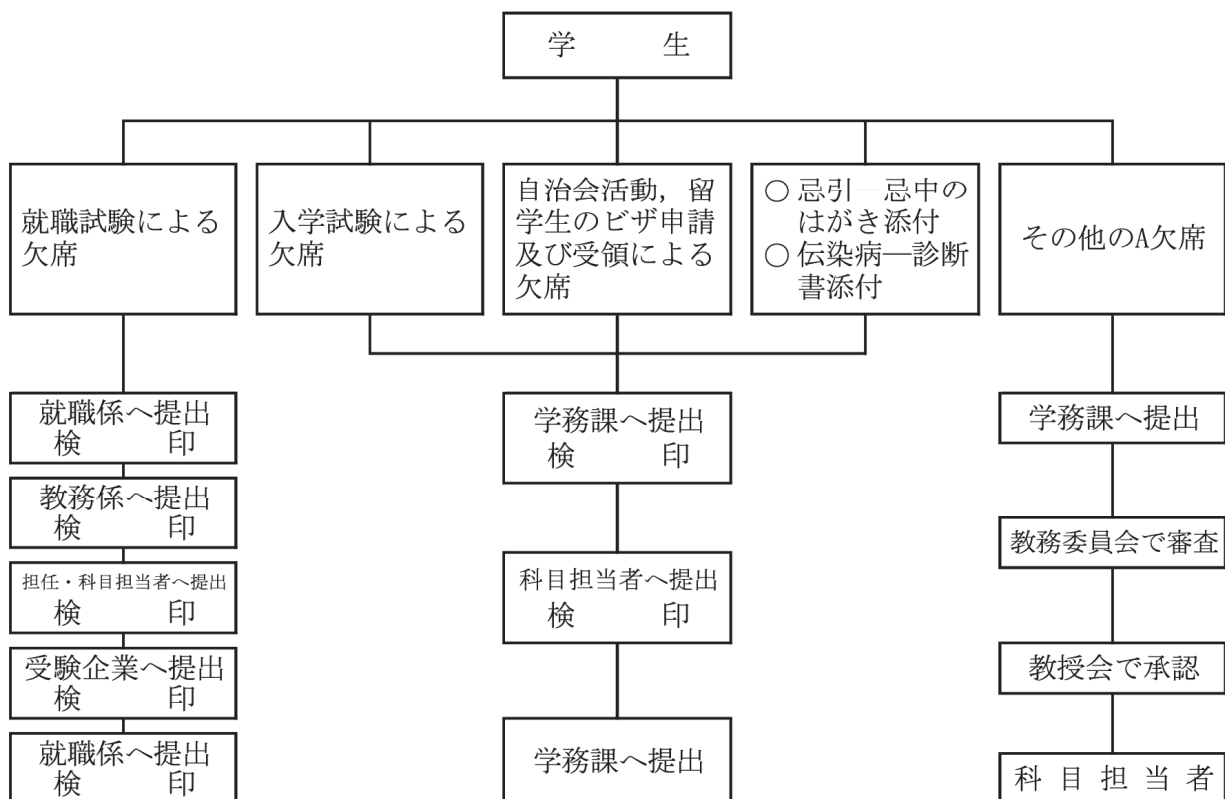
①B欠席により補充履修願をする者は、補充受講料2,000円/1時限を納付すること。

②補充履修願は、事由の止んだ翌日から7日以内に提出すること。

③履修時間の補充は、その欠席時数が授業時間数の3分の1を超えない場合に限り認められます。

※6 履修規程第5条（二級認定科目及び実験・実技科目の履修時間の補充）

公欠・忌引願手続



[5] 試 験

1. ^{※1}定期試験

毎学期末には、定期試験が実施されます。(実習科目については科目または項目終了ごとに実施します) この結果により、各自の履修した授業科目の成績は、成績評価区分に従って決まります。ただし、平常授業中の試験やレポート等により成績評価を行うこともあります。

なお、定期試験の時間割は、試験開始の7日前までに発表されます。

2. ^{※2}追試験

授業欠席区分のA欠席及びB欠席で、定期試験を受験できなかった学生は、追試験を申請することができます。

許可されない場合の例

- ①時間割の見まちがい
- ②寝過ごし
- ③通学車両の故障
- ④学生証不携帯
- ⑤その他、正当な理由と認められないもの

3. ^{※3}再試験

定期試験の成績評価が不合格の場合は、再試験の制度があります。

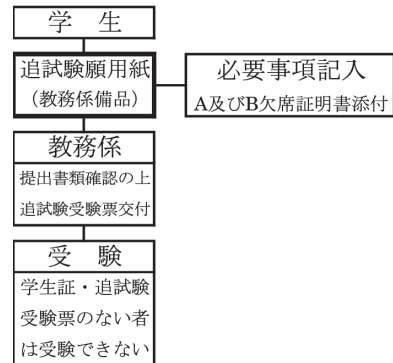
- ①不合格科目の再試験は、当該科目担当教員の任意の方法で行われます。
- ②再試験を希望するときは、再試験手続を行って下さい。
- ③再試験の実施時期は、春学期末及び秋学期末に行われます。

再試験は実施されますが、科目担当教員の説明、あるいは掲示する再試験実施要領等で内容を十分確認して下さい。

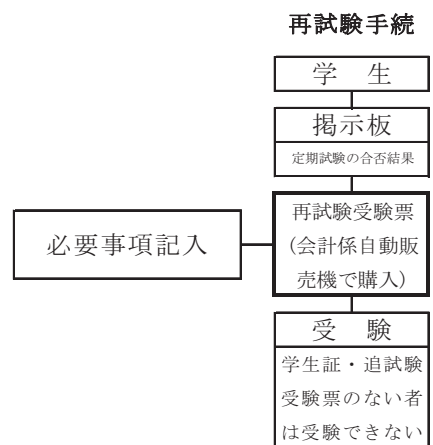
再試験は、あくまでも特別な措置であり、はじめから再試験を頼りにし、安易な気持ちで平常の授業や定期試験を受けることは、避けて下さい。

※1 履修規程第9, 10, 11条
(定期試験)

※2 履修規程第12, 13条 (追試験)
追試験手順 (指定された期間中に手続きをとること)



※3 履修規程第14, 15, 16条
(再試験)



4. 試験受験上の注意

試験に際しては、下記の事項を守らなければなりません。もしこれを無視して受験した場合は、試験を無効とするばかりでなく、厳重な処分を受けることになるので十分注意して下さい。

- (1) 学生証を携帯しないものの受験は認めない。
- (2) 試験場においては、定められた席に着席しなければならない。
- (3) 試験問題及び答案用紙を試験会場から持ち出すことを禁ずる。
- (4) 遅刻者の試験場への入室は試験開始後 20 分以内は認め、退室は試験開始後 30 分経過後でないと認めない。
- (5) 試験中、学生相互の筆記用具等の貸借は一切禁止する。
- (6) 試験場ではすべて試験監督者の指示に従い、指示に従わない者には退場を命ずることができる。
- (7) 不正行為のあった場合は、その学期における筆記試験による授業科目の単位を認定しない。
- (8) 無記名答案は無効とする。
- (9) 試験時間中に建物内にいる学生は、他の受験生に迷惑のかからないように注意すること。
- (10) 追試験及び再試験には、それぞれの受験票を携帯しないと受験は認めない。

※その他、試験に際して掲示される注意事項をよく守ること。

※4 履修規程第 18 条 (受験心得)

[6] 成 績

1. ^{※1}成績評価

成績及び単位は、その科目が終講したとき、下記の項目を考慮して、科目担当教員が評価判定します。

- ①定期試験（追試験を含む）及びそのほかに実施された試験の成績
- ②出席状況
- ③平素の学習状況（レポート等）

上記の結果によって判定された成績評価の区分は、次のとおりです。

合 格	A ⁺	100～90 点	特に優れた成績
	A	89～80 点	優れた成績
	B	79～70 点	科目の要求を満たす成績
	C	69～60 点	合格と認められる最低の成績
不 合格	F	59 点以下	合格最低ラインに達しない成績

再試験の場合の成績評価区分は、次のとおりです。

合 格	C	60 点以上
不 合格	F	59 点以下

^{※2}他大学卒業または中途退学後、本学に入学し、既修得科目の認定を受けた者は「N（認定）」として評価されます。

2. 成績発表

春学期定期試験の可否は夏期休暇中、自宅に発送されます。一部科目によっては試験後掲示板で掲示する場合があります。秋学期定期試験は、結果が提出され次第随時掲示を行います。（秋学期定期試験結果の自宅への発送は行いません）また、追再試験の結果は随時掲示されます。可否発表後、各科目の成績に関して疑義のあるときは、科目担当教員又は学務課に尋ねてください。

3. ^{※3}再履修

試験で不合格または欠席時数超過等で不合格となった科目の単位を修得しようとする場合、もう一度履修し、試験に合格しなければなりません。

※1 履修規程第7条（成績評価及び単位の授与）

※2 学則第26条（入学前の既修得単位の認定）
履修規程第8条（入学前の既修得単位の認定）

※3 履修規程第17条（授業科目の再履修）

4. GPA (グレード・ポイント・アベレージ)

①GPA 制度の目的

GPA とは、Grade Point Average (成績加重平均値) のことで、学習成果を総合的に判断できる指標を提供し、学習意欲の向上や学習計画などの自己管理に資することを目的としています。ただし、成績優秀者表彰や奨学金の選抜、企業推薦の選抜などに利用される場合があります。

②GPA による成績評価

GPA は、各科目の評価点 (100 点満点) をグレード・ポイントに換算し、これに各科目の単位数を掛け、その合計を履修登録した全科目の総単位数で割ることにより、1 単位のグレード・ポイントの平均値を算出したものです。

GPA は、履修登録したすべての科目を対象に算出します。ただし、履修登録変更期間中に中止した科目は、算出対象から除きます。

③成績評価基準と GPA の算出方法

(1) 得点に応じて5段階 (4 、 3 、 2 、 1 、 0) の数値 (グレード・ポイント) を設定します。なお、不合格となった科目、受講を途中でやめるなど出席回数不足のため受験不可となった科目は、すべてグレード・ポイントが 0 点となります。

成績評価基準とグレード・ポイント

合 否	合 格				
評 価	A ⁺	A	B	C	認定 ※1
得 点	100 以下 90 以上	90 未満 80 以上	80 未満 70 以上	70 未満 60 以上	—
グレード・ ポイント	4	3	2	1	対象外

※1 認定とは他大学などで修得した科目の単位を本学の単位として認めたもの

合 否	不合格		
評 価	F	試験 欠席	受験 不可
得 点	60 未満	—	—
グレード・ ポイント	0		

(2) 各履修登録科目のグレード・ポイントに、科目の単位数を掛けた値を履修登録科目分合算し、その値を履修登録科目の単位数の合計で割ったものが GPA となります。なお、GPA は、小数点第3位を四捨五入して小数点第2位まで表示します。

GPA の算出方法 (計算式)

$$\frac{A^+ \text{の単位数合計} \times 4 + A \text{の単位数合計} \times 3 + B \text{の単位数合計} \times 2 + C \text{の単位数合計} \times 1}{\text{履修登録した全科目の総単位数 (不合格単位数を含む)}}$$

[7] 卒業

1. 卒業

2年次(3年次)秋学期終了後、卒業審査が行われます。その際、次の条件を満たした者については、卒業となります。

- ①本学に2年(3年)以上在学し、^{※1}所定の単位数以上を修得していること。
 - ②必要な学費が完納されていること。
- 卒業生名簿は、掲示で発表します。(3月上旬)

2. 卒業の制限

卒業審査で不合格となった場合には、卒業延期となります。その場合は、保護者宛に「卒業延期通知書」「就学届」が送られます。

就学を希望するときは、指定された日までに、「就学届」を提出して下さい。

卒業延期となった者の履修方法は、次のとおりです。

- ①入学年度の教育課程及び卒業要件が適用されます。
- ②既修得科目はそのまま認められます。

※1 学則第27条(卒業要件)

[8] 学 籍

入学を許可されたことにより、本学の学生としての学籍が生じます。

学籍に関する事項は、次のとおりです。

1. ^{※1}退学

退学とは、在学中の学生が、卒業するに至らないうちに学生としての身分を失うことをいいます。

退学には、次の2通りがあります。

①学生自身の都合による退学

②^{※2}懲戒処分としての退学

病気、その他の事由により退学しようとするときは、クラス担任に相談の上、保証人（父母）連署の退学願を提出し、許可を受けなければなりません。退学が許可されたかどうかは、追って通知されます。

なお、当該学期までの学費は納付しなければなりません。

学生証は、退学願に添えて返却しなければなりません。

2. ^{※3}休学

休学とは、短期大学に在籍する学生が、病気その他の事由によって、学長の許可を得て、一定の期間、授業を受けない状態をいいます。

本学では、病気その他やむをえない事情により、2ヶ月以上修学できない場合には、学長の許可を得て休学することができます。

①休学する場合は、クラス担任に相談の上、保証人（父母）連署の休学願を、必要書類（医師の診断書等）を添えて提出して下さい。

②^{※4}休学期間は、学年（1年）または学期（半年）となりますが、特別な事情で引き続き休学するときは、改めて休学願を提出しなければなりません。

ただし、^{※5}通算して2年を超えることはできません。

※1 学則第14条（退学）
学籍異動規程第2条（退学）

※2 学則第64条（罰則）

※3 学則第15条（休学）

※4 学籍異動規程第3条第2項

※5 学則第16条（休学の期間）

③休学の許可は、春学期は5月末日、秋学期は11月末日までに受けなければなりません。

④休学期間中の学費は、免除されます。

⑤休学期間は、在学年限に算入されません。

⑥無断で長期欠席する場合は、休学とは認められません。

3. ^{※6}復学

休学期間が満了したときは、復学願を提出し、復学許可を受けることができます。

復学の時期は、学年または学期の始めとなりますので、指定された期日までに手続きをして下さい。

4. ^{※7}除籍

次のいずれかに該当する学生は、除籍となります。

- (1) 4年の^{※8}在学年限を超えた者
(モータースポーツエンジニアリング学科は6年)
- (2) 通算2年の^{※9}休学期間を超えてなお修学できない者
- (3) 学費の納付を怠り、督促を受けた後2週間以内になお納付しない者
- (4) 長期間にわたり行方不明の者

※6 学則第17条(復学)
学籍異動規程第4条(復学)

※7 学則第18条(除籍)

※8 学則第42条(修業年限及び在学年限)

※9 学則第16条(休学の期間)

2019年度 春学期 教育計画

4 月		5 月		6 月		7 月		8 月		9 月	
1	月	1	水	新天皇即位に伴う祝日		1	土	中古自動車査定士講習		1	日
2	火	2	木	国民の祝日		2	日	教育懇談会		2	月
3	水	3	金	憲法記念日		3	月			3	火
4	木	4	土	みどりの日		4	火			4	水
5	金	5	日	こどもの日		5	水			5	木
6	土	6	月	振替休日		6	木			6	金
7	日	7	火	月曜日の時間割		7	金			7	土
8	月	8	水			8	土	中古自動車査定士講習		8	日
9	火	9	木			9	日			9	月
10	水	10	金			10	月			10	火
11	木	11	土			11	火			11	水
12	金	12	日			12	水			12	木
13	土	13	月			13	木	低圧電気特別教育		13	金
14	日	14	火			14	金			14	土
15	月	15	水			15	土	海の日(通常授業)		15	日
16	火	16	木			16	日	中古自動車査定士検定試験		16	月
17	水	17	金			17	月			17	火
18	木	18	土	中古自動車査定士講習 ガス溶接技能講習		18	火			18	水
19	金	19	日			19	水			19	木
20	土	20	月	開学記念日		20	木			20	金
21	日	21	火			21	金			21	土
22	月	22	水			22	土			22	日
23	火	23	木			23	日			23	月
24	水	24	金			24	月			24	火
25	木	25	土	中古自動車査定士講習 ガス溶接技能講習		25	火			25	水
26	金	26	日			26	水			26	木
27	土	27	月			27	木			27	金
28	日	28	火			28	金			28	土
29	月	29	水	昭和の日		29	土			29	日
30	火	30	木	国民の祝日		30	日	春学期講義終了		30	月
		31	金					春学期定期試験 8/7まで			
*は二級講習(2年生)											

2019年度 秋学期 教育計画

10 月		11 月		12 月		1 月		2 月		3 月	
1	火	1	金	1	日	1	水 元旦	1	土	1	日
2	水	2	土	2	月	2	木	2	日	2	月
3	木	3	日	3	火	3	金	3	月	3	火
4	金	4	月	4	水	4	土	4	火	4	水
5	土*	5	火	5	木	5	日	5	水	5	木
6	日	6	水	6	金	6	月	6	木	6	金
7	月	7	木	7	土*	7	火	7	金	7	土
8	火	8	金	8	日	8	水	8	土	8	日
9	水	9	土*	9	月	9	木	9	日	9	月
10	木	10	日	10	火	10	金	10	月	10	火
11	金	11	月	11	水	11	土	11	火	11	水
12	土*	12	火	12	木	12	日	12	水	12	木
13	日	13	水	13	金	13	月	13	木	13	金
14	月	14	木	14	土*	14	火	14	金	14	土
15	火	15	金	15	日	15	水	15	土	15	日
16	水	16	土*	16	月	16	木	16	日	16	月
17	木	17	日	17	火	17	金	17	月	17	火
18	金	18	月	18	水	18	土*	18	火	18	水
19	土*	19	火	19	木	19	日	19	水	19	木
20	日	20	水	20	金	20	月	20	木	20	金
21	月	21	木	21	土*	21	火	21	金	21	土
22	火	22	金	22	日	22	水	22	土	22	日
23	水	23	土	23	月	23	木	23	日	23	月
24	木	24	日	24	火	24	金	24	月	24	火
25	金	25	月	25	水	25	土	25	火	25	水
26	土	26	火	26	木	26	日	26	水	26	木
27	日	27	水	27	金	27	月	27	木	27	金
28	月	28	木	28	土	28	火	28	金	28	土
29	火	29	金	29	日	29	水	29	土	29	日
30	水	30	土*	30	月	30	木			30	月
31	木			31	火	31	金			31	火
*は二級講習(2年生)		*は二級講習(2年生)		*は二級講習(2年生)		*は二級講習(2年生)		*は二級講習(2年生)		*は二級講習(2年生)	

MEMO

A series of horizontal dashed lines for writing.

5

専攻科 一級自動車整備専攻

講義要綱

一級自動車整備専攻では、自動車工学科で学んだ知識、技能をもとに、さらに高度な整備技術をより深く学びます。さらに国土交通省が認定する、自動車整備士の中でも最高峰の国家資格「一級自動車整備士」を最短で取得することができます。

講義は、学科、実習で構成され、2年次には、体験実習（インターンシップ）で実際の職場を体験し、最先端の実務を学びます。

講義内容

- ・エンジン、シャシなどのセンサ・アクチュエータ・ECUを使用した電子制御技術
- ・ハイブリッド車、電気自動車、燃料電池などの先端自動車技術
- ・外部診断器（OBD）やオシロスコープを使用した高度故障診断技術
- ・振動・騒音分析器（FFTアナライザー）を使用した振動・騒音診断技術
- ・地球温暖化対策や循環型社会の構築などを学ぶ環境保全
- ・職場でのリスクマネジメントなどを学ぶ安全管理
- ・ロールプレイング手法を用いた接客技術、問診技術
- ・定期点検整備や重整備など職場での即戦力を身につける自動車整備実務実習

このような幅広い講義や実習を通じ、幹部候補生としてのスキルを身につけ、管理職や現場のリーダー的な存在になれるような人材を育成することが目的です。

目 次

専攻科 一級自動車整備専攻

先端自動車技術Ⅰ	163
先端自動車技術Ⅱ	165
自動車電気・電子回路	167
自動車エンジン制御工学Ⅰ	169
自動車エンジン制御工学Ⅱ	171
自動車シャシ制御工学Ⅰ	173
自動車シャシ制御工学Ⅱ	175
自動車振動・騒音工学	177
自動車システム故障診断法Ⅰ	179
自動車システム故障診断法Ⅱ	181
自動車総合診断法演習Ⅰ	183
自動車総合診断法演習Ⅱ	185
自動車環境・安全管理法	187
自動車法規・検査法	189
自動車高度整備実習Ⅰ	191
自動車高度整備実習Ⅱ	193
自動車整備体験実習	195
自動車整備実務実習Ⅰ	197
自動車整備実務実習Ⅱ	199
自動車整備実務実習Ⅲ	201
教員担当科目と実務経験	203
専攻科一級自動車整備専攻教育課程	204

科 目 名	先端自動車技術 I Advanced Automobile Technology	必修	単 位 数
			2
担 当 教 員	岩田有正		開 設 期
			1 年春学期
<p>【 科 目 の 概 要 】</p> <p>一級自動車整備士が担う技術的に重要なテーマのうち、エンジン関係として「ハイブリッド車」、「圧縮天然ガス（LNG）自動車」、「筒内噴射ガソリン・エンジン」及び「コモン・レール式高圧燃料噴射システム」の4つをとりあげ、構造・機能、点検・整備の方法について習得します。</p> <p>【 授 業 計 画 】</p> <p>① ハイブリッド車の概要</p> <p>② ハイブリッド車の構造・機能（1）</p> <p>③ ハイブリッド車の構造・機能（2）</p> <p>④ ハイブリッド車の点検・整備</p> <p>⑤ 圧縮天然ガス（CNG）自動車の概要、構造・機能（1）</p> <p>⑥ CNG 自動車の構造・機能（2）</p> <p>⑦ CNG 自動車の点検・整備</p> <p>⑧ 筒内直接噴射式ガソリン・エンジンの概要、構造・機能（1）</p> <p>⑨ 筒内直接噴射式ガソリン・エンジンの構造・機能（2）</p> <p>⑩ 筒内直接噴射式ガソリン・エンジンの構造・機能（3）</p> <p>⑪ 筒内直接噴射式ガソリン・エンジンの構造・機能（4）,点検・整備</p> <p>⑫ コモン・レール式高圧燃料噴射システムの概要、構造・機能（1）</p> <p>⑬ コモン・レール式高圧燃料噴射システムの概要、構造・機能（2）</p> <p>⑭ コモン・レール式高圧燃料噴射システムの概要、構造・機能（3）</p> <p>⑮ 評価試験</p>			

【予習】

講義終了時に次回の講義範囲を示します。教科書を事前に学習し、質問事項を整理してください。90分以上を目処とします。

【復習】

配布された資料及びノートの記述事項と教科書の記載を比べながら内容の理解を深めてください。所要時間は90分以上を目処とします。必要に応じて、復習用の演習問題を配布します。

【学習到達目標】

1. ハイブリッド車の構造・機能、点検・整備について説明できる。
2. CNG自動車の構造・機能、点検・整備について説明できる。
3. 筒内直接噴射式ガソリン・エンジンの構造・機能、点検・整備について説明できる。
4. コモン・レール式高圧燃料噴射システムの構造・機能、点検・整備について説明できる。

【成績評価の方法】

成績は、80%以上出席した者を対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

・評価試験（70%） ・レポート（20%） ・授業中の発言（10%）

【教科書】

(社) 日本自動車整備振興会連合会編集 一級自動車整備士「新技術」編

【質問への対応方法】

- オフィスアワー：毎日 16:40～17:00 921 準備室
- E-mail：iwata@nakanihon.ac.jp

【履修者数調整方法】

なし

【関連授業】

先端自動車技術Ⅱ

科 目 名	先端自動車技術Ⅱ Advanced Automobile Technology Ⅱ	必修	単 位 数
			2
担 当 教 員	寺尾裕二		開 設 期
			2年秋学期
<p>【 科 目 の 概 要 】</p> <p>一級自動車整備士が担う技術的に重要なテーマのうち、シャシ関係として「無段変速機 (CVT)」、 「車両安全制御装置」及び「SRSエア・バック及びプリテンショナ・シート・ベルト」の3つ をとりあげ、構造・機能、点検・整備の方法について習得します。</p> <p>【 授 業 計 画 】</p> <p>① 無段変速機 (CVT) の概要</p> <p>② 無段変速機 (CVT) の構造・機能 (1)</p> <p>③ 無段変速機 (CVT) の構造・機能 (2)</p> <p>④ 無段変速機 (CVT) の構造・機能 (3)</p> <p>⑤ 無段変速機 (CVT) の構造・機能 (4), 点検・整備</p> <p>⑥ 車両安全制御装置の概要・構造・機能</p> <p>⑦ ABS構成部品の機能 (1)</p> <p>⑧ ABS構成部品の機能 (2)</p> <p>⑨ トラクション・コントロール (TRC) の概要, 構成部品の構造・機能 (1)</p> <p>⑩ トラクション・コントロール (TRC) の構成部品の構造・機能 (2)</p> <p>⑪ VSCS構成部品の構造・機能 (1)</p> <p>⑫ VSCS構成部品の構造・機能 (1)</p> <p>⑬ SRSエア・バッグ及びプリテンショナ・シート・ベルトの概要</p> <p>⑭ SRSエア・バッグ及びプリテンショナ・シート・ベルトの構造・機能</p> <p>⑮ 評価試験</p>			

【予習】

講義終了時に次回の講義範囲を示します。教科書を事前に学習し、質問事項を整理してください。90分以上を目処とします。

【復習】

配布された資料及びノートの記述事項と教科書の記載を比べながら内容の理解を深めてください。所要時間は90分以上を目処とします。必要に応じて、復習用の演習問題を配布します。

【学習到達目標】

1. 無断変速機（CVT）の構造・機能、点検・整備について説明できる。
2. ABS 構成部品の機能について説明できる。
3. トラクション・コントロールの構造・機能について説明できる。
4. VSCS の機能について説明できる。
5. SRS エア・バッグの構造・機能について説明できる。
6. リテンショナ・シート・ベルトの構造・機能について説明できる。

【成績評価の方法】

成績は、80%以上の出席した者を対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

- ・評価試験（70%）
- ・レポート（20%）
- ・授業中の発言（10%）

【教科書】

(社) 日本自動車整備振興会連合会編集 一級自動車整備士「新技術」編

【質問への対応方法】

- オフィスアワー：毎日 16:40～17:00 921 準備室
- E-mail : terao@nakanihon.ac.jp

【履修者数調整方法】

なし

【関連授業】

先端自動車技術 I

科 目 名	自動車電気・電子回路 Automobile Electric and Electron Circuit	必修	単 位 数
			2
担 当 教 員	岩田有正		開 設 期
			1 年春学期
<p>【 科 目 の 概 要 】</p> <p>一級自動車整備士に必要な自動車の電気・電子回路を修得します。これらは、一級自動車整備士資格を取得するために必要な電気・電子回路の知識・理解・能力の向上を図ります。</p> <p>【 授 業 計 画 】</p> <p>①電気・電子回路</p> <p>②回路計算と電力</p> <p>③電流と電磁誘導</p> <p>④ダイオード</p> <p>⑤トランジスタ</p> <p>⑥論理回路</p> <p>⑦2進数と16進数</p> <p>⑧センサ</p> <p>⑨アクチュエータ</p> <p>⑩アナログ制御</p> <p>⑪デジタル制御 (1)</p> <p>⑫デジタル制御 (2)</p> <p>⑬マイコン制御 (1)</p> <p>⑭マイコン制御 (2)</p> <p>⑮評価試験</p>			

【予習】

講義終了時に次回の講義範囲を示します。事前に学習し、質問事項を整理してください。90分以上を目処とします。

【復習】

配布された資料及びノートの記述事項より内容の理解を深めてください。所要時間は90分以上を目処とします。必要に応じて、復習用の演習問題を配布します。

【学習到達目標】

1. 自動車の電気・電子回路について説明できる。
2. 半導体を使用した回路について説明できる。
3. 論理回路について説明できる。
4. センサ・アクチュエータの機能・回路について説明できる。
5. アナログ制御回路について説明できる。
6. デジタル制御回路について説明できる。
7. マイコンを使用した制御回路について説明できる。

【成績評価の方法】

成績は、80%以上の出席した者を対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

- ・評価試験（70%）
- ・レポート（20%）
- ・授業中の発言（10%）

【教科書】

- (社) 日本自動車整備振興会連合会編集 一級自動車整備士「エンジン電子制御」編
- (社) 日本自動車整備振興会連合会編集 一級自動車整備士「シャシ電子制御」編

【質問への対応方法】

- オフィスアワー：毎日 16:40～17:00 921 準備室
- E-mail : iwata@nakanihon.ac.jp

【履修者数調整方法】

なし

科目名	自動車エンジン制御工学 I Automobile engine Control System I	必修	単位数
			1
担当教員	岩田有正		開設期
			1年春学期
<p>【科目の概要】 一級自動車整備士に必要な各種計測機器の構造・機能と自動車のエンジン制御技術を修得します。これらは、一級自動車整備士資格を取得するために必要なエンジンの故障診断の知識・理解・能力の向上を図ります。</p> <p>【授業計画】</p> ①サーキット・テストの構造・機能 ②オシロスコープの構造・機能 ③外部診断器の構造・機能 ④センサの概要 ⑤センサの種類 (1) ⑥センサの種類 (2) ⑦電源回路 ⑧構造・機能 (論理信号センサ) ⑨構造・機能 (リニア信号センサ) ⑩構造・機能 (周波数信号センサ) ⑪センサ信号検知 (1) ⑫センサ信号検知 (2) ⑬センサ回路診断 (1) ⑭センサ回路診断 (2) ⑮評価試験			

【予習】

講義終了時に次回の講義範囲を示します。教科書を事前に学習し、質問事項を整理してください。90分以上を目処とします。

【復習】

配布された資料及びノートの記述事項と教科書の記載を比べながら内容の理解を深めてください。所要時間は90分以上を目処とします。必要に応じて、復習用の演習問題を配布します。

【学習到達目標】

1. サーキット・テストの構造・機能について説明できる。
2. オシロスコープの構造・機能について説明できる。
3. 外部診断器の構造・機能について説明できる。
4. エンジン制御の電源回路について説明できる。
5. エンジン制御のセンサの構造・機能について説明できる。
6. エンジン制御のセンサの信号検知・回路診断について説明できる。

【成績評価の方法】

成績は、80%以上の出席した者を対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

- ・評価試験（70%）
- ・レポート（20%）
- ・授業中の発言（10%）

【教科書】

(社) 日本自動車整備振興会連合会編集 一級自動車整備士「エンジン電子制御」編

【質問への対応方法】

- オフィスアワー：毎日 16:40～17:00 921 準備室
- E-mail：iwata@nakanihon.ac.jp

【履修者数調整方法】

なし

科 目 名	自動車エンジン制御工学Ⅱ Automobile engine Control System Ⅱ	必修	単 位 数
			1
担 当 教 員	鈴木泰成		開 設 期
			1 年秋学期

【 科 目 の 概 要 】

一級自動車整備士に必要な自動車のエンジン制御技術と故障診断技術を修得します。これらは、一級自動車整備士資格を取得するために必要なエンジン故障診断の知識・理解・能力の向上を図ります。

【 授 業 計 画 】

- ①アクチュエータの概要
- ②アクチュエータの構造・機能 (1)
- ③アクチュエータの構造・機能 (2)
- ④アクチュエータの構造・機能 (3)
- ⑤アクチュエータ回路診断 (1)
- ⑥アクチュエータ回路診断 (2)
- ⑦アクチュエータ回路診断 (3)
- ⑧アクチュエータ回路診断 (4)
- ⑨通信信号 (CAN 通信) の原理・基本構成
- ⑩通信信号 (CAN 通信) の回路点検・異常検知
- ⑪電子制御装置の故障診断の進め方
- ⑫電子制御装置の故障診断 (ダイアグノーシス・コード有り)
- ⑬電子制御装置の故障診断 (ダイアグノーシス・コード無し)
- ⑭通信信号の点検・整備方法
- ⑮評価試験

【予習】

講義終了時に次回の講義範囲を示します。教科書を事前に学習し、質問事項を整理してください。90分以上を目処とします。

【復習】

配布された資料及びノートの記述事項と教科書の記載を比べながら内容の理解を深めてください。所要時間は90分以上を目処とします。必要に応じて、復習用の演習問題を配布します。

【学習到達目標】

1. アクチュエータ（スイッチング駆動）の構造・機能について説明できる。
2. アクチュエータ（リニア駆動）の構造・機能について説明できる。
3. アクチュエータ（スイッチング駆動）の回路診断について説明できる。
4. アクチュエータ（リニア駆動）の回路診断について説明できる。
5. CAN通信の原理・基本構成・回路点検・異常検知について説明できる。
6. 電子制御装置の故障診断の手法について説明できる。
7. CAN通信の点検・整備方法について説明できる。

【成績評価の方法】

成績は、80%以上の出席した者を対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

- ・評価試験（70%）
- ・レポート（20%）
- ・授業中の発言（10%）

【教科書】

(社) 日本自動車整備振興会連合会編集 一級自動車整備士「エンジン電子制御」編

【質問への対応方法】

- オフィスアワー：毎日 16:40～17:00 921 準備室
- E-mail：suzuki-y@nakanihon.ac.jp

【履修者数調整方法】

なし

科 目 名	自動車シャシ制御工学 I Automotive Chassis Control System I	必修	単 位 数
			1
担 当 教 員	高橋正則		開 設 期
			1 年春学期
<p>【科目の概要】 一級自動車整備士に必要な自動車シャシ電子制御技術について講義を行います。</p> <p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 電子制御式オートマティック・トランスミッションの概要 ② 構造・機能 ③ 電源回路 ④ センサ回路 ⑤ アクチュエータ回路 ⑥ A/T・ECU ⑦ フェイル・セーフ機能・自己診断機能 ⑧ 電動式パワー・ステアリング（EPS）の概要 ⑨ 構造・機能 ⑩ 電源回路 ⑪ センサ回路 ⑫ アクチュエータ回路 ⑬ EPS・ECU ⑭ フェイル・セーフ機能・自己診断機能 ⑮ 評価試験 <p>【予習】 講義終了時に次回の講義範囲を示すので、教科書を読んで質問事項を整理してください。90分以上を目処とします。</p> <p>【復習】 ノートの記述事項と教科書の記載を比べながら内容の理解を深めてください。所要時間は90分以上を目処とします。必要に応じて、復習用の演習問題を配布します。</p>			

【学習到達目標】

1. 電子制御式オートマティック・トランスミッションの構造・機能について説明できる。
2. 電子制御式オートマティック・トランスミッションのセンサ・アクチュエータ回路について説明できる。
3. 電子制御式オートマティック・トランスミッションのフェイル・セーフ機能・自己診断機能について説明できる。
4. 電動式パワー・ステアリングの構造・機能について説明できる。
5. 電動式パワー・ステアリングのセンサ・アクチュエータ回路について説明できる。
6. 電動式パワー・ステアリングのフェイル・セーフ機能・自己診断機能について説明できる。

【成績評価の方法】

成績は、80%以上の出席した者を対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した学科試験にて評価する。

【教科書】

(社) 日本自動車整備振興会連合会編集 一級自動車整備士「シャシ電子制御」編

【参考書・参考文献】**【履修上の注意】**

教室内では指導教員の指示に従ってください。

【質問への対応方法】

- オフィスアワー (水曜日 12:30~13:20)
- E-mail : takahashi-m@nakanihon.ac.jp

【履修者数調整方法】

なし

【関連授業】

自動車シャシ電子制御Ⅱ

科 目 名	自動車シャシ制御工学 II Automotive Chassis Control System II	必修	単 位 数
			1
担 当 教 員	高橋正則		開 設 期
			1 年秋学期

【科目の概要】

一級自動車整備士に必要な自動車シャシ電子制御技術について講義を行います。

【授業計画】

- ① ABS の概要
- ② 構造・機能
- ③ 電源回路
- ④ センサ回路
- ⑤ アクチュエータ回路
- ⑥ ABS・ECU・フェイル・セーフ機能・自己診断機能
- ⑦ オートエアコンの概要
- ⑧ 構造・機能
- ⑨ センサ回路
- ⑩ アクチュエータ回路
- ⑪ エアコン・ECU・フェイル・セーフ機能・自己診断機能
- ⑫ 振動騒音の概要
- ⑬ 振動騒音の分析
- ⑭ 振動、音の制御（抑制）
- ⑮ 評価試験

【予習】

講義終了時に次回の講義範囲を示すので、教科書を読んで質問事項を整理してください。90 分以上を目処とします。

【復習】

ノートの記述事項と教科書の記載を比べながら内容の理解を深めてください。所要時間は 90 分以上を目処とします。必要に応じて、復習用の演習問題を配布します。

【学習到達目標】

1. ABS の構造・機能について説明できる。
2. ABS のセンサ・アクチュエータ回路について説明できる。
3. ABS のフェイル・セーフ機能・自己診断機能について説明できる。
4. オートエアコンの構造・機能について説明できる。
5. オートエアコンのセンサ・アクチュエータ回路について説明できる。
6. オートエアコンのフェイル・セーフ機能・自己診断機能について説明できる。
7. 振動騒音の分析について説明できる。

【成績評価の方法】

成績は、80%以上の出席した者を対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した学科試験にて評価する。

【教科書】

(社) 日本自動車整備振興会連合会編集 一級自動車整備士「シャシ電子制御」編

【参考書・参考文献】**【履修上の注意】**

教室内では指導教員の指示に従ってください。

【質問への対応方法】

- オフィスアワー (水曜日 12:30~13:20)
- E-mail : takahashi-m@nakanihon.ac.jp

【履修者数調整方法】

なし

【関連授業】

自動車シャシ電子制御 I

科 目 名	自動車振動・騒音工学 Automobile Vibration & Noise Control system	選択	単 位 数
			2
担 当 教 員	岩田有正		開 設 期
			1 年秋学期
<p>【 科 目 の 概 要 】</p> <p>一級自動車整備士に必要な自動車の振動・騒音に関する知識を修得します。これらは、一級自動車整備士資格を取得するために必要な振動・騒音に関する故障診断の知識・理解・能力の向上を図ります。</p> <p>【 授 業 計 画 】</p> <p>①振動騒音の概要，振動と音</p> <p>②自由振動と固有振動</p> <p>③音（騒音）の表し方</p> <p>④振動と騒音の防止</p> <p>⑤計測機器（振動計・騒音計）</p> <p>⑥車両各部の振動・騒音と低減の対応（1）</p> <p>⑦車両各部の振動・騒音と低減の対応（2）</p> <p>⑧車両各部の振動・騒音と低減の対応（3）</p> <p>⑨車両各部の振動・騒音と低減の対応（4）</p> <p>⑩車両各部の振動・騒音と低減の対応（5）</p> <p>⑪車両各部の振動・騒音と低減の対応（6）</p> <p>⑫故障診断技術（1）</p> <p>⑬故障診断技術（2）</p> <p>⑭車両各部の点検・整備</p> <p>⑮評価試験</p>			

【予習】

講義終了時に次回の講義範囲を示します。教科書を事前に学習し、質問事項を整理してください。90分以上を目処とします。

【復習】

配布された資料及びノートの記述事項と教科書の記載を比べながら内容の理解を深めてください。所要時間は90分以上を目処とします。必要に応じて、復習用の演習問題を配布します。

【学習到達目標】

1. 振動・騒音の原理について説明できる。
2. 振動計・騒音計構造・機能について説明できる。
3. 車両各部の振動と低減の対応について説明できる。
4. 車両各部の騒音と低減の対応について説明できる。
5. 振動・騒音の故障診断技術について説明できる。
6. 車両各部の点検・整備について説明できる。

【成績評価の方法】

成績は、80%以上出席した者を対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

- ・評価試験（70%）
- ・レポート（20%）
- ・授業中の発言（10%）

【教科書】

(社) 日本自動車整備振興会連合会編集 一級自動車整備士「シャシ電子制御」編

【質問への対応方法】

- オフィスアワー：毎日 16:40～17:00 921 準備室
- E-mail : iwata@nakanihon.ac.jp

【履修者数調整方法】

なし

【関連授業】

自動車シャシ電子制御Ⅱ

科 目 名	自動車システム故障診断法 I Automobile System Diagnostic I	必修	単 位 数
			1
担 当 教 員	鈴木泰成		開 設 期
			1年春学期
<p>【 科 目 の 概 要 】 一級自動車整備士に必要な自動車の故障診断技術を修得します。これらは、一級自動車整備士資格を取得するために必要なエンジン故障診断の知識・理解・能力の向上を図ります。</p> <p>【 授 業 計 画 】 ①エンジンの概要 ②診断基礎（問診） ③診断基礎（現象確認） ④診断基礎（原因推定） ⑤診断基礎（再発防止） ⑥自己診断 ⑦故障再現 ⑧故障診断（1） ⑨故障診断（2） ⑩故障診断（3） ⑪故障診断（4） ⑫故障診断（5） ⑬点検整備（1） ⑭点検整備（2） ⑮評価試験</p>			

【予習】

講義終了時に次回の講義範囲を示します。教科書を事前に学習し、質問事項を整理してください。90分以上を目処とします。

【復習】

配布された資料及びノートの記述事項と教科書の記載を比べながら内容の理解を深めてください。所要時間は90分以上を目処とします。必要に応じて、復習用の演習問題を配布します。

【学習到達目標】

1. エンジンの故障診断技術（問診・現象確認・原因推定・再発防止）について説明できる。
2. エンジンの自己診断の仕組みについて説明できる。
3. エンジンの故障再現法について説明できる。
4. エンジンの故障診断の手順について説明できる。
5. エンジンの点検整備について説明できる。

【成績評価の方法】

成績は、80%以上出席した者を対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

・評価試験（70%） ・レポート（20%） ・授業中の発言（10%）

【教科書】

（社）日本自動車整備振興会連合会編集 一級自動車整備士「エンジン電子制御」編

（社）日本自動車整備振興会連合会編集 一級自動車整備士「総合診断」編

【質問への対応方法】

オフィスアワー：毎日 16:40～17:00 921 準備室

E-mail：suzuki-y@nakanihon.ac.jp

【履修者数調整方法】

なし

【関連授業】

自動車エンジン制御工学 I

科 目 名	自動車システム故障診断法 II Automobile System Diagnostic II	必修	単 位 数
			1
担 当 教 員	寺尾裕二		開 設 期
			2年秋学期
<p>【 科 目 の 概 要 】</p> <p>一級自動車整備士に必要な自動車の故障診断技術を修得します。これらは、一級自動車整備士資格を取得するために必要なシャシ故障診断の知識・理解・能力の向上を図ります。</p> <p>【 授 業 計 画 】</p> <p>①電子制御式 A/T の概要</p> <p>②電子制御式 A/T の問診</p> <p>③電子制御式 A/T の自己診断システム</p> <p>④電動式パワー・ステアリングの概要</p> <p>⑤前点検（警告灯，操舵力，作動音，トルクセンサ中立値）</p> <p>⑥自己診断システム</p> <p>⑦ABS の概要</p> <p>⑧前点検</p> <p>⑨自己診断</p> <p>⑩オートエアコンの概要</p> <p>⑪問診</p> <p>⑫異常箇所</p> <p>⑬振動騒音の概要</p> <p>⑭再現（異常現象分類表）</p> <p>⑮評価試験</p>			

【予習】

講義終了時に次回の講義範囲を示します。教科書を事前に学習し、質問事項を整理してください。90分以上を目処とします。

【復習】

配布された資料及びノートの記述事項と教科書の記載を比べながら内容の理解を深めてください。所要時間は90分以上を目処とします。必要に応じて、復習用の演習問題を配布します。

【学習到達目標】

1. 電子制御 AT の故障診断技術について説明できる。
2. 電動式パワー・ステアリングの故障診断技術について説明できる。
3. ABS の故障診断技術について説明できる。
4. オートエアコンの故障診断技術について説明できる。
5. 振動騒音の再現手法について説明できる。

【成績評価の方法】

成績は、80%以上出席した者を対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

- ・評価試験 (70%)
- ・レポート (20%)
- ・授業中の発言 (10%)

【教科書】

- (社) 日本自動車整備振興会連合会編集 一級自動車整備士「シャシ電子制御」編
- (社) 日本自動車整備振興会連合会編集 一級自動車整備士「総合診断」編

【質問への対応方法】

- オフィスアワー：毎日 16:40～17:00 921 準備室
- E-mail : terao@nakanihon.ac.jp

【履修者数調整方法】

なし

【関連授業】

自動車振動・騒音工学 自動車シャシ電子制御Ⅱ

科 目 名	自動車総合診断法演習 I Automobile System Overall Diagnostic I	必修	単 位 数
			1
担 当 教 員	鈴木泰成		開 設 期
			2年秋学期
<p>【 科 目 の 概 要 】</p> <p>一級自動車整備士に必要な自動車の総合診断技術を修得します。これらは、一級自動車整備士資格を取得するために必要な総合診断の知識・理解・能力の向上を図ります。</p> <p>【 授 業 計 画 】</p> <p>①サービス産業の概要</p> <p>②サービス産業としての自動車整備業</p> <p>③自動車整備に対するサービス役務の提供</p> <p>④自動車整備に対するサービス役務の基本</p> <p>⑤接客の基本手法と総合診断に必要な知識（1）</p> <p>⑥接客の基本手法と総合診断に必要な知識（2）</p> <p>⑦顧客満足度「CS」の概念</p> <p>⑧情報化社会での課題</p> <p>⑨お客様の購買動機</p> <p>⑩顧客満足度「CS」推進活動の展開例</p> <p>⑪自動車関係法令等の適切な運用とその活用</p> <p>⑫自動車使用者の保守管理（定期点検整備）の必要性</p> <p>⑬自動車の改造等に対する対処と安全の確保</p> <p>⑭自動車の構造・装置の軽微な変更</p> <p>⑮評価試験</p>			

【予習】

講義終了時に次回の講義範囲を示します。教科書を事前に学習し、質問事項を整理してください。90分以上を目処とします。

【復習】

配布された資料及びノートの記述事項と教科書の記載を比べながら内容の理解を深めてください。所要時間は90分以上を目処とします。

【学習到達目標】

1. 自動車整備に対するサービス役務について説明できる。
2. 接客の基本手法ができる。
3. 総合診断に必要な知識について説明できる。
4. 顧客満足度「CS」について説明できる。
5. 自動車関係法令等の適切な運用とその活用について説明できる。
6. 自動車の保守管理・安全の確保について説明できる。

【成績評価の方法】

成績は、80%以上出席した者を対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

- ・評価試験（70%）
- ・レポート（20%）
- ・授業中の発言（10%）

【教科書】

（社）日本自動車整備振興会連合会編集 一級自動車整備士「総合診断」編

【質問への対応方法】

- オフィスアワー：毎日 16:40～17:00 921 準備室
- E-mail：suzuki-y@nakanihon.ac.jp

【履修者数調整方法】

なし

【関連授業】

自動車総合診断法演習Ⅱ

科 目 名	自動車総合診断法演習 II Automobile System Overall Diagnostic II	必修	単 位 数
			1
担 当 教 員	鈴木泰成		開 設 期
			2年秋学期
<p>【 科 目 の 概 要 】 一級整備士に必要な自動車の総合診断技術を修得します。これらは、一級自動車整備士資格を取得するために必要な総合診断の知識・理解・能力の向上を図ります。</p> <p>【 授 業 計 画 】</p> ①整備業務の全般の実務 ②整備業務の基本的な応酬話法 ③応酬話法の要点（具体事例による） ④定期点検整備ケースⅠ ⑤定期点検整備ケースⅡ ⑥車検整備ケースⅠ ⑦車検整備ケースⅡ ⑧故障診断ケースⅠ（オーバーヒート気味） ⑨故障診断ケースⅡ（エンジン警告灯が点灯） ⑩故障診断ケースⅢ（ハンドル操作が重い） ⑪故障診断ケースⅣ（変速ショックが大きい） ⑫故障診断ケースⅤ（変速が遅い又はしない） ⑬故障診断ケースⅥ（ハンドルが一方に取られる） ⑭故障診断ケースⅦ（走行中異音がする） ⑮故障診断ケースⅧ（不正改造車に該当する応酬話法），評価試験			

【予習】

講義終了時に次回の講義範囲を示します。教科書を事前に学習し、質問事項を整理してください。90分以上を目処とします。

【復習】

配布された資料及びノートの記述事項と教科書の記載を比べながら内容の理解を深めてください。所要時間は90分以上を目処とします。

【学習到達目標】

1. 整備業務について説明できる。
2. 整備業務の基本的な応酬話法ができる。
3. 定期点検整備・車検整備の応酬話法ができる。
4. 故障診断（エンジン関係）の応酬話法ができる。
5. 故障診断（シャシ関係）の応酬話法ができる。
6. 故障診断（不正改造車）の応酬話法ができる。

【成績評価の方法】

成績は、80%以上出席した者を対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

- ・評価試験（70%）
- ・レポート（20%）
- ・授業中の発言（10%）

【教科書】

（社）日本自動車整備振興会連合会編集 一級自動車整備士「総合診断」編

【質問への対応方法】

- オフィスアワー：毎日 16:40～17:00 921 準備室
- E-mail：suzuki-y@nakanihon.ac.jp

【履修者数調整方法】

なし

【関連授業】

自動車総合診断法演習 I

科 目 名	自動車環境・安全管理法 Automobile Environment and Safety Management	選択	単 位 数
			2
担 当 教 員	鈴木泰成		開 設 期
			2年秋学期
<p>【 科 目 の 概 要 】</p> <p>一級整備士に必要な自動車の環境保全と安全管理の知識を修得します。これらは、一級自動車整備士資格を取得するために必要な環境保全と安全管理の知識・理解・能力の向上を図ります。</p> <p>【 授 業 計 画 】</p> <p>①環境保全の現状，環境保全必要性</p> <p>②環境保全への取り組み</p> <p>③資力の有効利用による社会的貢献，資源有効利用の要件</p> <p>④再利用部品の活用</p> <p>⑤産業廃棄物処理の影響と対応，使用済み自動車のマニフェスト制度</p> <p>⑥エアーバック，バッテリー</p> <p>⑦タイヤ，冷却水（LLC）</p> <p>⑧フロン回収・破壊の処理の概要，カー・エアコン用特定フロン（CF12）</p> <p>⑨カー・エアコン用代替フロン（HFC134a）</p> <p>⑩PRTR 法概要，整備事業場等の固定施設における環境保全</p> <p>⑪整備事業場に関連する廃棄物の処理対応，整備工場の環境への取り組み</p> <p>⑫安全管理の意義，火災のあらまし</p> <p>⑬災害防止</p> <p>⑭職場における防火防災</p> <p>⑮評価試験</p>			

【予習】

講義終了時に次回の講義範囲を示します。教科書を事前に学習し、質問事項を整理してください。90分以上を目処とします。

【復習】

配布された資料及びノートの記述事項と教科書の記載を比べながら内容の理解を深めてください。所要時間は90分以上を目処とします。必要に応じて、復習用の演習問題を配布します。

【学習到達目標】

1. 自動車の環境保全の現状・必要性・取り組みについて説明できる。
2. 資源の有効利用について説明できる。
3. 使用済み自動車のマニフェスト制度について説明できる。
4. フロン回収・破壊の処理について説明できる。
5. PRTR法について説明できる。
6. 整備事業の安全管理について説明できる。

【成績評価の方法】

成績は、80%以上出席した者を対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

- ・評価試験（70%）
- ・レポート（20%）
- ・授業中の発言（10%）

【教科書】

（社）日本自動車整備振興会連合会編集 一級自動車整備士「環境保全・安全管理」編

【質問への対応方法】

- オフィスアワー：毎日 16:40～17:00 921 準備室
- E-mail：suzuki-y@nakanihon.ac.jp

【履修者数調整方法】

なし

科 目 名	自動車法規・検査法 Automobile Laws Regulations and Inspection	選択	単 位 数
			2
担 当 教 員	鈴木泰成		開 設 期
			2年秋学期

【 科 目 の 概 要 】

一級整備士に必要な自動車の法規・検査法の知識を修得します。これらは、一級自動車整備士資格を取得するために必要な法規・検査法の知識・理解・能力の向上を図ります。

【 授 業 計 画 】

- ①道路運送車両法の総則，自動車の登録，道路運送車両の保安基準
- ②道路運送車両の点検・整備・検査
- ③道路運送車両の検査
- ④自動車の整備事業
- ⑤定期点検整備ケースⅡ
- ⑥道路運送車両法の保安基準
- ⑦道路運送車両法の保安基準
- ⑧道路運送車両法の保安基準
- ⑨道路運送車両法の保安基準
- ⑩自動車検査用機械器具に関する制度，サイドスリップ・テスト
- ⑪ブレーキ・テスト
- ⑫速度計試験機
- ⑬前照灯試験機，音量計
- ⑭一酸化炭素測定器及び炭化水素測定器，黒鉛測定器
- ⑮評価試験

【予習】

講義終了時に次回の講義範囲を示します。教科書を事前に学習し、質問事項を整理してください。90分以上を目処とします。

【復習】

配布された資料及びノートの記述事項と教科書の記載を比べながら内容の理解を深めてください。所要時間は90分以上を目処とします。必要に応じて、復習用の演習問題を配布します。

【学習到達目標】

1. 道路運送車両法の総則、自動車の登録について説明できる。
2. 道路運送車両の点検・整備・検査について説明できる。
3. 自動車の整備事業について説明できる。
4. 道路運送車両法の保安基準について説明できる。
5. 自動車検査用機械器具について説明できる。

【成績評価の方法】

成績は、80%以上出席した者を対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

- ・評価試験（70%）
- ・レポート（20%）
- ・授業中の発言（10%）

【教科書】

（社）日本自動車整備振興会連合会編 「法令教材」

【質問への対応方法】

- オフィスアワー：毎日 16:40～17:00 921 準備室
- E-mail：suzuki-y@nakanihon.ac.jp

【履修者数調整方法】

なし

科目名	自動車高度整備実習 I Advanced Workshop Practice I in Automobile Maintenance and Diagnostics	必修	単位数
			8
担当教員	岩田有正 寺尾裕二 鈴木泰成		開設期
			1年春学期
<p>【科目の概要】</p> <p>一級整備士に必要な自動車の総合診断，電気・電子回路の知識と自動車整備の技術を修得します。これらは、一級自動車整備士資格を取得するために必要な自動車整備技術の知識・理解・能力の向上を図ります。</p> <p>【授業計画】</p> <p>項目 a：総合診断 I</p> <p>1～ 6 接客対応，受付・問診</p> <p>7～ 9 引渡し，保証業務</p> <p>10～15 苦情初期対応，事故処理・受付，フロント業務</p> <p>項目 b：：電源回路</p> <p>1～ 4 電気回路の概要と電気・電子回路の基本</p> <p>5～ 8 電気回路の故障</p> <p>9～15 電気・電子回路の測定技術</p> <p>項目 c：自動車整備 I（FF ガソリン車の整備）</p> <p>1～ 7 ガソリン・エンジン構造・点検</p> <p>8～11 A/T 構造・点検</p> <p>12～14 ブレーキ装置構造・点検</p> <p>15～17 PS 構造・点検</p> <p>18～20 サスペンション構造・点検</p> <p>21～22 充電装置</p> <p>23～27 パワーウインド</p> <p>28 エアコン</p> <p>29～30 自動車総合整備検査</p>			

【予習】

講義終了時に次回の講義範囲を示します。事前に学習し、質問事項を整理してください。90分以上を目処とします。

【復習】

配布された資料及びノートの記述事項から内容の理解を深めてください。所要時間は90分以上を目処とします。必要に応じて、復習用の演習問題を配布します。

【学習到達目標】

1. 接客応対ができる。
2. 保証業務について説明できる。
3. フロント業務について説明できる。
4. 電気・電子回路の測定ができる。
5. ガソリン・エンジンの点検ができる。
6. A/Tの点検ができる。
7. ブレーキ装置の点検ができる。
8. サスペンションの点検ができる。
9. 電気装置の点検ができる。

【成績評価の方法】

成績は、80%以上出席した者を対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

- ・評価試験（70%）
- ・レポート（20%）
- ・授業中の発言（10%）

【教科書】

- (社) 日本自動車整備振興会連合会編集 一級自動車整備士「エンジン電子制御」編
- (社) 日本自動車整備振興会連合会編集 一級自動車整備士「シャシ電子制御」編
- (社) 日本自動車整備振興会連合会編集 一級自動車整備士「総合診断」編

【質問への対応方法】

- オフィスアワー：毎日 16:40～17:00 921 準備室
- E-mail：iwata@nakanihon.ac.jp（岩田）
terao@nakanihon.ac.jp（寺尾）
suzuki-y@nakanihon.ac.jp（鈴木）

【履修者数調整方法】

なし

科目名	自動車高度整備実習Ⅱ Advanced Workshop Practice I in Automobile Maintenance and Diagnostics II	必修	単位数
			8
担当教員	岩田有正 寺尾裕二 鈴木泰成		開設期
			1年秋学期
<p>【科目の概要】</p> <p>一級整備士に必要な自動車のCS業務，振動騒音の知識と自動車整備の技術を修得します。これらは、一級自動車整備士資格を取得するために必要な自動車整備技術の知識・理解・能力の向上を図ります。</p> <p>【授業計画】</p> <p>項目a：CS業務</p> <p>1～ 6 接客対応，受付・問診</p> <p>7～ 9 苦情初期対応，事故処理・受付，フロント業務</p> <p>10～15 アクチュエータ，アナログ制御，デジタル制御</p> <p>項目b：振動騒音</p> <p>1～ 5 振動騒音計の取扱い，振動騒音の追究・検証</p> <p>6～10 エンジン関係</p> <p>11～15 シヤシ関係</p> <p>項目c：自動車整備Ⅱ（各種車両の整備と故障診断）</p> <p>1～ 3 エンジンの故障診断</p> <p>4～ 7 A/Tの故障診断，ブレーキ装置の故障診断・PSの故障診断</p> <p>8～10 パワーウインドの故障診断，アライメントの故障診断</p> <p>11～12 ハイブリッド車の構造点検，故障診断</p> <p>13～14 天然ガス自動車の構造点検，故障診断</p> <p>15～17 総合故障診断</p> <p>18～22 ジーゼル・エンジン構造・点検，ジーゼル・エンジンの故障診断</p> <p>23～30 FRガソリン車の構造・点検，FRガソリン車の故障診断・検査</p>			

【予習】

講義終了時に次回の講義範囲を示します。事前に学習し、質問事項を整理してください。90分以上を目処とします。

【復習】

配布された資料及びノートの記述事項から内容の理解を深めてください。所要時間は90分以上を目処とします。必要に応じて、復習用の演習問題を配布します。

【学習到達目標】

1. 苦情初期対応ができる。
2. 事故処理・見積もり処理ができる。
3. アクチュエータ制御について説明できる。
4. 振動騒音計の取扱いができる。
5. 振動騒音の故障診断ができる。
6. ガソリン・エンジン車の故障診断（センサ・アクチュエータ）ができる。
7. ハイブリッド車の点検，故障診断ができる。
8. 天然ガス自動車の点検，故障診断ができる。
9. ジーゼル・エンジン車の故障診断ができる。

【成績評価の方法】

成績は、80%以上出席した者を対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

- ・評価試験（70%）
- ・レポート（20%）
- ・授業中の発言（10%）

【教科書】

- (社) 日本自動車整備振興会連合会編集 一級自動車整備士「エンジン電子制御」編
- (社) 日本自動車整備振興会連合会編集 一級自動車整備士「シャシ電子制御」編
- (社) 日本自動車整備振興会連合会編集 一級自動車整備士「総合診断」編

【質問への対応方法】

- オフィスアワー：毎日 16:40～17:00 921 準備室
- E-mail：iwata@nakanihon.ac.jp（岩田）
terao@nakanihon.ac.jp（寺尾）
suzuki-y@nakanihon.ac.jp（鈴木）

【履修者数調整方法】

なし

科目名	自動車整備体験実習 Internship Workshop Practice I in Automobile Maintenance and Diagnostics	必修	単位数
			6
担当教員	岩田有正		開設期
			2年春学期
<p>【科目の概要】</p> <p>一級自動車整備士に必要な自動車整備，故障原因探求，総合診断の技術を自動車整備工場で体験学習します。</p> <p>【授業計画】</p> <p>1. 自動車の点検整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・整備工場の組織構成，業務命令系統の把握 ・整備作業の流れ ・車両の受入から納車までのフロント業務の実際 ・定期点検，車検等の整備作業 ・整備作業上の安全性確保，環境影響等の学習 <p>2. 故障原因探求</p> <ul style="list-style-type: none"> ・故障原因探求法の実際を作業担当者について実践 <p>3. 総合診断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顧客との接客対応法，顧客管理法の実際 ・整備料金の算定法，見積書の作成法 			

【予習】

インターンシップ・カリキュラムに合わせて、事前に学習してください。90分以上を目処とします。

【復習】

実習レポートから内容の理解を深めてください。所要時間は90分以上を目処とします。

【学習到達目標】

1. 整備工場の組織構成，業務命令系統について説明できる。
2. 定期点検，車検等の整備作業ができる。
3. 故障探求ができる。
4. 接客応対ができる。
5. フロント業務ができる。
6. 整備作業上の安全性確保，環境影響等について説明できる。

【成績評価の方法】

インターンシップ実習のレポートにより評価

【教科書】

(社) 日本自動車整備振興会連合会編集 一級自動車整備士「総合診断」編

【質問への対応方法】

- オフィスアワー：毎日 16:40～17:00 921 準備室
- E-mail：iwata@nakanihon.ac.jp (岩田)

【履修者数調整方法】

なし

科目名	自動車整備実務実習 I Actual Workshop Practice I in Automobile Maintenance and Diagnostics	必修	単位数
			4
担当教員	岩田有正 寺尾裕二 鈴木泰成		開設期
			1年通年
<p>【科目の概要】 一級自動車整備士に必要な自動車整備，故障原因探求，総合診断の技術を修得します。これらは、一級自動車整備士資格を取得するために必要な自動車整備技術の知識・理解・能力の向上を図ります。</p> <p>【授業計画】 項目 a：新技術・新機構（燃料電池） 1～4 単セル燃料電池の分解組み立て，膜電極接合体の製作 5～7 燃料電池の電流電圧特性の測定，燃料消費率と効率測定，まとめ</p> <p>項目 b：総合整備 IA 1～7 ガソリン・エンジンの故障診断 8～11 A/T の故障診断，ブレーキ装置の故障診断，PS 装置の故障診断 12～15 ジーゼル・エンジン構造・点検，ジーゼル・エンジンの故障診断</p> <p>項目 c：総合整備 IB 1～7 FR ガソリン車の整備，故障原因探求，総合診断 8～14 振動・騒音</p>			

【予習】

講義終了時に次回の講義範囲を示します。事前に学習し、質問事項を整理してください。90分以上を目処とします。

【復習】

配布された資料及びノートの記述事項から内容の理解を深めてください。所要時間は90分以上を目処とします。必要に応じて、復習用の演習問題を配布します。

【学習到達目標】

1. 燃料電池について説明できる。
2. ガソリン・エンジンの故障診断ができる。
3. A/Tの故障診断ができる。
4. ブレーキ装置・PS装置の故障診断ができる。
5. ジーゼル・エンジンの故障診断ができる。
6. FRガソリン車の整備ができる。

【成績評価の方法】

成績は、80%以上出席した者を対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

- ・評価試験（70%）
- ・レポート（20%）
- ・授業中の発言（10%）

【教科書】

- (社) 日本自動車整備振興会連合会編集 一級自動車整備士「エンジン電子制御」編
- (社) 日本自動車整備振興会連合会編集 一級自動車整備士「シャシ電子制御」編
- (社) 日本自動車整備振興会連合会編集 一級自動車整備士「総合診断」編

【質問への対応方法】

- オフィスアワー：毎日 16:40～17:00 921 準備室
- E-mail：iwata@nakanihon.ac.jp（岩田）
terao@nakanihon.ac.jp（寺尾）
suzuki-y@nakanihon.ac.jp（鈴木）

【履修者数調整方法】

なし

科 目 名	自動車整備実務実習 II Actual Workshop Practice II in Automobile Maintenance and Diagnostics	必修	単 位 数
			6
担 当 教 員	岩田有正 寺尾裕二 鈴木泰成		開 設 期
			2年春学期
<p>【 科 目 の 概 要 】</p> <p>一級整備士に必要な自動車整備，故障原因探求，総合診断の技術を修得します。これらは、一級自動車整備士資格を取得するために必要な自動車整備技術の知識・理解・能力の向上を図ります。</p> <p>【 授 業 計 画 】</p> <p>項目 a：総合整備IIA 1～7 ジーゼル車，ガソリン車の整備・故障原因探求・総合診断</p> <p>項目 b：自動車性能II 1～7 車両性能試験</p> <p>項目 c：総合整備IIIB 1～14 FF ガソリン車整備II，故障原因探求，総合診断，CS 業務</p> <p>項目 c：総合整備IIC 1～14 4WD 車整備III，故障原因探求，総合診断，CS 業務</p>			

【予習】

講義終了時に次回の講義範囲を示します。事前に学習し、質問事項を整理してください。90分以上を目処とします。

【復習】

配布された資料及びノートの記述事項から内容の理解を深めてください。所要時間は90分以上を目処とします。必要に応じて、復習用の演習問題を配布します。

【学習到達目標】

1. ジーゼル車，ガソリン車の整備，故障原因探求ができる。
2. 車両性能試験について説明できる。
3. FF ガソリン車の整備ができる。
4. FF ガソリン車の故障原因探求ができる。
5. 4WD 車の整備ができる。
6. 4WD 車の故障原因探求ができる。

【成績評価の方法】

成績は，80%以上出席した者を対象とし，学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

- ・評価試験（70%）
- ・レポート（20%）
- ・授業中の発言（10%）

【教科書】

- (社) 日本自動車整備振興会連合会編集 一級自動車整備士「エンジン電子制御」編
- (社) 日本自動車整備振興会連合会編集 一級自動車整備士「シャシ電子制御」編
- (社) 日本自動車整備振興会連合会編集 一級自動車整備士「総合診断」編

【質問への対応方法】

- オフィスアワー：毎日 16:40～17:00 921 準備室
- E-mail：iwata@nakanihon.ac.jp（岩田）
terao@nakanihon.ac.jp（寺尾）
suzuki-y@nakanihon.ac.jp（鈴木）

【履修者数調整方法】

なし

科 目 名	自動車整備実務実習 III Actual Workshop Practice III in Automobile Maintenance and Diagnostics	必修	単 位 数
			8
担 当 教 員	岩田有正 寺尾裕二 鈴木泰成		開 設 期
			2年秋学期
<p>【 科 目 の 概 要 】</p> <p>一級整備士に必要な自動車整備，故障原因探求，総合診断の技術を修得します。これらは、一級自動車整備士資格を取得するために必要な自動車整備技術の知識・理解・能力の向上を図ります。</p> <p>【 授 業 計 画 】</p> <p>項目 a：総合整備ⅢA 1～7 ジーゼル車・ガソリン車の整備，故障原因探求，総合診断，CS 業務</p> <p>項目 b：自動車性能Ⅲ 1～7 車両性能試験</p> <p>項目 c：総合整備ⅢA 1～14 ハイブリッド車整備・故障原因探求，総合診断，CS 業務</p> <p>項目 c：総合整備ⅢB 1～14 FF ガソリン車整備Ⅲ，故障原因探求，総合診断，CS 業務</p>			

【予習】

講義終了時に次回の講義範囲を示します。事前に学習し、質問事項を整理してください。90分以上を目処とします。

【復習】

配布された資料及びノートの記述事項から内容の理解を深めてください。所要時間は90分以上を目処とします。必要に応じて、復習用の演習問題を配布します。

【学習到達目標】

1. ジーゼル車の整備，故障原因探求ができる。
2. ガソリン車の整備，故障原因探求ができる。
3. ハイブリッド車の整備，故障原因探求ができる。
4. FFガソリン車の整備，故障原因探求ができる。
5. ショックダイナモの取り扱いができる。

【成績評価の方法】

成績は，80%以上出席した者を対象とし，学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

- ・評価試験（70%）
- ・レポート（20%）
- ・授業中の発言（10%）

【教科書】

- (社) 日本自動車整備振興会連合会編集 一級自動車整備士「エンジン電子制御」編
- (社) 日本自動車整備振興会連合会編集 一級自動車整備士「ショック電子制御」編
- (社) 日本自動車整備振興会連合会編集 一級自動車整備士「総合診断」編

【質問への対応方法】

- オフィスアワー：毎日 16:40～17:00 921 準備室
- E-mail：iwata@nakanihon.ac.jp（岩田）
terao@nakanihon.ac.jp（寺尾）
suzuki-y@nakanihon.ac.jp（鈴木）

【履修者数調整方法】

なし

2019（平成31）年度教員担当科目と実務経験

	氏名	担当科目	専攻科	留学生別科	実務経験(5年以上)
		○：1年科目 ◎：2年科目 ◇：実験・実習 ●：補習授業（カリキュム外）	*：講義・演習 ☆：実験・実習	△：講義	
専任教員	1 森本一彦	○自動車原動機Ⅰ 自動車原動機Ⅱ ◎自動車原動機Ⅲ 人間工学			自動車メーカー開発
	2 岩田有正	○自動車電気装置Ⅰ *自動車エンジン制御工学Ⅰ 先端自動車技術Ⅰ 自動車電気・電子回路 ☆自動車高度整備実習Ⅰ 自動車整備実務実習Ⅱ			自動車整備士教育
	3 寺尾裕二	◎自動車電気装置Ⅲ ☆自動車高度整備実習Ⅰ 自動車整備実務実習Ⅱ			自動車整備
	4 鈴木泰成	○キャリアデザインⅠ クラスゼミ *自動車システム故障診断法Ⅰ ☆自動車整備実務実習Ⅰ 自動車高度整備実習Ⅰ 自動車整備実務実習Ⅱ			自動車整備
	5 森光弘	◎モータースポーツ演習Ⅱ ◇ポデーリペア実習 *車体構造Ⅲ ☆ポデーリペア実習Ⅰ フェラーリ実習(集中) カスタマイズⅠ(集中)			自動車整備
	6 可知陽之郎	◎モータースポーツ演習Ⅱ ◇ポデーリペア実習 ☆ポデーリペア実習Ⅰ			自動車板金・自動車整備
	7 的野大樹	◎自動車工学演習 クラスゼミ モータースポーツ演習Ⅱ *車体修復技術 ☆ポデーリペア実習Ⅰ			自動車整備
	8 ◆相庭誠夫	○自動車構造Ⅰ 自動車構造Ⅱ			自動車整備
	9 五十嵐巧	◇自動車整備実習Ⅲ ◎二輪自動車工学 ◇二輪自動車整備実習Ⅰ クラスゼミ			自動車整備
	10 國井伯昭	◇自動車整備実習Ⅰ ○自動車原動機Ⅰ ◎自動車工学演習 クラスゼミ			
	11 長谷貴道	◇自動車整備実習Ⅰ ◎自動車工学演習 モータースポーツ演習Ⅳ クラスゼミ			自動車整備
	12 清水啓司	◇自動車整備実習Ⅰ ◎モータースポーツ演習Ⅱ カスタマイズⅡ(集中)			
	13 横井隆治	◇自動車整備実習Ⅱ ○キャリアデザインⅠ クラスゼミ			
	14 後藤寛宜	◇自動車整備実習Ⅱ ○キャリアデザインⅠ ◎自動車原動機Ⅳ クラスゼミ			自動車整備
	15 成瀬俊哉	◇自動車整備実習Ⅱ ○キャリアデザインⅠ 自動車構造Ⅰ クラスゼミ			自動車整備
	16 林文明	◇自動車整備実習Ⅲ ○キャリアデザインⅠ クラスゼミ			自動車整備
	17 藤田英樹	◇自動車整備実習Ⅲ ◎自動車工学演習 クラスゼミ			自動車整備技術指導員
	18 栗木江一	◇自動車整備実習Ⅳ ○キャリアデザインⅠ クラスゼミ ◎自動車構造Ⅲ			自動車整備
	19 高橋正則	◇自動車整備実習Ⅳ *自動車エンジン制御工学Ⅰ ○自動車構造Ⅱ			
	20 久世康司	◇自動車整備実習Ⅳ ◎自動車工学演習 クラスゼミ ○自動車構造Ⅱ			自動車整備
	21 神野恭兵	◇自動車整備実習Ⅰ ◎自動車工学演習 クラスゼミ			
	22 青木恒夫	○自動車電気装置Ⅰ モータースポーツ概論 ◎モータースポーツ演習Ⅳ			自動車整備
	23 加藤泰世	◎物理学 ○自動車の力学Ⅰ 材料力学 ○自動車の力学Ⅱ			
	24 中川実	◎自動車法規Ⅰ 自動車法規Ⅱ 自動車工学演習 クラスゼミ			自動車整備
	25 中里武彦	○モータースポーツ概論 ◎モータースポーツ演習Ⅳ			自動車整備
	26 長谷川達也	○機械要素・図面 自動車材料学			工作機械設計
	27 及川浩和	○数学 キャリアデザインⅠ ◎情報処理演習			
	28 ◆高瀬利恵子	△日本語特別演習Ⅰ 日本語総合ⅠⅡ 日本語AⅠⅡ ゼミⅠ			
	29 古川竜治	○自動車工学日本語Ⅰ 日本語表現法 △日本語総合ⅠⅡ 日本語DⅠⅡ ゼミⅠ 基礎自動車			
	30 清水勝昭	○自動車工学日本語Ⅱ ◎日本の自動車事情			
非常講師	1 高行男	*車体材料学 ◎自動車新素材			
	2 鈴木敦巳	○英語 ◎工業英語			
	3 脇俊隆	◎自動車原動機Ⅳ			
	4 大脇澄男	◎自動車性能理論 ◎自動車電子制御工学			
	5 西側通雄	◎自動車構造Ⅳ			自動車整備
	6 葛巻香	◎自動車保険論			
	7 小川久	○健康とスポーツ			
	8 清水裕二	カーデザインⅠⅡ(集中)			工業デザイン
	9 伊藤崇人	カスタマイズⅠ・カスタムペイント実習(集中)			商業デザイン
	10 高木香与子	○日本語表現法 ●自動車工学漢字マスター 日本語総合マスターⅠ ○ビジネス英会話 △日本語総合Ⅰ・Ⅱ 日本語AⅠ・Ⅱ 日本語特別演習Ⅲ			
	11 蜂須賀三稀	◎英語会話			
	12 吉川せつ	○中国語 ◎経済学			
	13 吉田立	○自動車の力学ⅠⅡ 自動車電気装置ⅠⅡ 自動車の力学Ⅰ 自動車電気装置 ◇自動車電子実験			
	14 狭石恵美	◎CAD演習			PC関連技術
	三鴨愛奈	◎CAD入門			PC関連技術
	15 本田有子	△日本語BⅠⅡ 日本語CⅠⅡ 日本語特別演習Ⅲ ゼミⅡ 日本語総合ⅠⅡ ●自動車工学漢字マスター 日本語総合マスターⅠ ○日本語表現法			
	16 青海佳子	△日本語総合ⅠⅡ 日本語BⅠⅡ 日本語CⅠⅡ 日本語EⅠⅡ			
	17 小室輝代	△日本語総合ⅠⅡ 日本語EⅠⅡ 日本語特別演習Ⅲ			
	18 朱薇娜	△日本語総合ⅠⅡ 日本語DⅠⅡ 日本語EⅠⅡ			
19 川畑遥	△日本語総合ⅠⅡ 日本語CⅠⅡ				

別表第2-1

専攻科 一級自動車整備専攻(2年課程)

区分	授業科目	単位数		区分		一級指定科目	備考
		1年	2年	必修	選択		
学科	先端自動車技術Ⅰ	2		必修		○	修了要件単位数 14 単位
	先端自動車技術Ⅱ		2	必修		○	
	自動車電気・電子回路	2		必修		○	
	自動車エンジン制御工学Ⅰ	1		必修		○	
	自動車エンジン制御工学Ⅱ	1		必修		○	
	自動車シャシ制御工学Ⅰ	1		必修		○	
	自動車シャシ制御工学Ⅱ	1		必修		○	
	自動車振動・騒音工学	2			選択	○	
	自動車システム故障診断法Ⅰ	1		必修		○	
	自動車システム故障診断法Ⅱ		1	必修		○	
	自動車総合診断法演習Ⅰ		1	必修		○	
	自動車総合診断法演習Ⅱ		1	必修		○	
	自動車環境・安全管理法		2		選択	○	
	自動車法規・検査法		2		選択	○	
小計	11	9					
実習	自動車高度整備実習Ⅰ	8		必修		○	修了要件単位数 16 単位
	自動車高度整備実習Ⅱ	8		必修		○	
	小計	16					
実務実習	自動車整備体験実習		6	必修		○	修了要件単位数 24 単位
	自動車整備実務実習Ⅰ	4		必修		○	
	自動車整備実務実習Ⅱ		6	必修		○	
	自動車整備実務実習Ⅲ		8	必修		○	
小計	4	20					
合計	31	29				修了要件単位数 54 単位	

専攻科 一級自動車整備専攻 単位集計

	開講単位数		修了要件 単位数
	必修	選択	
学 科	14	6	14
実 習	16		16
実務実習	24		24
合 計	54	6	54
	60		

6

専攻科 車体整備専攻

講義要綱

専攻科車体整備専攻では、国家資格である「自動車車体整備士」の取得を目的とした専攻科です。講義の構成は、車体整備士に必要な自動車工学や自動車構造の基礎、ボデー構造及びその修復方法などを、座学及び実技によって学んでいきます。

基礎的な学びが進んだのち、その応用として課題車両の製作をおこない、学生諸君が自らアイデアを出しながら取り組んでいきます。そこには、複雑なボデー構造の確認や板金修正技術、高度な塗装方法なども含まれるので、自然と技術や知識を身に付けることができます。

また、完成した車両は学生諸君の学習成果の発表の場として、各種イベントなどに出展し、一般の方々にも披露しています。

選択科目には、より実践的な科目を用意し、就職後にもすぐに役立つ講義を用意しています。

ほかにも、外部講師による自動車の新機構についての講演やボデーリペア技法の紹介など、様々な講習会も実施しています。

以上のように、車体専攻では資格取得を目的としながら、ボデーリペアのあらゆることについて、幅広く学ぶことができます。

目 次

専攻科 車体整備専攻

車体整備論Ⅰ	205
車体整備論Ⅱ	207
車体修復技術	209
車体塗装工学	211
車体構造Ⅰ	213
車体構造Ⅱ	215
車体構造Ⅲ	217
車体材料学	219
車両損害調査論	221
ボデーリペア実習Ⅰ	223
ボデーリペア実習Ⅱ	225
カスタムペイント実習	227
インターンシップ	229
教員担当科目と実務経験	230
専攻科車体整備専攻教育課程	231

科 目 名	車体整備論 I Auto Body Maintenance I	必修	単 位 数
			2
担 当 教 員	可知陽之郎	開 設 期	
		秋学期	

【 科 目 の 概 要 】

車体整備士として必要な自動車工学の基礎、自動車整備の基礎、自動車ボデーの構造を学習します。自動車ボデーの構造は車体整備士の基本的な教養ですので、登録試験を意識して広く最近の状況まで含めて、万遍なく講義します。

【 授 業 計 画 】

- ① 基礎自動車工学 1
概要、構造
- ② 基礎自動車工学 2
材料、機械要素
- ③ 基礎自動車工学 3
燃料、潤滑油、基礎原理・法則、自動車の諸元
- ④ 基礎自動車整備作業 1
整備の基礎、基本作業
- ⑤ 基礎自動車整備作業 2
測定、計測法
- ⑥ 基礎自動車整備作業 3
エンジン点検、シャシ点検、充電、給油、昇降、その他の整備作業
- ⑦ ボデー 1
概要、自動車の分類、フレーム式ボデー、モノコック・ボデー
- ⑧ ボデー 2
トラス構造、ラーメン構造、曲げモーメント、荷重分布
- ⑨ ボデー 3
自動車アセスメント、衝突安全ボデー、歩行者傷害低減構造
- ⑩ ボデー 4
自動車材料、鉄鋼材料、新素材、非鉄金属
- ⑪ ボデー 5
非金属材料、プレス加工
- ⑫ ボデー 6
新車組立ライン、部材の結合方法
- ⑬ ボデー 7
ボデー各部の構造概要と名称
- ⑭ ボデー 8
外装部品、内装部品
- ⑮ ボデー 9
擬装部品
- ⑯ 試験
筆記試験

【 予 習 と 復 習 】

予習とは、事前情報の入手です。復習とは、授業で行った事の確認です。予習と復習を各 90 分以上目安とし、取り組んでください。

【課題】

課題は演習・レポート等を必要に応じて出します。指定された期日までに提出してください。添削等総括は授業内で行います。

【学習到達目標】

1. 自動車の基本的概要（FF, FR, 4WD など）について説明できる。
2. 自動車の構造（エンジン、クラッチ、トランスミッション、ドライブシャフト、ステアリング、サスペンション、ブレーキ装置など）について説明できる。
3. 自動車の材料（鋳鉄、鋼、アルミ、合成樹脂など）について説明できる。
4. 自動車の機械要素（ボルトとナット、シャシ・スプリング、ベアリングなど）について説明できる。
5. 基礎的な原理・法則（トルク、力のモーメント、電気と磁気、自動車の緒元など）、について説明できる。

【成績評価の方法】

成績は、80%以上出席したものを対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

定期試験（60%）、中間試験（30%）、授業の取り組み姿勢、（10%）による総合評価

【教科書】

基礎自動車工学（社）日本自動車整備振興会連合会）

基礎自動車整備作業（社）日本自動車整備振興会連合会）

【参考書・参考文献】

車体整備（日本自動車車体整備協同組合連合会）

【履修上の注意】

教室内では指導教員の指示に従ってください。教室内で携帯電話を使用しないこと。教室からの無断退出は欠席扱いとします。教科書、筆記用具を持ってこない者は欠席扱いとします。遅刻者は、その理由を報告してから着席してください。

【質問への対応方法】

オフィスアワー（月～金曜日 16:30時 ～ 17:00 ）

場所 8号館事務室

E-mail (kachi@nakanihon.ac.jp) その他 ()

【履修者数調整方法】

基本的に受講者数の調整は行いません。

【関連授業】

車体整備論Ⅱ、車体修復技術

科 目 名	車体整備論Ⅱ Auto Body Maintenance Ⅱ	必修	単 位 数
			2
担 当 教 員	可知陽之郎	開 設 期	
		秋学期	

【 科 目 の 概 要 】

車体整備論Ⅰの基礎知識を前提に、実際に修理する場合の補給部品の提供状況、損傷の知識、ボデーの損傷特性、損傷の波及、フレーム修正、板金、鉄鋼材料以外の取扱いなどを広く講義し塗装法を除いた車体整備技法の総論となります。モノコック・ボデー構造、名称をきちんと押さえ、車体整備士として恥ずかしくない知識を身につけます。

【 授 業 計 画 】

- ① 補修用補給部品 1
部品の分類、補給部品の形態、内骨格部品
- ② 補修用補給部品 2
その他部品、ガラス部品、リサイクル部品、自動車リサイクル法
- ③ 損傷診断 1
概要、診断手法、損傷の種類
- ④ 損傷診断 2
衝突、力の要素、事故車に作用する力
- ⑤ 損傷診断 3
衝突安全ボデー、FR 車、FF 車、各ボデーの損傷特性
- ⑥ 損傷診断 4
損傷の把握、損傷波及、事故車の観察、損傷診断
- ⑦ 修理技法 1
復元修理の概要、外板パネルの修正、粗出し、中仕上げ作業、サンディング
- ⑧ 修理技法 2
最終仕上げ作業、パテ、ハンダ
- ⑨ 修理技法 3
内骨格部位の復元、復元修理のプロセス
- ⑩ 修理技法 4
車体整備用機器、フレーム修正機
- ⑪ 修理技法 5
溶接、自動車修理に用いる溶接
- ⑫ 修理技法 6
樹脂部品、分類、修理技法
- ⑬ 修理技法 7
アルミニウム合金パネル、復元修理
- ⑭ 修理技法 8
部品取替要否の判断、脱着要否の判断
- ⑮ まとめ
- ⑯ 試験
筆記試験

【 予 習 と 復 習 】

予習とは、事前情報の入手です。復習とは、授業で行った事の確認です。予習と復習を各 90 分以上目安とし、取り組んでください。

【課題】

課題は演習・レポート等を必要に応じて出します。指定された期日までに提出してください。添削等総括は授業内で行います。

【学習到達目標】

1. ボデーの構造（フレーム式ボデー、モノコックボデーなど）について説明できる。
2. 自動車の材料（プレス加工の種類）について説明できる。
3. ボデー各部の構造と名称（内板骨格パネル、外板パネル、センターボデー、外装品、内装品など）について説明できる。
4. 外板パネルの板金修理技法について説明できる。
5. 内板骨格部位の復元修理について説明できる。

【成績評価の方法】

成績は、80%以上出席したものを対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

定期試験（60%）、中間試験（30%）、授業の取り組み姿勢、（10%）による総合評価

【教科書】

車体整備（（社）日本自動車車体整備協同組合連合会）

【参考書・参考文献】

基礎自動車工学（（社）日本自動車整備振興会連合会）

基礎自動車整備作業（（社）日本自動車整備振興会連合会）

【履修上の注意】

教室内では指導教員の指示に従ってください。教室内で携帯電話を使用しないこと。教室からの無断退出は欠席扱いとします。教科書、筆記用具を持ってこない者は欠席扱いとします。遅刻者は、その理由を報告してから着席してください。

【質問への対応方法】

オフィスアワー（月～金曜日 16：30時 ～ 17：00）

場所 8号館事務室

E-mail (kachi@nakanihon.ac.jp) その他（ ）

【履修者数調整方法】

基本的に受講者数の調整は行いません。

【関連授業】

車体整備論Ⅰ、車体修復技術

科 目 名	車体修復技術 Auto Body Repairing Technology	必修	単 位 数
			2
担 当 教 員	的野大樹	開 設 期	
		春学期	

【 科 目 の 概 要 】

事故車の損傷状況を把握する三次元測定、フレーム修正方法、鈹金方法、パネル取替え方法、パテ作業、各パネルの位置調整など実際の作業例を通して実践的な車体整備技法を学びます。実際の車体修復現場で行っている作業のテクニックや注意事項を学び、また進化を続けるボデー構造やそれを修復する技術についても学んでいきます。

【 授 業 計 画 】

- ① ボデーの素材について
- ② ボデーの構造について
- ③ 鈹金作業工程と設備機器について
- ④ 脱着作業とツールについて
- ⑤ 鈹金作業について
- ⑥ 鈹金作業とツールについて
- ⑦ 防錆対策について
- ⑧ パテ作業とツールについて
- ⑨ パネル取替作業について
- ⑩ 溶接機器について
- ⑪ 接着鈹金について
- ⑫ ボデー修正とボデー修正装置について
- ⑬ 検査と品質について
- ⑭ 安全衛生対策について
- ⑮ まとめ

【予習と復習】

授業で学んだことをボデーリペア実習や自分の車などを確認して復習をしておいて下さい。

【課 題】

課題はレポートの提出。

【学 習 到 達 目 標】

1. 車体に使用されている素材について説明ができる。
2. 钣金作業について作業工程が説明できる。
3. 修復箇所の防錆処理について説明ができる。
4. 事故車両を見てどのように修復していくか説明ができる。

【成績評価の方法】

成績は、80%以上出席したものを対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

- ・定期試験（70%）
- ・レポート（30%）

【教科書】

THE 钣金パーフェクトマニュアル（プロトリオス）

【参考書・参考文献】

車体整備技術 車体整備（日本自動車車体整備協同組合連合会）
月刊 ボデーショップレポート（プロトリオス）

【履修上の注意】

座席指定を行うためそれに従うこと。

【履修者の遵守事項】

- ①室内での携帯電話、ゲーム機等の使用は一切禁止します。
 - ②授業中の私語、居眠り、飲食は禁止します。
- *上記の指示に従わない場合は、退場（欠席扱い）とします。

【質問への対応方法】

- 随時可能
- オフィスアワー（月曜～金曜 12：30～13：20）
- E-mail（matono@nakanihon.ac.jp）
- その他（ ）

【履修者数調整方法】**【関連授業】**

ボデーリペア実習Ⅰ・Ⅱ、車体塗装工学

科 目 名	車体塗装工学 Automobile Body Painting Technology	必修	単 位 数
			2
担 当 教 員	的野大樹	開 設 期	
		秋学期	

【 科 目 の 概 要 】

高外観化や意匠化、新素材の採用、VOC削減や環境保護など新車塗装のこうした移行に伴って、自動車補修の現場においても多くの対応が求められます。そのため自動車補修塗装に使われる塗料と塗装方法の基礎知識や、塗装目的、塗料の種類、成分、用途、用語等基本的な事柄について学び、高品質な塗装を安全に行えるように学習します。

【 授 業 計 画 】

- ① 塗料と塗装について
目的、成分、硬化方式など
- ② 新車塗装について
新車塗装工程、塗色の種類など
- ③ 補修用塗料について
下地塗料、上塗り塗料など
- ④ 塗装作業工程と設備機器について
設備機器、作業手順など
- ⑤ スプレーガンと塗装管理ツールについて
機能、種類、取り扱いの基本など
- ⑥ 下地処理について
パテ、面だし研磨など
- ⑦ プラサフ塗装について
プラサフの目的、性能、吹き付け、研磨など
- ⑧ マスキングについて
マスキングの目的、工程など
- ⑨ 調色について
光と色、光源と比色、調色の手順など
- ⑩ 上塗り塗装について
目的と手順など
- ⑪ 特殊な塗装について
樹脂パーツの塗装など
- ⑫ 乾燥と磨きについて
乾燥方法、ポリッシュの目的と手順など
- ⑬ 検査と品質について
完成検査、品質維持など
- ⑭ 安全衛生対策と法律について
安全衛生対策の基本、危険物取り扱いなど
- ⑮ まとめ

【予習と復習】

授業で学んだことをボデーリペア実習や自分の車などを確認して復習をしておいて下さい。

【課題】

課題はレポートの提出。

【学習到達目標】

1. 塗料の種類について説明ができる。
2. 下地作業の手順について説明ができる。
3. 研磨作業において作業にあったペーパーの選択ができる
4. 補修作業においてすべての作業工程が説明できる。

【成績評価の方法】

成績は、80%以上出席したものを対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

- ・定期試験（70%）
- ・レポート（30%）

【教科書】

THE 塗装パーフェクトマニュアル（プロトリオス）

【参考書・参考文献】

車体整備 日本自動車車体整備協同組合連合会
月刊 ボデーショップレポート（プロトリオス）

【履修上の注意】

座席指定を行うためそれに従うこと。

【履修者の遵守事項】

- ①室内での携帯電話、ゲーム機等の使用は一切禁止します。
 - ②授業中の私語、居眠り、飲食は禁止します。
- *上記の指示に従わない場合は、退場（欠席扱い）とします。

【質問への対応方法】

【質問への対応方法】

- 随時可能
- オフィスアワー（月曜～金曜 12:30～13:20）
- E-mail（matono@nakanihon.ac.jp）
- その他（ ）

【履修者数調整方法】

【関連授業】

ボデーリペア実習Ⅰ・Ⅱ、車体修復技術

科 目 名	車体構造 I Automobile Body Structure I	必修	単 位 数
			2
担 当 教 員	森 光弘		開 設 期
			春学期
<p>【 科 目 の 概 要 】</p> <p>この講義は、車体整備士又は損害調査部門の技術アジャスタ等に進路を目指す人には必修科目で、最近の自動車部材の技術は非常に高度で、構造も非常に複雑になってきています。また、事故件数も大幅に増加し、修理費の高騰化等の要因によって、支払い保険料も増加しています。そこで、講義では、講義概要に沿って自動車のエンジン、ミッションの最新の技術・構造・装置の配置等から、装置のあらゆる部分の最新技術・構造・装置の配置等を知り、高度な技術対応能力を養います。</p> <p>【 授 業 計 画 】</p> <p>① ガソリンエンジン</p> <p>② ディーゼルエンジン</p> <p>③ 潤滑装置</p> <p>④ 吸気装置</p> <p>⑤ 排気装置</p> <p>⑥ エンジンマウンティング</p> <p>⑦ 冷却装置</p> <p>⑧ 燃料装置</p> <p>⑨ 電子制御式噴射装置</p> <p>⑩ エンジン電装品</p> <p>⑪ 自動車の排出ガス削減のための対策と技術</p> <p>⑫ トランスミッション</p> <p>⑬ プロペラシャフト</p> <p>⑭ ドライブシャフト</p> <p>⑮ 4WD (Four Wheel Drive), デイファレンシャル</p>			

【予習と復習】

予習とは、事前情報の入手です。復習とは、授業で行った事の確認です。予習と復習を各 90 分以上目安とし、取り組んでください。

【課題】

課題は演習・レポート等を必要に応じて出します。指定された期日までに提出してください。添削等総括は授業内で行います。

【学習到達目標】

1. エンジンの構成、配置について説明できる。
2. 車両衝突時のエンジン損傷部位について説明できる
3. トランスミッションの構成、配置について説明できる。
4. 車両衝突時のトランスミッション損傷部位について説明できる。
5. パワートレインの構成、配置について説明できる。
6. 車両衝突時のパワートレイン損傷部位について説明できる。

【成績評価の方法】

成績は、80%以上出席したものを対象とし、学習到達目標に基づいて、定期試験（80%）、授業への取り組み姿勢（10%）、レポート（10%）にて評価します。

【教科書】

THE 钣金パーフェクトマニュアル （株）プロトリオス

【参考書・参考文献】

三級自動車ガソリン 日本自動車整備振興会連合会
三級自動車ジーゼル 日本自動車整備振興会連合会
三級自動車シャシ 日本自動車整備振興会連合会

【履修上の注意】

教室内では指導教員の指示に従ってください。教室内で携帯電話を使用しないこと。教室からの無断退出は欠席扱いとします。教科書、筆記用具を持ってこない者は欠席扱いとします。遅刻者は、その理由を報告してから着席してください。

【質問への対応方法】

- オフィスアワー月～金曜日 16:30～17:00、および講義空き時間 8号館事務室
- E-mail (mori@nakanihon.ac.jp)

【履修者数調整方法】

基本的に受講者の調整は行いません。

【関連授業】

車体構造Ⅱ・Ⅲ、ボデーリペア実習Ⅰ・Ⅱ

科 目 名	車体構造Ⅱ Automobile Body Structure Ⅱ	必修	単 位 数
			2
担 当 教 員	森 光弘		開 設 期
			秋学期
<p>【 科 目 の 概 要 】</p> <p>この講義は、車体構造Ⅰに引き続き、車体整備士又は損害調査部門の技術アジャスタ等に進路を目指す人には必修科目で、最近の自動車部材の技術は非常に高度で、構造も非常に複雑になってきています。また、事故件数も大幅に増加し、修理費の高騰化等の要因によって、支払い保険料も増加しています。そこで、講義では、講義概要に沿って自動車のサスペンション、ブレーキやその他の最新の技術・構造・装置の配置等から、装置のあらゆる部分の最新技術・構造・装置の配置等を知り、高度な技術対応能力を養います。</p> <p>【 授 業 計 画 】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① サスペンションの概要 ② フロントサスペンション ③ リヤサスペンション ④ ホイールアライメント ⑤ サスペンションコントロール ⑥ アクスル ⑦ タイヤとホイール ⑧ ステアリングシステム ⑨ ブレーキシステム ⑩ カーエアコン ⑪ 先進安全自動車 ⑫ ハイブリットシステム ⑬ 燃料電池車 ⑭ 自動車盗難防止装置 ⑮ 故障診断 ⑯ 定期試験 			

【予習と復習】

予習とは、事前情報の入手です。復習とは、授業で行った事の確認です。予習と復習を各 90 分以上目安とし、取り組んでください。

【課題】

課題は演習・レポート等を必要に応じて出します。指定された期日までに提出してください。添削等総括は授業内で行います。

【学習到達目標】

1. サスペンションの構成，配置について説明できる。
2. 車両衝突時のサスペンション損傷部位について説明できる。
3. ブレーキの構成，配置について説明できる。
4. ステアリング装置の構成，配置について説明できる。
5. 車両衝突時のステアリング装置の損傷部位について説明できる。
6. カーエアコンの構成，配置について説明できる。
7. 車両衝突時のカーエアコン損傷部位について説明できる。
8. 車両の先進技術について理解できる。

【成績評価の方法】

成績は、80%以上出席したものを対象とし、学習到達目標に基づいて、定期試験（80%）、授業への取り組み姿勢（10%）、レポート（10%）にて評価します。

【教科書】

THE 钣金パーフェクトマニュアル/ (株) プロトリオス

【参考書・参考文献】

三級自動車シャシ 日本自動車整備振興会連合会

【履修上の注意】

教室内では指導教員の指示に従ってください。教室内で携帯電話を使用しないこと。教室からの無断退出は欠席扱いとします。教科書、筆記用具を持ってこない者は欠席扱いとします。遅刻者は、その理由を報告してから着席してください。

【質問への対応方法】

- オフィスアワー月～金曜日 16:30～17:00、および講義空き時間 8号館事務室
- E-mail (mori@nakanihon.ac.jp)

【履修者数調整方法】

基本的に受講者の調整は行いません。

【関連授業】

車体構造Ⅰ・Ⅲ，ボデーリペア実習Ⅰ・Ⅱ

科 目 名	車体構造Ⅲ Automobile Body Structure Ⅲ	必修	単 位 数
			2
担 当 教 員	森 光弘	開 設 期	
		春学期	
<p>【 科 目 の 概 要 】</p> <p>この科目では、自動車のボデー各部の構造と名称、外装部品、内装部品について学びます。ボデーの構造を知らないと事故車両の修復はできません。どのようにパネル同士が接合されているか、どのようなパネルで構成されているかを知ることでの確な修復方法をとることができます。また事故車両の修復に必要な見積もりについても学びますが、見積もりや部品の発注をするにもこの科目で行うボデーの構造や名称が必要になってきます。車体整備士になるうえで絶対必要な知識です。</p> <p>【 授 業 計 画 】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ボデーの組み立て 新車ラインの概要、部材の結合 ② ボデー各部の構造と名称 フロントボデー ③ ボデー各部の構造と名称 フロントボデー ④ ボデー各部の構造と名称 センターボデー ⑤ ボデー各部の構造と名称 センターボデー ⑥ ボデー各部の構造と名称 センターボデー ⑦ 外装部品について ガラス ⑧ 外装部品について ランプ類 ⑨ 内装部品について インストルメントパネル、シート ⑩ 内装部品について ヘッドライニング、トリム ⑪ 補修用供給部品について 内板骨格部品、外板部品 ⑫ 補修用供給部品について 外装、内装部品 ⑬ 補修用供給部品について リサイクル部品 ⑭ 修理計画 ⑮ 見積もり ⑯ 定期試験 			

【予習と復習】

予習とは、事前情報の入手です。復習とは、授業で行った事の確認です。予習と復習を各 90 分以上目安とし、取り組んでください。

【課題】

課題は演習・レポート等を必要に応じて出します。指定された期日までに提出してください。添削等総括は授業内で行います。

【学習到達目標】

1. 外板パネルの名称、取り付け位置、取り付け方法について説明できる。
2. 内板骨格パネルについて名称、取り付け位置、取り付け方法について説明できる。
3. 事故車両の損傷を見て損傷部品の名称、修理方法が説明できる。
4. 事故車両の損傷を見て見積書が作成できる。

【成績評価の方法】

成績は、80%以上出席したものを対象とし、学習到達目標に基づいて、定期試験（80%）、授業への取り組み姿勢（10%）、レポート（10%）にて評価します。

【教科書】

自動車整備技術 車体整備 日本自動車車体整備協同組合連合会

【参考書・参考文献】

THE 钣金パーフェクトマニュアル（株）プロトリオス

【履修上の注意】

教室内では指導教員の指示に従ってください。教室内で携帯電話を使用しないこと。教室からの無断退出は欠席扱いとします。教科書、筆記用具を持ってこない者は欠席扱いとします。遅刻者は、その理由を報告してから着席してください。

【質問への対応方法】

- オフィスアワー月～金曜日 16:30～17:00、および講義空き時間 8号館事務室
- E-mail (mori@nakanihon.ac.jp)

【履修者数調整方法】

基本的に受講者の調整は行いません。

【関連授業】

車体構造Ⅰ・Ⅱ，ボデーリペア実習Ⅰ・Ⅱ

科 目 名	車体材料学 Automobile Body Materials	必修	単 位 数
			2
担 当 教 員	高 行 男	開 設 期	
		秋学期	

【 科 目 の 概 要 】

軽量化を背景に新しい材料が登場し、部材の材料置換が行われます。メンテナンスを行う立場にある者にとって、メンテナンスの対称部品の役割を理解するとともに部品を構成する材料特性に対する知識が必要不可欠となります。そこで、自動車材料の基礎知識を確認するとともに車体材料の特性について理解できるようにします。そのため、キーワードを提示し、教科書を読んでその内容を把握できるようにします。また、好きな材料を選んでその材料に対する調査報告書を課題とし、材料に対する興味を育成します。さらに、好きな部品を選びその横成材料を修理する観点から材料の性質を調査するテーマを課し、材料の性質を認識できるようにします。

【 授 業 計 画 】

- ① 自動車材料、車体材料、自動車の軽量化と材料
- ② 金属、合金、比重、密度、結晶構造、弾性変形、塑性変形、加工硬化
- ③ 材料の強さ、引張り強さ、降伏点、耐力、疲労強度、クリープ強さ、衝撃強さ、硬さ
- ④ 鉄鋼、鉄と鋼、製鉄、製鋼
- ⑤ 鉄鋼、状態図、熱処理、表面硬化処理
- ⑥ 銅板、高張力銅板、表面処理銅板、スチールボディ
- ⑦ 合金鋼の特性、ステンレス鋼
- ⑧ 非鉄金属、アルミニウム、アルミボディ
- ⑨ 非鉄金属、マグネシウム、チタン、銅
- ⑩ 金属材料の特性のまとめ
- ⑪ 非金属・有機材料、プラスチック、ゴム
- ⑫ 非金属・無機材料、ガラス、安全ガラス
- ⑬ 複合材料、繊維強化、プラスチック、樹脂ボディ
- ⑭ 車体と材料
- ⑮ 材料特性を表す単位

【 学 習 目 標 】

1. 材料の強度を理解できる。
2. 材料の剛性を理解できる。
3. スチールボディの特徴を理解できる。
4. アルミボディの特徴を理解できる。
5. 樹脂ボディの特徴を理解できる。
6. 樹脂ウインドウの特徴を理解できる。

【 予 習 ・ 復 習 】

事前に教科書の該当箇所を一読しておくこと。講義後、ノートの記述事項や教科書を再度確認し、内容の理解を深めること。疑問がある場合には、講義前に報告してください。

【成績評価の方法】

成績は、80%以上出席したものを対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

- ・試験 (70%)
- ・レポート (30%)

※レポート課題：好きな材料の特性に関する調査報告、部品やボディの構成材料に関する調査報告、その他適宜材料に関するキーワードに対する調査報告。

【教科書】

アルミ VS 鉄ボディ 高行男 著、山海堂、2002、復刻版

【参考書・参考文献】

自動車材料入門 高行男 著、東京電機大学出版局、2009

自動車の衝突安全と材料 高行男、工業材料 Vol.55 (2007)

ボディと樹脂ウィンドウ、高行男、自動車工業会、Vol. 44 (2010)

【履修上の注意】

講義で提示するキーワードの内容を理解することに重点を置いて下さい。そのため、教科書をゆっくり読んで下さい。理解できない箇所については次回の講義で説明しますので、疑問点を講義の前に提出して下さい。

【質問への対応方法】

- オフィスアワー：毎週水曜日 12：00～13：20 工学第1準備室 (3号館1階)
- E-mail (ko@nakanihon.ac.jp)

【履修者数調整方法】

【関連授業】

車体整備論, 車体塗装工学, 車体構造

科 目 名	車両損害調査論 Investigation of Automobile Damage	選択	単 位 数
			2
担 当 教 員	的野大樹	開 設 期	
		秋学期	

【 科 目 の 概 要 】

見積りは、車体整備業務全体をコントロールするという事業所運営の根幹を担い、事故車両の安全性確保に基づく修理計画を策定し作業指示を行うためにも極めて重要な業務である。修理見積を行うためにはどのような知識が必要か、ここでは、車体整備に関わる知識を、現在、各自が持っている知識で補完しながら理解・習得する努力をし、見積を作成するための知識を座学と実車での解説を交えながら理解度を高めさせ、最低限必要な知識・見積技法について体系的に展開する。

【 授 業 計 画 】

- ① ガイダンスと見積作成の基本
見積とは何か、そのために必要な知識はどのようなものかを理解する
- ② 自動車の力学
力を理解し、入力方向と車両損傷態様との関連を理解する
- ③ ボデー構造と損傷特性
近年の車両構造と損傷特性を理解する（衝突安全ボデーと損傷特性）
- ④ ボデー構造と損傷特性
近年の車両構造と損傷特性を理解する（自動車に使われる材料・材質）
- ⑤ ボデー各部の名称と補修用補給部品
ボデー各部の名称と補給部品を理解する
- ⑥ 修理技法
外板の修理方法を理解する
- ⑦ 修理技法
樹脂部品の修理方法を理解する
- ⑧ コグニセブンシステム概要解説
コグニセブンを操作しシステムの全体像を理解する
- ⑨ 見積手順と記載順序
見積の手順と記載順序を理解する
- ⑩ 作業時間（指数）とレバレート（対応単価）
工賃算出の基本を理解する
- ⑪ コグニセブン見積入力実習
コグニセブンで簡単な見積入力操作ができる
- ⑫ 指数の解説
板金修正指数について理解する
- ⑬ 指数の解説
補修塗装指数について理解する
- ⑭ コグニセブン見積実習
写真から簡単な見積作成ができる
- ⑮ コグニセブン見積実習
写真から簡単な見積作成ができる
- ⑯ まとめ

科 目 名	ボデーリペア実習 I Workshop Practice in Body Repair I	必修	単 位 数																																																																
			5																																																																
担 当 教 員	森 光弘 可知陽之郎 的野大樹		開 設 期																																																																
			春学期																																																																
<p>【 科 目 の 概 要 】</p> <p>ボデーリペアの基礎知識（計測・板金・溶接・塗装）機械・機器等の取り扱いについての基礎知識および応用力をやしない課題車両造りを体得する。</p> <p>【 授 業 計 画 】</p> <table border="0"> <tr> <td>ボデーリペア実習 I（計測）</td> <td>ボデーリペア実習 I（溶接）</td> </tr> <tr> <td>① 各種ボデー寸法定具の取り扱い方法</td> <td>① 基本工具の取扱い方法</td> </tr> <tr> <td>② ボデー寸法図による車両測定</td> <td>② 電動工具の取扱い方法</td> </tr> <tr> <td>③ 事故車両の損傷診断</td> <td>③ 炭酸ガスアーク溶接①</td> </tr> <tr> <td>④ 各種カッティングツールの取り扱い①</td> <td>④ 炭酸ガスアーク溶接②</td> </tr> <tr> <td>⑤ 各種カッティングツールの取り扱い②</td> <td>⑤ 錆穴補修、切り継ぎ工法①</td> </tr> <tr> <td>⑥ ボデー修正用機器の取り扱い①</td> <td>⑥ 錆穴補修、切り継ぎ工法②</td> </tr> <tr> <td>⑦ ボデー修正用機器の取り扱い②</td> <td>⑦ ガス溶接、溶接の基礎</td> </tr> <tr> <td>⑧ 課題車両の製作①</td> <td>⑧ 課題車両の製作①</td> </tr> <tr> <td>⑨ 課題車両の製作②</td> <td>⑨ 課題車両の製作②</td> </tr> <tr> <td>⑩ 課題車両の製作③</td> <td>⑩ 課題車両の製作③</td> </tr> <tr> <td>⑪ 課題車両の製作④</td> <td>⑪ 課題車両の製作④</td> </tr> <tr> <td>⑫ 課題車両の製作⑤</td> <td>⑫ 課題車両の製作⑤</td> </tr> <tr> <td>⑬ 課題車両の製作⑥</td> <td>⑬ 課題車両の製作⑥</td> </tr> <tr> <td>⑭ 課題車両の製作⑦</td> <td>⑭ 課題車両の製作⑦</td> </tr> <tr> <td>⑮ 試験</td> <td>⑮ 試験</td> </tr> </table> <table border="0"> <tr> <td>ボデーリペア実習 I（板金）</td> <td>ボデーリペア実習 I（塗装）</td> </tr> <tr> <td>① 板金の基礎 ①ハンマリング</td> <td>① 基本工具の取扱い方法</td> </tr> <tr> <td>② " ②ハンマリング</td> <td>② FRP 取扱い方法</td> </tr> <tr> <td>③ フェンダー板金①損傷作成、損傷解析と修理法の決定</td> <td>③ "</td> </tr> <tr> <td>④ " ②粗だし</td> <td>④ 塗料の取扱い方法</td> </tr> <tr> <td>⑤ " ③ならし板金</td> <td>⑤ 下地行程 旧塗膜剥離</td> </tr> <tr> <td>⑥ " ④パテ修正（パテ練り・パテ付け</td> <td>⑥ " 板金パテ付け・研磨</td> </tr> <tr> <td>⑦ " ⑤ "（パテ付け・パテ研磨）</td> <td>⑦ " ポリパテ付け・研磨</td> </tr> <tr> <td>⑧ 課題車両の製作①</td> <td>⑧ 課題車両の製作①</td> </tr> <tr> <td>⑨ 課題車両の製作②</td> <td>⑨ 課題車両の製作②</td> </tr> <tr> <td>⑩ 課題車両の製作③</td> <td>⑩ 課題車両の製作③</td> </tr> <tr> <td>⑪ 課題車両の製作④</td> <td>⑪ 課題車両の製作④</td> </tr> <tr> <td>⑫ 課題車両の製作⑤</td> <td>⑫ 課題車両の製作⑤</td> </tr> <tr> <td>⑬ 課題車両の製作⑥</td> <td>⑬ 課題車両の製作⑥</td> </tr> <tr> <td>⑭ 課題車両の製作⑦</td> <td>⑭ 課題車両の製作⑦</td> </tr> <tr> <td>⑮ 試験</td> <td>⑮ 試験</td> </tr> </table>				ボデーリペア実習 I（計測）	ボデーリペア実習 I（溶接）	① 各種ボデー寸法定具の取り扱い方法	① 基本工具の取扱い方法	② ボデー寸法図による車両測定	② 電動工具の取扱い方法	③ 事故車両の損傷診断	③ 炭酸ガスアーク溶接①	④ 各種カッティングツールの取り扱い①	④ 炭酸ガスアーク溶接②	⑤ 各種カッティングツールの取り扱い②	⑤ 錆穴補修、切り継ぎ工法①	⑥ ボデー修正用機器の取り扱い①	⑥ 錆穴補修、切り継ぎ工法②	⑦ ボデー修正用機器の取り扱い②	⑦ ガス溶接、溶接の基礎	⑧ 課題車両の製作①	⑧ 課題車両の製作①	⑨ 課題車両の製作②	⑨ 課題車両の製作②	⑩ 課題車両の製作③	⑩ 課題車両の製作③	⑪ 課題車両の製作④	⑪ 課題車両の製作④	⑫ 課題車両の製作⑤	⑫ 課題車両の製作⑤	⑬ 課題車両の製作⑥	⑬ 課題車両の製作⑥	⑭ 課題車両の製作⑦	⑭ 課題車両の製作⑦	⑮ 試験	⑮ 試験	ボデーリペア実習 I（板金）	ボデーリペア実習 I（塗装）	① 板金の基礎 ①ハンマリング	① 基本工具の取扱い方法	② " ②ハンマリング	② FRP 取扱い方法	③ フェンダー板金①損傷作成、損傷解析と修理法の決定	③ "	④ " ②粗だし	④ 塗料の取扱い方法	⑤ " ③ならし板金	⑤ 下地行程 旧塗膜剥離	⑥ " ④パテ修正（パテ練り・パテ付け	⑥ " 板金パテ付け・研磨	⑦ " ⑤ "（パテ付け・パテ研磨）	⑦ " ポリパテ付け・研磨	⑧ 課題車両の製作①	⑧ 課題車両の製作①	⑨ 課題車両の製作②	⑨ 課題車両の製作②	⑩ 課題車両の製作③	⑩ 課題車両の製作③	⑪ 課題車両の製作④	⑪ 課題車両の製作④	⑫ 課題車両の製作⑤	⑫ 課題車両の製作⑤	⑬ 課題車両の製作⑥	⑬ 課題車両の製作⑥	⑭ 課題車両の製作⑦	⑭ 課題車両の製作⑦	⑮ 試験	⑮ 試験
ボデーリペア実習 I（計測）	ボデーリペア実習 I（溶接）																																																																		
① 各種ボデー寸法定具の取り扱い方法	① 基本工具の取扱い方法																																																																		
② ボデー寸法図による車両測定	② 電動工具の取扱い方法																																																																		
③ 事故車両の損傷診断	③ 炭酸ガスアーク溶接①																																																																		
④ 各種カッティングツールの取り扱い①	④ 炭酸ガスアーク溶接②																																																																		
⑤ 各種カッティングツールの取り扱い②	⑤ 錆穴補修、切り継ぎ工法①																																																																		
⑥ ボデー修正用機器の取り扱い①	⑥ 錆穴補修、切り継ぎ工法②																																																																		
⑦ ボデー修正用機器の取り扱い②	⑦ ガス溶接、溶接の基礎																																																																		
⑧ 課題車両の製作①	⑧ 課題車両の製作①																																																																		
⑨ 課題車両の製作②	⑨ 課題車両の製作②																																																																		
⑩ 課題車両の製作③	⑩ 課題車両の製作③																																																																		
⑪ 課題車両の製作④	⑪ 課題車両の製作④																																																																		
⑫ 課題車両の製作⑤	⑫ 課題車両の製作⑤																																																																		
⑬ 課題車両の製作⑥	⑬ 課題車両の製作⑥																																																																		
⑭ 課題車両の製作⑦	⑭ 課題車両の製作⑦																																																																		
⑮ 試験	⑮ 試験																																																																		
ボデーリペア実習 I（板金）	ボデーリペア実習 I（塗装）																																																																		
① 板金の基礎 ①ハンマリング	① 基本工具の取扱い方法																																																																		
② " ②ハンマリング	② FRP 取扱い方法																																																																		
③ フェンダー板金①損傷作成、損傷解析と修理法の決定	③ "																																																																		
④ " ②粗だし	④ 塗料の取扱い方法																																																																		
⑤ " ③ならし板金	⑤ 下地行程 旧塗膜剥離																																																																		
⑥ " ④パテ修正（パテ練り・パテ付け	⑥ " 板金パテ付け・研磨																																																																		
⑦ " ⑤ "（パテ付け・パテ研磨）	⑦ " ポリパテ付け・研磨																																																																		
⑧ 課題車両の製作①	⑧ 課題車両の製作①																																																																		
⑨ 課題車両の製作②	⑨ 課題車両の製作②																																																																		
⑩ 課題車両の製作③	⑩ 課題車両の製作③																																																																		
⑪ 課題車両の製作④	⑪ 課題車両の製作④																																																																		
⑫ 課題車両の製作⑤	⑫ 課題車両の製作⑤																																																																		
⑬ 課題車両の製作⑥	⑬ 課題車両の製作⑥																																																																		
⑭ 課題車両の製作⑦	⑭ 課題車両の製作⑦																																																																		
⑮ 試験	⑮ 試験																																																																		

【 予 習 】

授業で予想される作業内容、機器の取り扱いについて、参考資料をもとに学習してきてください。所要時間は 60 分以上を目処とします。

【 復 習 】

授業でおこなった作業をメモに取り、資料等と比較し作業内容の再確認をしたうえで、車体整備作業の理解を深めてください。所要時間は 60 分以上を目処とします。

【 課 題 】

課題は演習・レポート等を必要に応じて出します。指定された期日までに提出してください。添削等総括は授業内で行います。

【 学 習 到 達 目 標 】

- ①課題作業に必要な計測及び修正作業ができる。
- ② " 各種溶接ができる。
- ③ " 板金（ハンマリング）ができる。
- ④ " 塗装ができる。

【 成 績 評 価 の 方 法 】

成績は、80%以上出席したものを対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

課題製作、レポート及びプレゼンテーション、授業中の取り組み姿勢について総合的に評価します。

【 教 科 書 】

必要に応じて担当より資料配布

【 参 考 書 ・ 参 考 文 献 】

自動車整備技術 車体整備 日本自動車車体整備協同組合連合会

THE 钣金パーフェクトマニュアル (株) プロトリオス

THE 塗装パーフェクトマニュアル (株) プロトリオス

【履修上の注意】

実習場内では指導教員の指示に従ってください。授業中携帯電話を使用しないこと。実習場からの無断退出は欠席扱いとします。実習服等を着用していない者は欠席扱いとします。遅刻者は、その理由を速やかに報告してください。

【 質 問 へ の 対 応 方 法 】

オフィスアワー月～金曜日 16:30～17:00、および講義空き時間 8号館事務室

E-mail 森(mori@nakanihon.ac.jp)、可知(kachi@nakanihon.ac.jp)
的野(matono@nakanihon.ac.jp)

【 履 修 者 数 調 整 方 法 】

基本的に受講者の調整は行いません。

【 関 連 授 業 】

車体専門科目

科 目 名	ボデーリペア実習Ⅱ Workshop Practice in Body Repair Ⅱ	必修	単 位 数
			5
担 当 教 員	森 光弘 可知陽之郎 的野大樹	開 設 期	
		秋学期	

【 科 目 の 概 要 】

ボデーリペア実習Ⅰで履修した基礎知識の上に、応用力を身に付け、もの造りのたのしさ、厳しさを体験し、課題車両の製作をします。また、製作レポート及びプレゼンテーションを行います。

【 授 業 計 画 】

ボデーリペア実習Ⅱ（計測）

- ① 課題車両の製作⑧
- ② 2. " ⑨
- ③ 3. " ⑩
- ④ 4. " ⑪
- ⑤ 5. " ⑫
- ⑥ 6. " ⑬
- ⑦ 7. ジグ式修正機用ボデーチャートの作成
- ⑧ 8. " による車両修復作業①
- ⑨ 9. " による車両修復作業②
- ⑩ 10. " による車両修復作業③
- ⑪ 11. 台式修正機による車両修復作業①
- ⑫ 12. " " ②
- ⑬ 13. " " ③
- ⑭ 14. 床式修正機による車両修復作業
- ⑮ 15. 試験

ボデーリペア実習Ⅱ（板金）

- ① 課題車両の製作⑧
- ② " ⑨
- ③ " ⑩
- ④ " ⑪
- ⑤ " ⑫
- ⑥ " ⑬
- ⑦ 現車板金①損傷作成、損傷解析と修理方法の決定
- ⑧ " ②粗だし(溶植ワッシャ、油圧機器等)
- ⑨ " ③粗だし(ワッシャ引きとハンマリング)
- ⑩ " ④ならし板金(絞り作業とハンマリング)
- ⑪ " ⑤ならし板金(パテ修正とハンマリング)
- ⑫ " ⑥閉所・狭所の板金
- ⑬ " ①切り継ぎ工法(切断と溶接)
- ⑭ " ②切り継ぎ工法(ちり合わせ等)
- ⑮ 試験

ボデーリペア実習Ⅱ（溶接）

- ① 課題車両の製作⑧
- ② 課題車両の製作⑨
- ③ 課題車両の製作⑩
- ④ 課題車両の製作⑪
- ⑤ 課題車両の製作⑫
- ⑥ 課題車両の製作⑬
- ⑦ TIG アルミ溶接, MIG 薄板溶接
- ⑧ " " ②
- ⑨ " " ③
- ⑩ スポット溶接、ガス溶接①
- ⑪ " " ②
- ⑫ 樹脂パーツ補修
- ⑬ ハンダ盛り、ろう付け
- ⑭ フェンダーの切り継ぎ
- ⑮ 試験

ボデーリペア実習Ⅱ（塗装）

- ① 課題車両の製作⑧
- ② " ⑨
- ③ " ⑩
- ④ " ⑪
- ⑤ " ⑫
- ⑥ " ⑬
- ⑦ 中塗り工程 プラサフ塗装
- ⑧ " プラサフ研磨
- ⑨ 上塗り行程 調色
- ⑩ " ソリッド色
- ⑪ " メタリック色
- ⑫ " パール色
- ⑬ " タッチアップ方式
- ⑭ " みがき仕上げ
- ⑮ 試験

【 予 習 】

授業で予想される作業内容、機器の取り扱いについて、参考資料をもとに学習してください。所要時間は 60 分以上を目処とします。

【 復 習 】

授業でおこなった作業をメモに取り、資料等と比較し作業内容の再確認をしたうえで、車体整備作業の理解を深めてください。所要時間は 60 分以上を目処とします。

【 課 題 】

課題は演習・レポート等を必要に応じて出します。指定された期日までに提出してください。添削等総括は授業内で行います。

【 学 習 到 達 目 標 】

1. 事故車両の計測及び修正作業の基礎作業ができる。
2. 板金作業（オンドリー・オフドリー）使い分けができる。
3. 溶接作業（鋼鉄・アルミ・ステン）ができる。
4. 塗装作業（下地処理から上塗り）の基本作業ができる。

【 成 績 評 価 の 方 法 】

成績は、80%以上出席したものを対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

課題製作、レポート及びプレゼンテーション、授業中の取り組み姿勢について総合的に評価します。

【 教 科 書 】

必要に応じて担当より配布

【 参 考 書 ・ 参 考 文 献 】

自動車整備技術 車体整備 日本自動車車体整備協同組合連合会

THE 板金パーフェクトマニュアル (株) プロトリオス

THE 塗装パーフェクトマニュアル (株) プロトリオス

【履修上の注意】

実習場内では指導教員の指示に従ってください。授業中携帯電話を使用しないこと。実習場からの無断退出は欠席扱いとします。実習服等を着用していない者は欠席扱いとします。遅刻者は、その理由を速やかに報告してください。

【 質 問 へ の 対 応 方 法 】

オフィスアワー月～金曜日 16:30～17:00、および講義空き時間 8号館事務室

E-mail 森(mori@nakanihon.ac.jp)、可知(kachi@nakanihon.ac.jp)
的野(matono@nakanihon.ac.jp)

【 履 修 者 数 調 整 方 法 】

基本的に受講者の調整は行いません。

【 関 連 授 業 】

車体専門科目

科 目 名	カスタムペイント実習 Workshop Practice in Custom painting	選択	単 位 数
			1
担 当 教 員	伊藤崇人 森 光弘	開 設 期	
		春学期集中	
<p>【 科 目 の 概 要 】</p> <p>講義と実習をまじえボディカラーの基礎知識と自動車材料の種類や特性等を学び技術の習得をします。エヤ・ブラシを使って絵を描くなどの塗装体験学習で独自の作品を作り、自動車・ヘルメット・オートバイ等に応用することにより付加価値を高める。</p> <p>【 授 業 計 画 】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① カスタムペイントの材料と道具 ② ハンドピースの使い方 ③ 材料の製作 ④ " ⑤ ファイヤーパタンの作成 ⑥ " ⑦ " ⑧ ソウルペイントの作成 ⑨ " ⑩ ラップ調ペイントの作成 ⑪ ウッド調ペイントの作成 ⑫ テンプレートを使ったテクニック ⑬ 車両を使用してのカスタムペイント ⑭ " ⑮ まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・作品の提出とレポートによる試験 <p>【予習と復習】</p> <p>予習は教科書を見て自分が実際にやるときどうするか、イメージを作っておいてください。そして講義で得た知識と体験を復習することが必要です。また、復習として体験した事、教えてもらった技、数々のノウハウを自分なりにまとめておきましょう。予習・復習は90分以上を目安とし、取り組んでください。</p> <p>【 学 習 到 達 目 標 】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 塗装機器が使用できるようになる。 2. ピースガンの使用法・清掃ができる。 3. カスタムペイントの基礎ができる。 			

【成績評価の方法】

成績は、80%以上出席したものを対象とし、学習到達目標に記載されている内容を網羅した下記の結果にて評価します。

- ・作品（70%） ・レポート（20%） ・受講態度（10%）

【教科書】

カスタムペイント（リペアテック）

【参考書・参考文献】

【履修上の注意】

実習服、実習帽、安全靴を必ず着用すること。

塗料、有機溶剤等を使用するので保護具を必ず着用すること。

【履修者の遵守事項】

① 許可なく私物を持ち込まない。

② 授業中居眠り，飲食は禁止します。

※上記の指示に従わない場合は，退場（欠席扱い）とします。

【受講者数調整方法】

定員10名

【質問への対応方法】

随時可能

オフィスアワー（__曜日 __時 ～ __時）

E-mail（

） その他（

【関連講義】

科目名	区分	単位数	開設期
インターンシップ	選択	1	春学期集中
<p>板金工場等の車体整備に従事する現場で、インターンシップを行う。作業場内等での車体整備作業を中心にを行い、工具や設備の使用方法の他、基本的な作業の流れを把握する。職業観を醸成するとともにプロの意識を体感することを目標とする。作業日報等のレポートの提出とインターンシップ先の評価をあわせて成績評価を行う。</p>			

2019（平成31）年度教員担当科目と実務経験

	氏名	担当科目	専攻科	留学生別科	実務経験(5年以上)
		○：1年科目 ◎：2年科目 ◇：実験・実習 ●：補習授業（カリキュム外）	*：講義・演習 ☆：実験・実習	△：講義	
専任教員	1 森本一彦	○自動車原動機Ⅰ 自動車原動機Ⅱ ◎自動車原動機Ⅲ 人間工学			自動車メーカー開発
	2 岩田有正	○自動車電気装置Ⅰ *自動車エンジン制御工学Ⅰ 先端自動車技術Ⅰ 自動車電気・電子回路 ☆自動車高度整備実習Ⅰ 自動車整備実務実習Ⅱ			自動車整備士教育
	3 寺尾裕二	◎自動車電気装置Ⅲ ☆自動車高度整備実習Ⅰ 自動車整備実務実習Ⅱ			自動車整備
	4 鈴木泰成	○キャリアデザインⅠ クラスゼミ *自動車システム故障診断法Ⅰ ☆自動車整備実務実習Ⅰ 自動車高度整備実習Ⅰ 自動車整備実務実習Ⅱ			自動車整備
	5 森光弘	◎モータースポーツ演習Ⅱ ◇ボデーリペア実習 *車体構造Ⅲ ☆ボデーリペア実習Ⅰ フェラーリ実習(集中) カスタマイズⅠ(集中)			自動車整備
	6 可知陽之郎	◎モータースポーツ演習Ⅱ ◇ボデーリペア実習 ☆ボデーリペア実習Ⅰ			自動車板金・自動車整備
	7 的野大樹	◎自動車工学演習 クラスゼミ モータースポーツ演習Ⅱ *車体修復技術 ☆ボデーリペア実習Ⅰ			自動車整備
	8 ◆相庭誠夫	○自動車構造Ⅰ 自動車構造Ⅱ			自動車整備
	9 五十嵐巧	◇自動車整備実習Ⅲ ◎二輪自動車工学 ◇二輪自動車整備実習Ⅰ クラスゼミ			自動車整備
	10 國井伯昭	◇自動車整備実習Ⅰ ○自動車原動機Ⅰ ◎自動車工学演習 クラスゼミ			
	11 長谷貴道	◇自動車整備実習Ⅰ ◎自動車工学演習 モータースポーツ演習Ⅳ クラスゼミ			自動車整備
	12 清水啓司	◇自動車整備実習Ⅰ ◎モータースポーツ演習Ⅱ カスタマイズⅡ(集中)			
	13 横井隆治	◇自動車整備実習Ⅱ ○キャリアデザインⅠ クラスゼミ			
	14 後藤寛宜	◇自動車整備実習Ⅱ ○キャリアデザインⅠ ◎自動車原動機Ⅳ クラスゼミ			自動車整備
	15 成瀬俊哉	◇自動車整備実習Ⅱ ○キャリアデザインⅠ 自動車構造Ⅰ クラスゼミ			自動車整備
	16 林文明	◇自動車整備実習Ⅲ ○キャリアデザインⅠ クラスゼミ			自動車整備
	17 藤田英樹	◇自動車整備実習Ⅲ ◎自動車工学演習 クラスゼミ			自動車整備技術指導員
	18 栗木江一	◇自動車整備実習Ⅳ ○キャリアデザインⅠ クラスゼミ ◎自動車構造Ⅲ			自動車整備
	19 高橋正則	◇自動車整備実習Ⅳ *自動車エンジン制御工学Ⅰ ○自動車構造Ⅱ			
	20 久世康司	◇自動車整備実習Ⅳ ◎自動車工学演習 クラスゼミ ○自動車構造Ⅱ			自動車整備
	21 神野恭兵	◇自動車整備実習Ⅰ ◎自動車工学演習 クラスゼミ			
	22 青木恒夫	○自動車電気装置Ⅰ モータースポーツ概論 ◎モータースポーツ演習Ⅳ			自動車整備
	23 加藤泰世	◎物理学 ○自動車の力学Ⅰ 材料力学 ○自動車の力学Ⅱ			
	24 中川実	◎自動車法規Ⅰ 自動車法規Ⅱ 自動車工学演習 クラスゼミ			自動車整備
	25 中里武彦	○モータースポーツ概論 ◎モータースポーツ演習Ⅳ			自動車整備
	26 長谷川達也	○機械要素・図面 自動車材料学			工作機械設計
	27 及川浩和	○数学 キャリアデザインⅠ ◎情報処理演習			
	28 ◆高瀬利恵子	△日本語特別演習Ⅰ 日本語総合ⅠⅡ 日本語AⅠⅡ ゼミⅠ			
	29 古川竜治	○自動車工学日本語Ⅰ 日本語表現法 △日本語総合ⅠⅡ 日本語DⅠⅡ ゼミⅠ 基礎自動車			
	30 清水勝昭	○自動車工学日本語Ⅱ ◎日本の自動車事情			
非常講師	1 高行男	*車体材料学 ◎自動車新素材			
	2 鈴木敦巳	○英語 ◎工業英語			
	3 脇俊隆	◎自動車原動機Ⅳ			
	4 大脇澄男	◎自動車性能理論 ◎自動車電子制御工学			
	5 西側通雄	◎自動車構造Ⅳ			自動車整備
	6 葛巻香	◎自動車保険論			
	7 小川久	○健康とスポーツ			
	8 清水裕二	カーデザインⅠⅡ(集中)			工業デザイン
	9 伊藤崇人	カスタマイズⅠ・カスタムペイント実習(集中)			商業デザイン
	10 高木香与子	○日本語表現法 ●自動車工学漢字マスター 日本語総合マスターⅠ ○ビジネス英会話演習 △日本語総合Ⅰ・Ⅱ 日本語AⅠ・Ⅱ 日本語特別演習Ⅲ			
	11 蜂須賀三稀	◎英語会話			
	12 吉川せつ	○中国語 ◎経済学			
	13 吉田立	○自動車の力学ⅠⅡ 自動車電気装置ⅠⅡ 自動車の力学Ⅰ 自動車電気装置 ◇自動車電子実験			
	14 狭石恵美	◎CAD演習			PC関連技術
	三鴨愛奈	◎CAD入門			PC関連技術
	15 本田有子	△日本語BⅠⅡ 日本語CⅠⅡ 日本語特別演習Ⅲ ゼミⅡ 日本語総合ⅠⅡ ●自動車工学漢字マスター 日本語総合マスターⅠ ○日本語表現法			
	16 青海佳子	△日本語総合ⅠⅡ 日本語BⅠⅡ 日本語CⅠⅡ 日本語EⅠⅡ			
	17 小室輝代	△日本語総合ⅠⅡ 日本語EⅠⅡ 日本語特別演習Ⅲ			
	18 朱薇娜	△日本語総合ⅠⅡ 日本語DⅠⅡ 日本語EⅠⅡ			
19 川畑遥	△日本語総合ⅠⅡ 日本語CⅠⅡ				

別表第2-2

専攻科 車体整備専攻(1年課程)

区分	新カリキュラム	区分		車 体 認定科目	備考
		必修	選択		
講義科目	車体整備論Ⅰ	2		○	修了要件単位数16単位
	車体整備論Ⅱ	2		○	
	車体修復技術	2		○	
	車体塗装工学	2		○	
	車体構造Ⅰ	2		○	
	車体構造Ⅱ	2		○	
	車体構造Ⅲ	2		○	
	車体材料学	2		○	
	車両損害調査論		2		
	小 計	16	2		
実習科目	ボデーリペア実習Ⅰ	5		○	修了要件単位数10単位
	ボデーリペア実習Ⅱ	5		○	
	カスタムペイント実習		1		
	小 計	10	1		
合 計		26	3		修了要件単位数26単位以上
		29			

専攻科 車体整備専攻 単位集計

	開講単位数		修了要件 単位数
	必修	選択	
講義科目	16	2	16
実習科目	10	1	10
合 計	26	3	26
	29		

7 修学について

(専攻科)

目 次

[1]	修学について	232
[2]	修業年限・在学年限・学年・学期	233
	1. 修業年限・在学年限	233
	2. 学年・学期	233
	3. 授業時間	233
	4. 年間行事予定	233
[3]	教育課程	234
	1. 授業科目	234
	2. 授業の方法	234
	3. 単位数	234
	4. 開講時期	234
	5. 認定科目	235
[4]	履修	236
	1. 授業時間割	236
	2. 履修科目の登録	236
	3. 出席調査	237
	4. 欠席・遅刻・早退	237
	5. 暴風警報発令時の授業及び試験の処置	238
	6. 履修時間の補充	238
[5]	試験	239
	1. 定期試験	239
	2. 追試験	239
	3. 再試験	239
	4. 試験受験上の注意	240
[6]	成績	241
	1. 成績評価	241
	2. 成績発表	242
	3. 再履修	242

4. GPA (グレード・ポイント・アベレージ)	242
[7] 修了	244
1. 修了	244
2. 修了の制限	244
[8] 学籍	245
1. 退学	245
2. 休学	245
3. 復学	246
4. 除籍	246
春学期授業計画	247
秋学期授業計画	248

[1] 修学について

本学での学生生活を有意義かつ円滑に過ごせるように、オリエンテーションが行われます。

このオリエンテーションの中では、修学についても指導します。修学に必要な規則や注意事項等については、学生便覧と講義要綱に集約してありますので熟読してください。

大学での修学には、主体性や自主性が不可欠です。学業に対して怠惰であっても、それを直ちに指摘したり、注意する人は大学にはいません。授業科目の選択・手続・履修等に対しても主体性が必要とされ「また聞き」や「人まかせ」といった態度では途中で挫折したり修了延期になることがあります。本学にはクラス担任制度がありますが、担任は、学生が修学上で困ったり、悩んだりしたときの相談役であり、「自らドアをノックする」姿勢が必要です。

このように大学は、主体的に活動すると大変利用しがいのあるところであり、その反面消極的になると何も与えてくれないところであると最初に述べておきます。

なお、休講・補講・教室変更等の教務的な連絡事項は、すべて掲示板で行うことになっていますので見落としのないようにして下さい。

[2] 修業年限・在学年限・学年・学期

1. 修業年限・在学年限

修業年限とは、専攻科を修了するために、学生が最少限度在学すべき年数をいいます。本学の専攻科一級自動車整備専攻では2年、専攻科車体整備専攻では1年です。

在学年限とは、専攻科において、学生が最大限在学できる年数をいいます。本学の専攻科一級自動車整備専攻では4年、専攻科車体整備専攻では2年です。

2. 学年・学期

学年・学期を次のように分けています。なお、その年度によって若干の変更があり、教育計画に明示されます。

学 期	自	至
春 学 期	4 月 1 日	9 月 30 日
秋 学 期	10 月 1 日	3 月 31 日

3. 授業時間

1日の授業時間は、1年間を通じて、次のとおりです。

学科授業の1時間は45分で、通常2時間連続90分を1時限として行います。

時 限	時 間
1	9 : 20 ~ 10 : 50
2	11 : 00 ~ 12 : 30
3	13 : 20 ~ 14 : 50
4	15 : 00 ~ 16 : 30

実習授業の1時間は50分で、通常4時間連続200分授業で行います。

時 限	時 間
1~2	9 : 20 ~ 12 : 40
3~4	13 : 20 ~ 16 : 40

4. 年間行事予定

詳細については、講義要綱に記載された教育計画を参照して下さい。

※1 学則第42条（専攻科の修業年限及び在学年限）

※2 学則第5条（学年）

※3 学則第6条（学期）

※4 一級自動車整備士養成課程に係わる細則第3条（始業、終業時間及び1教育単位時間）
車体整備士養成課程に係わる細則第3条（始業、終業時間及び1教育単位時間）

[3] 教育課程

1. 授業科目

開設される授業科目は、必修科目と選択科目に分けられています。

- 必修科目—^{※1}本学の教育目的を達成するため、全科目を修得していなければ^{※2}修了することはできません。
- 選択科目—学生が一定の範囲の中で自由に選択し、修得することのできる授業科目のことですが修了期までには、^{※2}所定の単位数以上を修得しなければなりません。

2. 授業の方法

授業は、講義、演習、実習のいずれかの方法、又はこれらの組み合わせにより行われます。

- 講義—教員が教科書等を用いて学生に講述することにより学問上の知識を授けるもの。
- 演習—教員が教科書等を用いて学生に説明指導すると同時に、学生も教室内において教員と共に討論や演算等をしたりするもの。
- 実習—学生が教員の指導の下に、実際に作業を行い技術を磨き、知識を修得するもの。

3. 単位数

^{※3}授業科目には、それぞれの内容によって単位数が割り当てられています。

^{※4}修了は、授業科目を履修し、その試験等に合格した授業科目及び単位数の合計によって決定されます。

4. 開講時期

授業科目は、その内容及び単位数等を考慮し、専攻科一級自動車整備専攻については2年の在学期を4期に分けて、開講されています。また、専攻科車体整備専攻については1年の在学期を2期に分けて、開講されています。

※1 学則第1条（目的）

※2 学則別表第2-1 教育課程
学則別表第2-2 教育課程

※3 学則第20条（単位の集計方法）

※4 履修規程第19条（卒業の制限）
一級自動車整備士養成課程に係わる細則第5条（成績判定基準）
車体整備士養成課程に係わる細則第5条（成績判定基準）
学則第45条（専攻科の修了要件）

5. 認定科目

専攻科一級自動車整備専攻では^{※5}一級指定科目 20 科目 60 単位（講義科目 6, 演習科目 8, 実習科目 6）を修得したものに、修了時に^{※6}一級自動車整備士受験資格が与えられます。

1 科目でも修得できない場合は、一級自動車整備士受験資格が与えられません。

専攻科車体整備専攻では^{※7}車体認定科目 10 科目 26 単位（講義科目 8 実習科目 2）を修得したものに、修了時に^{※6}車体整備士受験資格が与えられます。

1 科目でも修得できない場合は、車体整備士受験資格が与えられません。

※5 教育課程表 参照

※6 学則第 47 条

※7 教育課程表 参照

[4] 履 修

1. 授業時間割

各学期の授業は、すべて「授業時間割」をもとにして行われます。ただし、学期の途中で時間割の変更（授業時間・使用教室等）が行われることがあるので注意してください。

補講（平常の時間とは別に臨時に行う授業）、休講についてはその都度掲示します。

2. 履修科目の登録

授業科目の履修登録は、各学期の始まりに行われます。

履修登録時の留意点

- ①講義要綱を参照して、授業科目の内容を把握して下さい。
- ②修了要件単位数が、専攻科一級自動車整備専攻では、学科 14 単位、実習 16 単位、実務実習 24 単位と定められています。（教育課程表参照）
また、専攻科車体整備専攻では講義科目 16 単位、実習科目 10 単位と定められています。（教育課程表参照）
- ③自分の将来の進路等を十分考慮し、単に修了要件を満たすことのみを目的とした安易な単位計算はしないよう注意して下さい。
- ④登録後、学期の中途での変更は認められません。

手 続

毎学期始まり（指定期日）に手続きをします。

各々の成績はコンピュータで管理されます。履修登録をしないと成績が入りませんから必ず履修登録をして下さい。

※1 学則第 45 条（専攻科の修了要件）

3. 出席調査

すべての授業科目について、その授業実施時間内に出席調査を行います。調査時に無断で離席中の者は、欠席になります。

専攻科一級自動車整備専攻の各授業の科目の出席については、一級自動車整備士養成課程に係わる細則 学生便覧を参照して下さい。また、専攻科車体整備専攻の各授業科目の出席については、自動車車体整備士養成課程に係わる細則 学生便覧を参照して下さい。

4. 欠席・遅刻・早退

授業を欠席（A欠席・B欠席による）したときは、欠席願に必要な事項を記入し、学務課へ6日以内に届け出なければなりません。

①^{※2}欠席区分

欠席の区分は、次のとおりです。

A欠席

- (1) 自治会活動及び就職試験，入学試験，のための欠席で事前に学務課で証明を受けたとき。
- (2) ^{※3}忌引（3親等以内とする）
- (3) 学校保健法に定める伝染病により出席停止を命ぜられたとき
- (4) 留学生のビザの更新及び受領のための欠席で，事前に学務課で証明を受けたとき。
- (5) 出身校における進学説明会等への参加による欠席。
- (6) その他教授会において認められた事由による欠席。

B欠席

疾病による欠席（医師の診断書がある場合等）。

C欠席

A欠席及びB欠席以外の欠席。（欠席届不要）

- ②公欠・忌引願の提出方法は、次頁の通りです。
- ③遅刻・早退については、原則として1時間ごとの欠席となります。

※2 履修規程第3条第2項（授業欠席の区分）

※3 父母・配偶者・子 - 7日
祖父母・兄弟・姉妹 - 3日
曾祖父母・叔伯父母・甥姪 - 1日

5. 暴風警報発令時の授業及び試験の処置

岐阜県または愛知県下に暴風警報が発令された場合には、授業及び試験の取扱いを次のとおりとします。

①午前 7 時現在発令中の場合は、午前の授業・試験を中止する。

尚、午前 7 時から午前 9 時までに発令された場合は、午前の授業・試験を実施する。

②午前 11 時現在発令中の場合は、午後の授業・試験を中止する。

尚、午前 11 時以降発令された場合は、午後の授業・試験を実施する。

6. 履修時間の補充

実験及び実習では、欠席区分、A 及び B 欠席の場合に限り、願い出により、補充履修が認められることがありますので、補充履修願手続きをして下さい。なお、手続きにあたり、次の事が規定されています。

①B欠席により補充履修願をする者は、補充受講料2,000円/1時限を納付すること。

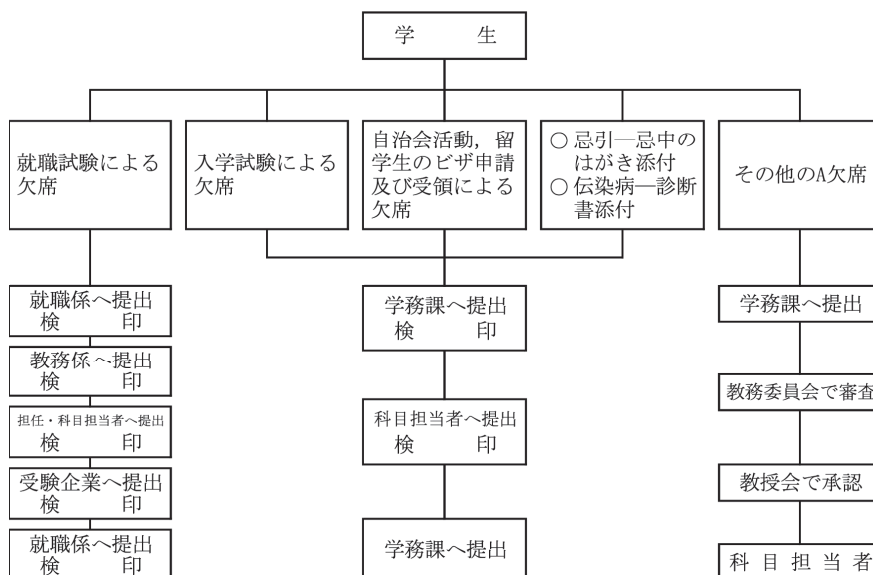
②補充履修願は、事由の止んだ翌日から7日以内に提出すること。

③履修時間の補充は、その欠席時数が授業時間数の3分の1を超えない場合に限り認められます。

※4 履修規程第 4 条（暴風警報発令時の授業及び試験の処置）

※5 履修規程第 5 条（実験、実習及び実技科目の履修時間の補充）

公欠・忌引願手続



[5] 試 験

1. 定期試験^{※1}

毎学期末には、定期試験が実施されます。(実習科目については科目または項目終了ごとに実施します) この結果により、各自の履修した授業科目の成績は、成績評価区分に従って決まります。ただし、平常授業中の試験やレポート等により成績評価を行うこともあります。

2. 追試験^{※2}

授業欠席区分のA欠席及びB欠席で、定期試験を受験できなかった学生は、追試験を申請することができます。

許可されない場合の例

- ①時間割の見まちがい
- ②寝過ごし
- ③通学車両の故障
- ④学生証不携帯
- ⑤その他、正当な理由と認められないもの

3. 再試験^{※3}

定期試験の成績評価が不合格の場合は、再試験の制度があります。

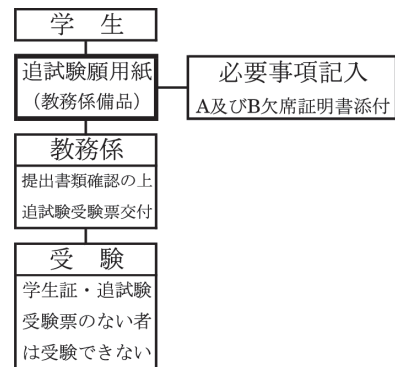
- ①不合格科目の再試験は、当該科目担当教員の任意の方法で行われます。
- ②再試験を希望するときは、再試験手続を行って下さい。
- ③再試験の実施時期は、春学期末及び秋学期末に行われます。

再試験は実施されますが、科目担当教員の説明、あるいは掲示する再試験実施要領等で内容を十分確認して下さい。

再試験は、あくまでも特別な措置であり、はじめから再試験を頼りにし、安易な気持ちで平常の授業や定期試験を受けることは、避けて下さい。

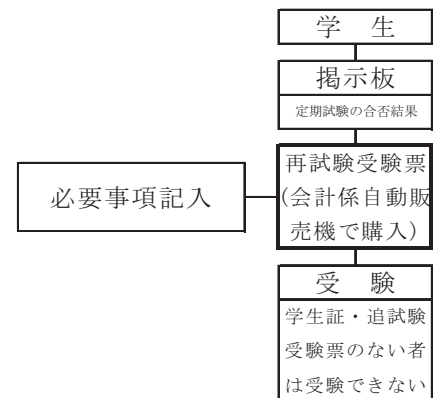
※1 履修規程第 9, 10, 11 条 (定期試験)

※2 履修規程第 12, 13 条 (追試験)
追試験手順 (指定された期間中に手続きをとること)



※3 履修規程第 14, 15, 16 条 (再試験)

再試験手続



4. 試験受験上の注意

試験に際しては、下記の事項を守らなければなりません。もしこれを無視して受験した場合は、試験を無効とするばかりでなく、厳重な処分を受けることになるので十分注意して下さい。

- (1) 学生証を携帯しないものの受験は認めない。
- (2) 試験場においては、定められた席に着席しなければならない。
- (3) 試験問題及び答案用紙を試験会場から持ち出すことを禁ずる。
- (4) 遅刻者の試験場への入室は試験開始後 20 分以内は認め、退室は試験開始後 30 分経過後でないと認めない。
- (5) 試験中、学生相互の筆記用具等の貸借は一切禁止する。
- (6) 試験場ではすべて試験監督者の指示に従い、指示に従わない者には退場を命ずることができる。
- (7) 不正行為のあった場合は、その学期における筆記試験による授業科目の単位を認定しない。
- (8) 無記名答案は無効とする。
- (9) 試験時間中に建物内にいる学生は、他の受験生に迷惑のかからないように注意すること。
- (10) 追試験及び再試験には、それぞれの受験票を携帯しないと受験は認めない。

※その他、試験に際して掲示される注意事項をよく守ること。

※4 履修規程第 18 条 (受験心得)

[6] 成 績

1. 成績評価

成績及び単位は、その科目が終講したとき、下記の項目を考慮して、科目担当教員が評価判定します。

- ①定期試験（追試験を含む）及びそのほかに実施された試験の成績
- ②出席状況
- ③平素の学習状況（レポート等）

上記の結果によって判定された成績評価の区分は、次のとおりです。

専攻科一級自動車整備専攻

合 格	A ⁺ 100～90 点
	A 89～80 点
不 合 格	F 79 点以下

専攻科車体整備専攻

合 格	A ⁺ 100～90 点	特に優れた成績
	A 89～80 点	優れた成績
	B 79～70 点	科目の要求を満たす成績
	C 69～60 点	合格と認められる最低の成績
不 合 格	F 59 点以下	合格最低ラインに達しない成績

再試験の場合の成績評価区分は、次のとおりです。

専攻科一級自動車整備専攻

合 格	A 80～点
不 合 格	F 79 点以下

専攻科車体整備専攻

合 格	C 60～点
不 合 格	F 59 点以下

- ※1 一級自動車整備士養成課程に係わる細則第5条（成績評価基準）
車体整備士養成課程に係わる細則第5条（成績評価基準）

2. 成績発表

春学期定期試験の可否は夏期休暇中、自宅に発送されます。一部科目によっては試験後掲示板で掲示する場合があります。秋学期定期試験は、結果が提出され次第随時掲示を行います。(秋学期定期試験結果の自宅への発送は行いません) また、追再試験の結果は随時掲示されます。可否発表後、各科目の成績に関して疑義のあるときは、科目担当教員又は学務課に尋ねてください。

3. 再履修^{※2}

試験で不合格または欠席時数超過等で不合格となった科目の単位を修得しようとする場合、もう一度履修し、試験に合格しなければなりません。

4. GPA (グレード・ポイント・アベレージ)

①GPA 制度の目的

GPA とは、Grade Point Average (成績加重平均値) のことで、学習成果を総合的に判断できる指標を提供し、学習意欲の向上や学習計画などの自己管理に資することを目的としています。ただし、成績優秀者表彰や奨学金の選抜、企業推薦の選抜などに利用される場合があります。

②GPA による成績評価

GPA は、各科目の評価点 (100 点満点) をグレード・ポイントに換算し、これに各科目の単位数を掛け、その合計を履修登録した全科目の総単位数で割ることにより、1 単位のグレード・ポイントの平均値を算出したものです。

GPA は、履修登録したすべての科目を対象に算出します。ただし、履修登録変更期間中に中止した科目は、算出対象から除きます。

③成績評価基準と GPA の算出方法

(1) 得点に応じて5段階 (4 、 3 、 2 、 1 、 0) の数値 (グレード・ポイント) を設定します。なお、不合格となった科目、受講を途中でやめるなど出席回数不足のた

※2 履修規程第 17 条 (授業科目の再履修)

め受験不可となった科目は、すべてグレード・ポイントが0点となります。

成績評価基準とグレード・ポイント

合 否	合 格				
評 価	A+	A	B	C	認定 ※1
得 点	100以下 90以上	90未満 80以上	80未満 70以上	70未満 60以上	—
グレード・ ポイント	4	3	2	1	対象外

※1 認定とは他大学などで修得した科目の単位を本学の単位として認めたもの

合 否	不 合 格		
評 価	F	試験 欠席	受験 不可
得 点	60未満	—	—
グレード・ ポイント	0		

(2) 各履修登録科目のグレード・ポイントに、科目の単位数を掛けた値を履修登録科目分合算し、その値を履修登録科目の単位数の合計で割ったものが GPA となります。なお、GPA は、小数点第3位を四捨五入して小数点第2位まで表示します。

GPA の算出方法 (計算式)

$$\frac{A+ \text{の単位数合計} \times 4 + A \text{の単位数合計} \times 3 + B \text{の単位数合計} \times 2 + C \text{の単位数合計} \times 1}{\text{履修登録した全科目の総単位数 (不合格単位数を含む)}}$$

[7] 修了

1. 修了

専攻科一級自動車整備専攻については、2年次秋学期終了後、修了審査が行われます。その際、次の条件を満たした者については、修了となります。

- ①専攻科一級自動車整備専攻に2年以上在学し、所定の単位数以上を修得していること。
- ②必要な学費が完納されていること。

専攻科車体整備専攻については、1年次秋学期終了後、修了審査が行われます。その際、次の条件を満たした者については、修了となります。

- ①専攻科車体整備専攻に1年以上在学し、所定の単位数以上を修得していること。
- ②必要な学費が完納されていること。

修了生名簿は、掲示で発表します。(3月上旬)

2. 修了の制限

修了審査で不合格となった場合には、修了延期となります。その場合は、保護者宛に「修了延期通知書」「就学届」が送られます。

就学を希望するときは、指定された日までに、「就学届」を提出して下さい。

修了延期となった者は入学年度の教育課程及び修了要件が適用されます。

[8] 学 籍

入学を許可されたことにより、本学の学生としての学籍が生じます。

学籍に関する事項は、次のとおりです。

1. 退学^{※1}

退学とは、在学中の学生が、修了するに至らないうちに学生としての身分を失うことをいいます。

退学には、次の2通りがあります。

①学生自身の都合による退学

②懲戒処分としての退学^{※2}

病気、その他の事由により退学しようとするときは、クラス担任に相談の上、保証人（父母）連署の退学願を提出し、許可を受けなければなりません。退学が許可されたかどうかは、追って通知されます。

なお、当該学期までの学費は納付しなければなりません。

学生証は、退学願に添えて返却しなければなりません。

2. 休学^{※3}

休学とは、短期大学に在籍する学生が、病気その他の事由によって、学長の許可を得て、一定の期間、授業を受けない状態をいいます。

本学では、病気その他やむをえない事情により、2ヶ月以上修学できない場合には、学長の許可を得て休学することができます。

①休学する場合は、クラス担任に相談の上、保証人（父母）連署の休学願を必要書類（医師の診断書等）を添えて提出して下さい。

②休学期間は、学年（1年）または学期（半年）となりますが、特別な事情で引き続き休学するときは、改めて休学願を提出しなければなりません。また、通算^{※5}して2年を超えることはできません。

③休学の許可は、春学期は5月末日、秋学期は11月末日までに受けなければなりません。

④休学期間中の学費は、免除されます。

※1 学則第14条（退学）
学籍異動規程第2条（退学）

※2 学則第64条（罰則）

※3 学則第15条（休学）

※4 学籍異動規程第3条第2項

※5 学則第49条（準用する規程）

- ⑤休学期間は、在学年限に算入されません。
- ⑥無断で長期欠席する場合は、休学とは認められません。

3. ^{※6}復学

休学期間が満了したときは、復学願を提出し、復学許可を受けることができます。

復学の時期は、学年または学期の始めとなりますので、指定された期日までに手続きをして下さい。

4. ^{※7}除籍

次のいずれかに該当する学生は、除籍となります。

- (1) ^{※8}在学年限を超えた者
- (2) 通算2年の^{※9}休学期間を超えてなお修学できない者
- (3) 学費の納付を怠り、督促を受けた後2週間以内になお納付しない者
- (4) 長期間にわたり行方不明の者

※6 学則第17条（復学）
学籍異動規程第4条（復学）

※7 学則第18条（除籍）

※8 学則第42条（専攻科の修業年限及び在学年限）
専攻科一級自動車整備専攻 4年
専攻科車体整備専攻 2年

※9 学則第49条（準用する規程）
専攻科一級自動車整備専攻 2年
専攻科車体整備専攻 1年

2019年度 秋学期 教育計画

10 月		11 月		12 月		1 月		2 月		3 月	
1	火	1	金	1	日	1	水	1	土	1	日
2	水	2	土	2	月	2	木	2	日	2	月
3	木	3	日	3	火	3	金	3	月	3	火
4	金	4	月	4	水	4	土	4	火	4	水
5	土*	5	火	5	木	5	日	5	水	5	木
6	日	6	水	6	金	6	月	6	木*	6	金*
7	月	7	木	7	土*	7	火	7	金*	7	土*
8	火	8	金	8	日	8	水	8	土*	8	日
9	水	9	土*	9	月	9	木	9	日	9	月
10	木	10	日	10	火	10	金	10	月*	10	火
11	金	11	月	11	水	11	土*	11	火	11	水
12	土*	12	火	12	木	12	日	12	水	12	木
13	日	13	水	13	金	13	月	13	木*	13	金
14	月	14	木	14	土*	14	火	14	金*	14	土
15	火	15	金	15	日	15	水	15	土*	15	日
16	水	16	土*	16	月	16	木	16	日	16	月
17	木	17	日	17	火	17	金	17	月*	17	火
18	金	18	月	18	水	18	土*	18	火*	18	水
19	土*	19	火	19	木	19	日	19	水*	19	木
20	日	20	水	20	金	20	月	20	木*	20	金
21	月	21	木	21	土*	21	火	21	金*	21	土
22	火	22	金	22	日	22	水	22	土*	22	日
23	水	23	土*	23	月	23	木	23	日	23	月
24	木	24	日	24	火	24	金	24	月*	24	火
25	金	25	月	25	水	25	土*	25	火*	25	水
26	土	26	火	26	木	26	日	26	水*	26	木
27	日	27	水	27	金	27	月	27	木*	27	金
28	月	28	木	28	土	28	火	28	金*	28	土
29	火	29	金	29	日	29	水	29	土*	29	日
30	水	30	土*	30	月	30	木			30	月
31	木			31	火	31	金			31	火
*は二級講習(2年生)		*は二級講習(2年生)		*は二級講習(2年生)		*は二級講習(2年生)		*は二級講習(2年生)		*は二級講習(2年生)	

大	所在地	岐阜県加茂郡坂祝町深萱 ^{さかほろ} 1301番地
	電話	(0574) 26 - 7121 (代)
	郵便番号	505 - 0077
学	URL	https://www.nakanihon.ac.jp/
	学生携帯向け掲示板 (休講・補講・緊急連絡)	https://www.nakanihon.ac.jp/k/index.html

学 生 番 号	
氏 名	